

令和3年度
男女共同参画社会づくりのための
菊池市民意識調査
【調査結果報告書】

令和4年3月
熊本県 菊池市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の実施要領	1
3	調査結果利用上の注意	1
II	総括	2
1	男女共同参画に関する意識について	2
2	仕事と家庭・地域生活の両立について	6
3	女性の社会参画について	7
4	女性が職業を持つことについて	9
5	子育て・教育について	11
6	配偶者からの暴力について	12
7	防災の分野における男女共同参画について	13
8	男女共同参画社会の推進について	14
9	中学生向け調査について	16
III	一般市民に向けた意識調査	19
1	あなたご自身のことについて	19
2	男女共同参画に関する意識について	20
3	仕事と家庭・地域生活の両立について	46
4	女性の社会参画について	51
5	女性が職業をもつことについて	62
6	子育て、教育について	66
7	配偶者からの暴力について	70
8	防災の分野における男女共同参画について	74
9	男女共同参画社会の推進について	76
IV	中学生に向けた意識調査	97
1	あなたご自身のことについて	97
2	あなたの身の回りのことについて	97
3	男女共同参画に関する意識について	104
4	働くことについて	118
5	子育てについて	120
6	防災における男女共同参画について	125
7	用語について	129
V	調査票	137

I 調査の概要

1 調査の目的

本市では、平成27年3月に第3次の「菊池市男女共同参画計画」を策定し、市民や事業所と連携を図りながら男女共同参画社会の実現に向けた取組を推進しています。また、平成30年度には、国が定めた「女性活躍推進法」の内容の反映等を行うなど、計画の中間見直しを行いました。

本計画は令和3年度をもって計画期間が終了することから、本調査は新たな第4次の「菊池市男女共同参画計画」を策定する際の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の実施要領

	一般市民向け調査	中学生向け調査
調査時期	令和3年5月～6月	令和3年4月～7月
調査対象者	市内在住の20歳から75歳の市民の方から2,000人を無作為抽出	菊池市内の中学3年生全員
調査方法	郵送による配布・回収及びオンラインによる回答	市内中学校で配布・回収
配布数	2,000件	468件
有効回収数	714件 内訳：郵送回収 634件 オンライン回答 80件	449件
有効回答率	35.7%	95.9%

3 調査結果利用上の注意

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- グラフ中の回答割合について、グラフが繁雑になる場合は省略している場合があります。
- 本調査の結果との比較に用いている国及び県の数値は、以下の調査の結果を参考にしています。
国：男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年）
県：男女共同参画に関する県民意識調査（令和元年）

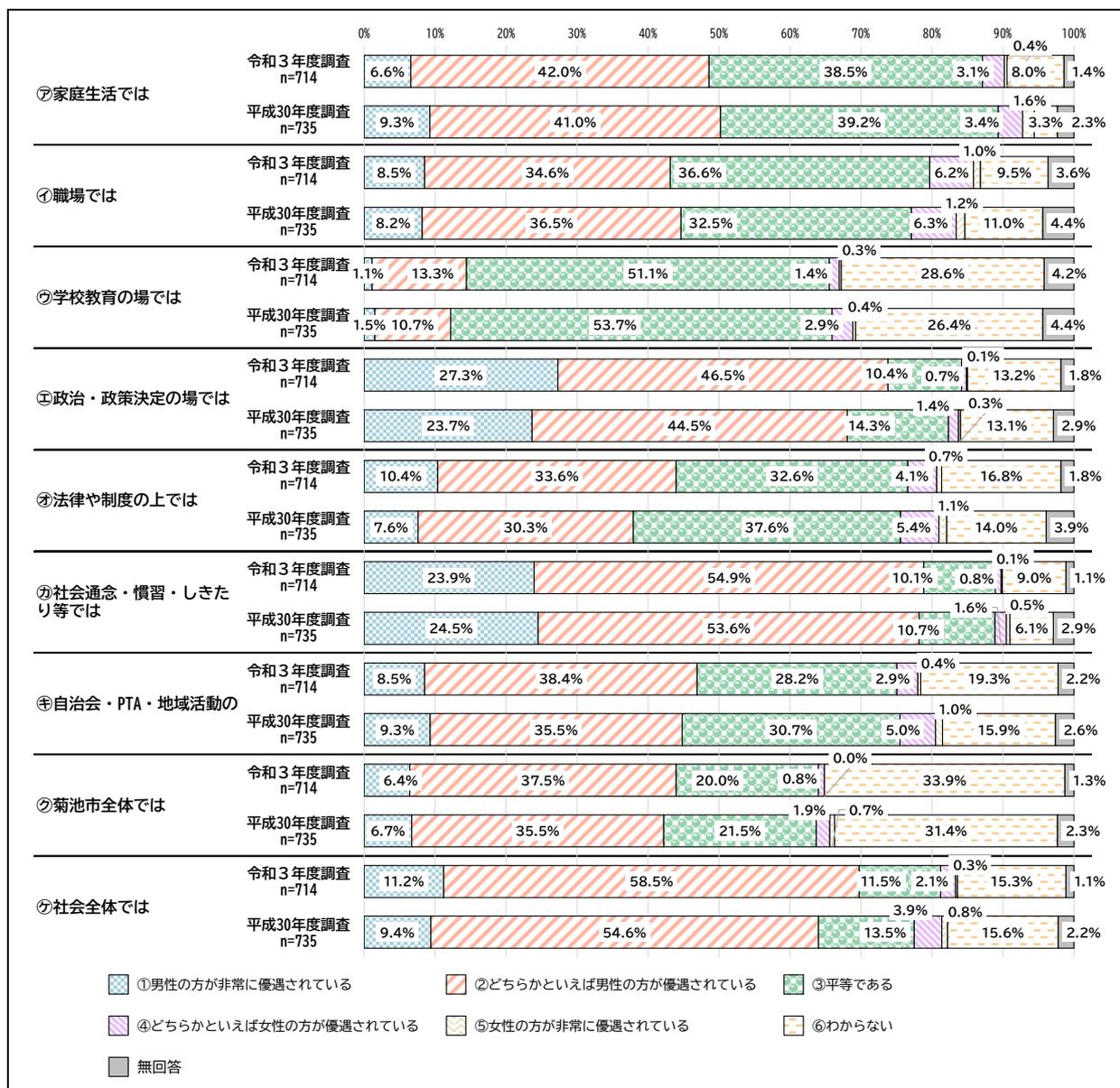
II 総括

1 男女共同参画に関する意識について

各分野における男女平等の認識について、平等であるとの回答では「学校教育の場」(51.1%)が最も高くなっています。しかし「政治・政策決定の場」(10.4%)や「社会通念・慣習・しきたり等」(10.1%)、「社会全体」(11.5%)では1割程度となっており、大きな差がある結果となっています。

前回調査との比較について、平等であるとの回答は「職場」以外のすべての項目で減少していることから、不平等感があり改善できていない傾向にあります。各分野において意識の改善につながるよう今後も継続して取組を推進していくことが重要です。

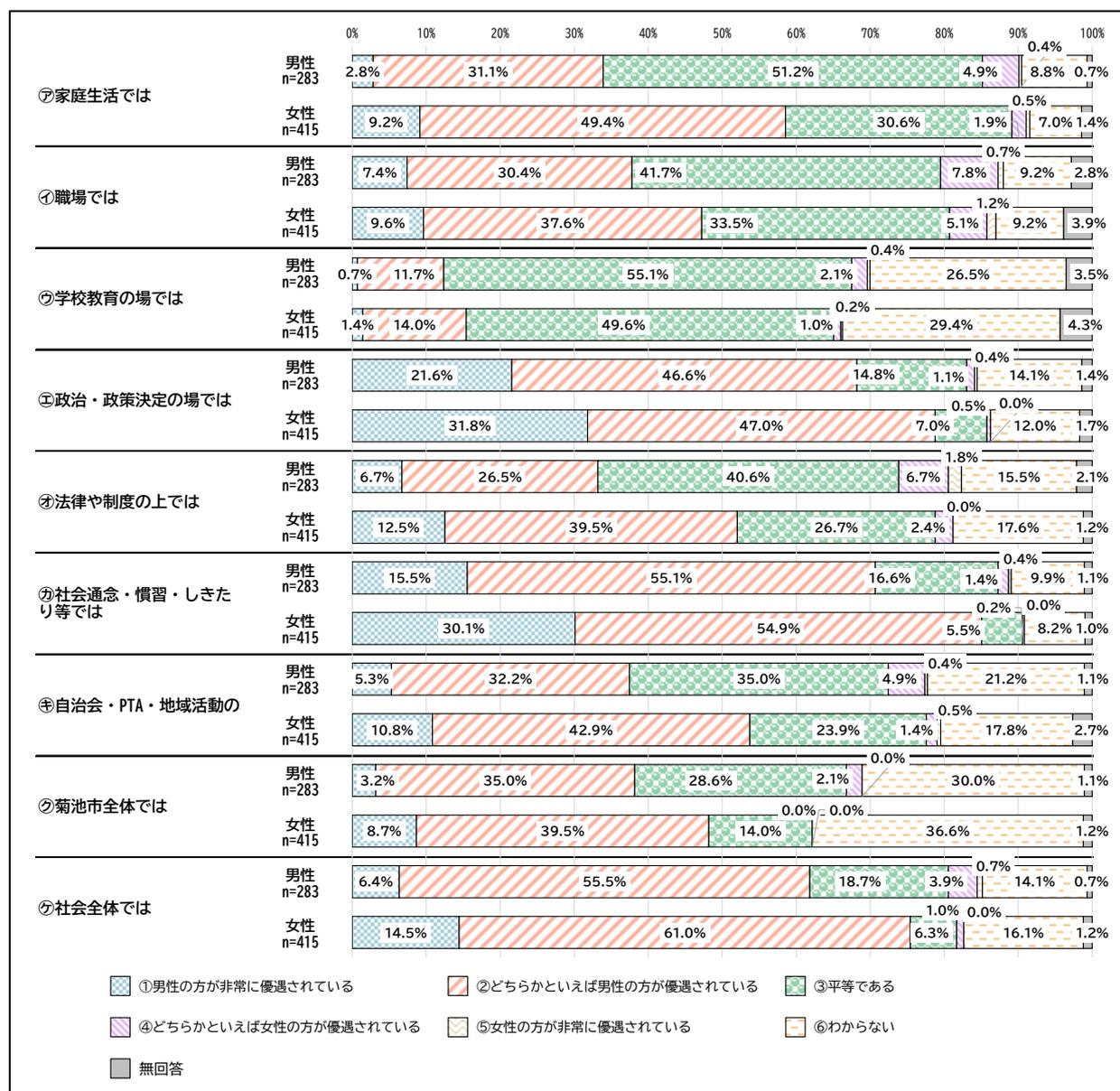
【社会のいろいろな面における男女の平等感について (全体)】



男女別の比較では、全ての項目で女性と比較して男性の方が、各分野において平等感が高く、男性優遇の割合が低い結果となっています。反対に、女性では男性優遇との回答がすべての項目で男性より高くなっており、男女間の意識の違いがはっきりと表れています。

現在もなお固定的な役割分担意識は根強く残っており、古くからの慣習や無意識の思い込みは、男女の平等感の改善や女性の活躍推進の大きな妨げになっていることがうかがえます。

【社会のいろいろな面における男女の平等感について（男女別）】

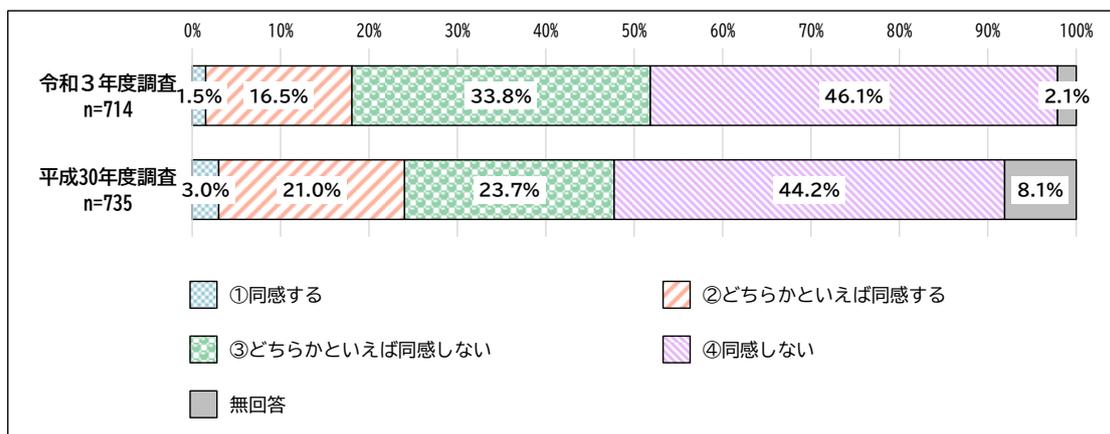


II 総括

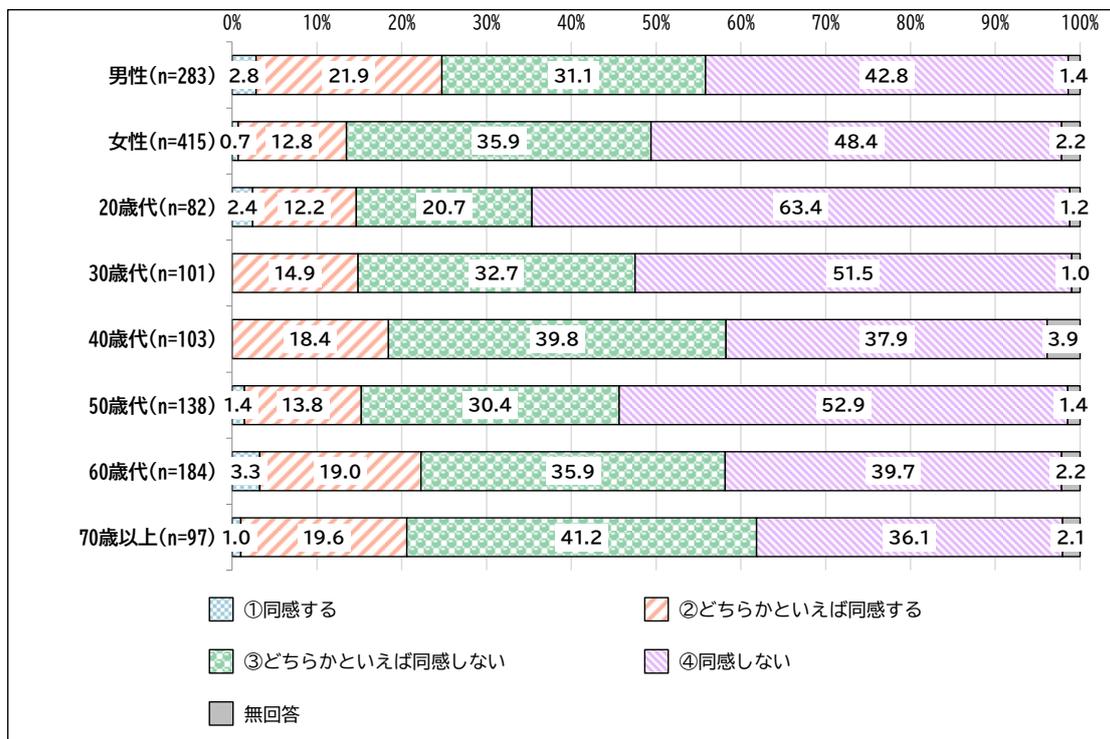
性別によって役割を固定する考え方（固定的性別役割分担意識）については、“同感しない”（「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」の回答割合の合計）は79.9%となっており、前回の67.9%を上回っています。

男女別では、男性と比較して女性の方が“同感しない”の割合が10ポイント程度高くなっており、年々改善はしているものの、男女間では現在でも意識に差があることがうかがえます。

【性別によって役割を固定する考え方（固定的性別役割分担意識）について（全体）】



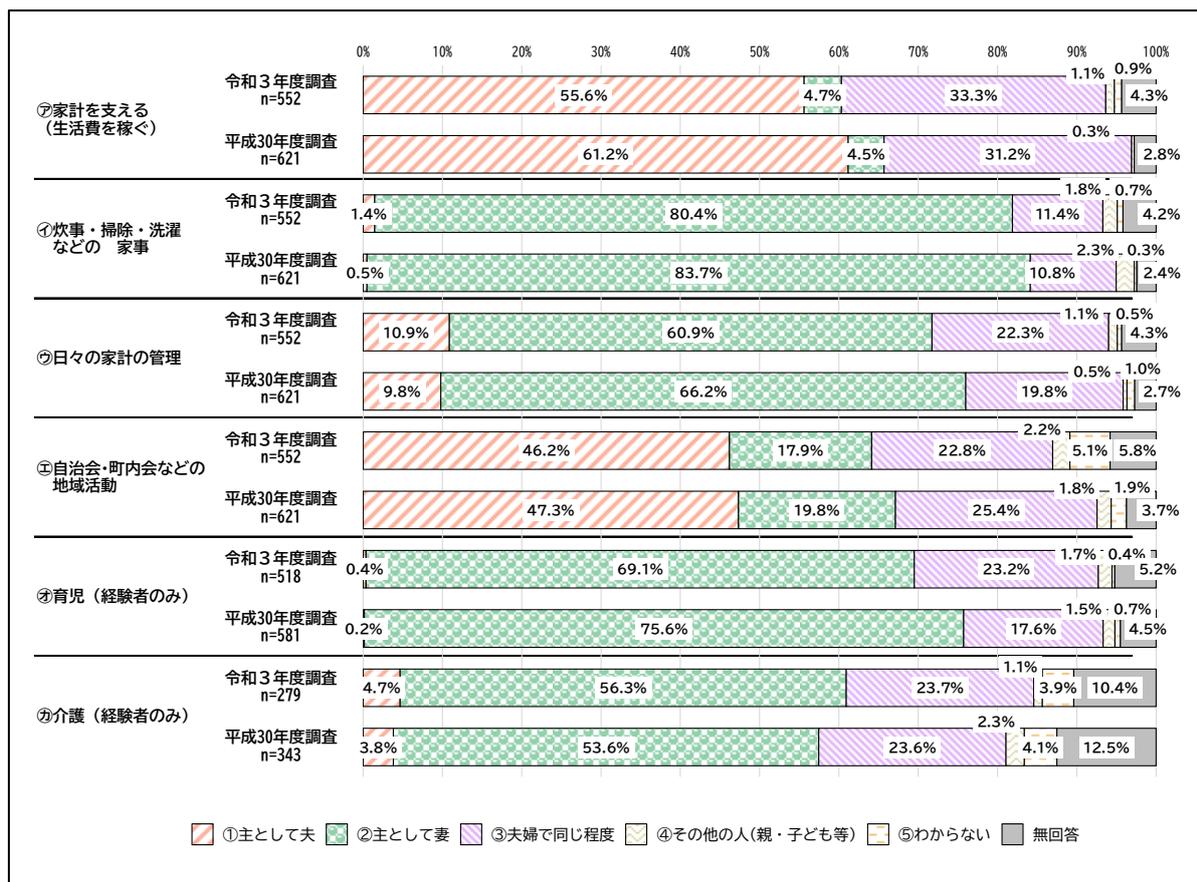
【性別によって役割を固定する考え方（固定的性別役割分担意識）について（性・年代別）】



家庭における役割分担については、「家計を支える」と「自治会・町内会などの地域活動」では主として夫の役割との回答が多く、他の項目については妻の役割との回答が多かったことから、依然として家庭における役割分担では妻の負担が大きいことがわかります。

また、前回調査との比較では、「日々の家計の管理」と「育児」については5ポイント程度ですが、妻の役割との回答割合が低くなっています。「育児」については、「夫婦で同じ程度」の割合が5ポイント程度高くなっており、少しずつ男性の育児参加が進んでいる状況がうかがえます。

【家庭における役割分担について】



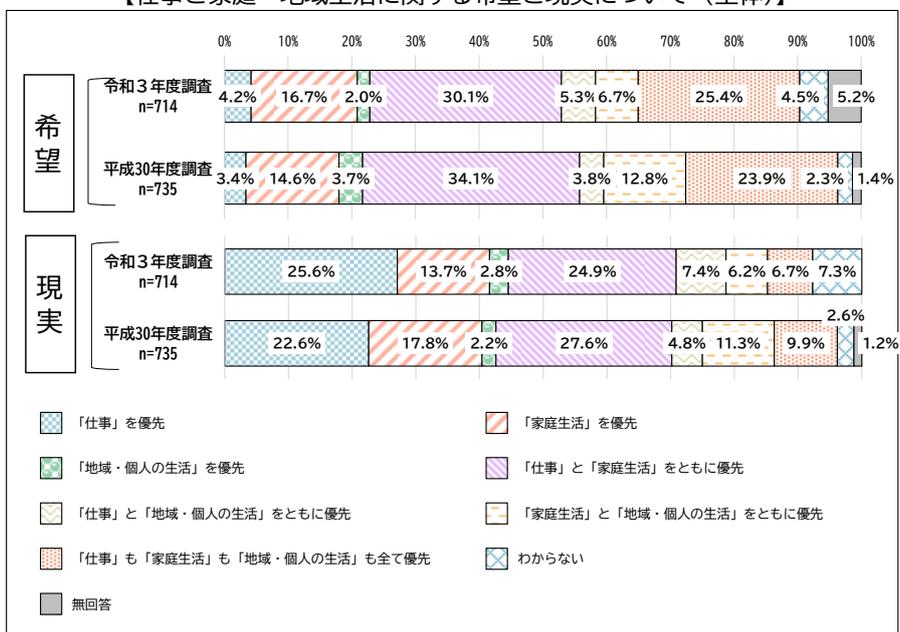
2 仕事と家庭・地域生活の両立について

仕事と家庭・地域生活の優先度については、全体では『「仕事」を優先』（希望：4.2%、現実：25.6%）と『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』（希望：25.4%、現実：6.7%）において、希望と現実の間に大きな乖離がみられます。

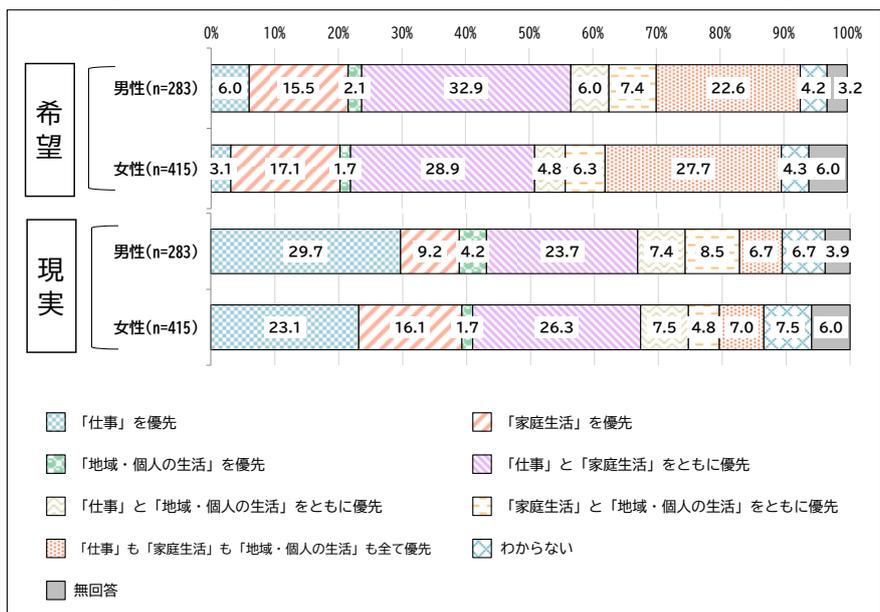
希望と現実の差に着目すると、男女ともに『「仕事」を優先』と『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』においては大きな乖離がみられましたが、『「家庭生活」を優先』については男性では大きな乖離がみられるものの、女性では大きな乖離はみられませんでした。

これらのことから、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を更に推進していくためには、第1に「仕事」に関する環境等の改善が重要であることがうかがえます。

【仕事と家庭・地域生活に関する希望と現実について（全体）】



【仕事と家庭・地域生活に関する希望と現実について（男女別）】



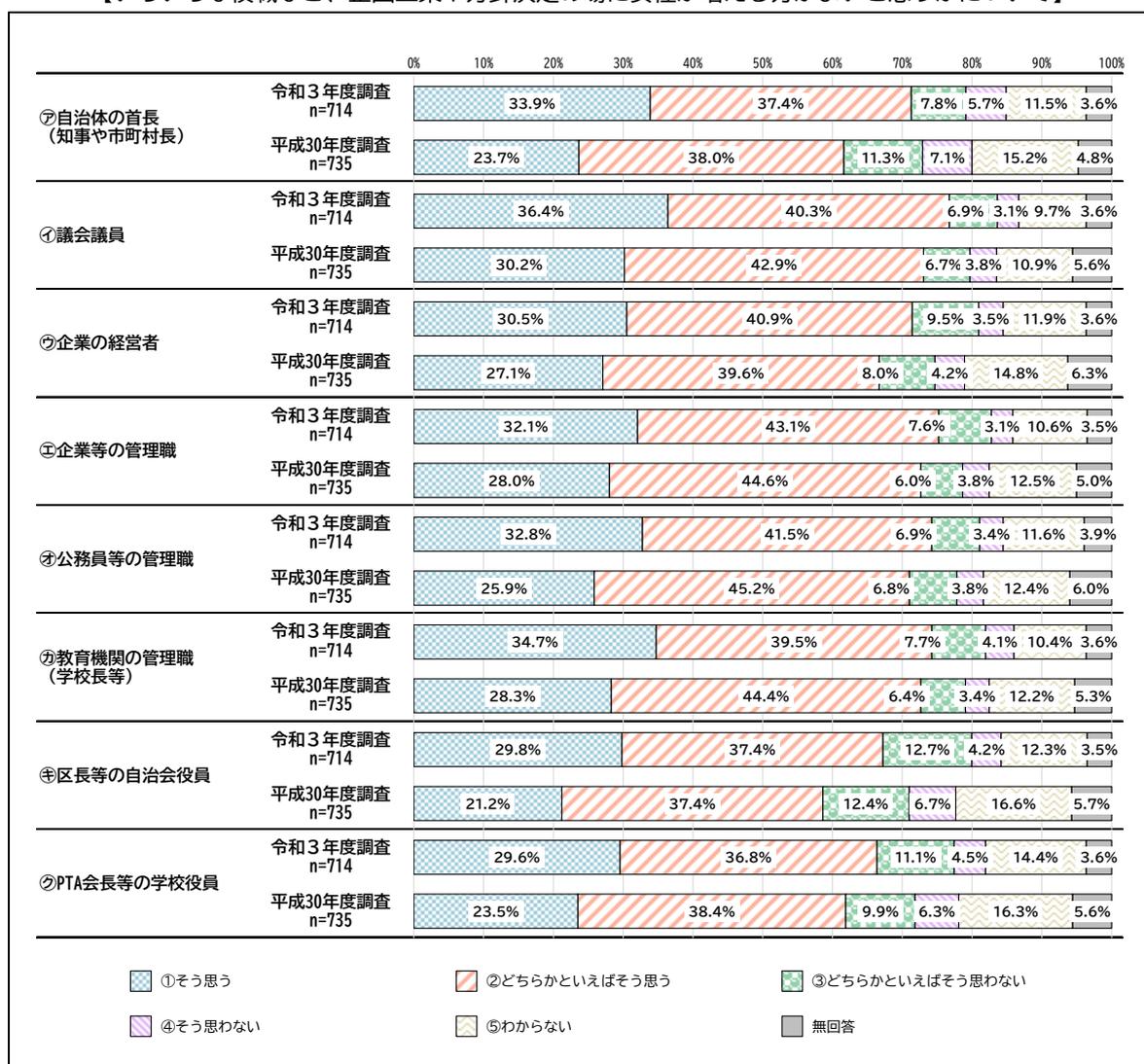
3 女性の社会参画について

様々な場における、女性の意思決定の場への参画については、全ての項目において前回調査よりも「そう思う・どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっており、様々な場において女性の意見をもっと取り入れた方がよいとの声は年々強くなっていることがうかがえます。

女性の参画が少ない原因としては「男性優位の組織運営がなされているため」の割合が最も高く、次いで「家庭、職場、地域で性別による役割分担や性差別の意識が強いため」となっており、前回調査時と同じ傾向となっています。このことより、いまだに様々な場における性別による役割分担意識が強く存在することが課題として挙げられます。

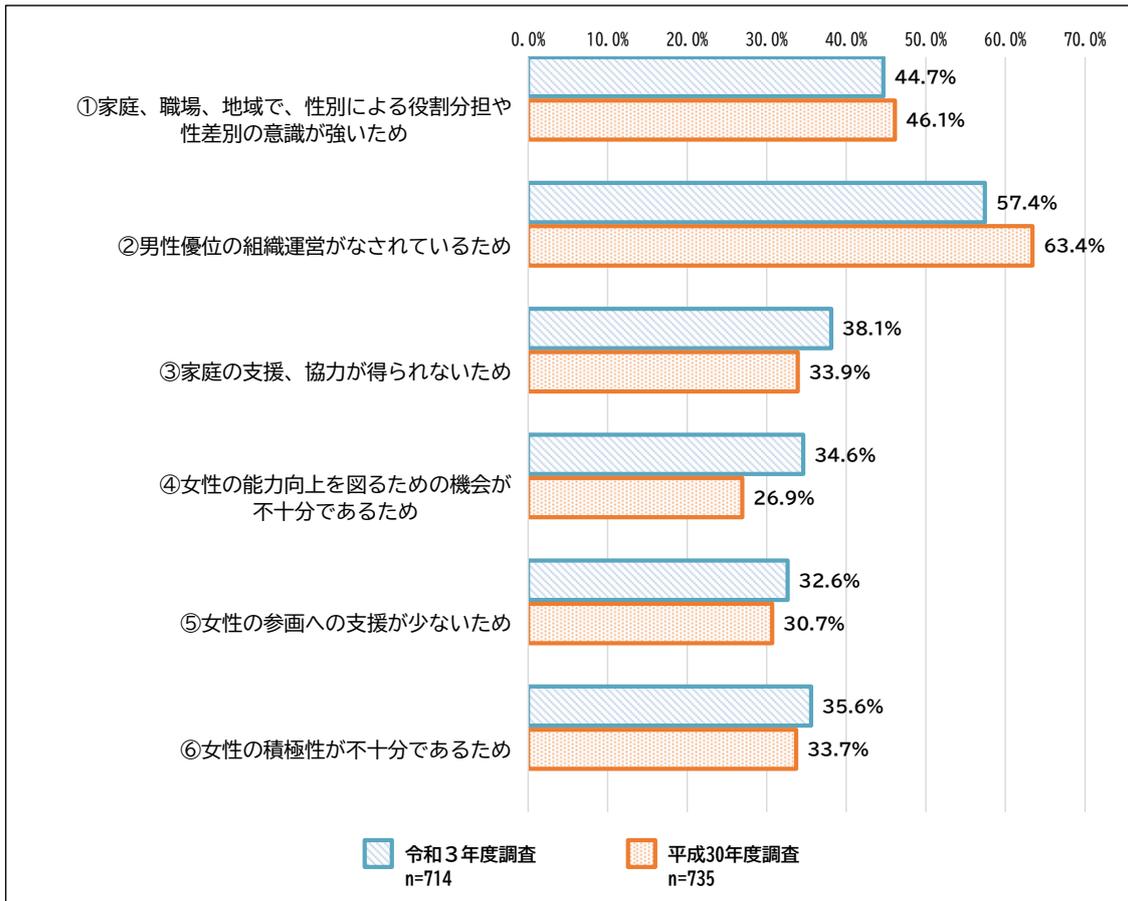
また、「女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため」については前回調査より7.7ポイント高くなっており、女性に向けた能力及び意識の向上を目的とした取組の充実も求められている結果となっています。

【いろいろな役職など、企画立案や方針決定の場に女性が增える方がよいと思うかについて】



Ⅱ 総括

【企画立案や決定の場に女性の参画がまだまだ少ないことの原因について】



4 女性が職業を持つことについて

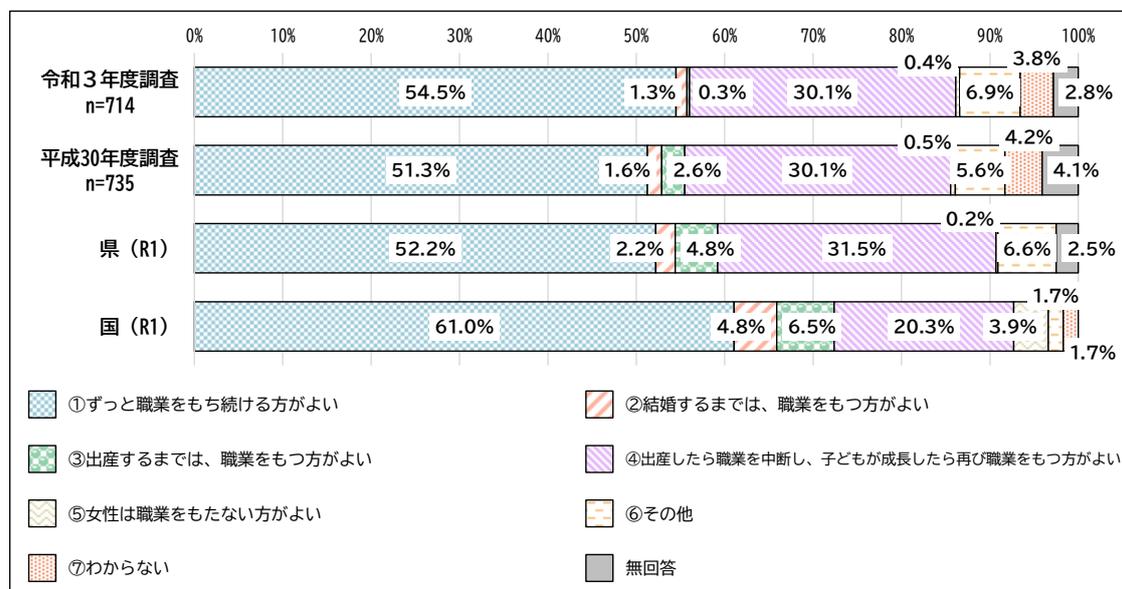
女性が職業を持つことについては、前回調査と同様の傾向となっており、ずっと職業を持ち続ける方がよい、もしくは中断後に再就職するという回答が8割を占めています。

男女別では、男性と比較して女性の方が「ずっと職業を持ち続ける方がよい」の割合が高くなっており、就業継続について女性の意識が高くなっています。

また、30歳代から50歳代では、他の年代と比較して「ずっと職業を持ち続ける方がよい」の割合が高く、「出産したら職業を中断し、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」の割合が低くなっています。このことから、働き盛りの年代では他の年代と比較して、職業を中断することに抵抗があり、出産・育児と仕事を両立させたい希望が強い様子がうかがえます。

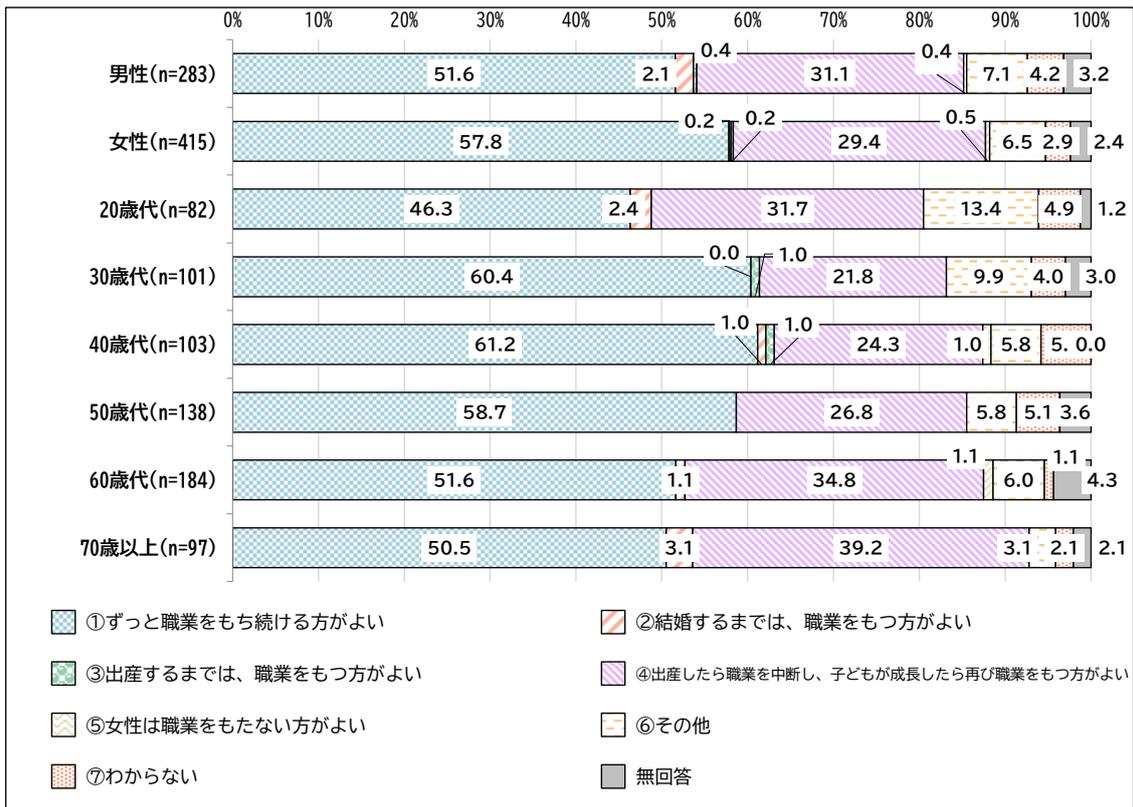
女性が働き続ける上での問題については「家事や育児、介護との両立が難しい」の割合が最も高く、いまだに家事については女性の負担が大きく、就業継続の妨げとなっている様子がうかがえます。

【女性が職業を持つことについて（全体）】

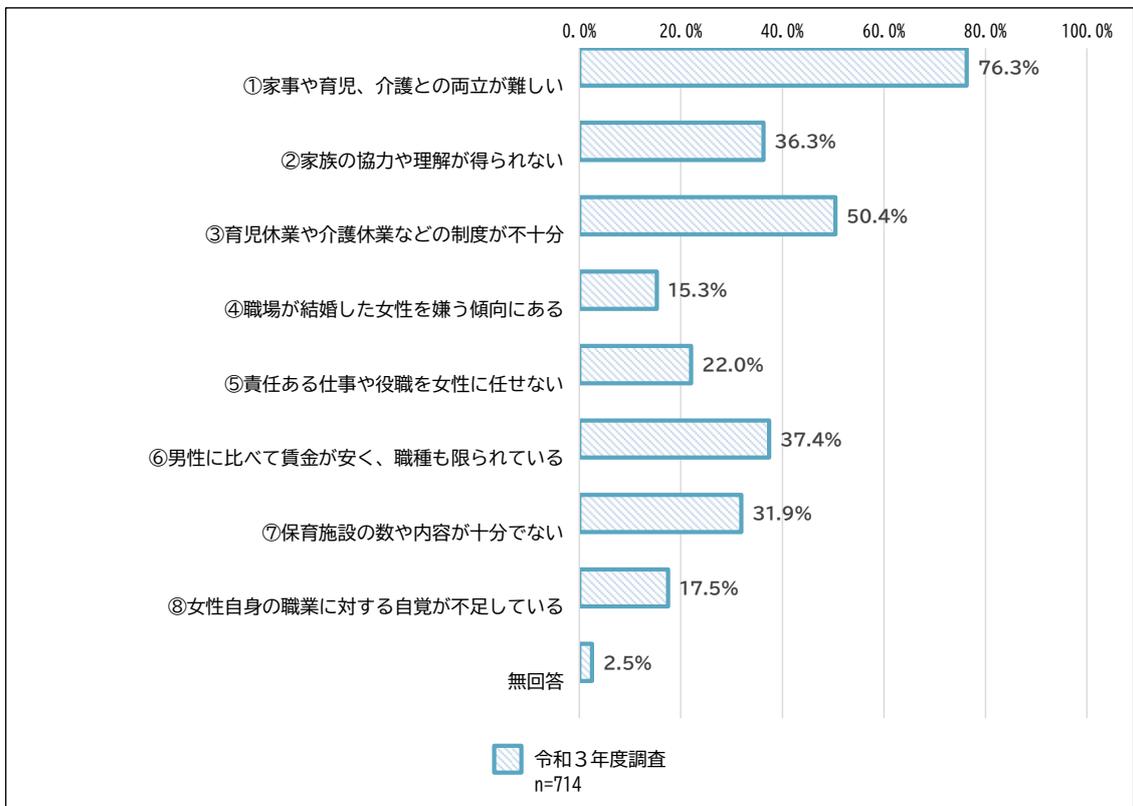


II 総括

【女性が職業を持つことについて（性・年代別）】



【女性が働き続ける上での問題について】

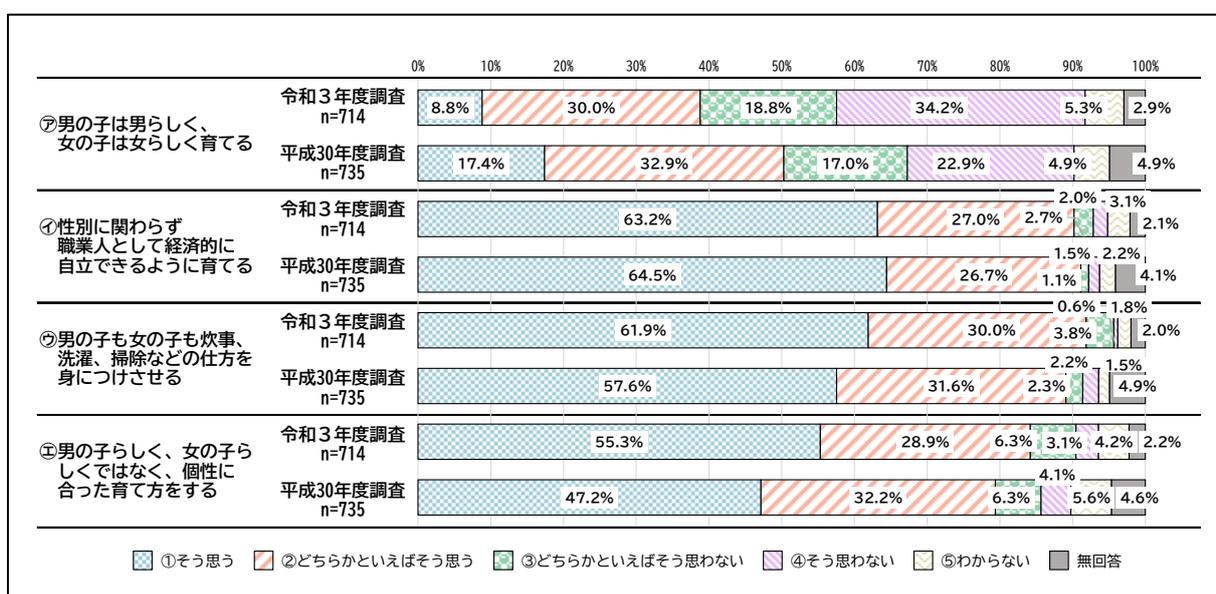


5 子育て・教育について

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という、固定観念的に男女を区別した方針については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が前回調査では 50.3%であったのに対し、今回調査では 38.8%と大きく減少しています。このことから、性別にとられない教育や育て方が主流となってきており、大人の意識も近年大きく変化してきていることが分かります。

その他の項目においても「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は8～9割を占めており、前回調査と同様の傾向となっています。性別に関係なく子ども自身の個性や、将来的に身につけるべき生活力を重視した教育方針が主流となっていることがうかがえます。

【子どもの育て方について（全体）】

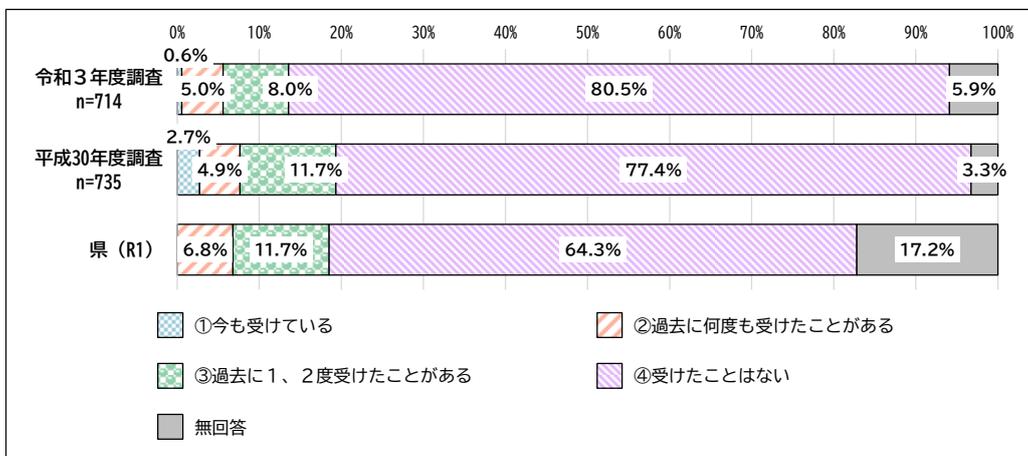


6 配偶者等からの暴力について

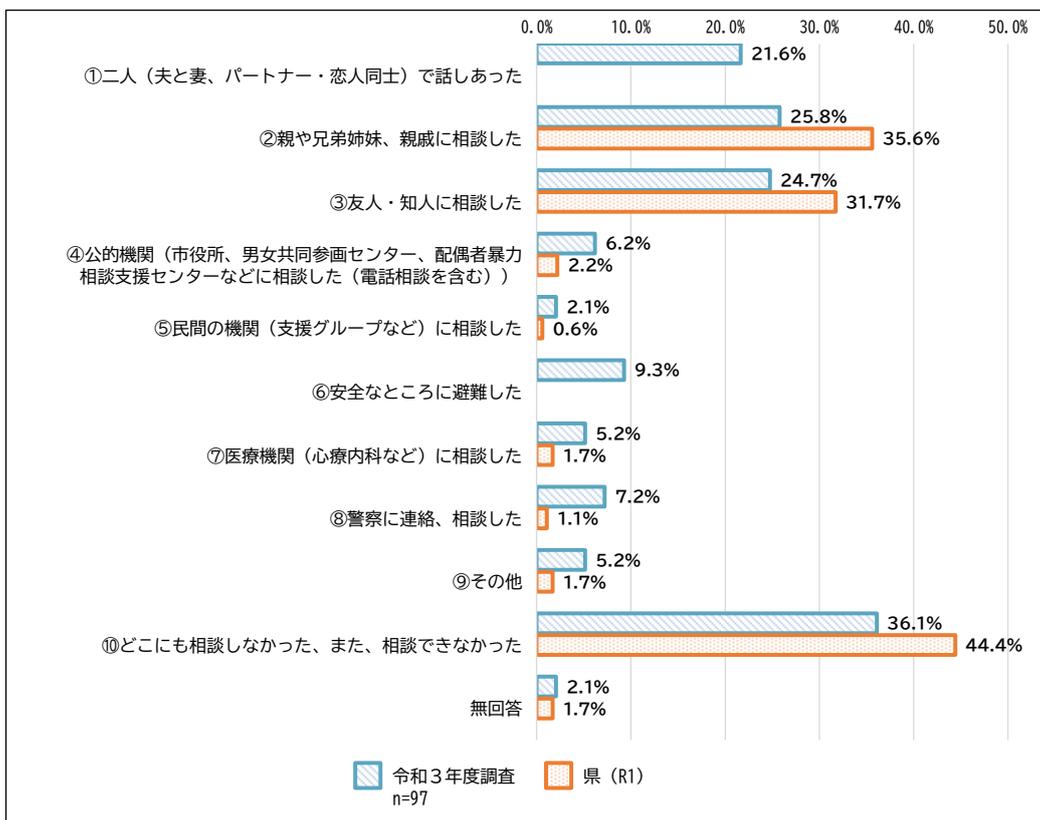
これまでにDVを受けた経験については、“経験がある”（「今も受けている」と「過去に何度も受けたことがある」と「過去に1、2度受けたことがある」の回答割合の合計）の割合は13.6%と、前回調査と比較して5.7ポイント低くなっており、少しずつ状況が改善している様子がうかがえます。

暴力を受けた後の対処については、「どこにも相談しなかった（できなかった）」が最も高くなっており、被害者がDVを受けたことを誰にも明らかにしないケースがいまだに多いことが分かります。身近な人に相談する割合は25%程度あるものの、公的機関等へ相談した割合は低い結果となっており、相談窓口の周知・啓発は今後も重要であると考えられます。

【恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要を受けた経験について（全体）】



【暴力を受けた後の対処について】

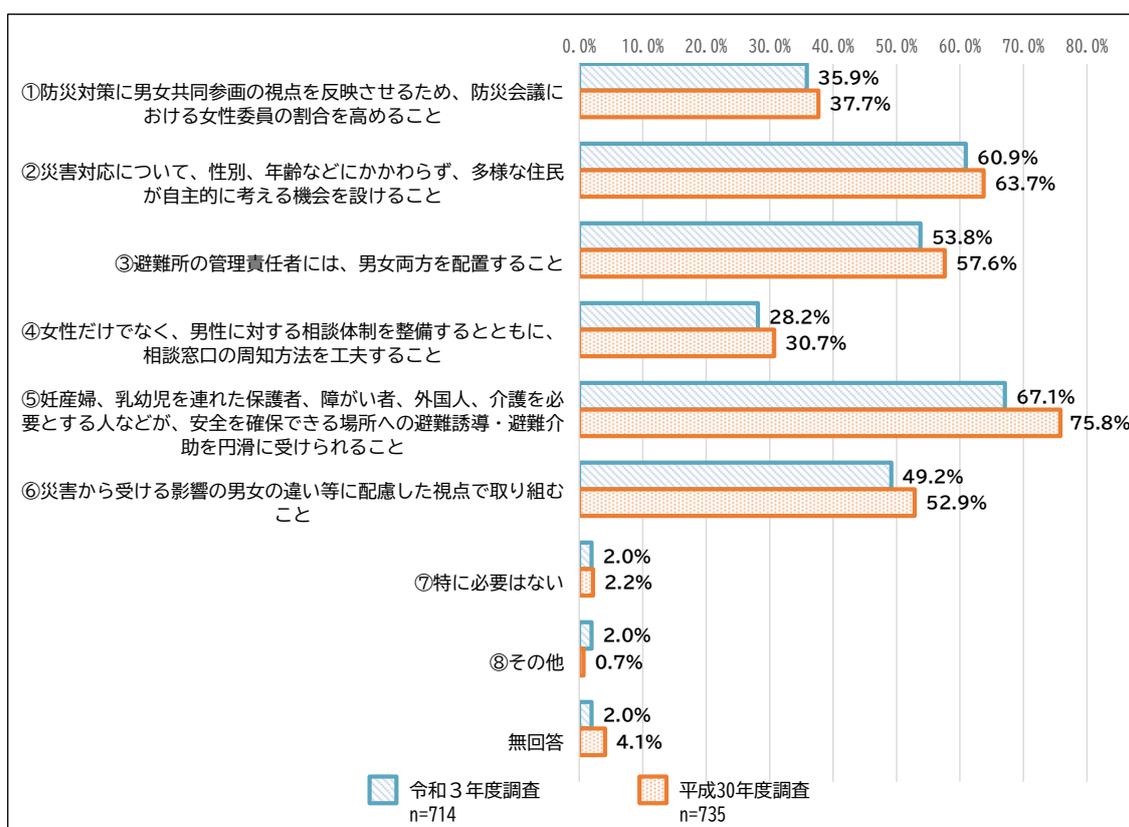


7 防災の分野における男女共同参画について

防災の分野における男女共同参画の推進について必要なことは、「妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、外国人、介護を必要とする人などが、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を円滑に受けられること」が最も高くなっており、災害時に自力での避難が困難な人への支援のために多様な視点を取り入れる必要があることがわかります。

また、「災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること」や「避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること」も高い割合となっており、防災分野に女性の参画拡大を図っていくことが求められています。

【防災の分野における男女共同参画の推進について必要なことについて】



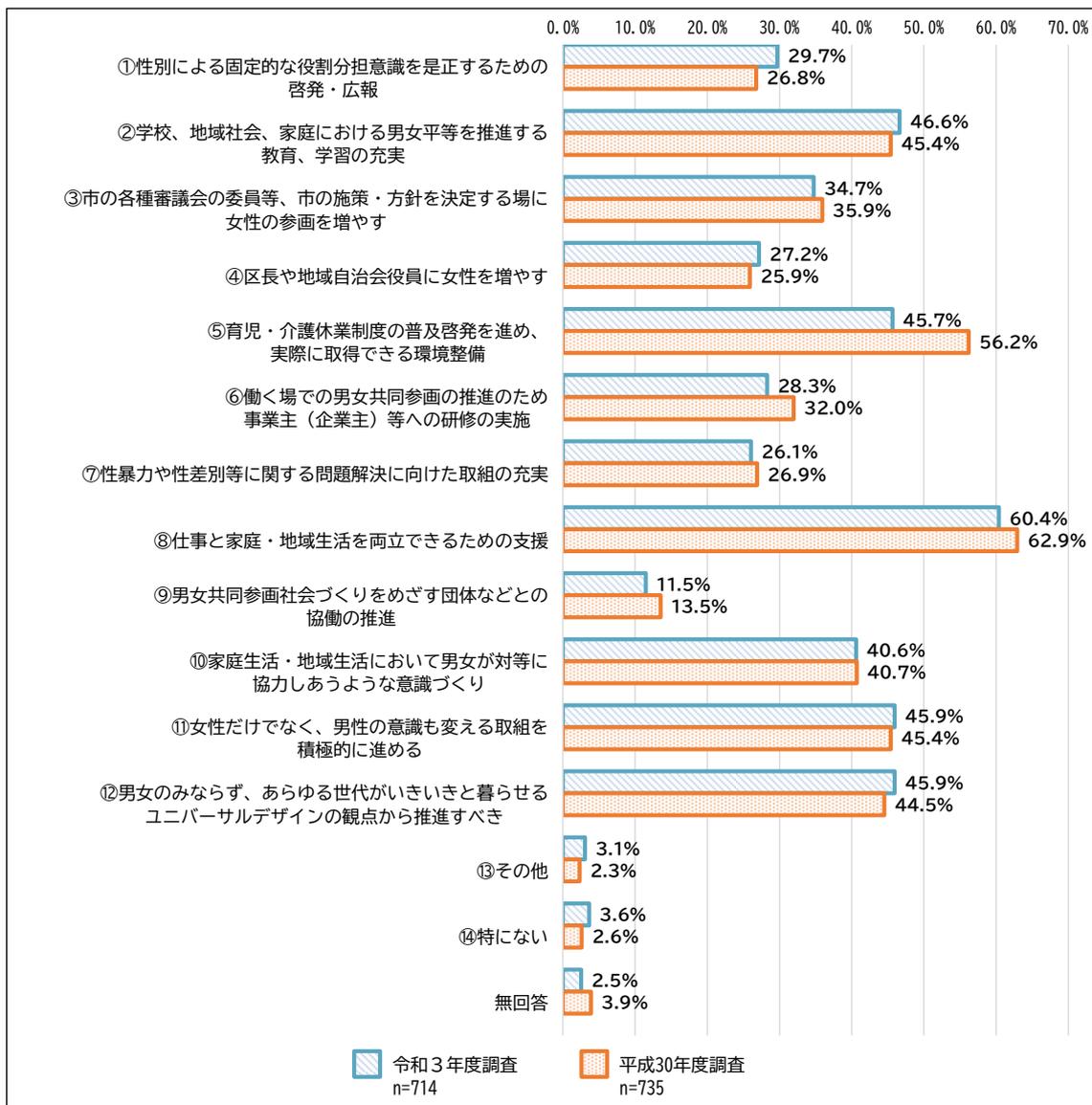
8 男女共同参画社会の推進について

今回の調査においても、前回と同じく「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」が最も高い割合となっており、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関連する取組が求められていることが分かります。

また、「女性だけでなく、男性の意識も変える取組を積極的に進める」や「男女のみならず、あらゆる世代がいきいきと暮らせるユニバーサルデザインの観点から推進すべき」との回答も多くあり、性別・世代を超えて、活気あるまちづくりを推進していくことも多くの市民が希望していると思われます。

さらに、「学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育、学習の充実」の割合も高くなっており、未来の世代に向けた教育について推進していくことが求められています。

【男女共同参画社会の実現のために、菊池市が今後力を入れていくべきことについて】

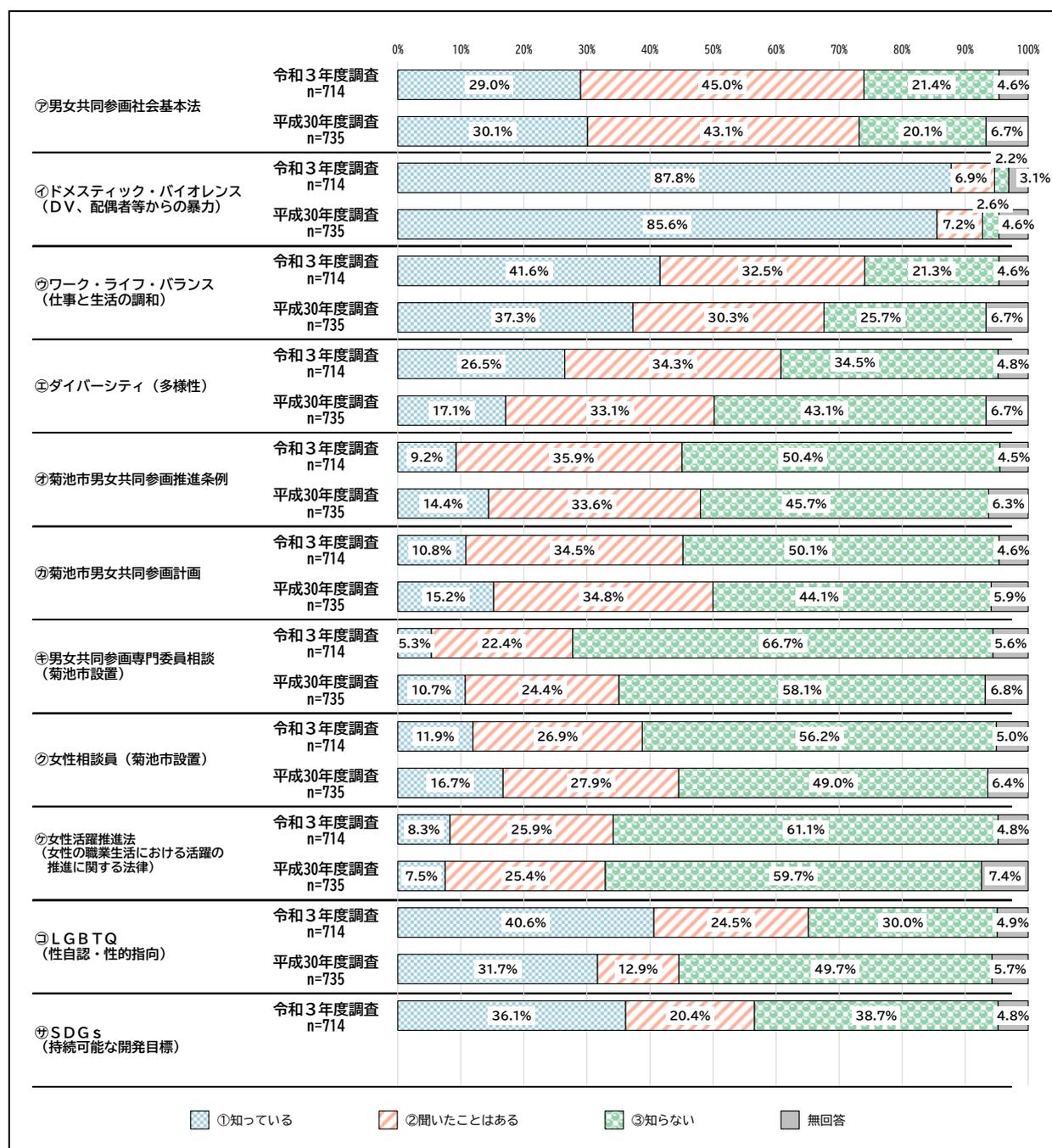


男女共同参画に関する用語の認知度では、前回調査と同じく「ドメスティック・バイオレンス」が“認知している”（「知っている」と「聞いたことはある」の回答割合の合計）の割合が最も高くなっています。

また、前回調査と比較して、「ワーク・ライフ・バランス」「ダイバーシティ」「LGBTQ」については認知度の向上が見られます。特に「LGBTQ」の認知度は大きく向上しており、全国的な意識の高まりとともに、市民にも広く認知されてきている様子がうかがえます。

一方、「菊池市男女共同参画推進条例」「菊池市男女共同参画計画」「男女共同参画専門委員相談」「女性相談員」については、前回調査より認知度が低下しており、更なる周知が必要であると思われます。

【男女共同参画に関する用語の認知度について】



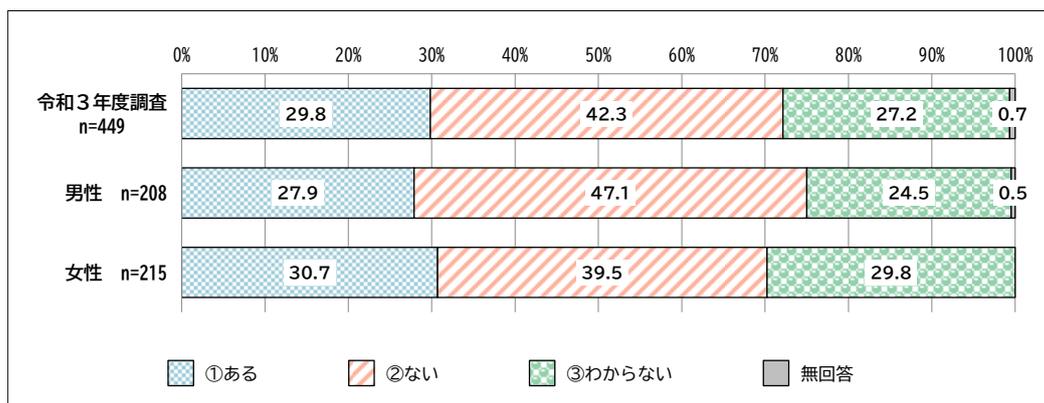
9 中学生向け調査について

学校の中での男女の扱いに違和感を感じた経験の有無については、全体で約3割が「ある」と回答しています。

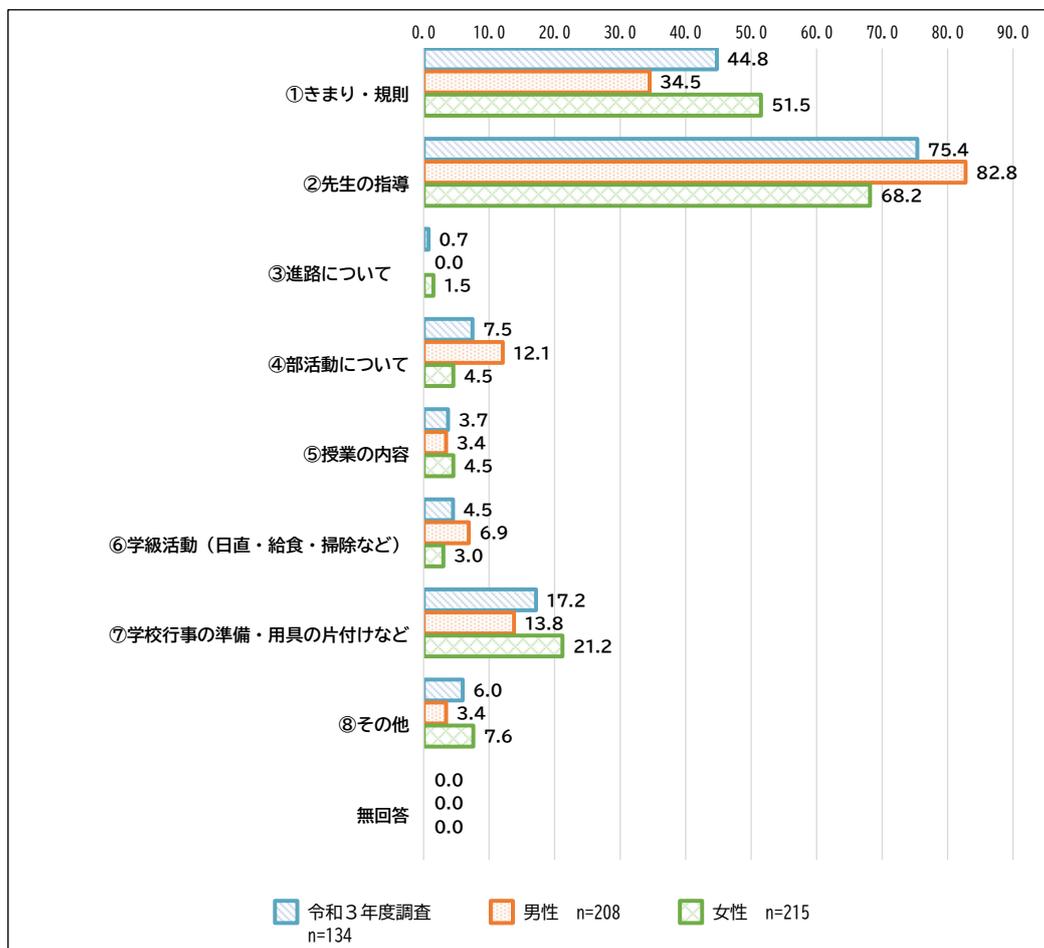
その内容については、「先生の指導」と「きまり・規則」が高い割合となっており、従前からの指導方法・内容や規則に関して、生徒が違和感を覚えることがあると思われます。

また、女子の方が男女の扱いに違和感を感じた割合が高くなっています。具体的内容については、男子では「先生の指導」の割合が、女子では「きまり・規則」と「学校行事の準備・用具の片づけなど」の割合がそれぞれと比較して高くなっています。

【学校の中での男女の扱いに違和感を感じた経験の有無について】



【学校の中での男女の扱いに違和感を感じた経験の具体的な内容について】

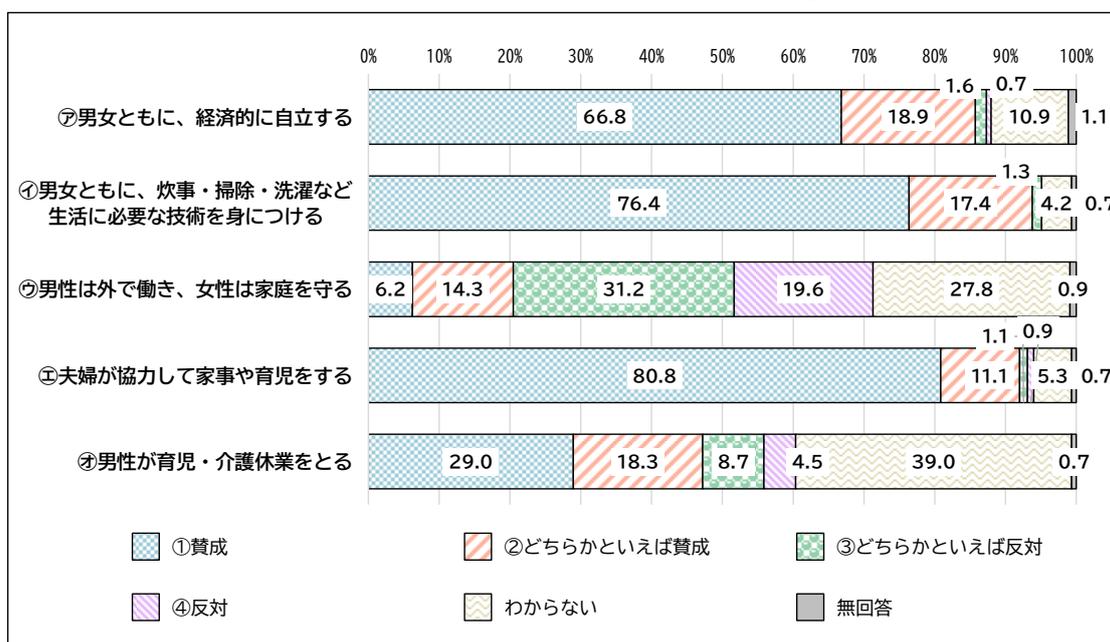


性別によって役割を固定する考え方については、「男女ともに、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につける」「夫婦が協力して家事や育児をする」において”賛成”（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の回答割合の合計）の割合が9割を超えており、若い世代において“性別によって役割を固定する考え方”は少なくなっていることが分かります。

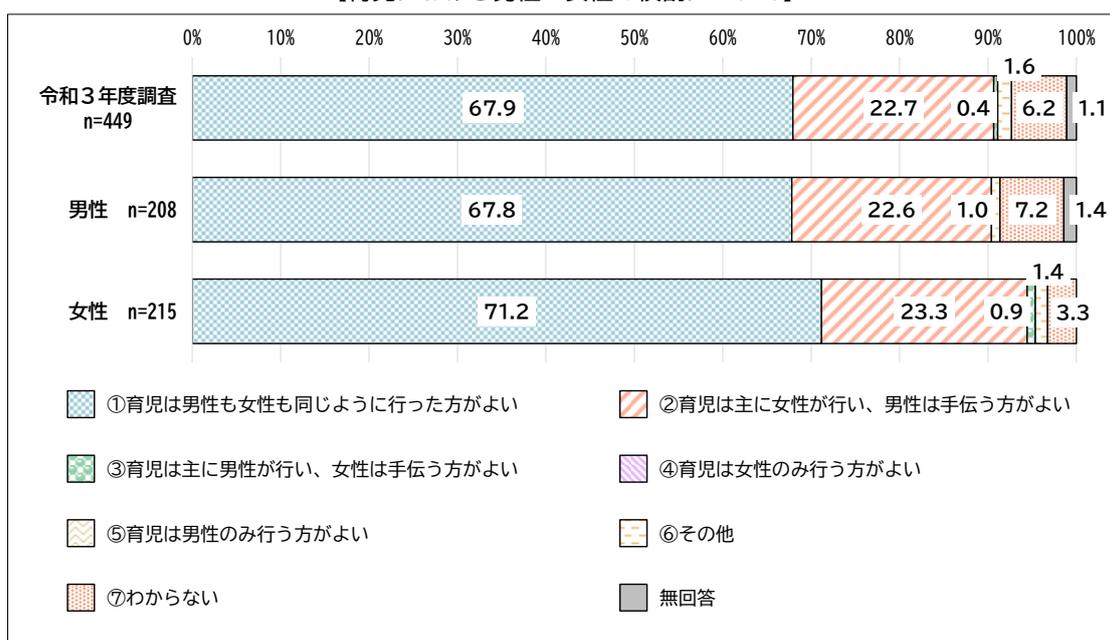
一方、「男性が育児・介護休業をとる」については「わからない」の割合が高く、法制度の内容について正しく学習する機会を持ったり、互いの生活を心豊かに導くためのより良い方法を考えたりする学習・研修の充実がのぞまれます。

また、育児における男性・女性の役割については「育児は男性も女性も同じように行った方がよい」の割合が7割程度と多数を占めており、このことから、若年層において、“家事や育児は協力すべき”との意識が高いことが分かります。

【性別によって役割を固定する考え方について】



【育児における男性・女性の役割について】



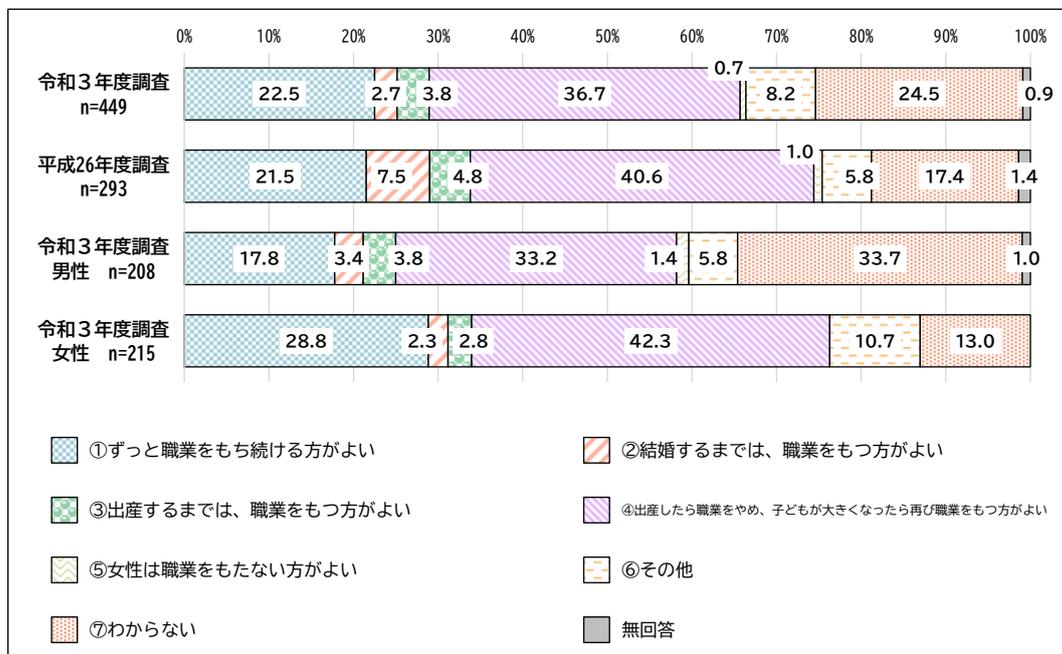
II 総括

女性の働き方については、「出産したら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が最も高い割合となっています。一般市民向け調査と比較すると、「ずっと職業をもち続ける方がよい」の割合に大きな差がみられます(一般:54.5%、中学生:22.5%)。

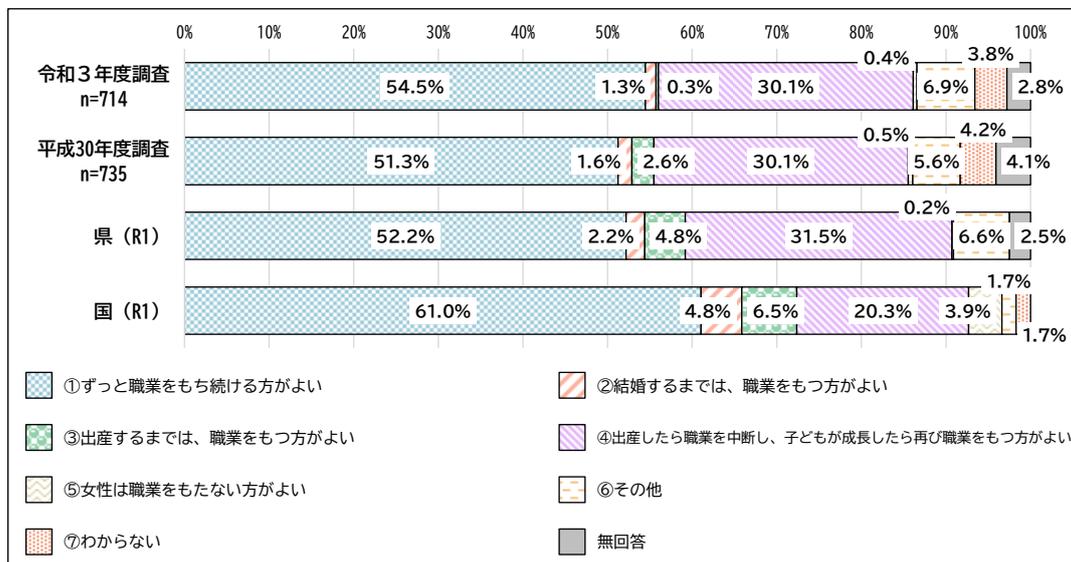
一方、「わからない」の割合も高く、将来の働き方についてイメージをすることが難しかった様子もうかがえます。また、その他の回答では、「個人の自由な判断をするべき」との意見が多くありました。男女別にみると女子の方が「ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した割合が高く、男子では「女性は職業をもたない方がよい」との回答もあり、男女間で意識の隔たりが見受けられます。

これらのことから将来の進路や仕事、結婚、家庭生活など生き方について、多様な選択ができるよう意識啓発を図っていく必要があります。また、個人の希望に沿った働き方が実現できるように、公的サービスや制度の充実と周囲の理解促進に努めていくことが重要であると考えられます。

【女性の働き方について】



【女性の働き方について（一般市民向け調査結果・再掲）】



Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

1 あなたご自身のことについて

●性別

	男性	女性	答えたくない	無回答
回答数	283	415	5	11
割合	39.6%	58.1%	0.7%	1.5%

●年代

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
回答数	82	101	103	138	184	97	9
割合	11.5%	14.1%	14.4%	19.3%	25.8%	13.6%	1.3%

●職業

	会社員・ 団体職員・ 公務員・教員	会社経営・ 自由業・自営業・ 家業	農林業	専業主婦・ 専業主夫	パート・ アルバイト	学生	無職	その他	無回答
回答数	251	82	51	69	120	9	78	32	22
割合	35.2%	11.5%	7.1%	9.7%	16.8%	1.3%	10.9%	4.5%	3.1%

●婚姻状態

	結婚していない	結婚している・ 結婚していた (事実婚・離死別含む)	無回答
回答数	152	552	10
割合	21.3%	77.3%	1.4%

●配偶者の就業状況

	就業している	就業していない	無回答
回答数	379	120	215
割合	53.1%	16.8%	30.1%

●世帯の状況

	単身世帯 (1人暮らし)	夫婦世帯 (夫婦のみ)	二世帯世帯 (親と子)	三世帯世帯 (親と子と孫)	その他の世帯	無回答
回答数	57	161	357	100	25	14
割合	8.0%	22.5%	50.0%	14.0%	3.5%	2.0%

●居住地域

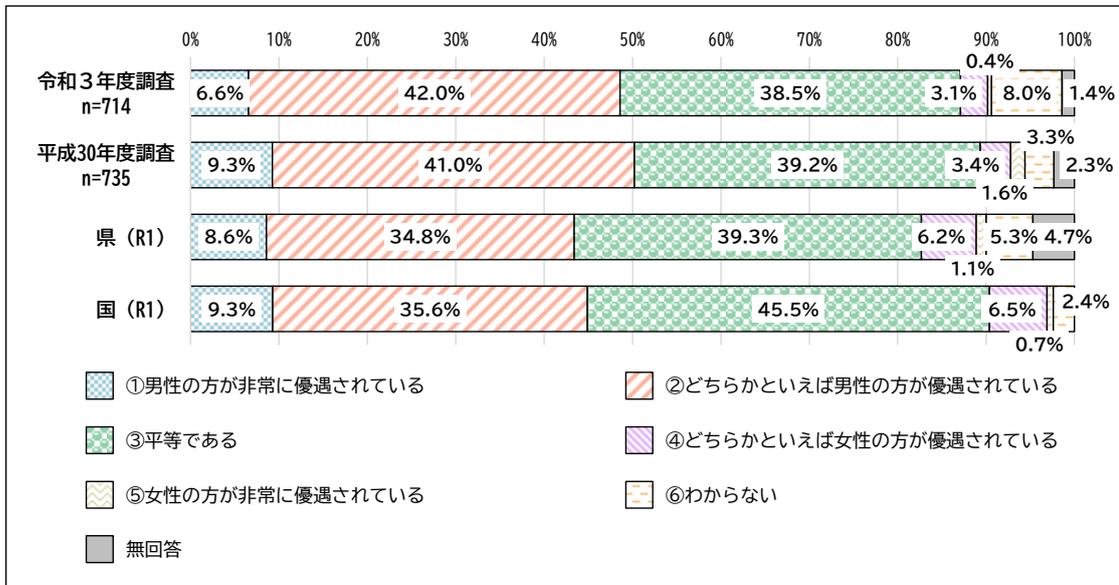
	①旧菊池市	②旧七城町	③旧旭志村	④旧泗水町	無回答
回答数	361	71	64	207	11
割合	50.6%	9.9%	9.0%	29.0%	1.5%

2 男女共同参画に関する意識について

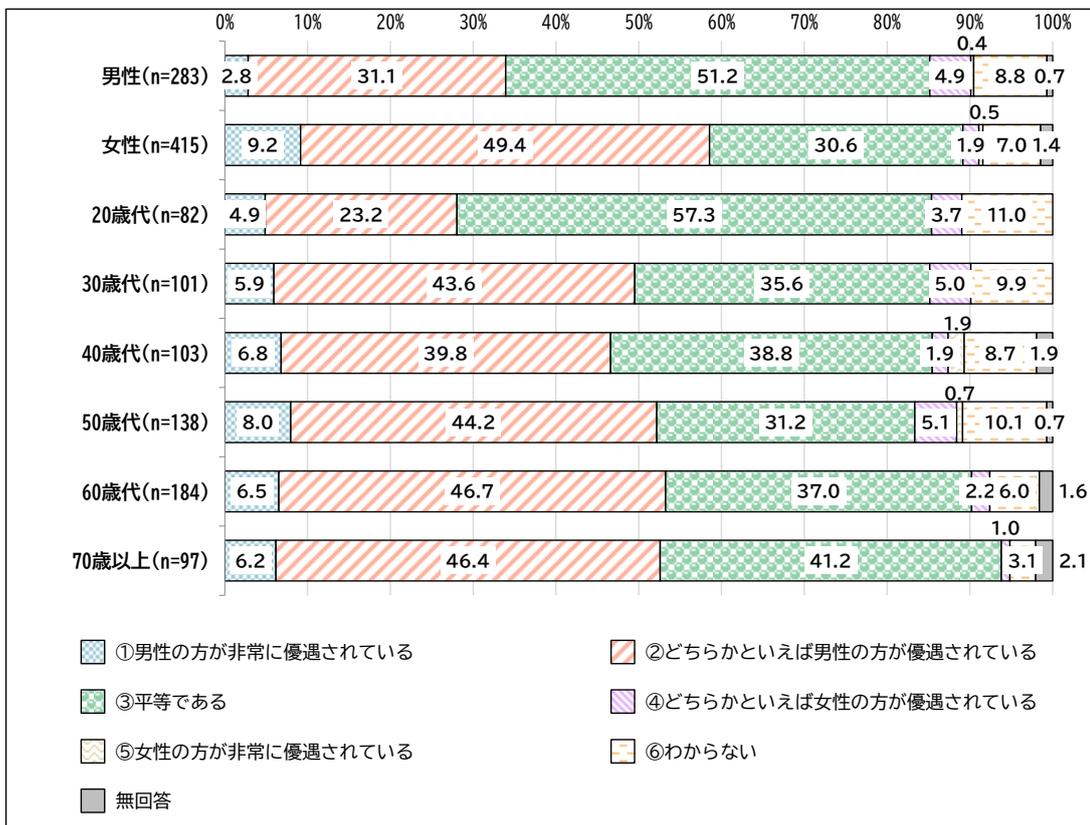
問 1 あなたは、社会のいろいろな面において男女の地位は平等になっていると思いますか。(単数回答)

ア)家庭生活では

【全体結果と関連調査結果の比較】



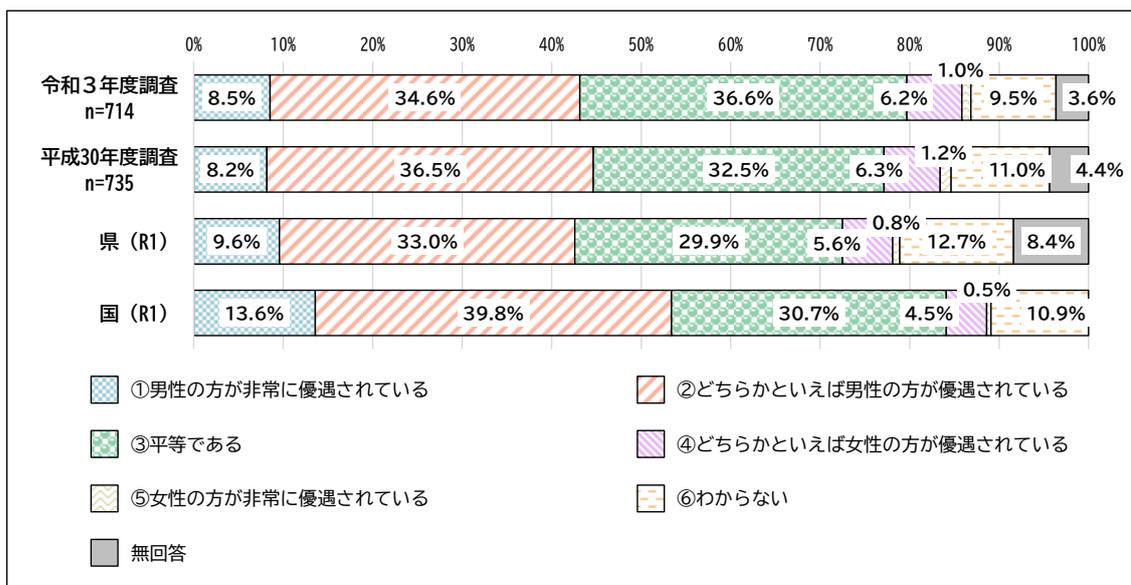
【性・年代別結果】



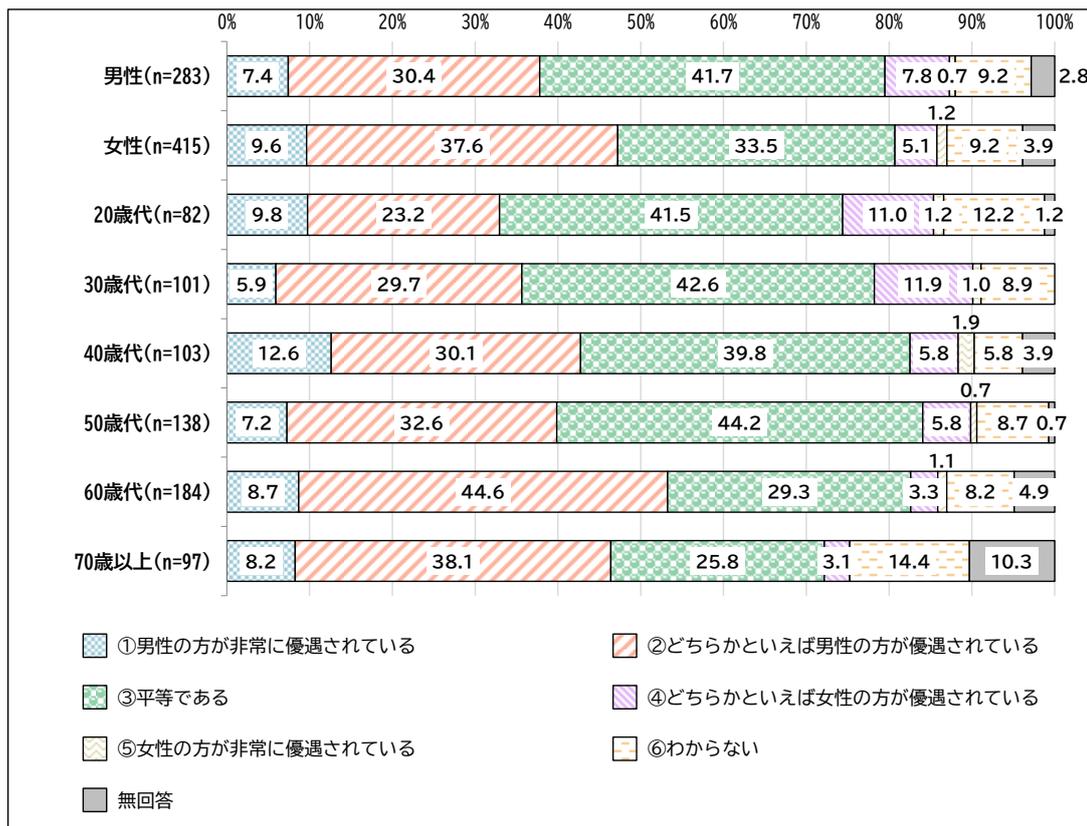
- 家庭生活では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(42.0%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(38.5%)、「わからない」(8.0%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が”男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が51.2%に対して、女性は30.6%となっています。
- 年代別にみると、20歳代では「平等である」と感じている人の割合が6割近くあるのに対し、30歳代以降では“男性優遇”と感じている人の割合が5割程となっています。
- 前回調査との比較では、「男性の方が非常に優遇されている」と感じている人の割合が、2.7ポイント低くなっています。
- 他統計結果との比較では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じている人の割合が、全国よりも6.4ポイント、熊本県よりも7.2ポイント高くなっています。

①職場では

【全体結果と関連調査結果の比較】



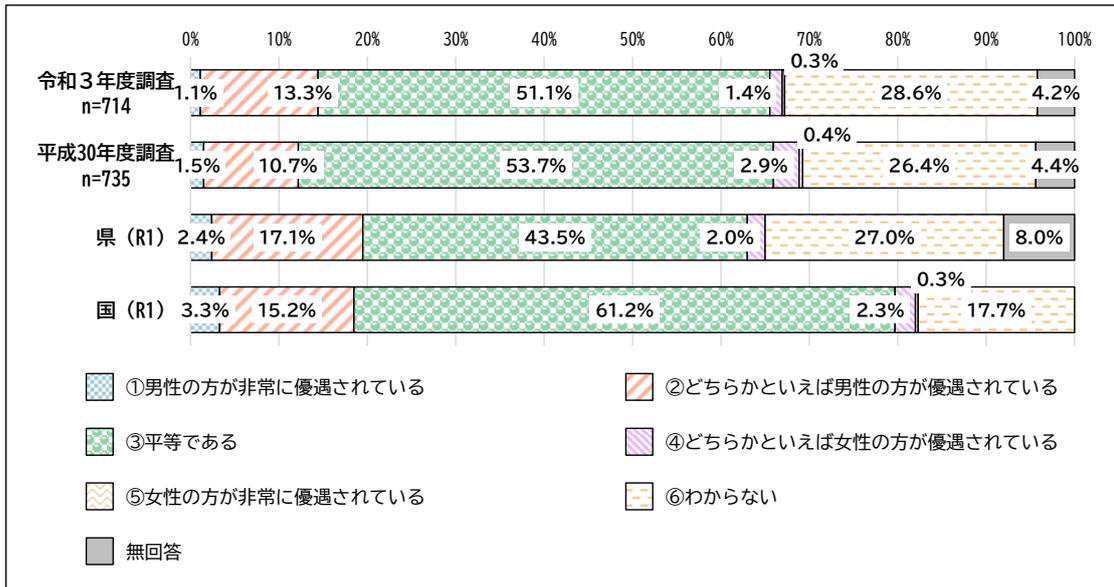
【性・年代別結果】



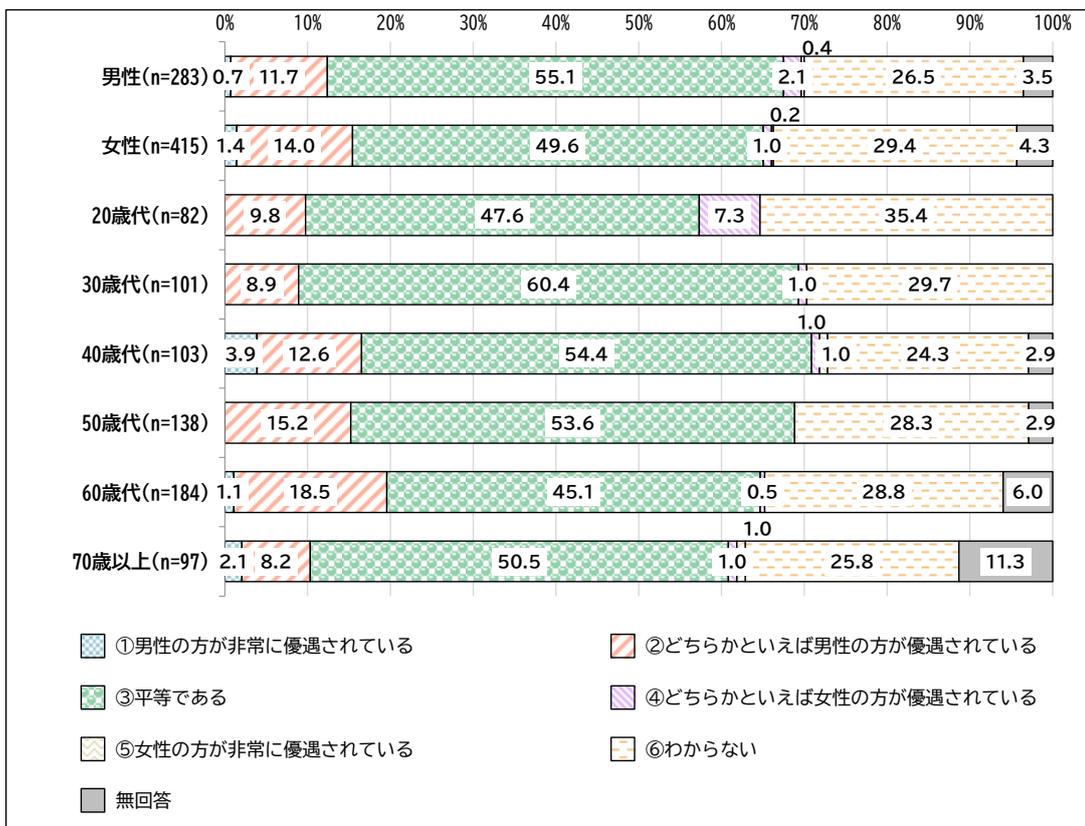
- 職場では、「平等である」(36.6%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(34.6%)、「わからない」(9.5%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が”男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が41.7%に対して、女性は33.5%となっています。
- 年代別にみると、”男性優遇”と感じている人の割合は年齢階層が上がるに従って、増加していく傾向にあります。また、「平等である」の割合は50歳代まで4割前後で推移していますが、60歳代以降では3割を下回っています。
- 前回調査との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、4.1ポイント高くなっています。
- 他統計結果との比較では、“男性優遇”と感じている人の割合が、全国よりも10.3ポイント低くなっています。

㊦学校教育の場では

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】

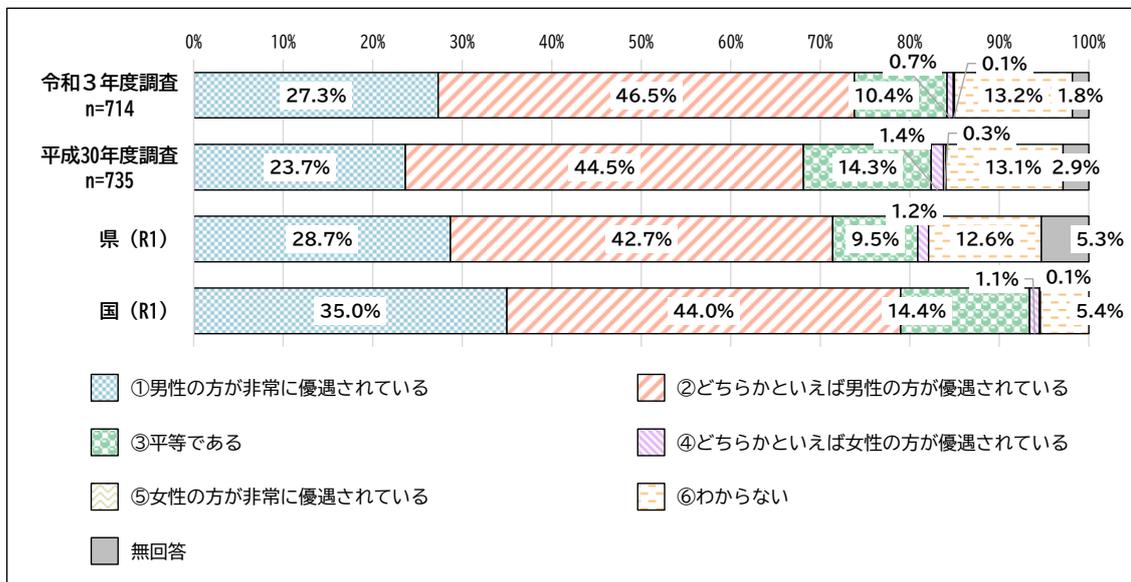


Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

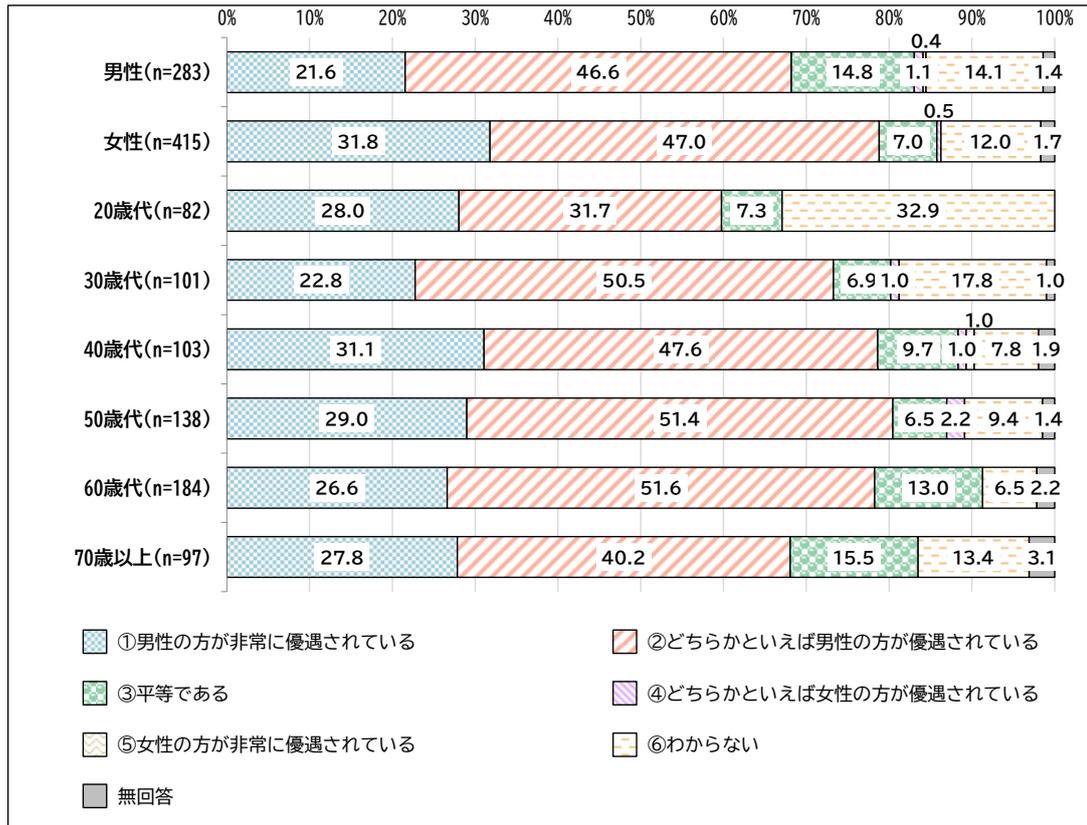
- 学校教育の場では、「平等である」(51.1%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(28.6%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(13.3%)となっています。
- 男女別、年代別にみても、「平等である」の割合が5割前後の回答となっており、どの世代、性別でも学校教育の場では平等と考える人が多いことがわかります。
- 前回調査との比較では、“男性優遇”と感じている人の割合が、2.2ポイント高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも10.1ポイント低く、熊本県よりも7.6ポイント高くなっています。

㊦政治・政策決定の場では

【全体結果と関連調査結果の比較】



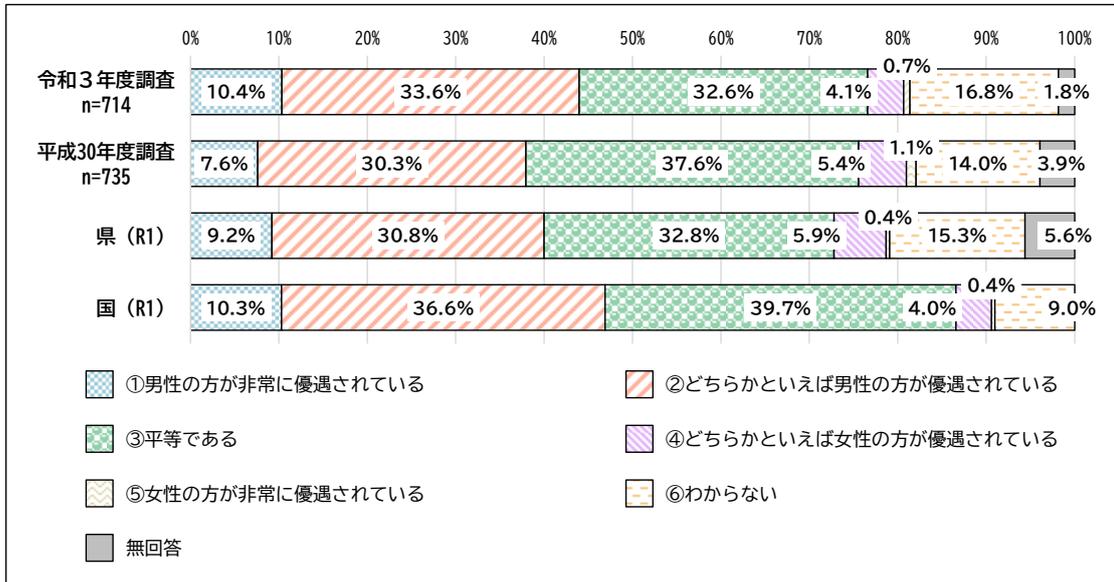
【性・年代別結果】



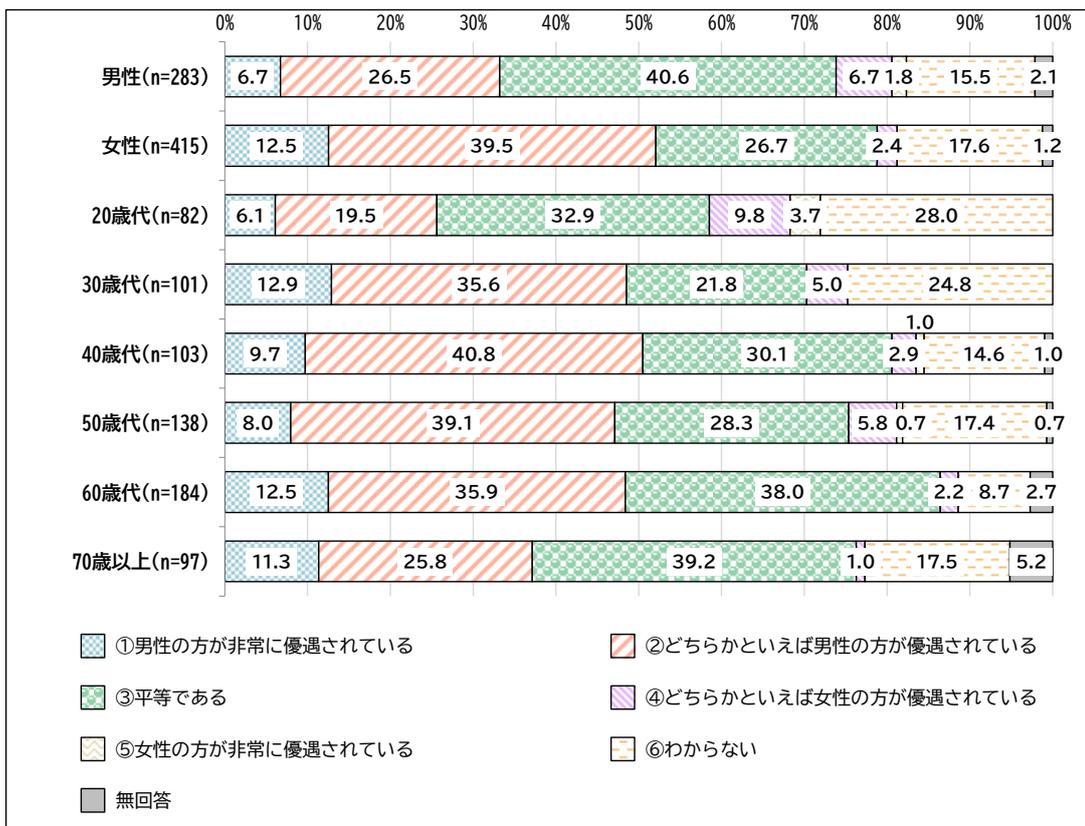
- 政治・政策決定の場では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(46.5%)の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(27.3%)、「わからない」(13.2%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が”男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。
- 前回調査との比較では、“男性優遇”と感じている人の割合が、5.6ポイント高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも4.0ポイント低くなっています。

㊤ 法律や制度の上では

【全体結果と関連調査結果の比較】



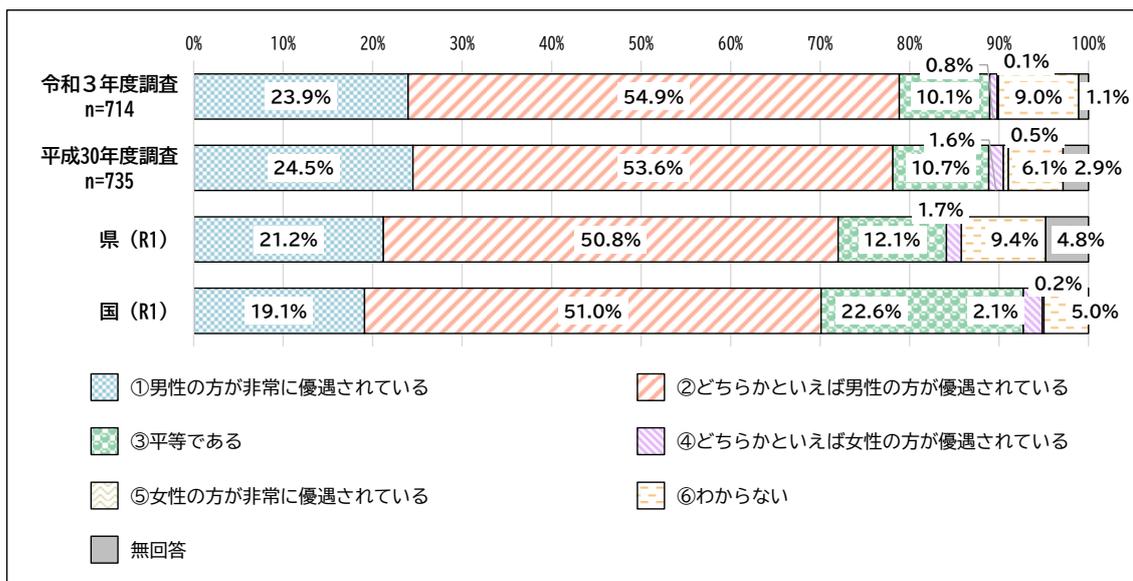
【性・年代別結果】



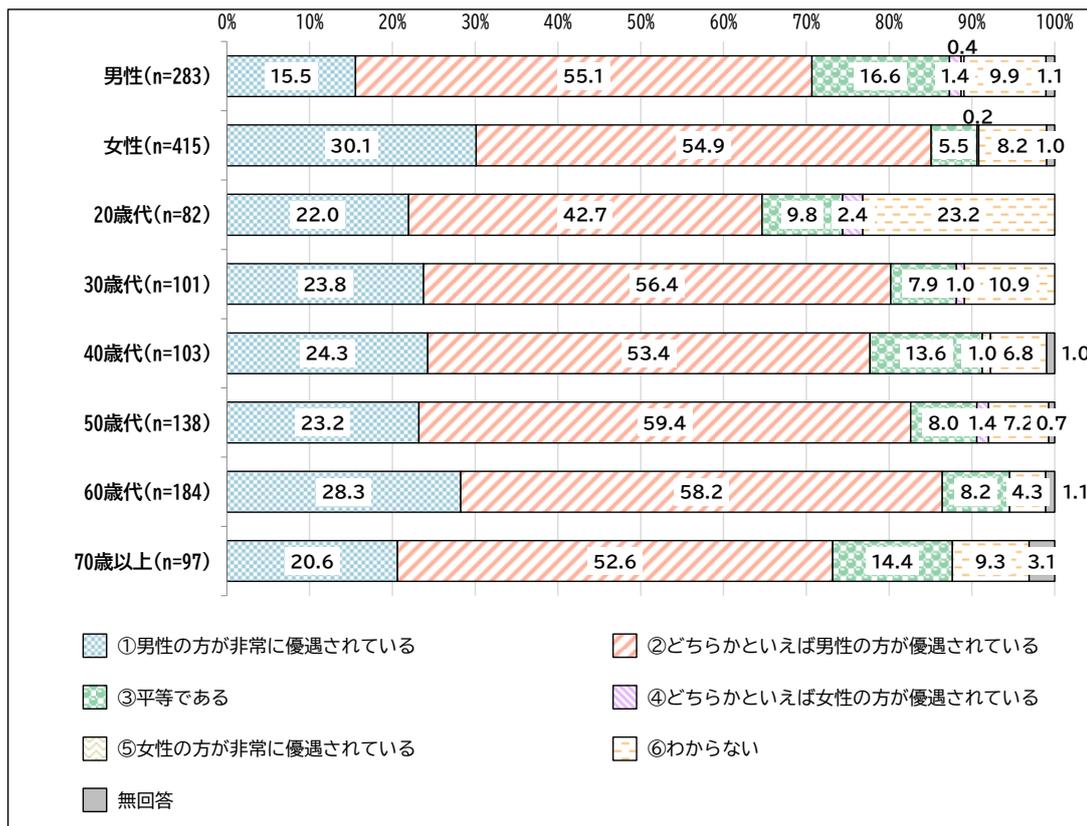
- 法律や制度の上では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(33.6%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(32.6%)、「わからない」(16.8%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が”男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が40.6%に対して、女性は26.7%となっています。
- 年代別にみると、20歳代では“男性優遇”と感じている人の割合が3割を下回っているのに対して、30歳代から60歳代では“男性優遇”と感じている人の割合が5割程となっています。
- 前回調査との比較では、“男性優遇”と感じている人の割合が、6.1ポイント高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも7.1ポイント低くなっています。

㊦社会通念・慣習・しきたり等では

【全体結果と関連調査結果の比較】



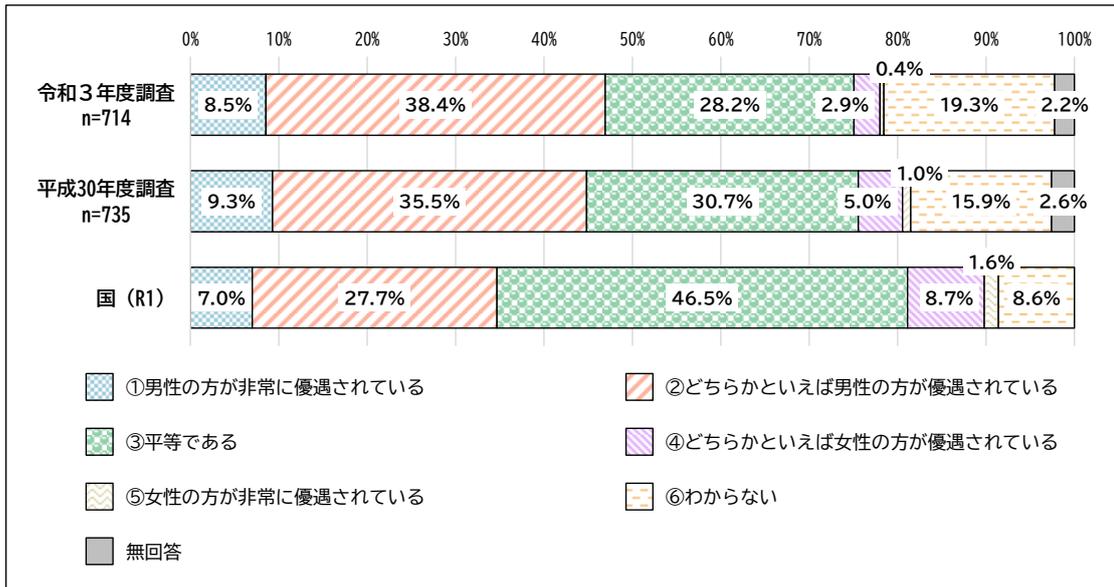
【性・年代別結果】



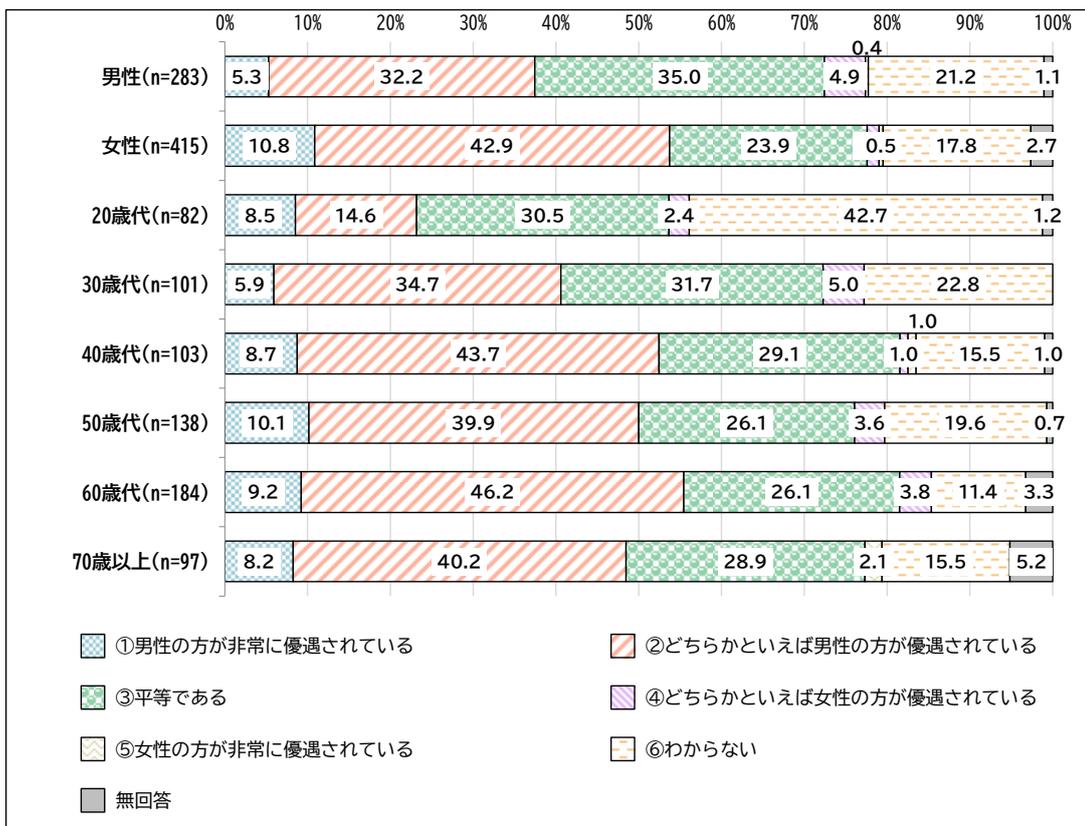
- 社会通念・慣習・しきたり等では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(54.9%)の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(23.9%)、「平等である」(10.1%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が”男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。
- 年代別では、20歳代では「わからない」(23.2%)の割合が他の年代よりも高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも12.5ポイント低くなっています。

㊦自治会・PTA・地域活動の場では

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】

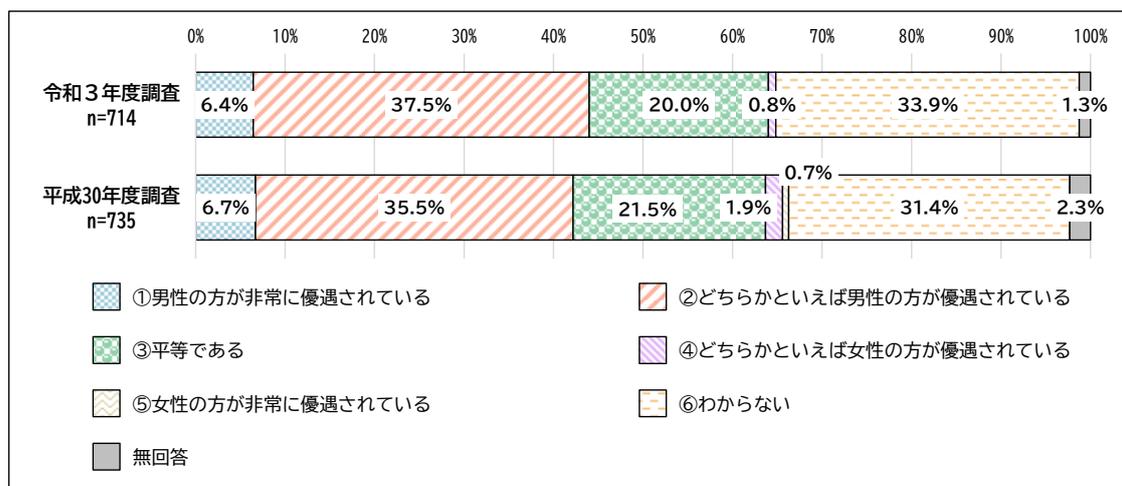


Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

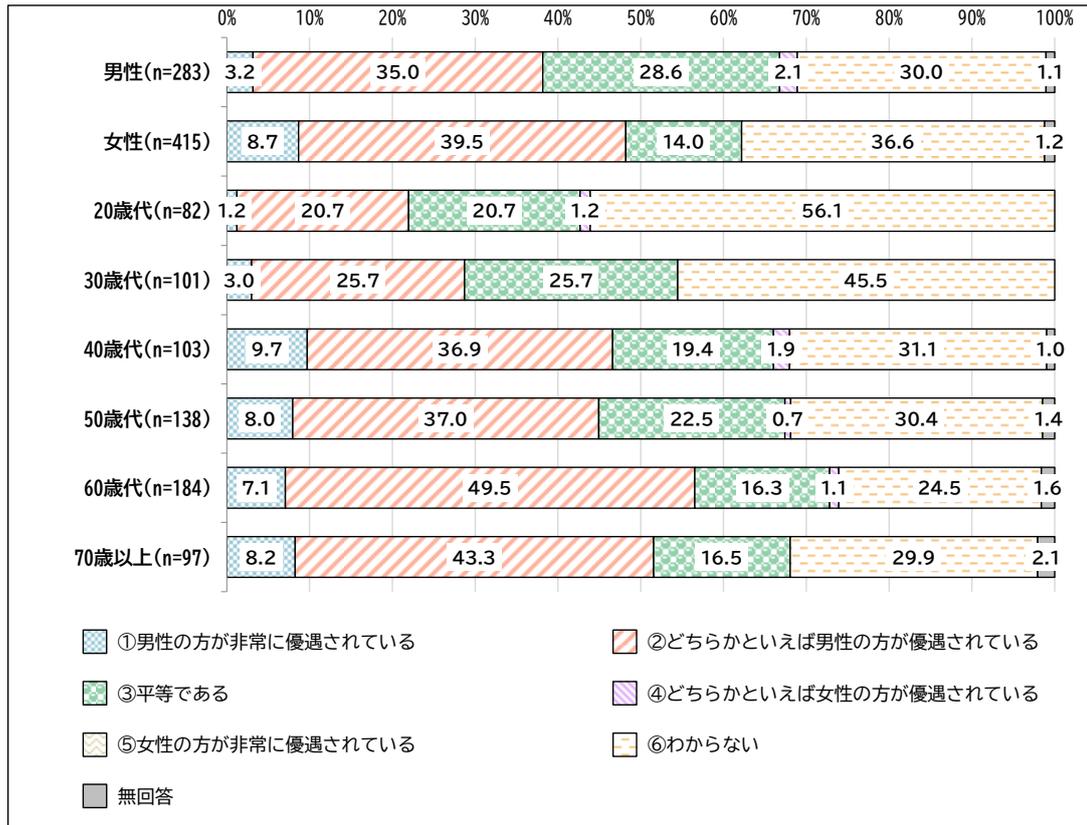
- 自治会・PTA・地域活動の場では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(38.4%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(28.2%)、「わからない」(19.3%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が”男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が35.0%に対して、女性は23.9%となっています。
- 年代別にみると、40歳代以降では“男性優遇”と感じている人の割合が5割程となっています。また、20歳代では「わからない」(42.7%)の割合が他の年代より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、2.5ポイント低くなっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも18.3ポイント低くなっています。また、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と感じている人の割合が全国よりも5.8ポイント低くなっています。

⑦菊池市全体では

【全体結果と関連調査結果の比較】



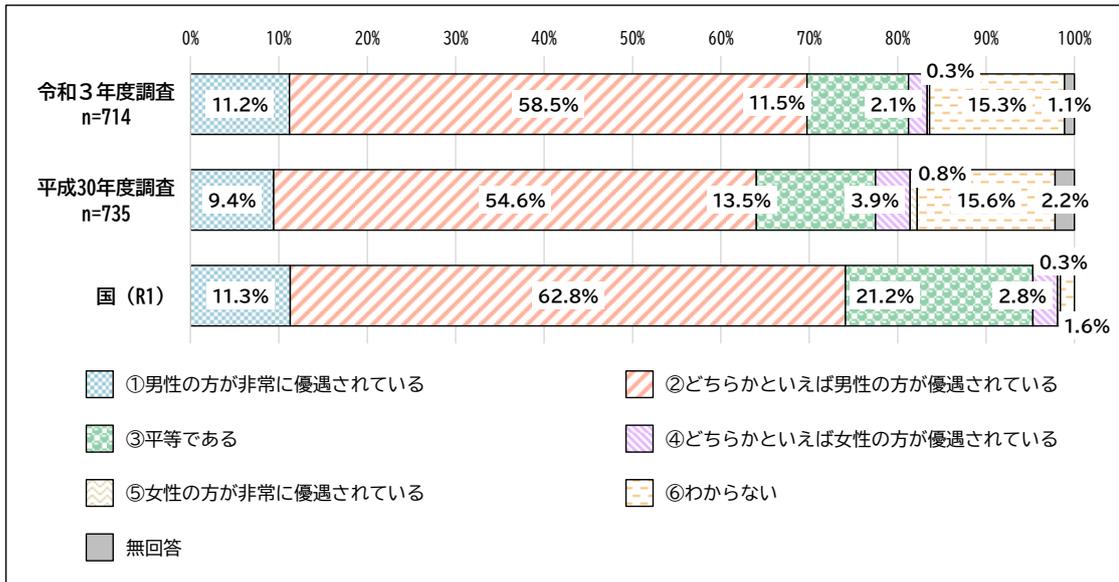
【性・年代別結果】



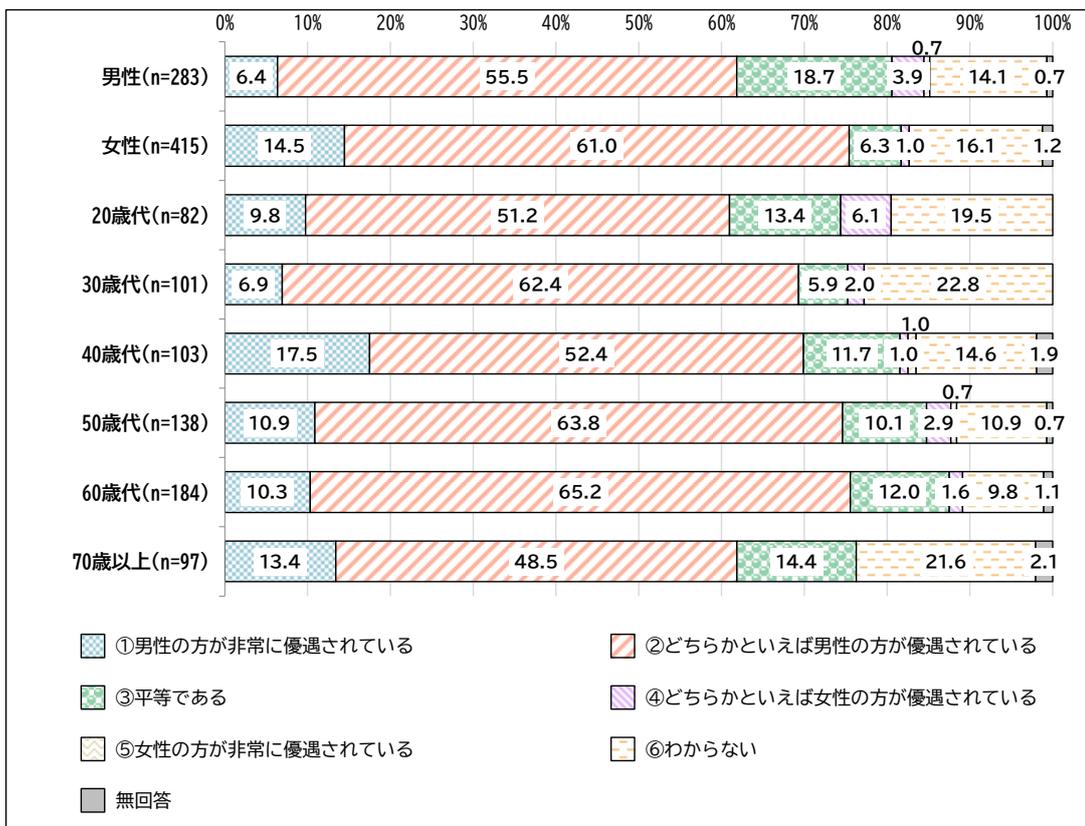
- 菊池市全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(37.5%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(33.9%)、「平等である」(20.0%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が”男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が28.6%に対して、女性は14.0%となっています。
- 年代別にみると、”男性優遇”と感じている人の割合は年齢階層が上がるに従って、増加していく傾向にあります。逆に、「平等である」及び「わからない」の割合は年齢階層が上がるにつれて減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、1.5ポイント低くなっています。

㊦ 社会全体では

【全体結果と関連調査結果の比較】



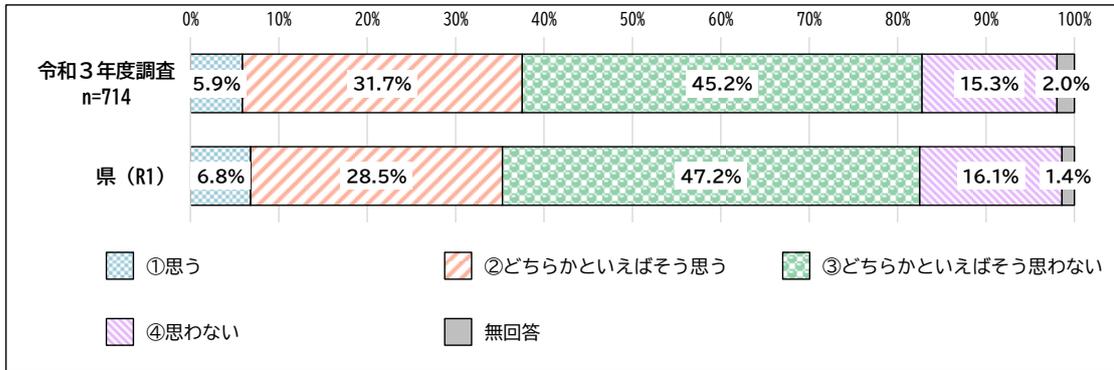
【性・年代別結果】



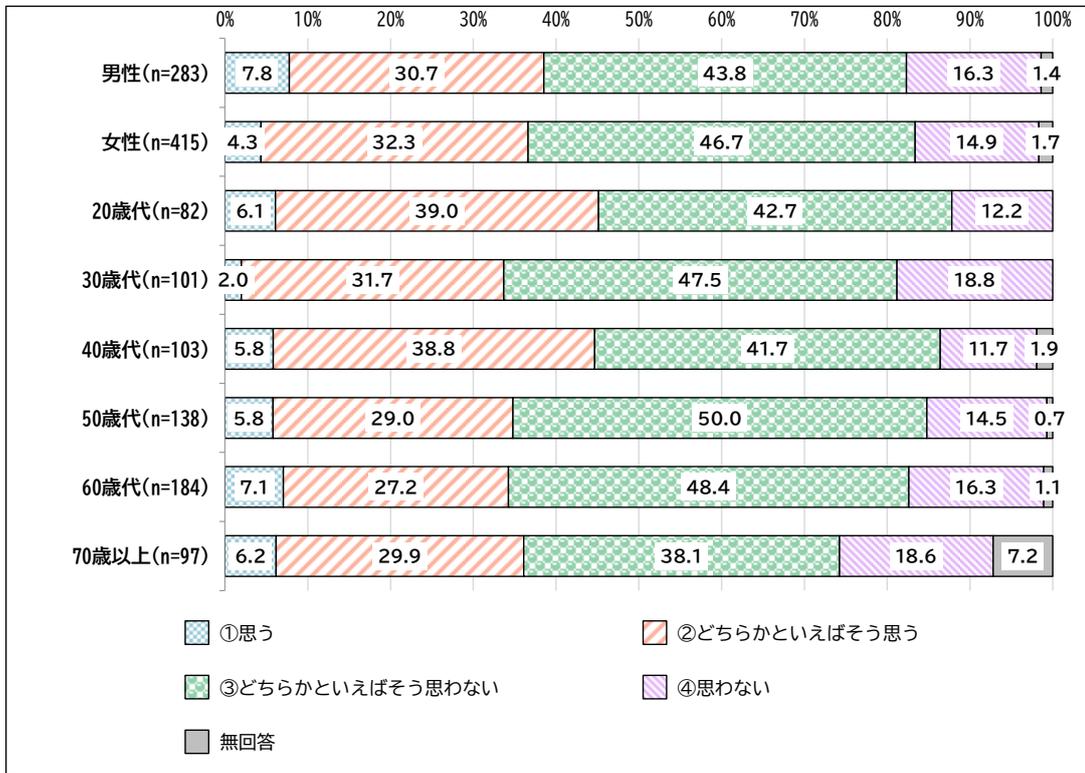
- 社会全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(58.5%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(15.3%)、「平等である」(11.5%)となっています。
- 男女別にみると、男性に比べて女性の方が”男性優遇”と感じている人の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、男性が18.7%に対して、女性は6.3%となっています。
- 年代別にみると、30歳代から60歳代では“男性優遇”と感じている人の割合が7割程となっています。
- 前回調査との比較では、“男性優遇”と感じている人の割合が、5.7ポイント高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「平等である」と感じている人の割合が、全国よりも9.7ポイント低くなっています。

問 2 あなたは、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか。(単数回答)

【全体結果と関連調査結果の比較】



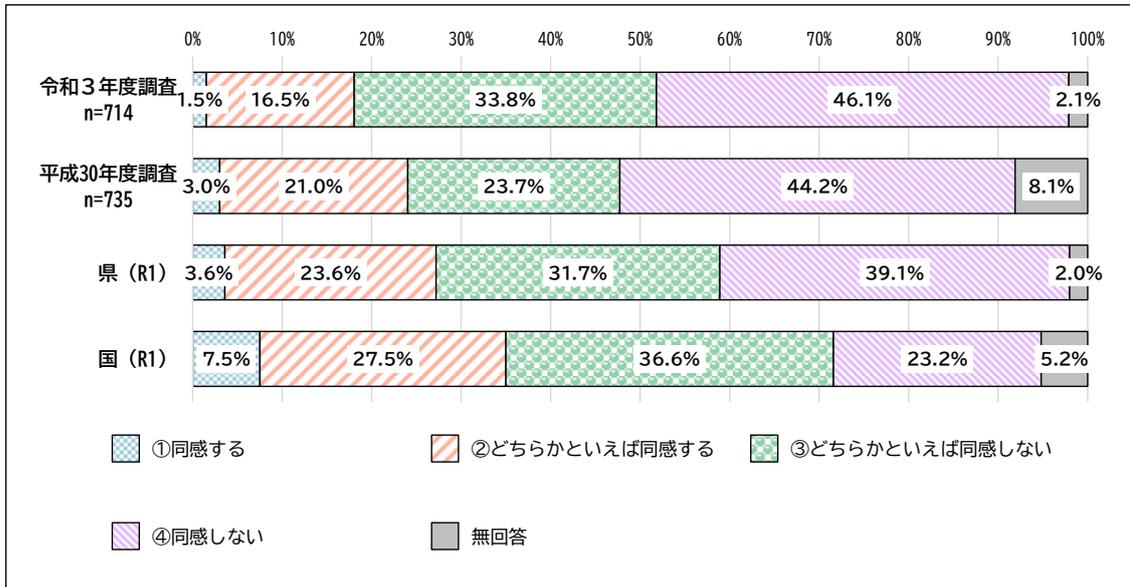
【性・年代別結果】



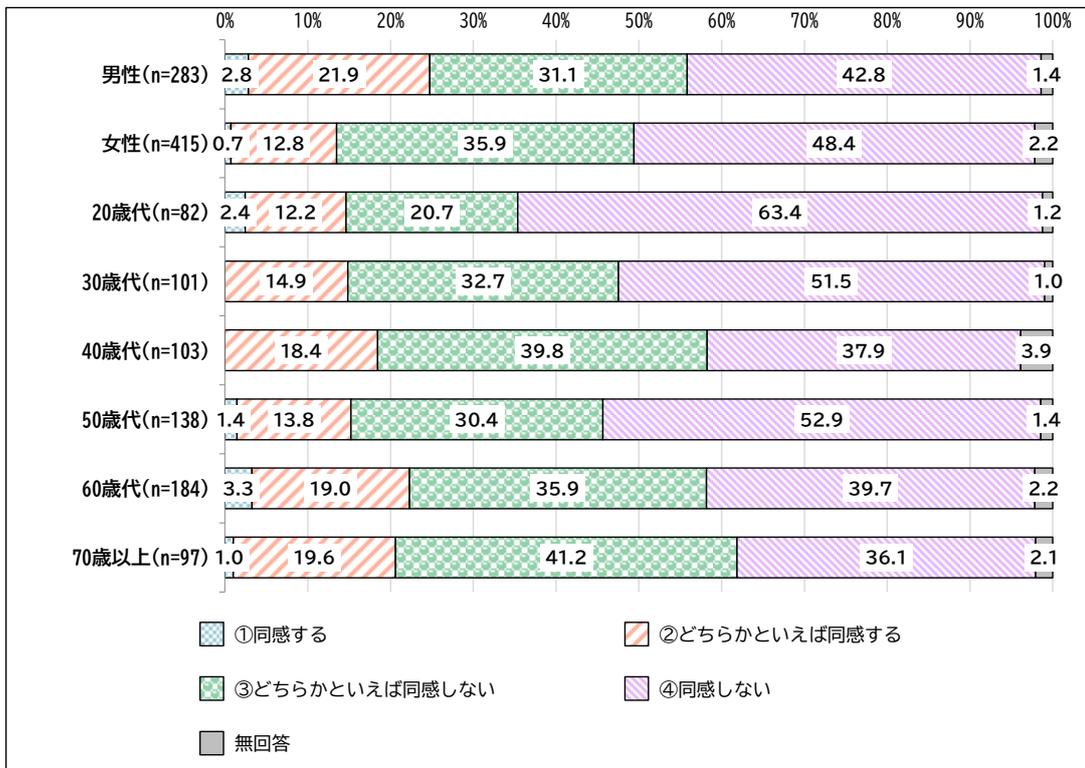
- 性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会が実現されているかについては、「どちらかといえばそう思わない」(45.2%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(31.7%)、「思わない」(15.3%)となっています。
- 年代別にみると、20歳代、40歳代で「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答している人の割合が、熊本県よりも2.8ポイント低くなっています。

問3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。(単数回答)

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】

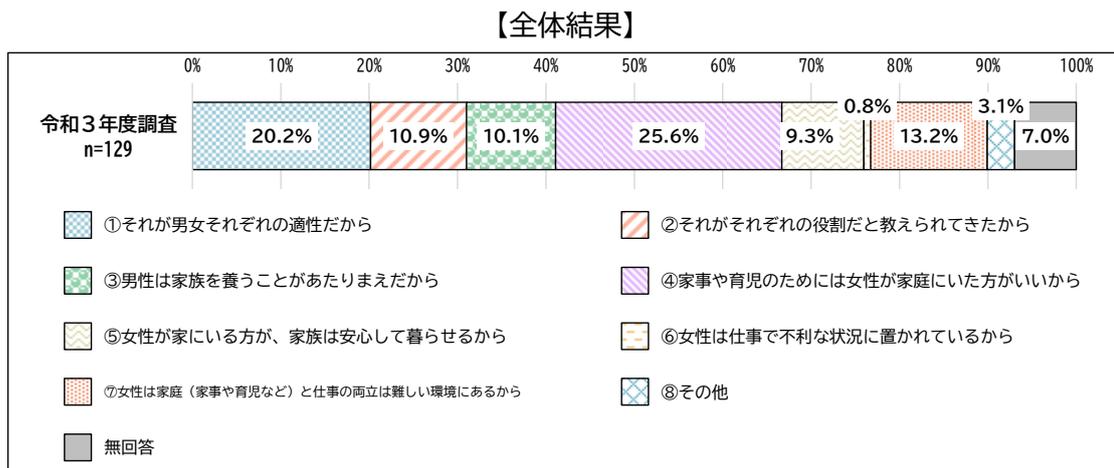


Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

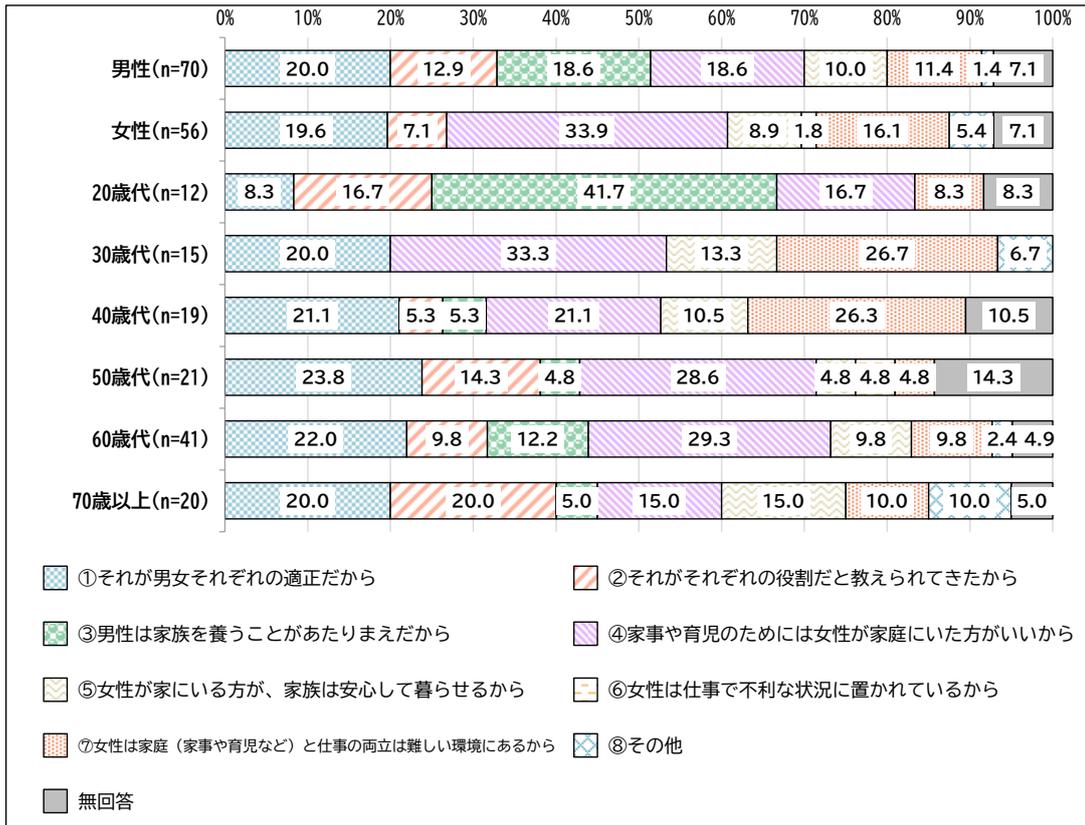
- 性別で役割を固定する考え方については、「同感しない」(46.1%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば同感しない」(33.8%)、「どちらかといえば同感する」(16.5%)となっています。
- 男女別にみると、「どちらかといえば同感しない」及び「同感しない」と回答している人は、男性(73.9%)に比べて女性(84.3%)の割合が高くなっています。
- 年代別にみると、20歳代で「同感しない」(63.4%)の割合が高くなっています。
- 前回調査との比較では、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」と回答している人の割合が12.0ポイント高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」と回答している人の割合が、全国よりも20.1ポイント、熊本県よりも9.1ポイント高くなっています。

問3で①または②を選んだ方のみ回答

その理由は何ですか。(単数回答)



【性・年代別結果】



- ” 同感する “理由については、「家事や育児のためには女性が家庭にいた方がいいから」(25.6%)の割合が最も高く、次いで「それが男女それぞれの適性だから」(20.2%)、「女性は家庭（家事や育児など）と仕事の両立は難しい環境にあるから」(13.2%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「男性は家族を養うことがあたりまえだから」(18.6%)の割合が女性より高く、女性では「家事や育児のためには女性が家庭にいた方がいいから」(33.9%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、20歳代では「男性は家族を養うことがあたりまえだから」(41.7%)の割合が他の年代より高くなっています。また、30歳代及び40歳代では「女性は家庭と仕事の両立は難しい環境にあるから」の割合が他の年代より高くなっています。

※その他の回答（一部抜粋）

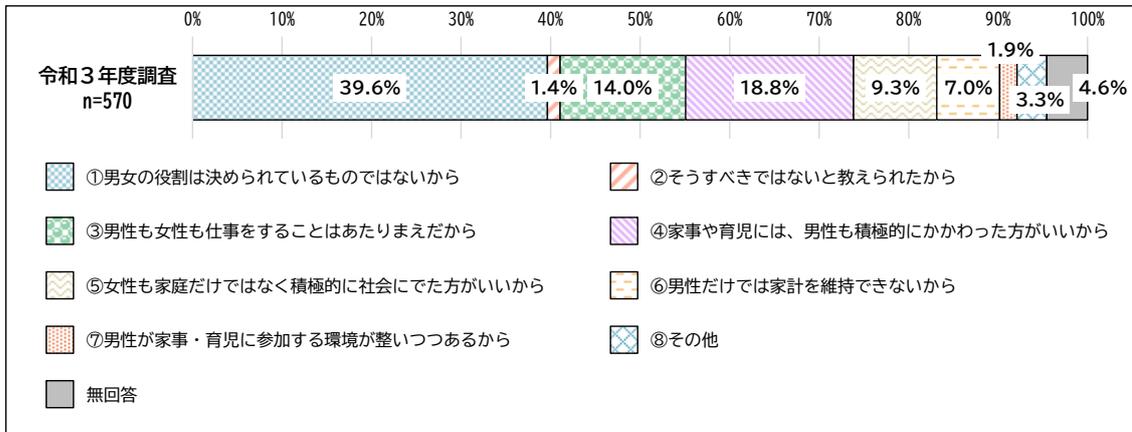
体力的に女性が男性のような力仕事ができないから
男女に関係なく個人に適した役割があると思うから。その役割の中でも男性ができることを、女性ができることをしていけばいいと思うので。
農業しているので、どちらも力合わせてやる事
適性は個人にもよるが、大まかに男女で分かれているものもあると思うので、性別の概念に囚われすぎるのも良くはないが、全くなくしてしまうのもどうかと思う。

Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

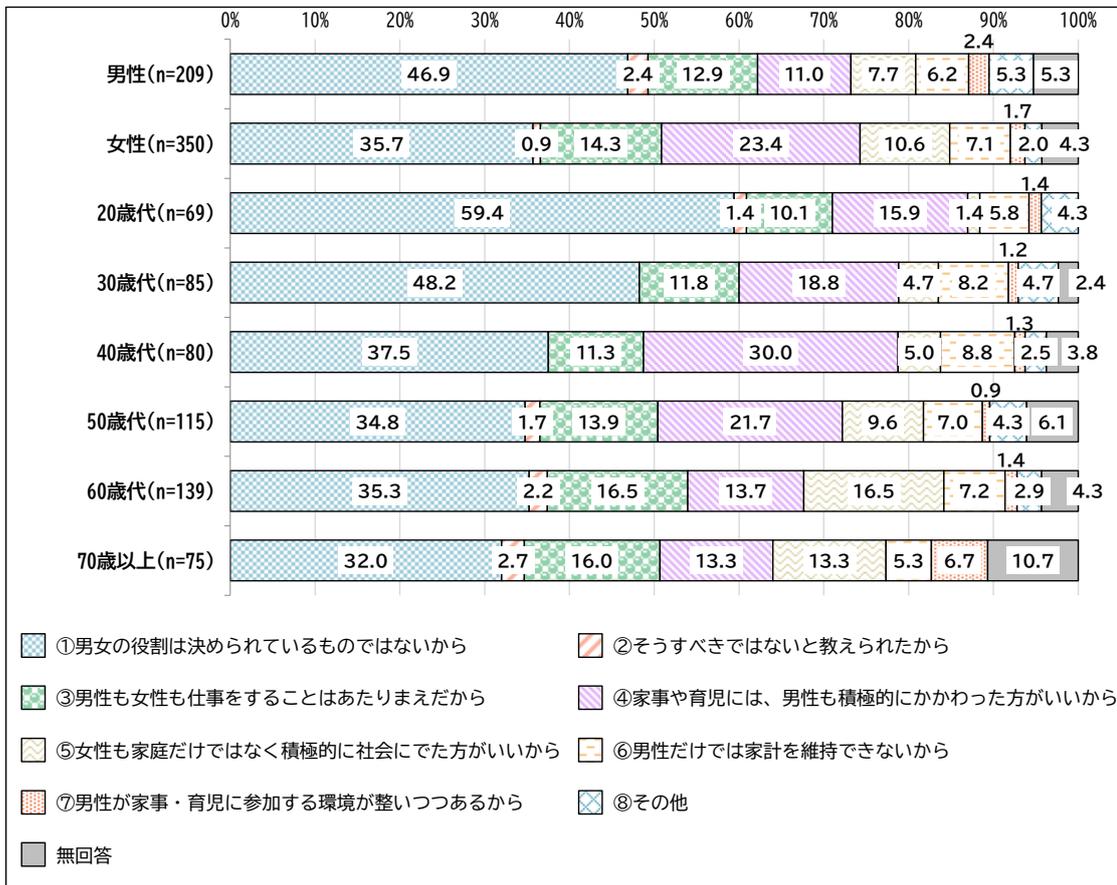
問3で③または④を選んだ方のみ回答

その理由は何ですか。(単数回答)

【全体結果】



【性・年代別結果】



- ”同感しない“理由については、「男女の役割は決められているものではないから」(39.6%)の割合が最も高く、次いで「家事や育児には、男性も積極的にかかわった方がいいから」(18.8%)、「男性も女性も仕事をするのはあたりまえだから」(14.0%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「男女の役割は決められているものではないから」(46.9%)の割合が女性より高く、女性では「家事や育児には、男性も積極的にかかわった方がいいから」(23.4%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「男女の役割は決められているものではないから」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。

※その他の回答（一部抜粋）

個人の価値観だから
役割は性別によって割振るものではなく、人それぞれの個性によると思うから。
家庭も社会においても性別による役割決めは良くない考えるから。
立場のチェンジ。女性が世帯主として仕事をし、男性が配偶者として家事子育てが普通にあってよいと思う。
お互いに出来ること、出来ないことを支え合えばいいと思います。自分の家庭ではそうしています。
家庭ごとに決定すれば良い事だと思います。それぞれの判断が尊重される考え方が一般に定着する様な働きかけをしてほしいと思います。
男女の違いによる平均的な能力差はあるものの、個々の能力は必ずしも男性的、女性的ではない為、それぞれの能力、やりたい事を選択できる社会が望ましい。
様々な性があり、その人らしく活動できるのが一番。
それぞれの家庭内で話し合っ決めれば良いと思う。
社会に出て働く女性の数が多くなり、男性と同じように仕事内容も求められるようになってきている。その為、家庭のことを女性だけに求められると難しい。
それぞれの家庭内の経済の必要性が違うから
家事が得意な男性、仕事が得意な女性、それぞれ人間に個性があるため。
適材適所でやれば良いと思うから。
出来る方が、出来る時に、出来ることをすればいいと思うから。それは日によっても体調によっても、様々なことで変わることがある。固定する理由がわからない。

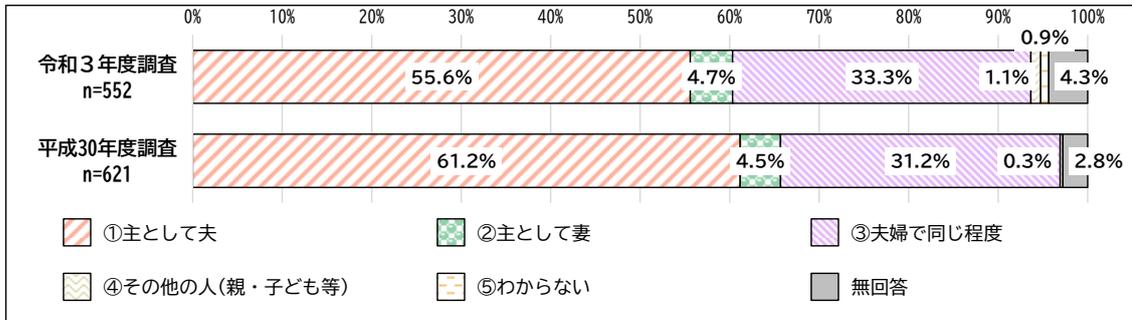
Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

「結婚している・していた(事実婚・離死別を含む)」方のみ回答

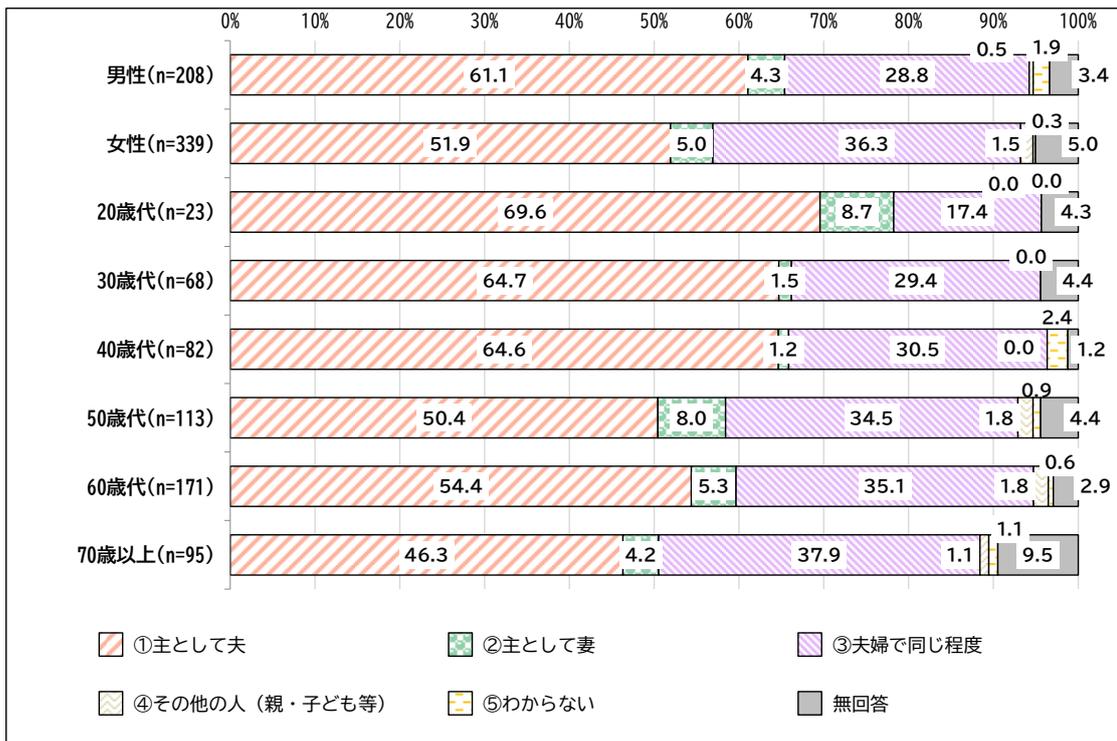
問4 あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。
(単数回答)

㊦家計を支える(生活費を稼ぐ)

【全体結果と関連調査結果の比較】



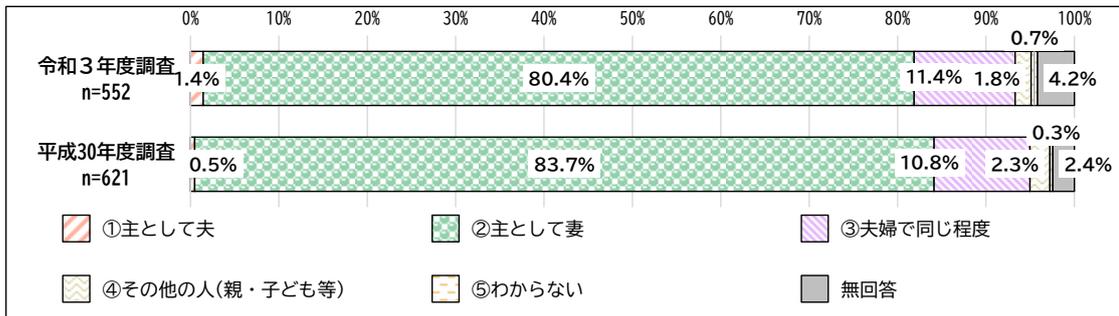
【性・年代別結果】



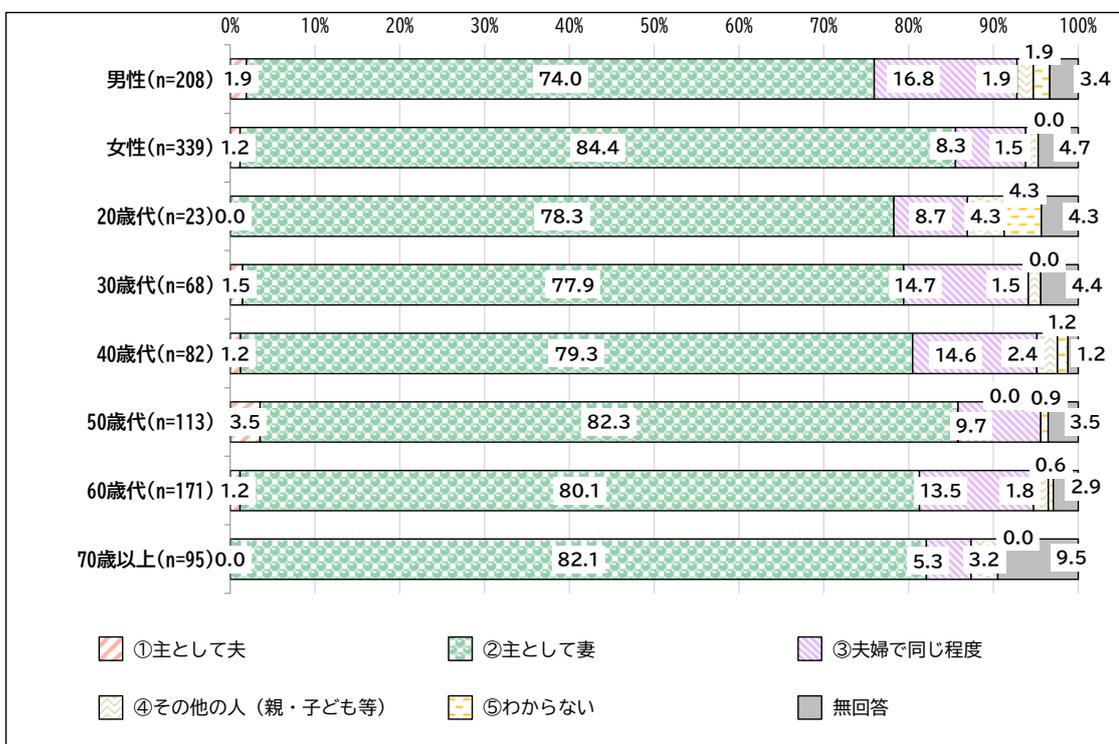
- 家計を支える(生活費を稼ぐ)では、「主として夫」(55.6%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(33.3%)、「主として妻」(4.7%)となっています。夫もしくは夫婦で家計を支えている家庭は、全体の88.9%となっています。
- 男女別にみると、男性では「主として夫」(61.1%)の割合が女性より高く、女性では「夫婦で同じ程度」(36.3%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「夫婦で同じ程度」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、増加していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「主として夫」と回答している人の割合が、5.6ポイント低くなっています。

①炊事・掃除・洗濯などの家事

【全体結果と関連調査結果の比較】



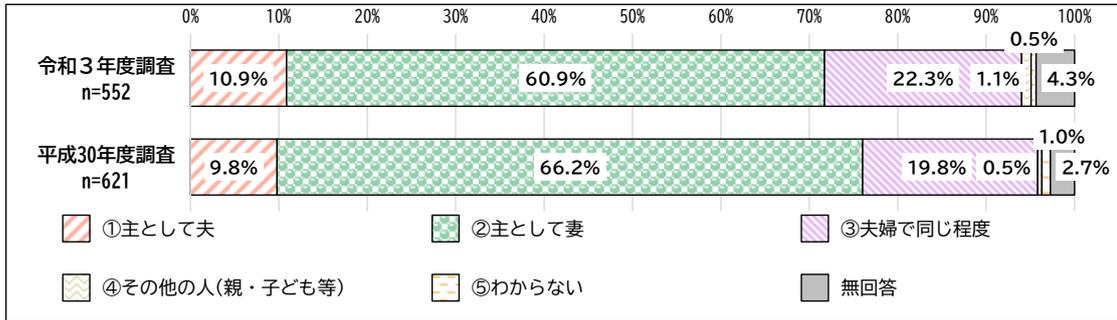
【性・年代別結果】



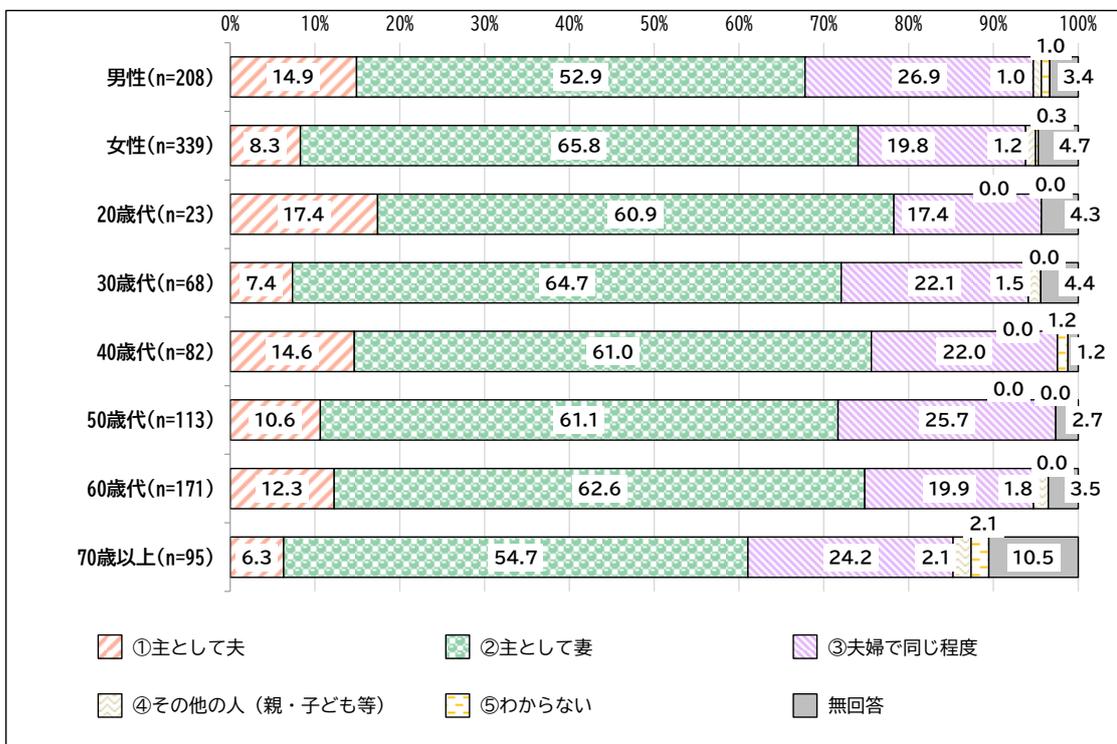
- 炊事・掃除・洗濯などの家事では、「主として妻」(80.4%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(11.4%)、「その他の人(親・子ども等)」(1.8%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「夫婦で同じ程度」(16.8%)の割合が女性より高く、女性では「主として妻」(84.4%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、どの年代も「主として妻」と回答している人の割合は、8割程度となっています。
- 前回調査との比較では、「主として妻」と回答している人の割合が、3.3ポイント低くなっています。

㊦ 日々の家計の管理

【全体結果と関連調査結果の比較】



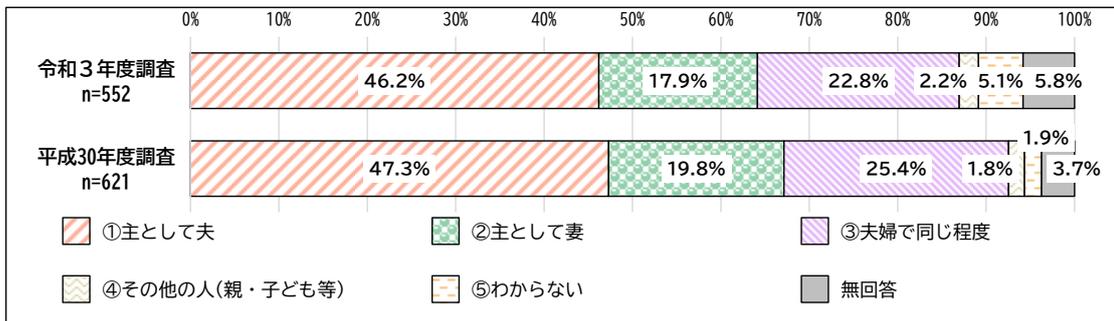
【性・年代別結果】



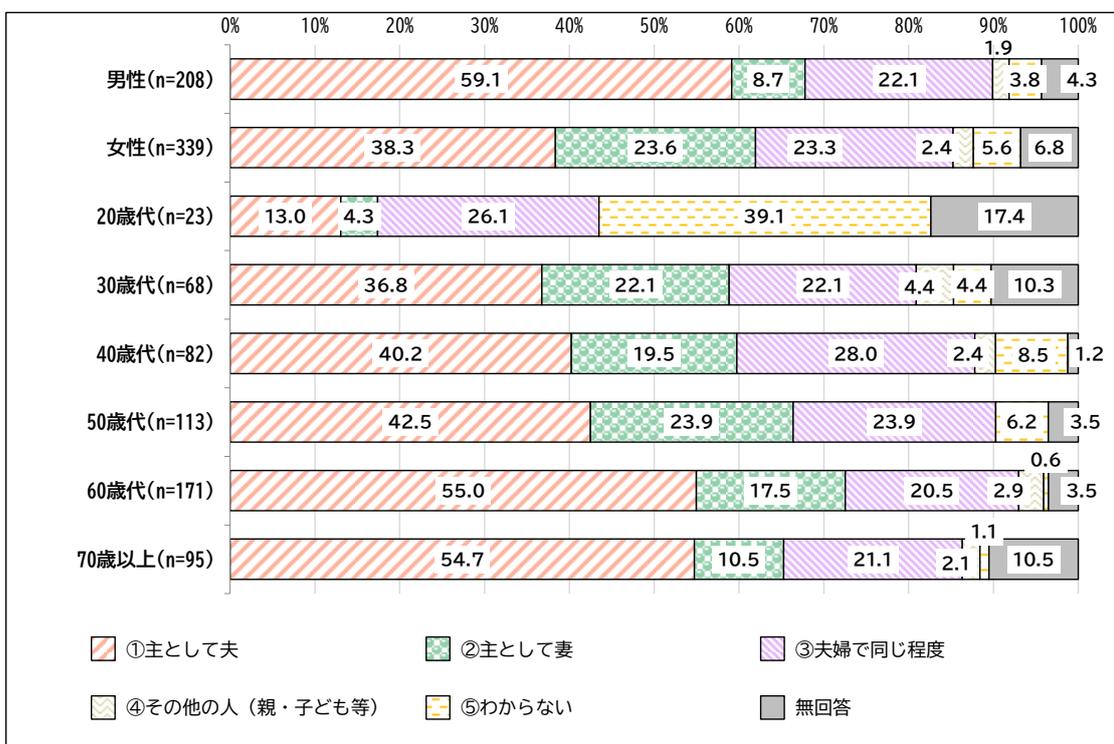
- 日々の家計の管理では、「主として妻」(60.9%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(22.3%)、「主として夫」(10.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「主として夫」(14.9%)「夫婦で同じ程度」(26.9%)の割合が女性より高く、女性では「主として妻」(65.8%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「主として妻」と回答している人の割合が、5.3ポイント低くなっています。

㊦自治会・町内会などの地域活動

【全体結果と関連調査結果の比較】



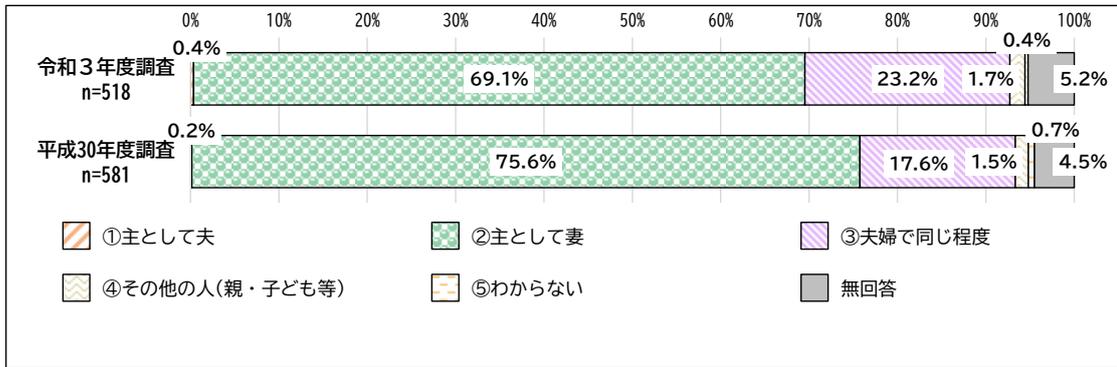
【性・年代別結果】



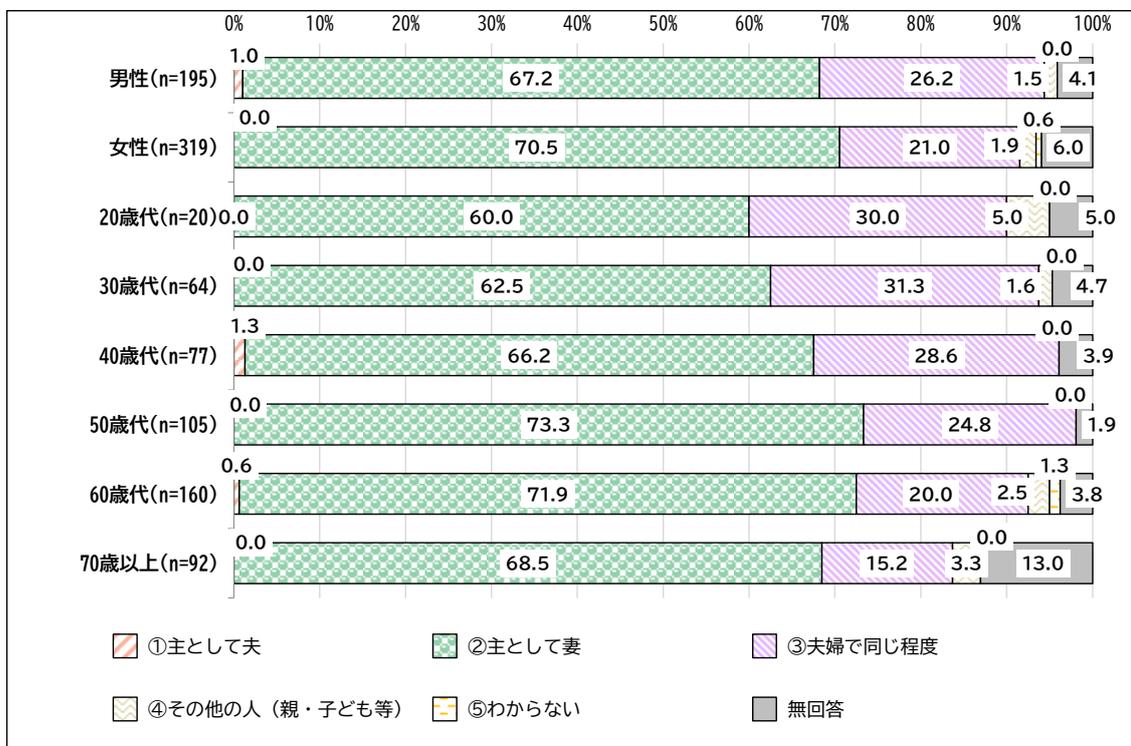
- 自治会・町内会などの地域活動では、「主として夫」(46.2%)の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」(22.8%)、「主として妻」(17.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「主として夫」(59.1%)の割合が女性より高く、女性では「主として妻」(23.6%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「主として夫」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、増加していく傾向にあります。また、20歳代では「わからない」(39.1%)の割合が他の年代より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「夫婦で同じ程度」と回答している人の割合が、2.6ポイント低くなっています。

㊤ 育児（経験者のみ）

【全体結果と関連調査結果の比較】



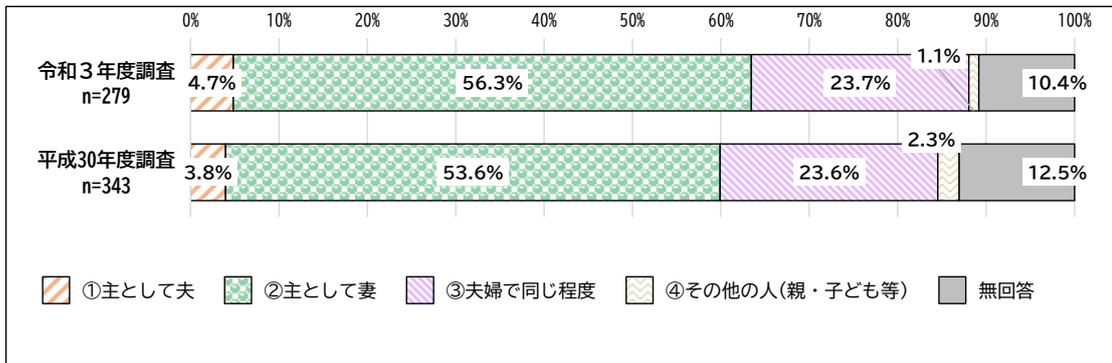
【性・年代別結果】



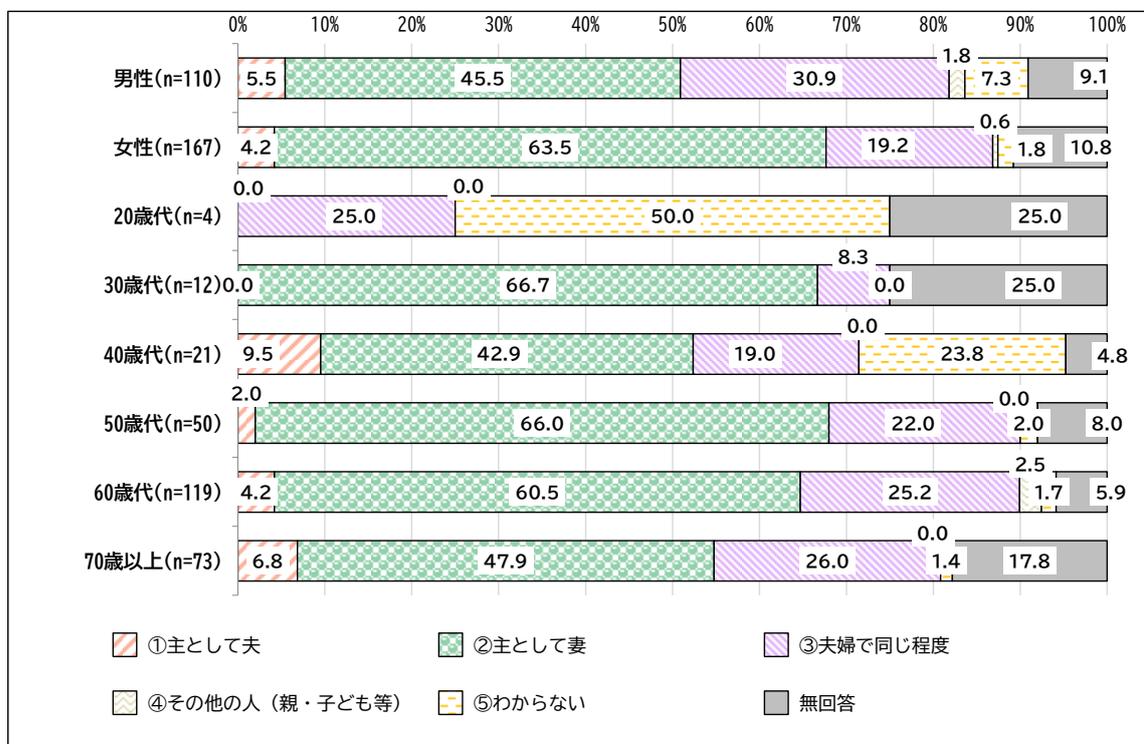
- 育児（経験者のみ）では、「主として妻」（69.1％）の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」（23.2％）、「その他の人（親・子ども等）」（1.5％）となっています。
- 男女別にみると、男性では「夫婦で同じ程度」（26.2％）の割合が女性より高く、女性では「主として妻」（70.5％）の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「夫婦で同じ程度」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「夫婦で同じ程度」と回答している人の割合が、5.6ポイント高くなっています。

㊦介護（経験者のみ）

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】



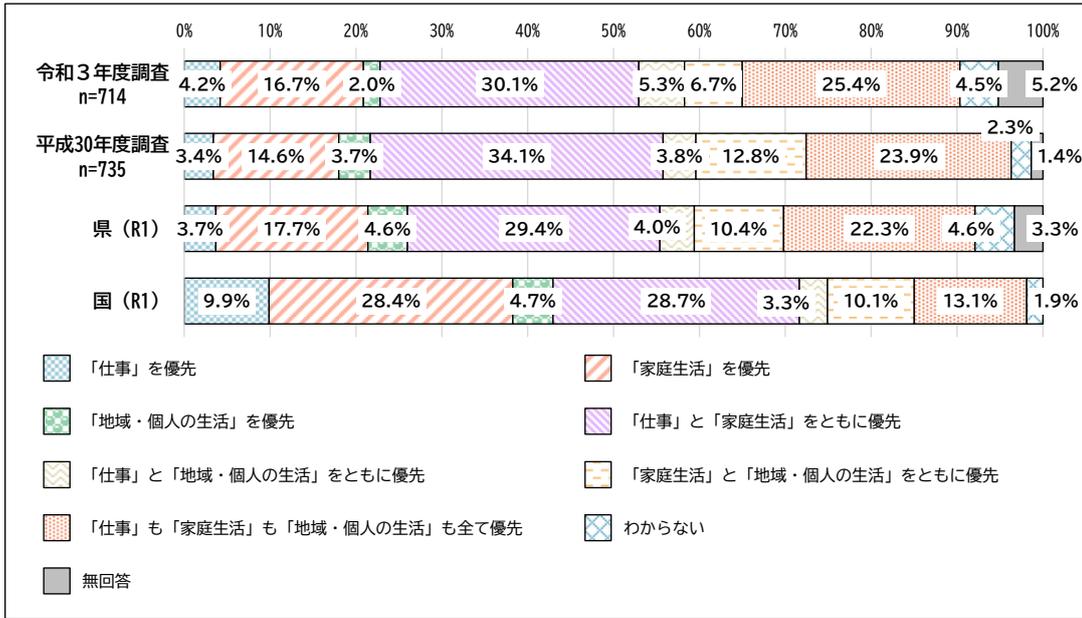
- 介護（経験者のみ）では、「主として妻」（56.3%）の割合が最も高く、次いで「夫婦で同じ程度」（23.7%）、「主として夫」（4.7%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「夫婦で同じ程度」（30.9%）の割合が女性より高く、女性では「主として妻」（63.5%）の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、20歳代を除くすべての年齢層で「主として妻」「夫婦で同じ程度」と回答している人の割合が高くなっています。

3 仕事と家庭・地域生活の両立について

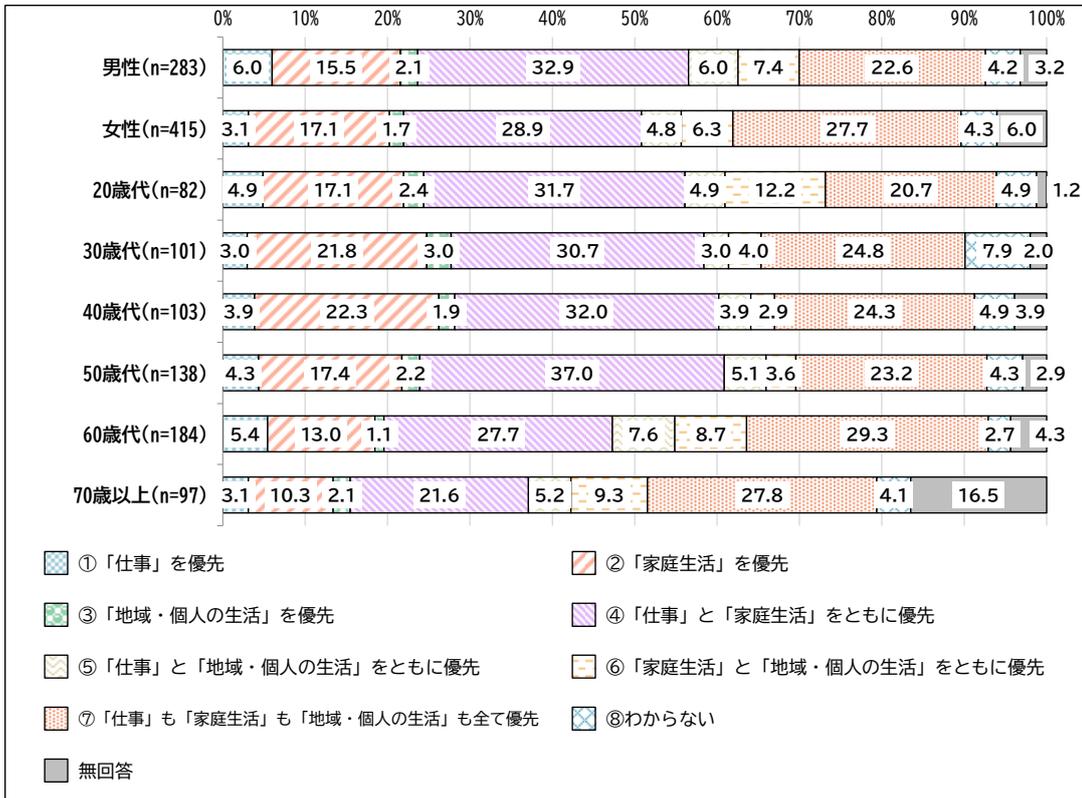
問5 あなたが生活を送るうえで、あなたの希望に最も近いもの、及び、現実（現状）に最も近いものをお答えください。（単数回答）

㊦ 希望に最も近いもの

【全体結果と関連調査結果の比較】



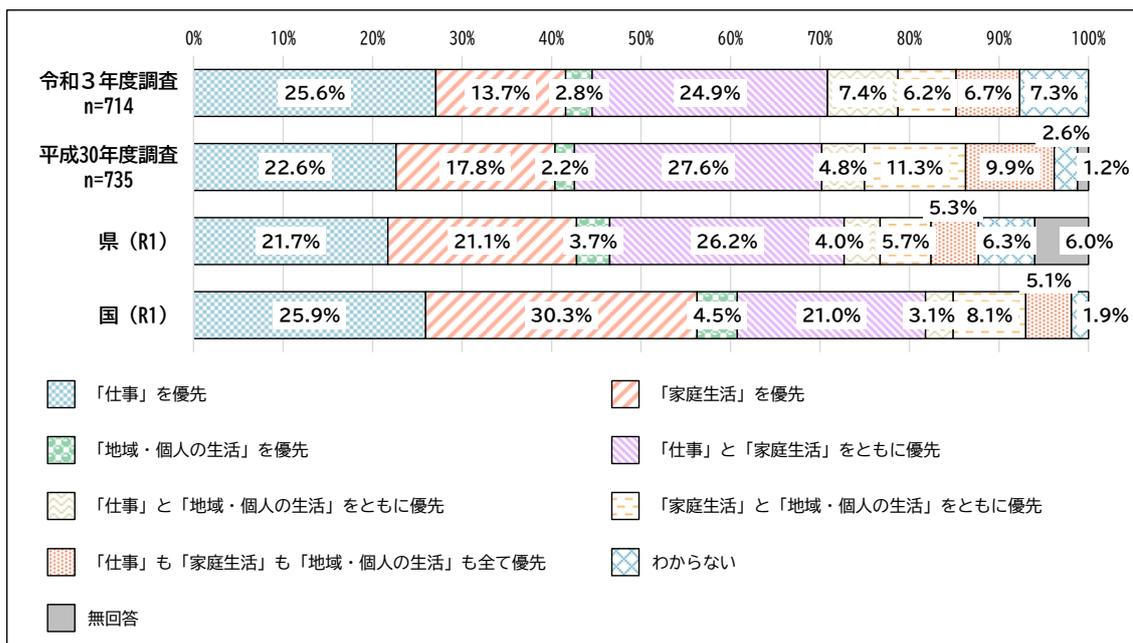
【性・年代別結果】



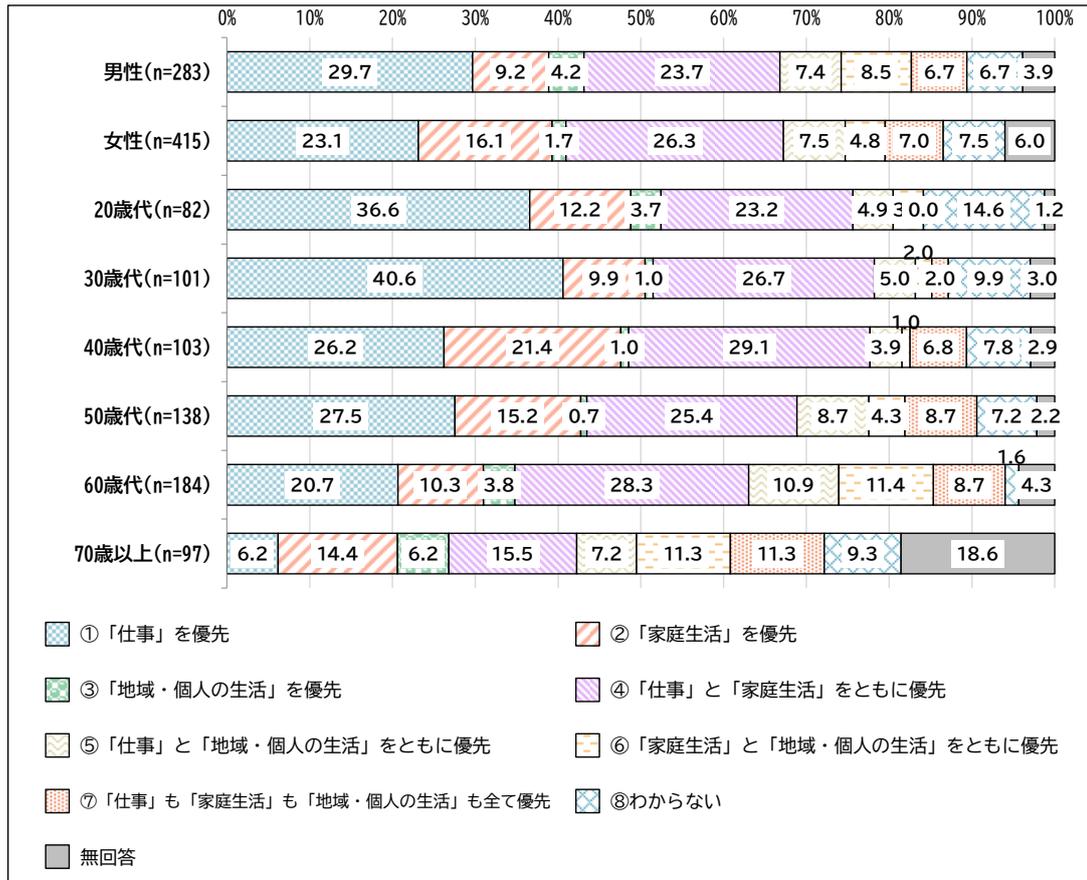
- 生活を送るうえでの希望の優先度については、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（30.1%）の割合が最も高く、次いで『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』（25.4%）、『「家庭生活」を優先』（16.7%）となっています。
- 男女別にみると、男性では『「仕事」を優先』（6.0%）と『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（32.9%）の割合が女性より高く、女性では『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』（27.7%）の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、『「家庭生活」を優先』と回答している人の割合は40歳代までは年齢階層が上がるに従って、増加していく傾向にありますが、50歳代以降は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』と回答している人の割合が、6.1ポイント低くなっています。
- 他統計結果との比較では、『「家庭生活」を優先』と回答している人の割合が、全国よりも11.7ポイント低くなっています。

① 現実（現状）に最も近いもの

【全体結果と関連調査結果の比較】



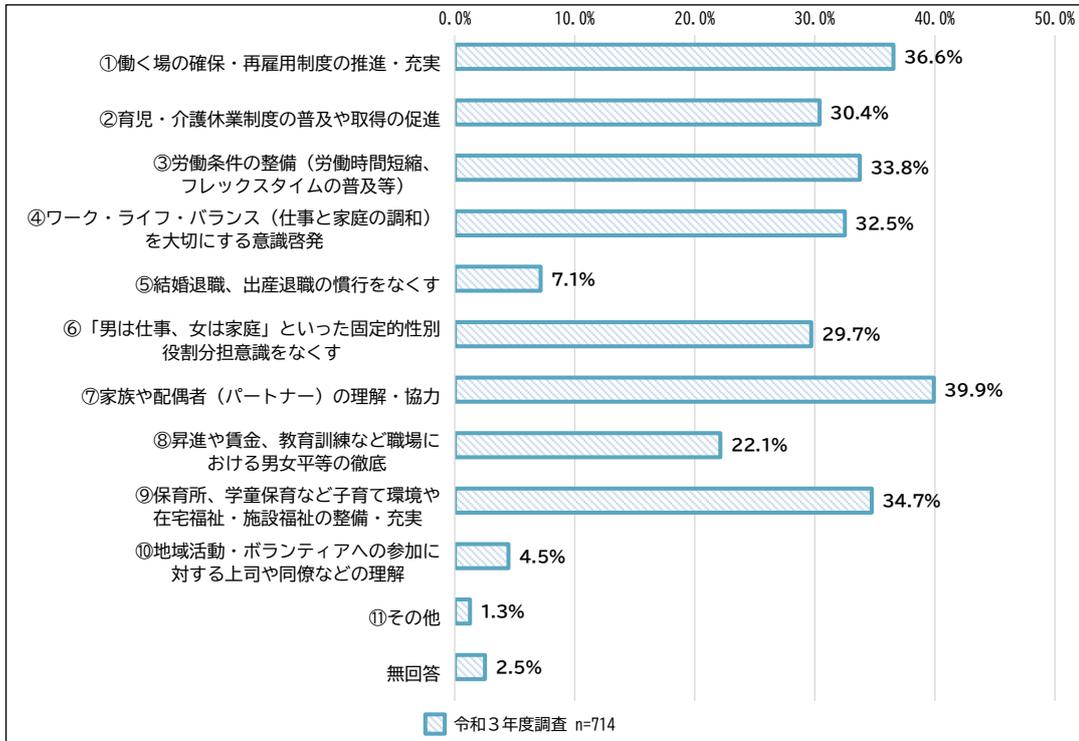
【性・年代別結果】



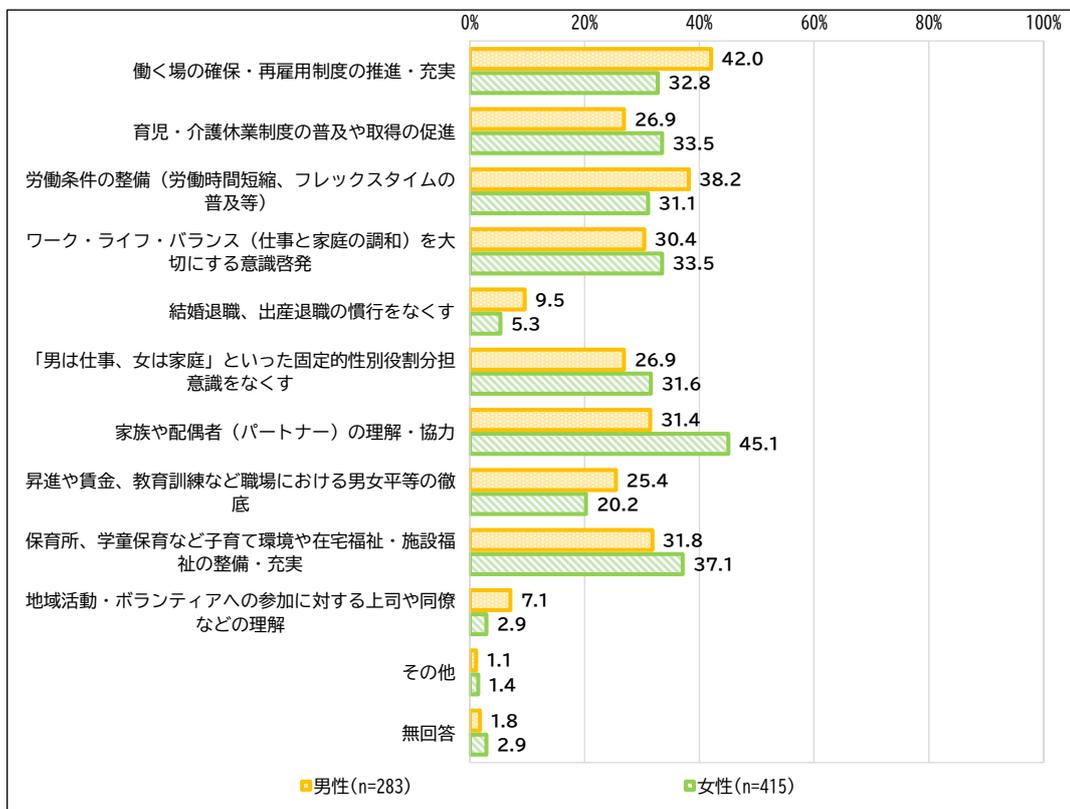
- 生活を送るうえでの現状の優先度については、『「仕事」を優先』（25.6%）の割合が最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（24.9%）、『「家庭生活」を優先』（13.7%）となっています。
- 男女別にみると、男性では『「仕事」を優先』（29.7%）の割合が女性より高く、女性では『「家庭生活」を優先』（16.1%）の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、20歳代、30歳代で『「仕事」を優先』の割合が高くなっています。また、40歳代では『「家庭生活」を優先』（21.4%）の割合が他の年代より高くなっています。
- 前回調査との比較では、『「家庭生活」を優先』と回答している人の割合が4.1ポイント、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』の割合が5.1ポイント低くなっています。
- 他統計結果との比較では、『「家庭生活」を優先』と回答している人の割合が、全国よりも16.6ポイント低くなっています。

問 6 今後、男女がともにワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまで選択】（複数回答）

【全体結果】



【性別結果】



Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

- 男女の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るために必要だと思う事については、「家族や配偶者（パートナー）の理解・協力」（39.9%）の割合が最も高く、次いで「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」（36.6%）、「保育所、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」（34.7%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」（42.0%）と「労働条件の整備」（38.2%）の割合が女性より高く、女性では「育児・介護休業制度の普及や取得の促進」（33.5%）、「家族や配偶者（パートナー）の理解・協力」（45.1%）、「保育所、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」（37.1%）の割合が男性より高くなっています。

※その他の回答（一部抜粋）

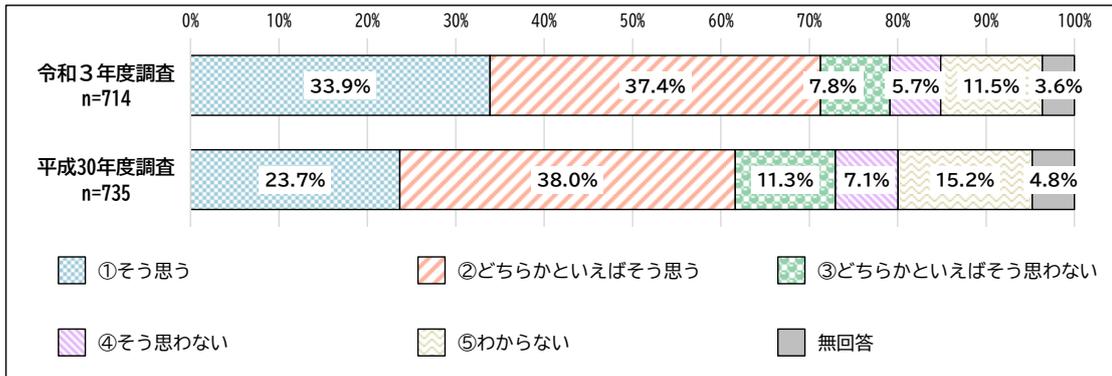
家庭状況に応じて、仕事の分担を行い、状況が変化したら元の担当に戻れるようにする。
定時に帰ることができるような人員の確保。
男に出来る仕事、女に出来る仕事、能力により男性が有利になるのは仕方ない。女も能力があればそれなりの仕事役職につかせる。
性別ではなく、人として、能力に応じた評価をする制度の拡充。
介護の環境（認知症などの）。
小学校・中学校で、男女の違いと平等といった、人権教育に力を入れる。（女性も平等を勘違いしている）

4 女性の社会参画について

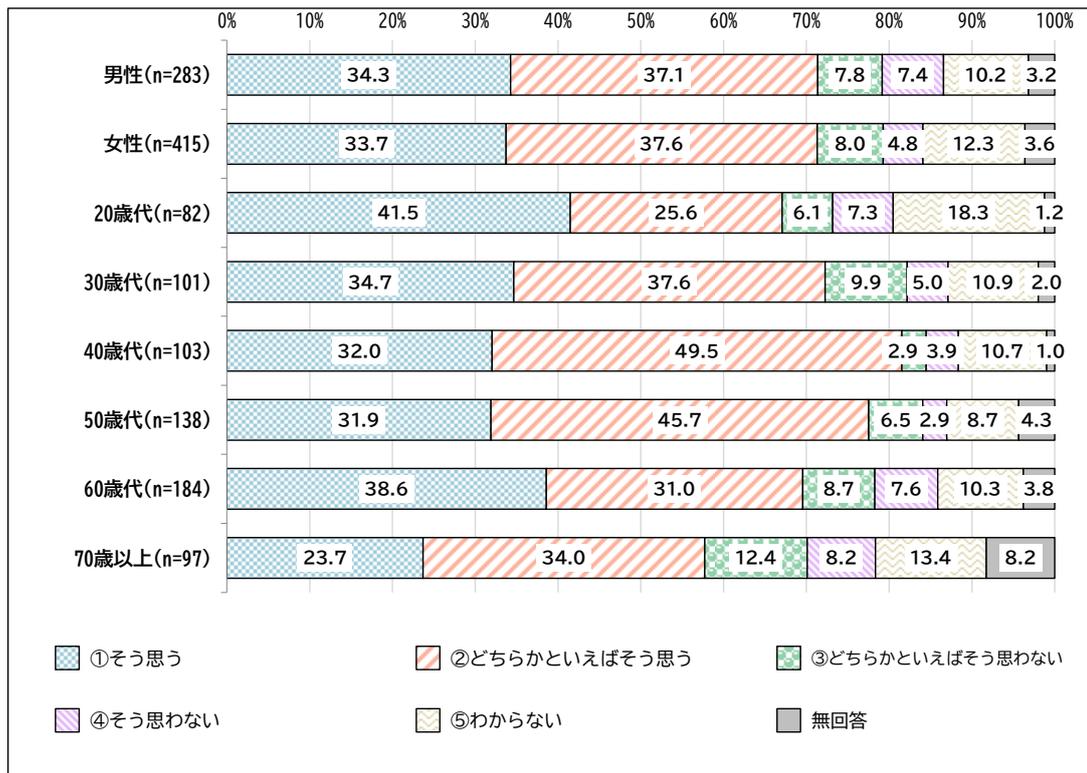
問7 あなたは、女性の意見がもっと反映されるように、いろいろな役職など、企画立案や方針決定の場に女性が増える方がよいと思いますか。(単数回答)

㊦自治体の首長（知事や市町村長）

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】

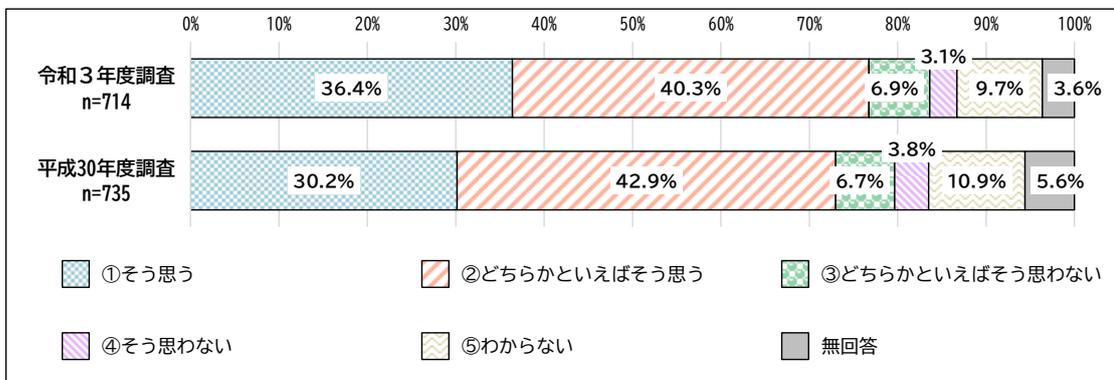


Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

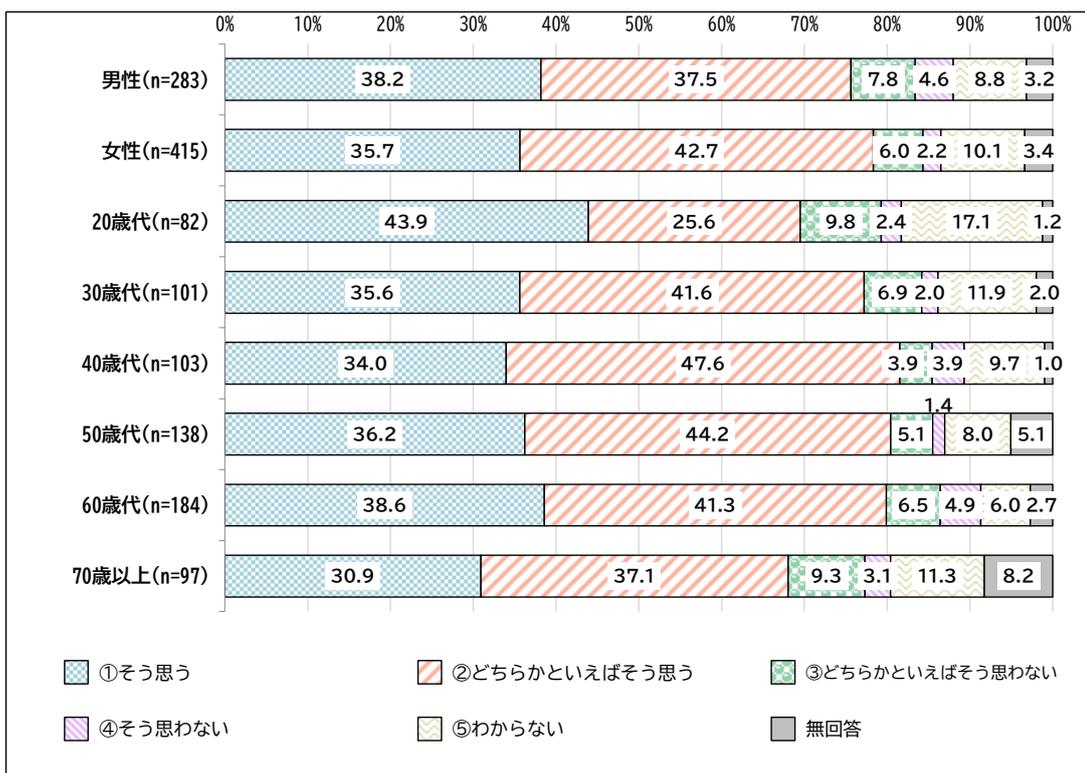
- 自治体の首長（知事や市町村長）で女性が増える方が良いと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」（37.4%）の割合が最も高く、次いで「そう思う」（33.9%）、「わからない」（11.5%）となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の71.3%となっており、女性の意見が反映されることについて“賛成派”が多数となっています。
- 年代別にみると、「どちらかといえばそう思う」の割合が、40歳代（49.5%）と50歳代（45.7%）で他の年代より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人の割合が、9.6ポイント高くなっています。

① 議会議員

【全体結果と関連調査結果の比較】



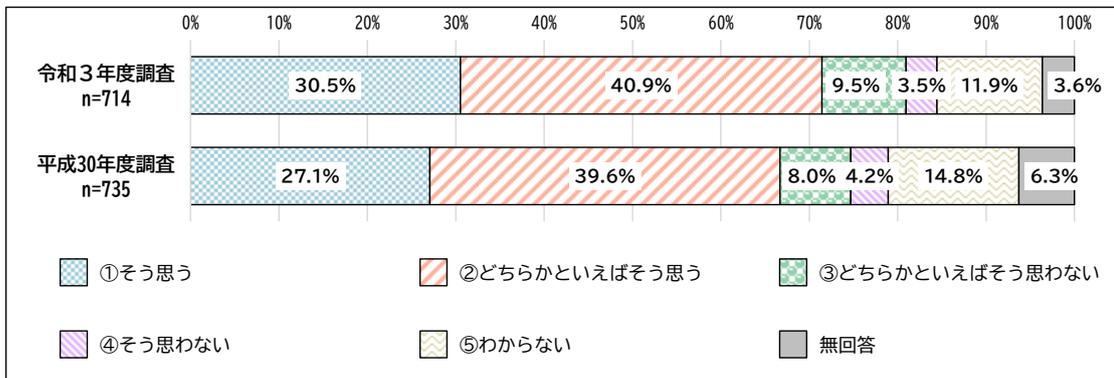
【性・年代別結果】



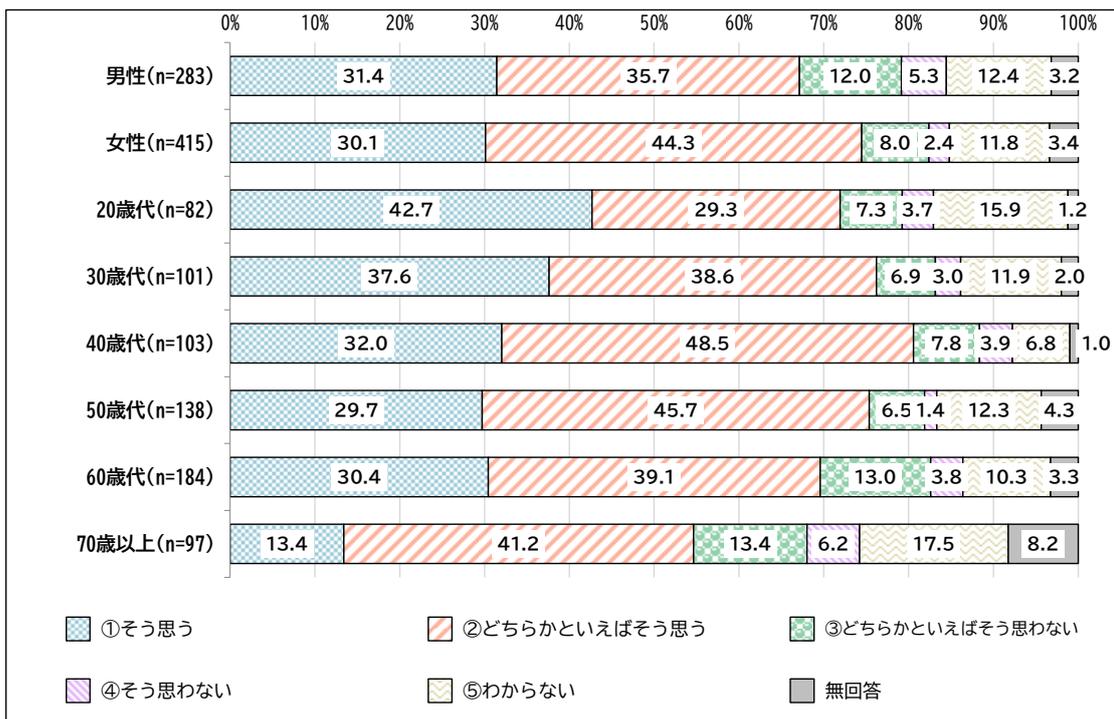
- 議会議員で女性が増える方が良いと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」(40.3%)の割合が最も高く、次いで「そう思う」(36.4%)、「わからない」(9.7%)となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の76.7%となっており、女性の意見が反映されることについて“賛成派”が多数となっています。
- 男女別にみると、女性では「どちらかといえばそう思う」(42.7%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、20歳代と70歳以上で「どちらかといえばそう思わない」の割合が他の年代より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、6.2ポイント高くなっています。

㊦ 企業の経営者

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】

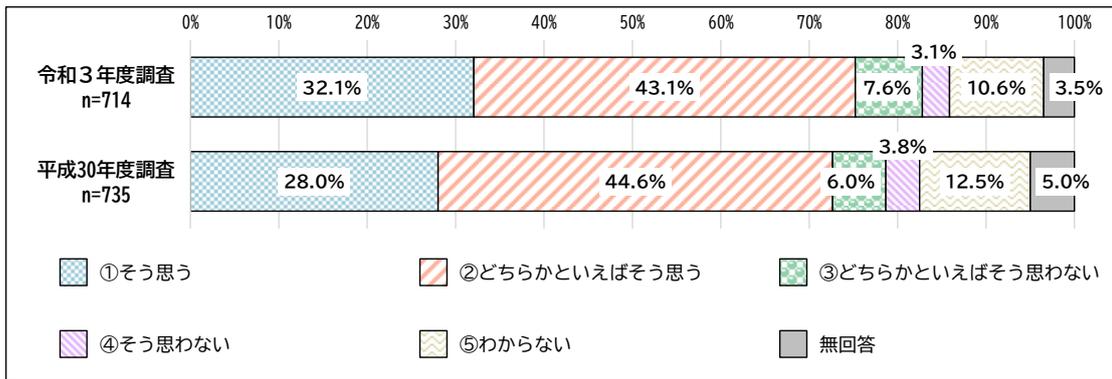


Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

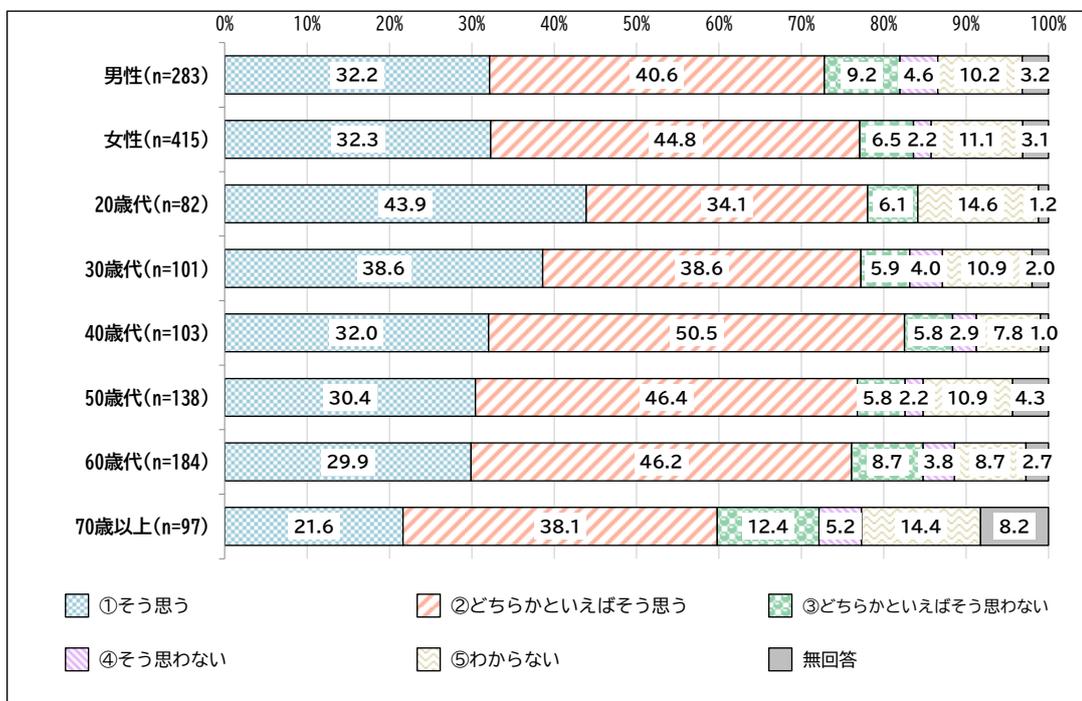
- 企業の経営者で女性が増える方が良いと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」(40.9%)の割合が最も高く、次いで「そう思う」(30.5%)、「わからない」(11.9%)となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の71.4%となっており、女性の意見が反映されることについて“賛成派”が多数となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、男性(67.1%)に比べ女性(74.4%)の割合が高くなっています。
- 年代別にみると、「そう思う」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人の割合が、4.7ポイント高くなっています。

⑤ 企業等の管理職

【全体結果と関連調査結果の比較】



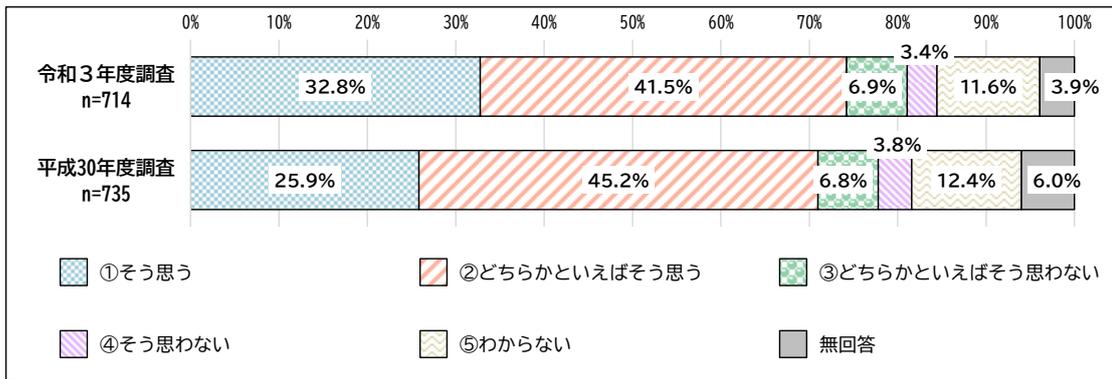
【性・年代別結果】



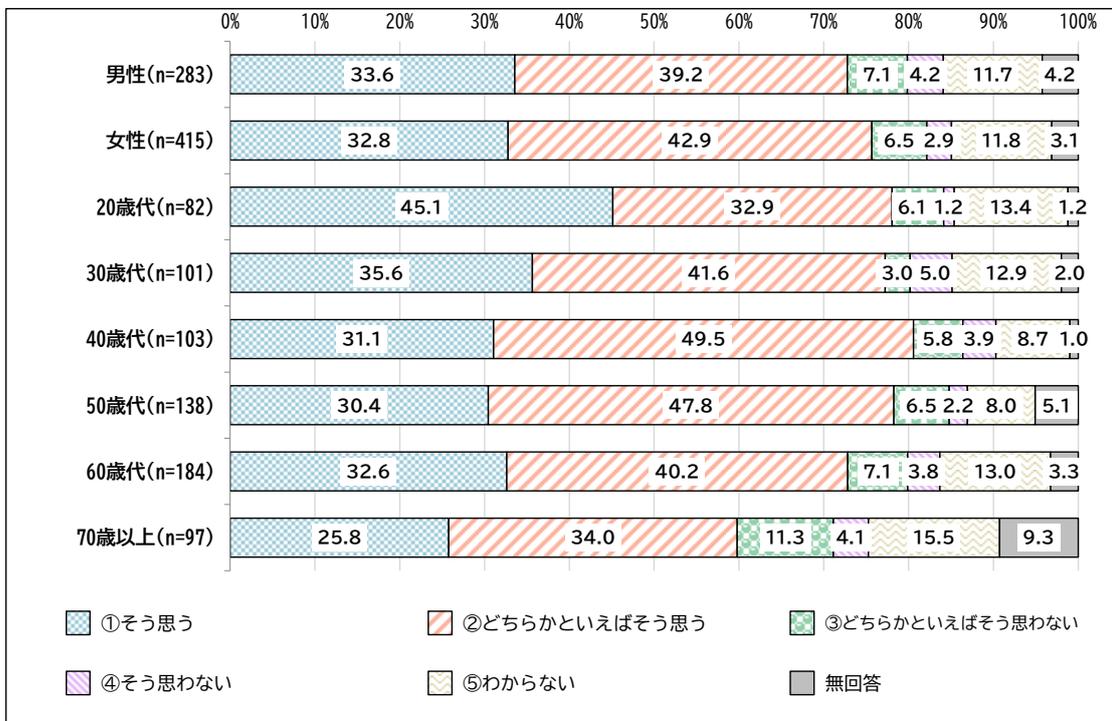
- 企業の管理職で女性が増える方が良いと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」（43.1%）の割合が最も高く、次いで「そう思う」（32.1%）、「わからない」（10.6%）となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の75.2%となっており、女性の意見が反映されることについて“賛成派”が多数となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、男性（72.8%）に比べ女性（77.1%）の割合が高くなっています。
- 年代別にみると、「そう思う」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、4.1ポイント高くなっています。

④ 公務員等の管理職

【全体結果と関連調査結果の比較】



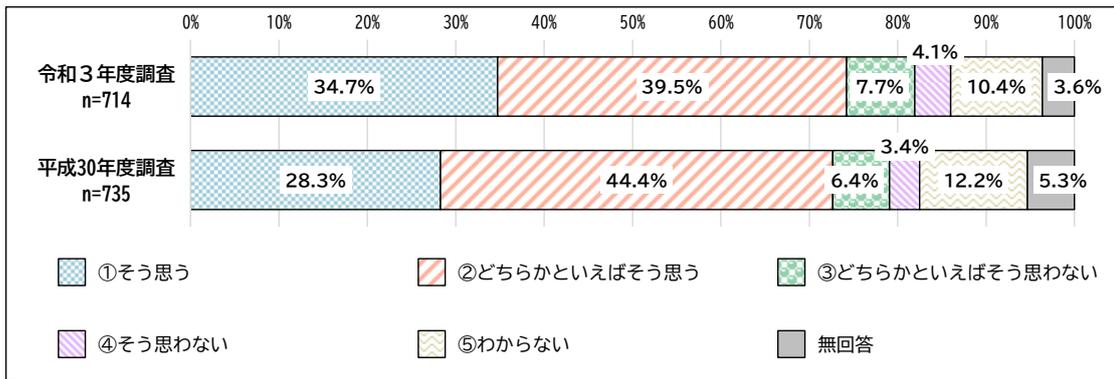
【性・年代別結果】



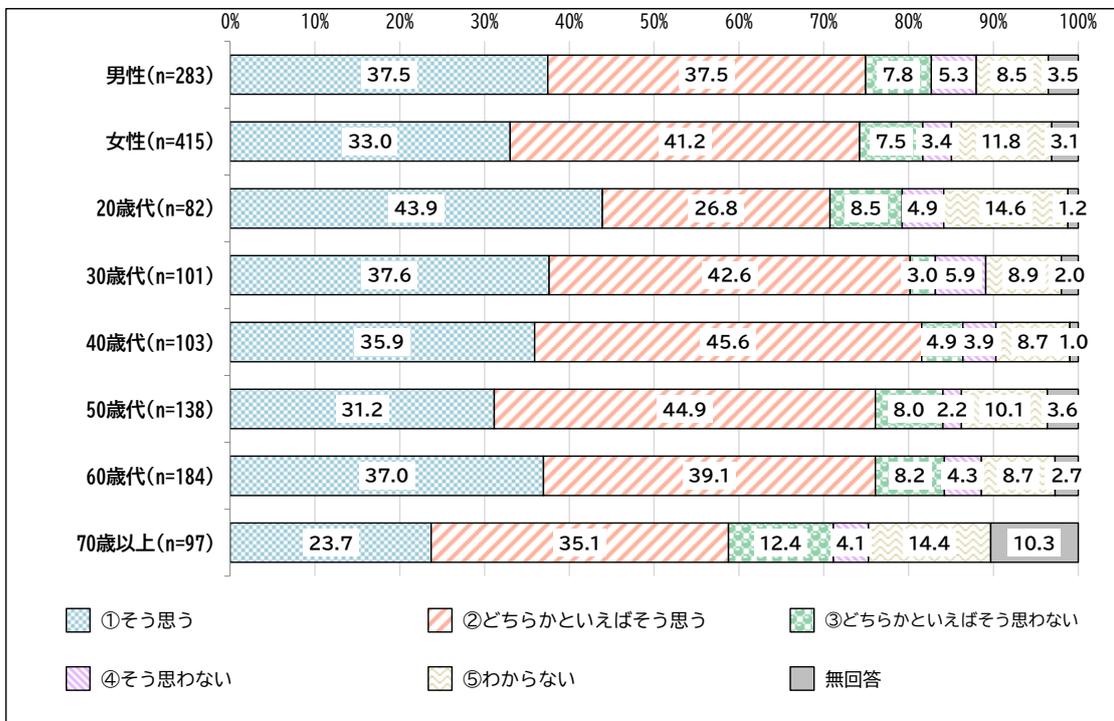
- 公務員等の管理職で女性が増える方が良いと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」（41.5％）の割合が最も高く、次いで「そう思う」（32.8％）、「わからない」（11.6％）となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の74.3％となっており、女性の意見が反映されることについて“賛成派”が多数となっています。
- 年代別にみると、「そう思う」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、6.9ポイント高くなっています。

㊦教育機関の管理職（学校長等）

【全体結果と関連調査結果の比較】



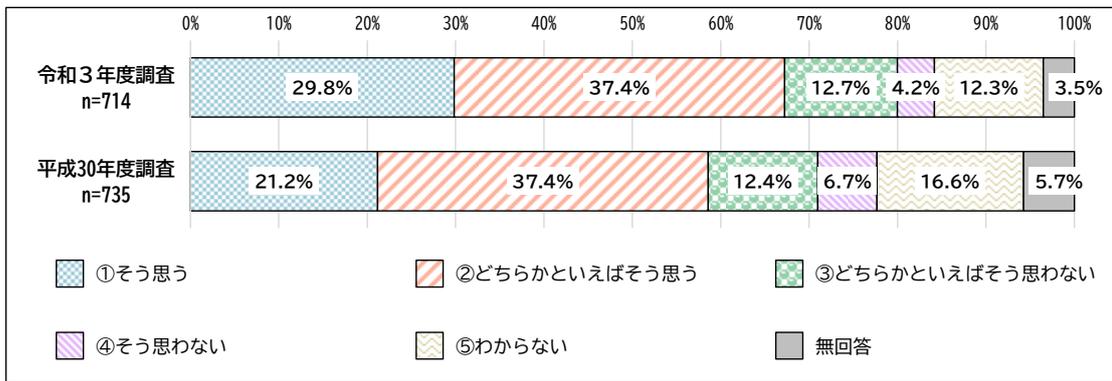
【性・年代別結果】



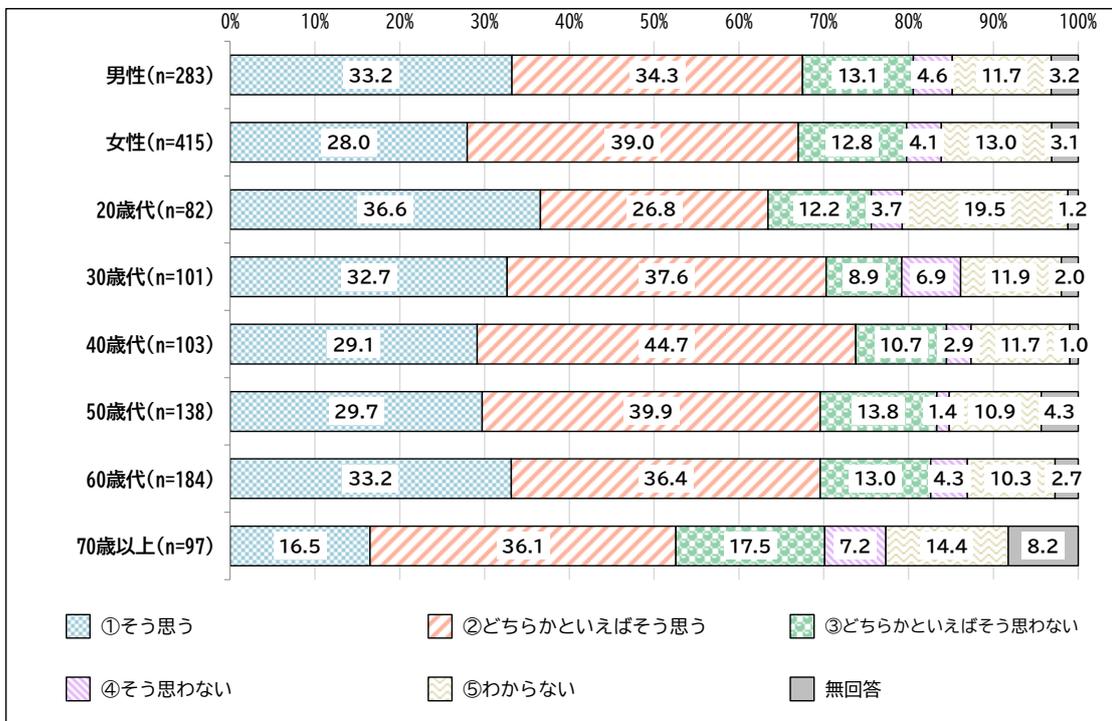
- 教育機関の管理職（学校長等）で女性が増える方が良いと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」（39.5%）の割合が最も高く、次いで「そう思う」（34.7%）、「わからない」（10.4%）となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の74.2%となっており、女性の意見が反映されることについて“賛成派”が多数となっています。
- 年代別にみると、「そう思う」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、6.4ポイント高くなっています。

㊦ 区長等の自治会役員

【全体結果と関連調査結果の比較】



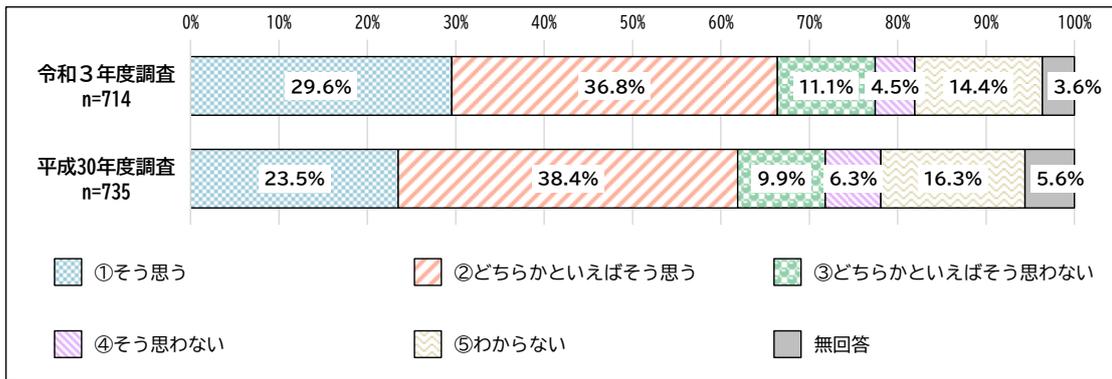
【性・年代別結果】



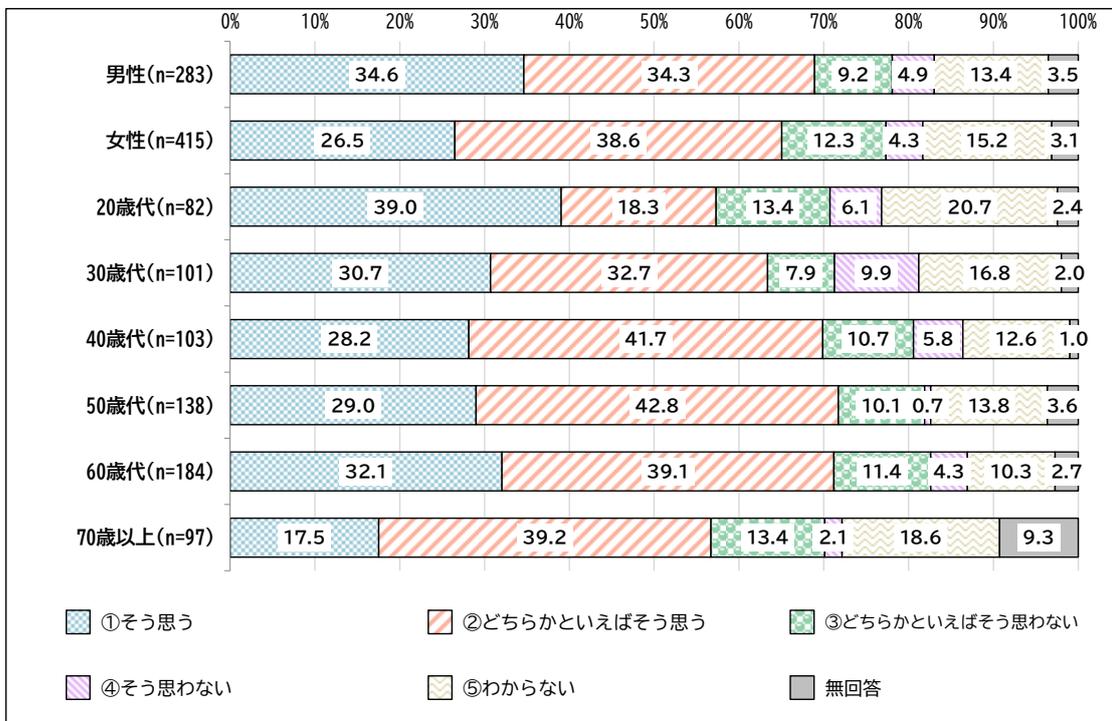
- 区長等の自治会役員で女性が増える方が良いと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」（37.4％）の割合が最も高く、次いで「そう思う」（29.8％）、「どちらかといえばそう思わない」（12.7％）となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の 67.2％となっており、女性の意見が反映されることについて“賛成派”が多数となっています。
- 年代別にみると、70歳以上で「そう思う」（16.5％）の割合が他の年代より低くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、8.6ポイント高くなっています。

㊦ P T A 会長等の学校役員

【全体結果と関連調査結果の比較】



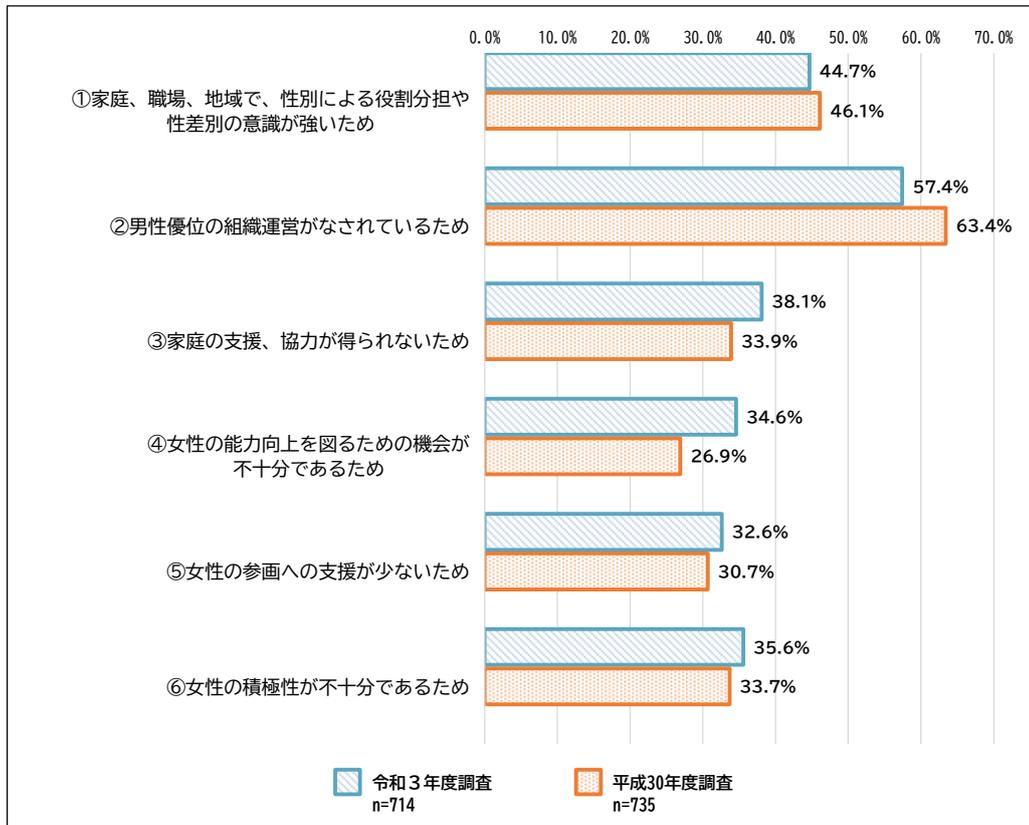
【性・年代別結果】



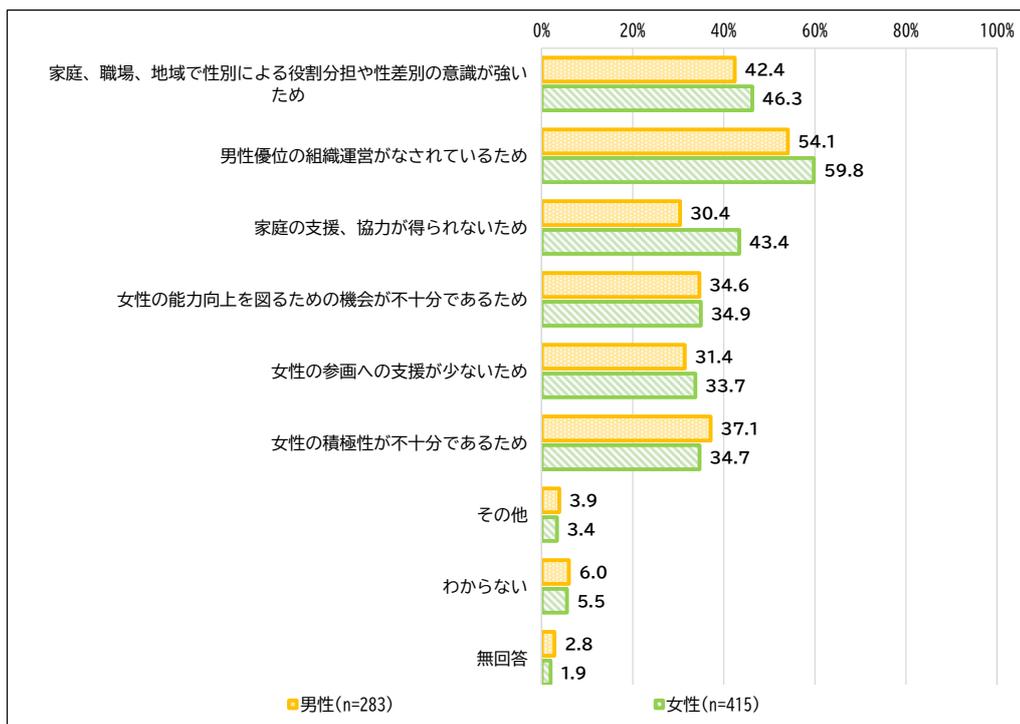
- P T A 会長等の学校役員で女性が増える方が良いと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」(36.8%)の割合が最も高く、次いで「そう思う」(29.6%)、「わからない」(14.4%)となっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は全体の66.4%となっており、女性の意見が反映されることについて“賛成派”が多数となっています。
- 男女別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人は、男性(68.9%)に比べ女性(65.1%)の割合が低くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上で「そう思う」(17.5%)の割合が他の年代より低くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、6.1ポイント高くなっています。

問8 「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がいまだに少ない状況」ですが、その原因は何だと思いますか。（複数回答）

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性別結果】



- 政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がいまだに少ない原因について、「男性優位の組織運営がなされているため」(57.4%)の割合が最も高く、次いで「家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」(44.7%)、「家庭の支援、協力が得られないため」(38.1%)となっています。
- 前回調査との比較では、「女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため」と回答している人の割合が、7.7ポイント高くなっています。
- 男女別にみると、男性では「女性の積極性が不十分であるため」(37.1%)の割合が女性より高く、女性では「男性優位の組織運営がなされているため」(59.8%)と「家庭の支援、協力が得られないため」(43.4%)の割合が男性より高くなっています。

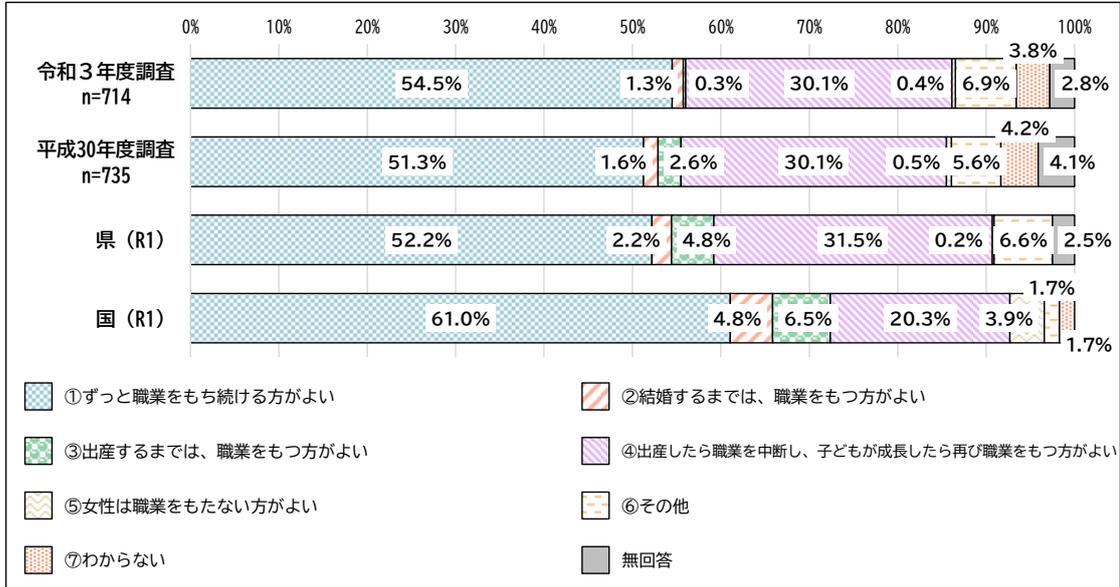
※その他の回答（一部抜粋）

男性だけに頼らず、もう少し女性が前に出てほしいと思う。特に主婦目線での考えを聞いてほしい。
今までの男性社会だった為。
企業側が男の育児休暇、介護等に肯定的でない雰囲気。
家事をこなすだけでも仕事量が多く、プラス仕事もしている、となると、政治の事に時間を費やすこともできない。難しい。そこまでの余裕があまりない。
女性も男性におしつける部分も良く見かける。
子どもは女が育てるものとしてウェイトがおかれ、重要職につくことのあしかせになっている。
女性は家庭内でやらねばならない事が多く、それらをこなすだけで時間をとられる。「やることやってからなら、参画しないよ」などを家族にいわれれば結局無理だと判断せざるを得ないことも少なくないのでは。
女性リーダーが育っていない為。
女性参画の啓発ばかりが先行し、それを可能にする具体的な制度やシステムの整備が伴っていないため。
普段目にするTVなどからの潜在意識があるのではないかと考えます。
家事におわれ、やりたくてもできない。
世界に目を向け、進んでいる国のシステムの良い所だけをどんどん取り入れると良いと思います。

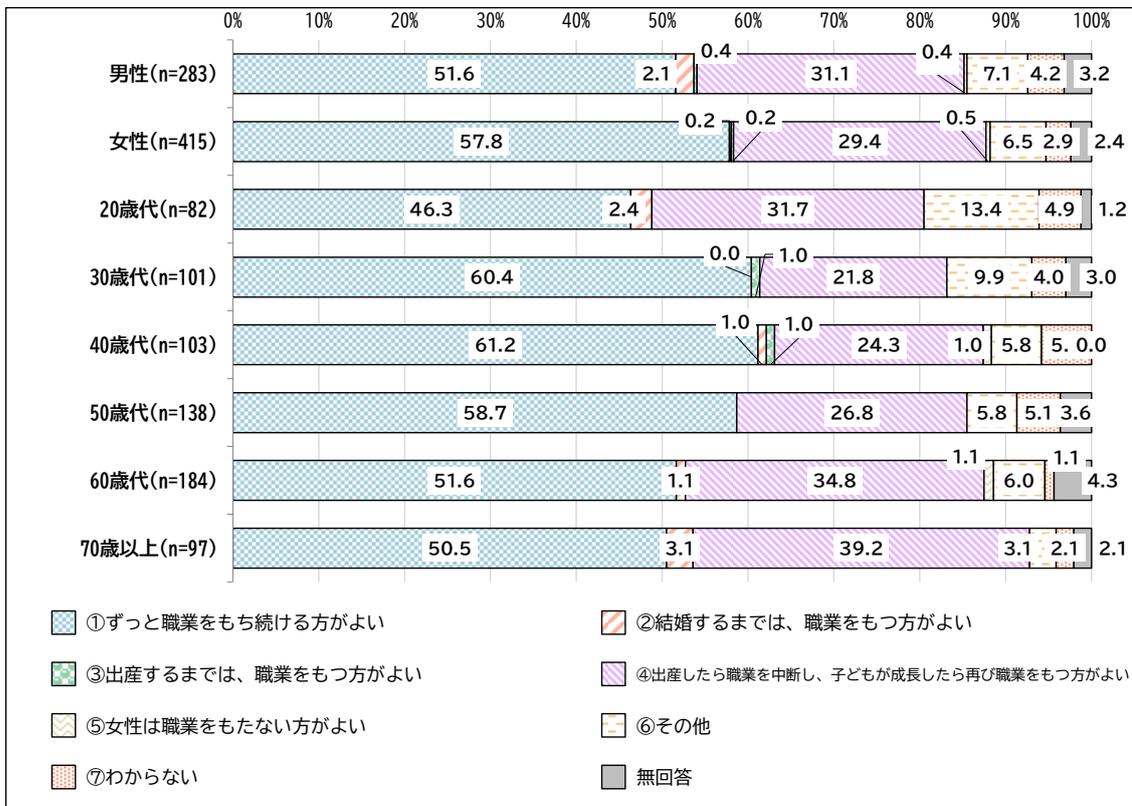
5 女性が職業をもつことについて

問9 女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】



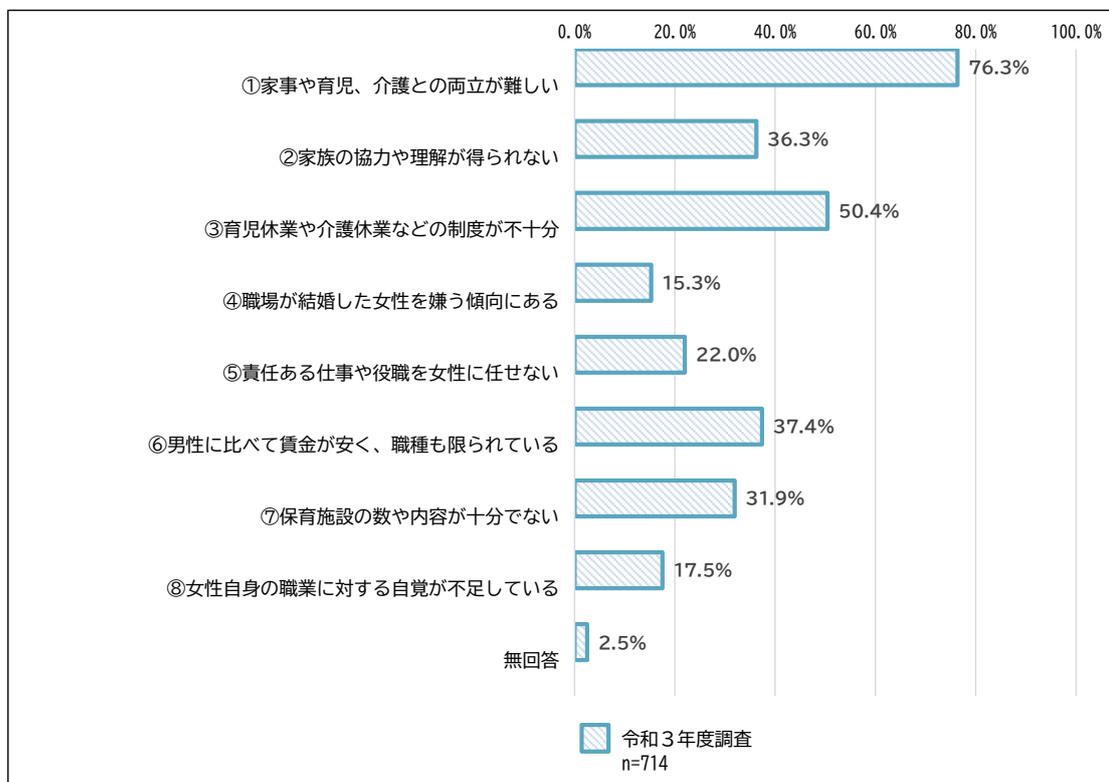
- 女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもち続ける方がよい」(54.5%)の割合が最も高く、次いで「出産したら職業を中断し、子どもが成長したら再び職業をもつ方がよい」(30.1%)、「その他」(6.9%)となっています。
- 男女別にみると、女性では「ずっと職業をもち続ける方がよい」(57.8%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、30歳代から50歳代では「ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答している人の割合が6割程で他の年代より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答している人の割合が、3.2ポイント高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「出産したら職業を中断し、子どもが成長したら再び職業をもつ方がよい」と回答している人の割合が、全国よりも9.8ポイント高くなっています。

※その他の回答（一部抜粋）

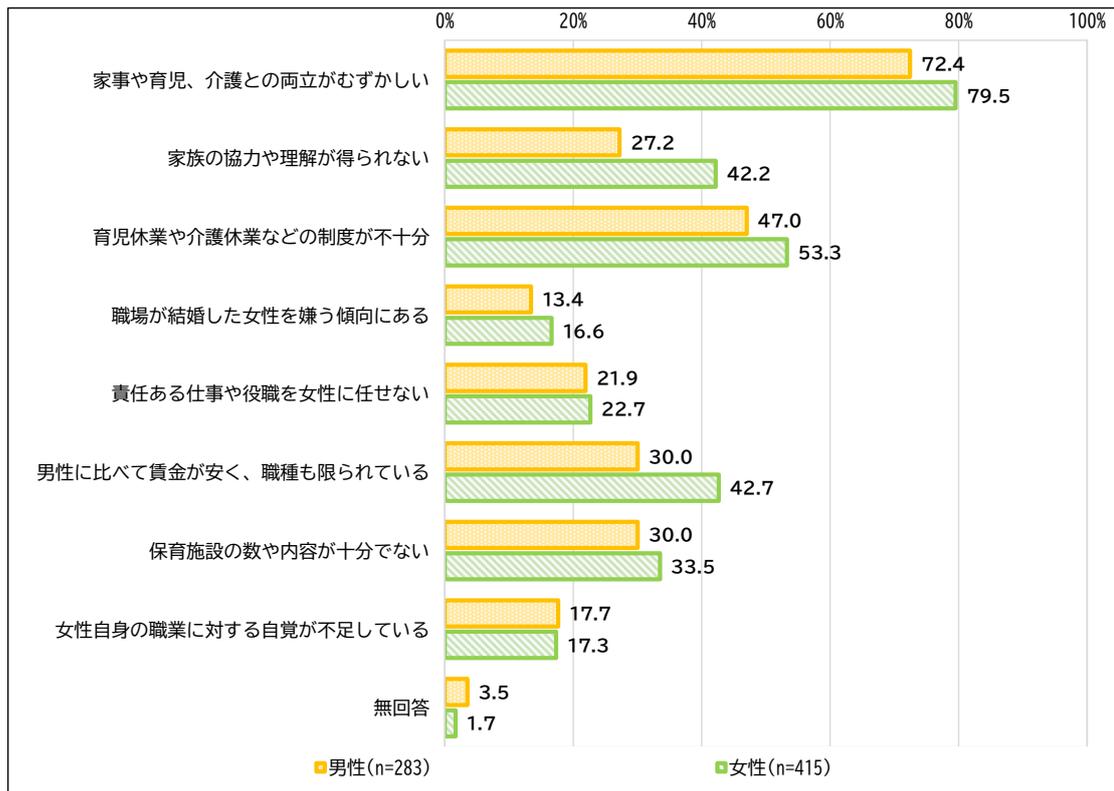
個々の能力に応じ、就業すれば良い。性別では決められない。
地域・家庭を支援が広がれば、働いた方がよい。
自分の好きなスタイルでよい。男女ともに。
女性だけど、とか、女性だからとかいう考え方には賛同しない。
職業によっては違いがあるので
「女性は」ではなく、個人を基準にすべきだと思う。人それぞれであるべき。
家事も十分に立派な大事な仕事である、との考えにおいて、仕事につかず家のことを守っているという選択は有りと思う。どれかひとつの考えにこりかたまる必要はない。
外で仕事をして幸せなら、した方がよいのでは。
私自身はずっと1つの仕事を続けていましたが、いつまでとかそういう事ではなく、本人の気持ち次第で決めるのが一番いいと思います。
人による。夫婦がお互いに話し合っただけで納得する形がベスト。
個人の体力や気力に合わせ、無理のないカタチをその都度考える方がよい。
個人の自由、働きたいと思う人が働き続けられる環境があればいい。
適所適材で、自分の強みを活かせる職場があれば、ずっと職業を持ち続けた方がよいと思う。
どちらが良いと言うことではないと思う。職業を持つことは理想だけど、私の場合は専業主婦になりたかったので、専業主婦を選んだ。
性別関係なく、働きたいなら働けばよい。男女関係なく家庭内に入り家事をこなすのも就業とみなしてよい。個々の考えや家庭での方針を尊重すべき。
個人の意思に任せる。ずっと持ち続けたい人にはそういう場も必要だと思う。
その人の自由だと思う。職業を持ちたい人は持ち、家庭を支えることを優先したい場合はそうすればよいと思う。

問 10 現在、女性をとりまく環境として、「家事・育児・介護」の負担が女性に偏り、仕事の継続や両立の難しさにつながっている現状があるとされています。女性が働きつづける上で、問題と思われるものの中からあなたの考えに近いものをすべてお答えください。(複数回答)

【全体結果】



【性別結果】



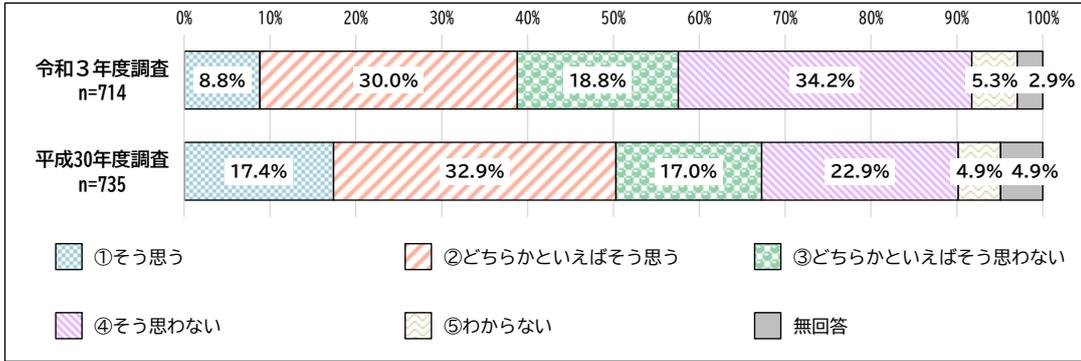
- 女性が働きつづけるうえで、問題と思われることでは、「家事や育児、介護との両立が難しい」(76.3%)の割合が最も高く、次いで「育児休業や介護休業などの制度が不十分」(50.4%)、「男性に比べて賃金が安く、職種も限られている」(37.4%)となっています。
- 男女別にみると、女性では「家事や育児、介護との両立が難しい」(79.5%)、「家族の協力や理解が得られない」(42.2%)、「育児休業や介護休業などの制度が不十分」(53.3%)、「男性に比べて賃金が安く、職種も限られている」(42.7%)の割合が男性より特に高くなっています。

6 子育て、教育について

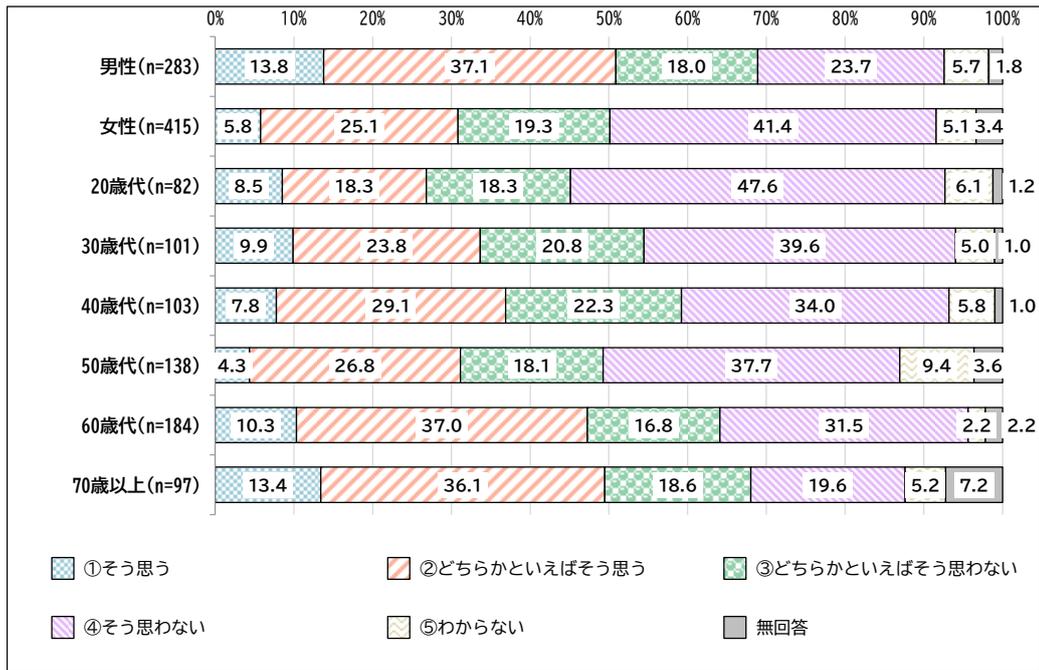
問 11 あなたは、子どもの育て方についてどう思いますか。(単数回答)

㊦ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

【全体結果と関連調査結果の比較】



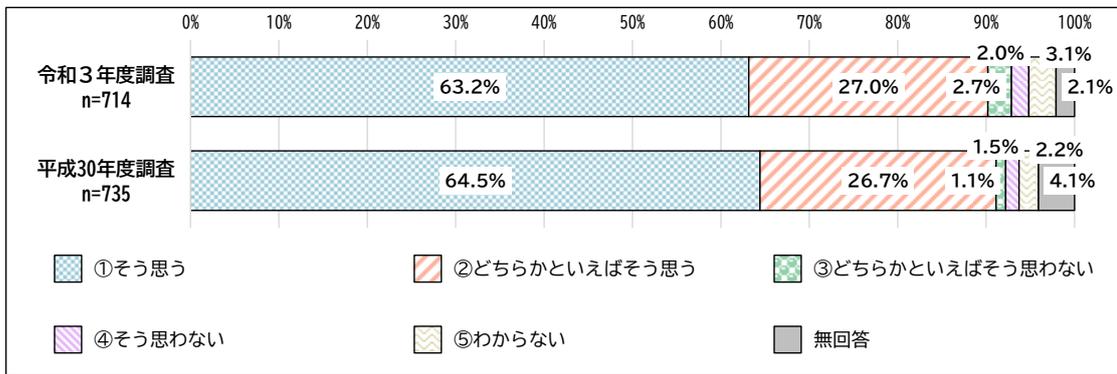
【性・年代別結果】



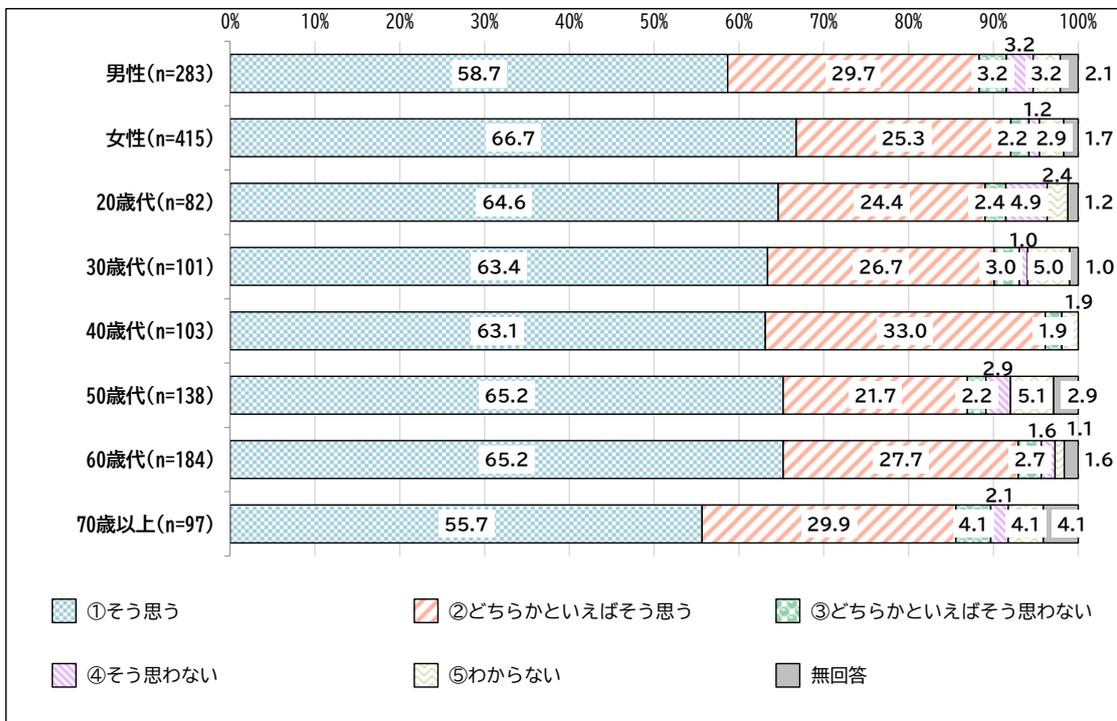
- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるでは、「そう思わない」(34.2%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(30.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(18.8%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「そう思う」(13.8%)、「どちらかといえばそう思う」(37.1%)の割合が女性より高く、女性では「そう思わない」(41.4%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、増加していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が8.6ポイント低く、「そう思わない」と回答している人の割合が11.3ポイント高くなっています。

①性別に関わらず職業人として経済的に自立できるように育てる

【全体結果と関連調査結果の比較】



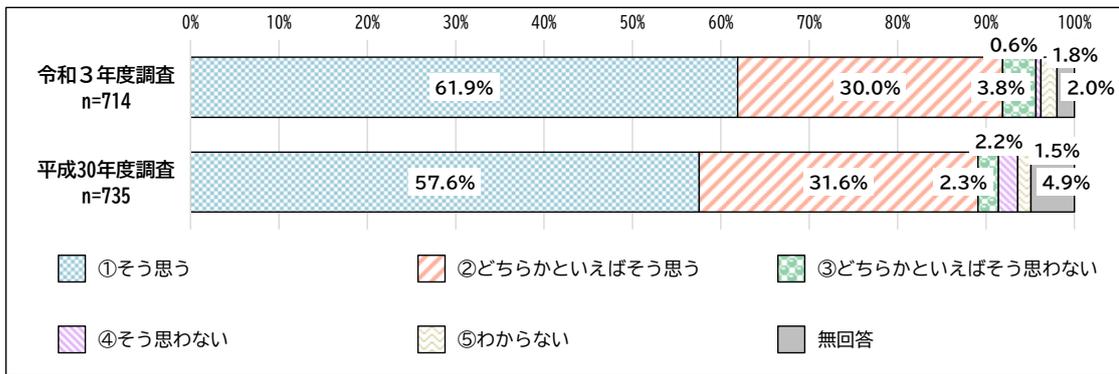
【性・年代別結果】



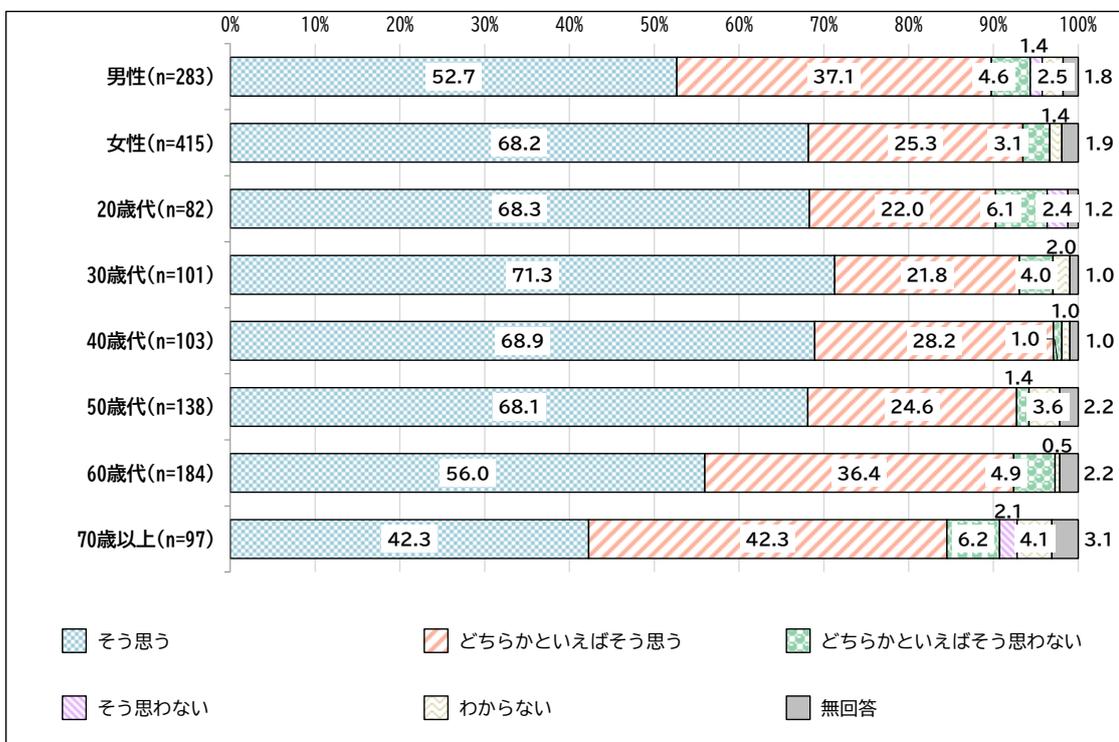
- 性別に関わらず職業人として経済的に自立できるように育てるでは、「そう思う」(63.2%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(27.0%)、「わからない」(3.1%)となっています。
- 男女別にみると、女性では「そう思う」(66.7%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上で「そう思う」(55.7%)の割合が他の年代より低くなっています。

㊦ 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる

【全体結果と関連調査結果の比較】



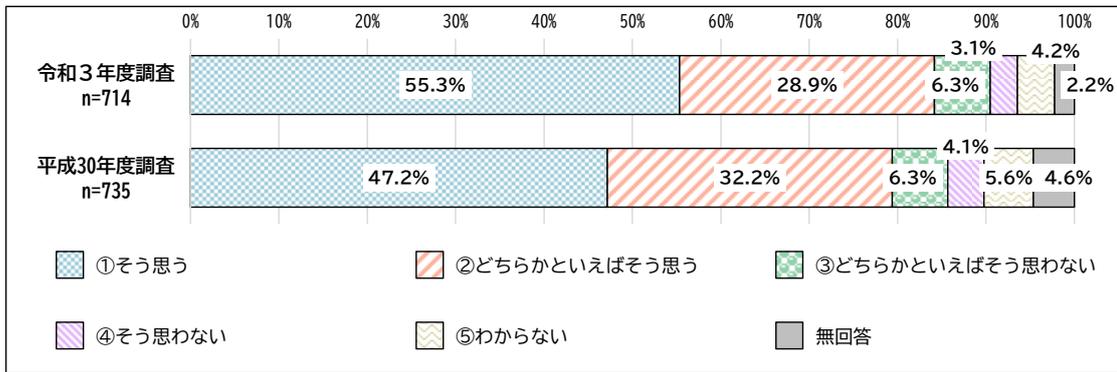
【性・年代別結果】



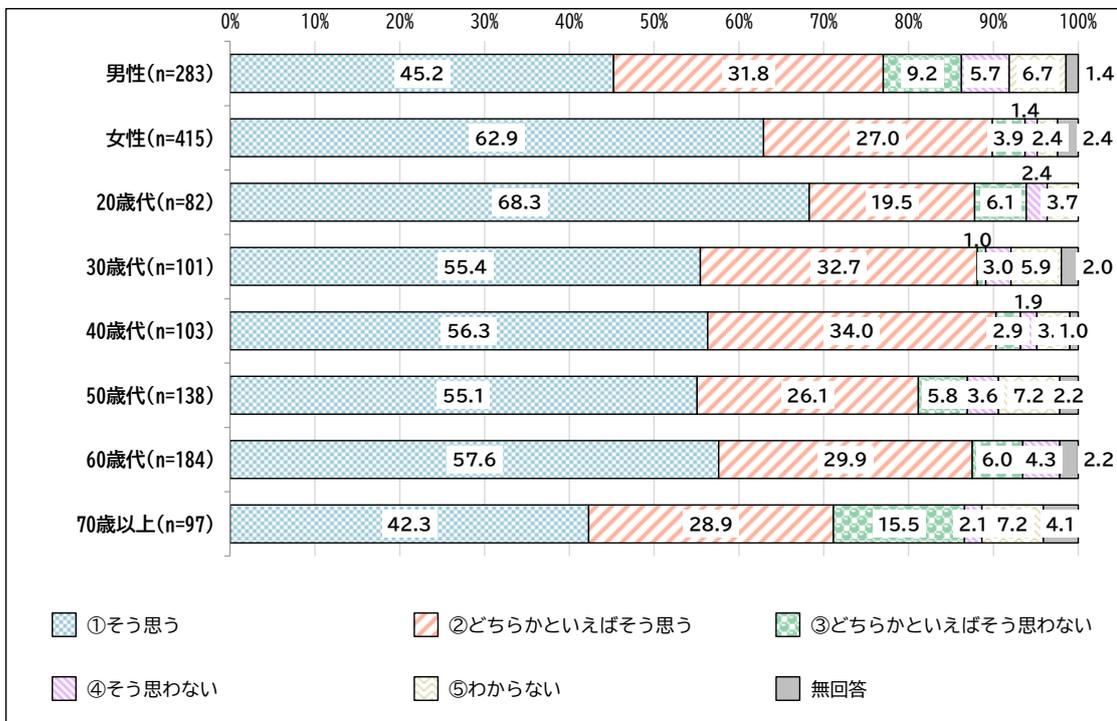
- 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせるでは、「そう思う」(61.9%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(30.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(3.8%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「どちらかといえばそう思う」(37.1%)の割合が女性より高く、女性では「そう思う」(68.2%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、20歳代から50歳代まで「そう思う」と回答している人の割合が7割程なのに対し、60歳代で56.0%、70歳以上で42.3%と他の年代より低くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、4.3ポイント高くなっています。

㊦ 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】

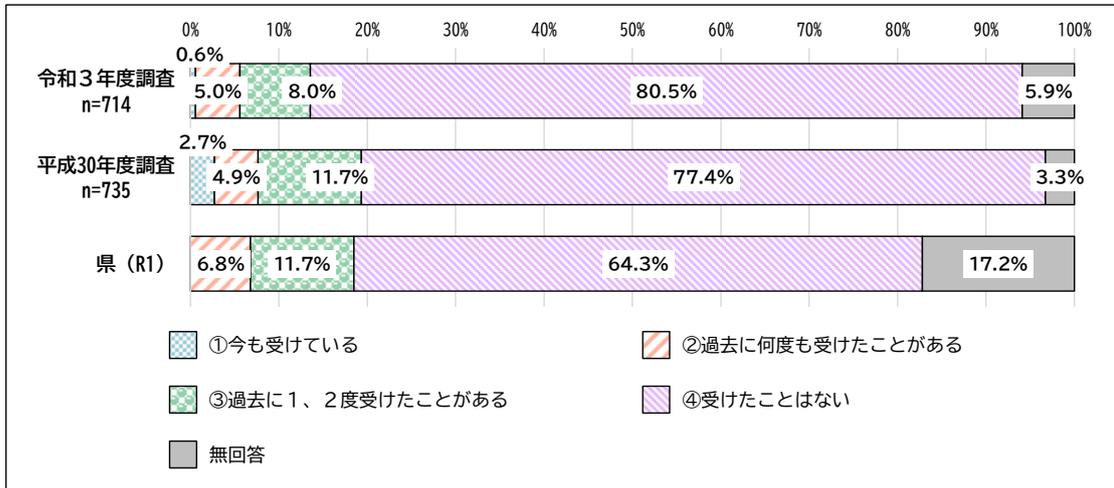


- 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をするでは、「そう思う」(55.3%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(28.9%)、「どちらかといえばそう思わない」(6.3%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「どちらかといえばそう思わない」(9.2%)の割合が女性より高く、女性では「そう思う」(62.9%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「そう思う」と回答している人の割合が、20歳代では68.3%と他の年代より高くなっているのに対し、70歳以上では42.3%と他の年代より低くなっています。また、70歳以上では「どちらかといえばそう思わない」(15.5%)の割合が他の年代より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、8.1ポイント高くなっています。

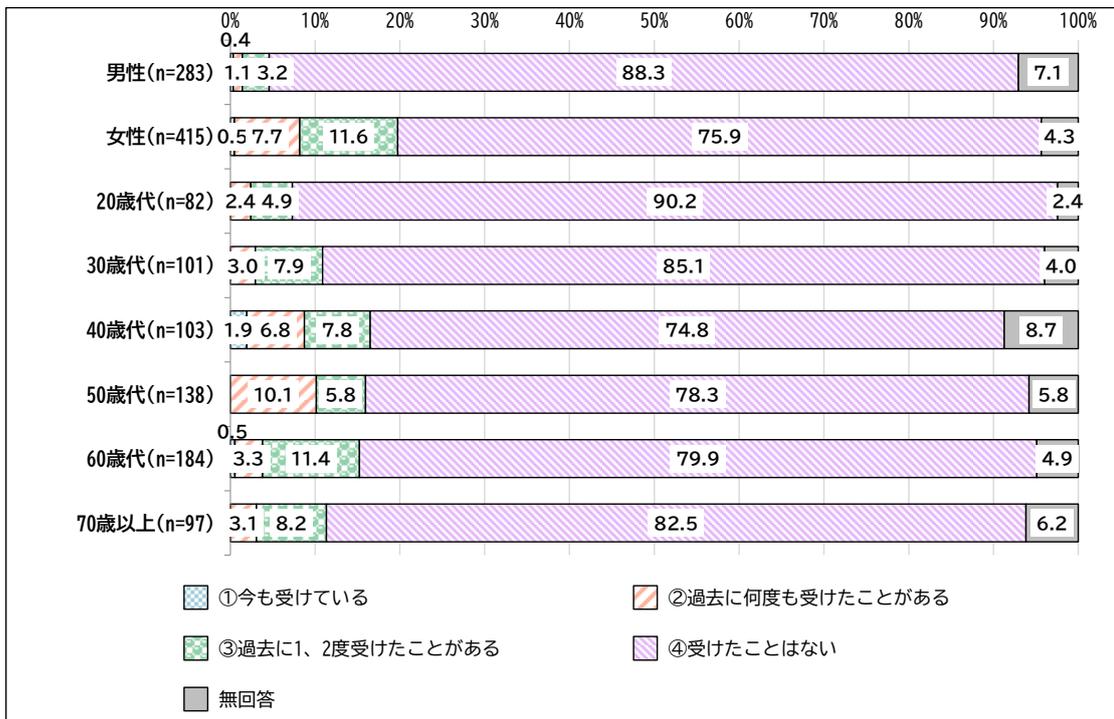
7 配偶者からの暴力について

問 12 あなたは、あなた自身が配偶者や恋人などから身体的暴力や心理的攻撃、性的強要などDVを受けたことがありますか。(単数回答)

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性・年代別結果】

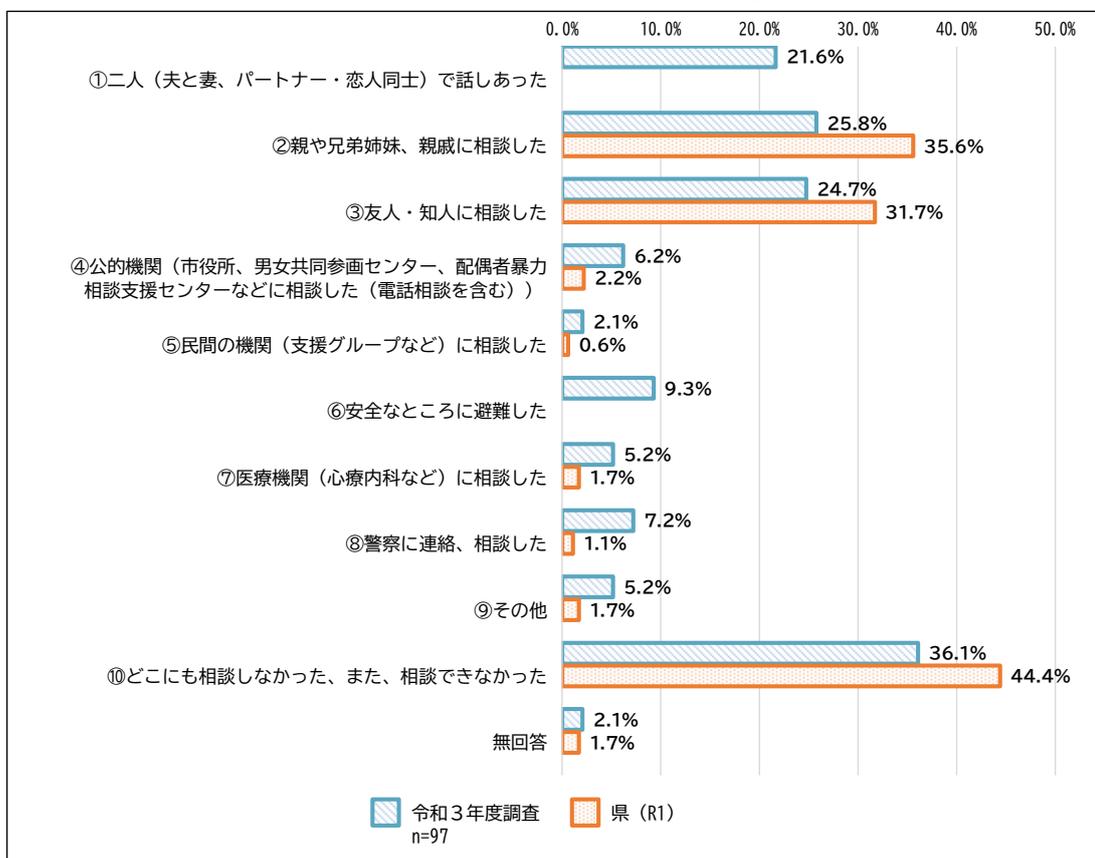


- 自身が配偶者や恋人などから身体的暴力や心理的攻撃、性的強要などDVを受けたことがあるかについては、「受けたことはない」(80.5%)の割合が最も高く、次いで「過去に1、2度受けたことがある」(8.0%)、「過去に何度も受けたことがある」(5.0%)となっています。
- 男女別にみると、「今も受けている」「過去に何度も受けたことがある」「過去に1、2度受けたことがある」と回答している人は、男性(4.7%)に比べて女性(19.8%)の割合が高くなっています。
- 年代別にみると、「今も受けている」「過去に何度も受けたことがある」「過去に1、2度受けたことがある」と回答している人が、40歳代(16.5%)、50歳代(15.9%)、60歳代(15.2%)と他の年代より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「受けたことはない」と回答している人の割合が、3.1ポイント高くなっています。
- 他統計結果との比較では、「受けたことはない」と回答している人の割合が、熊本県よりも16.2ポイント高くなっています。

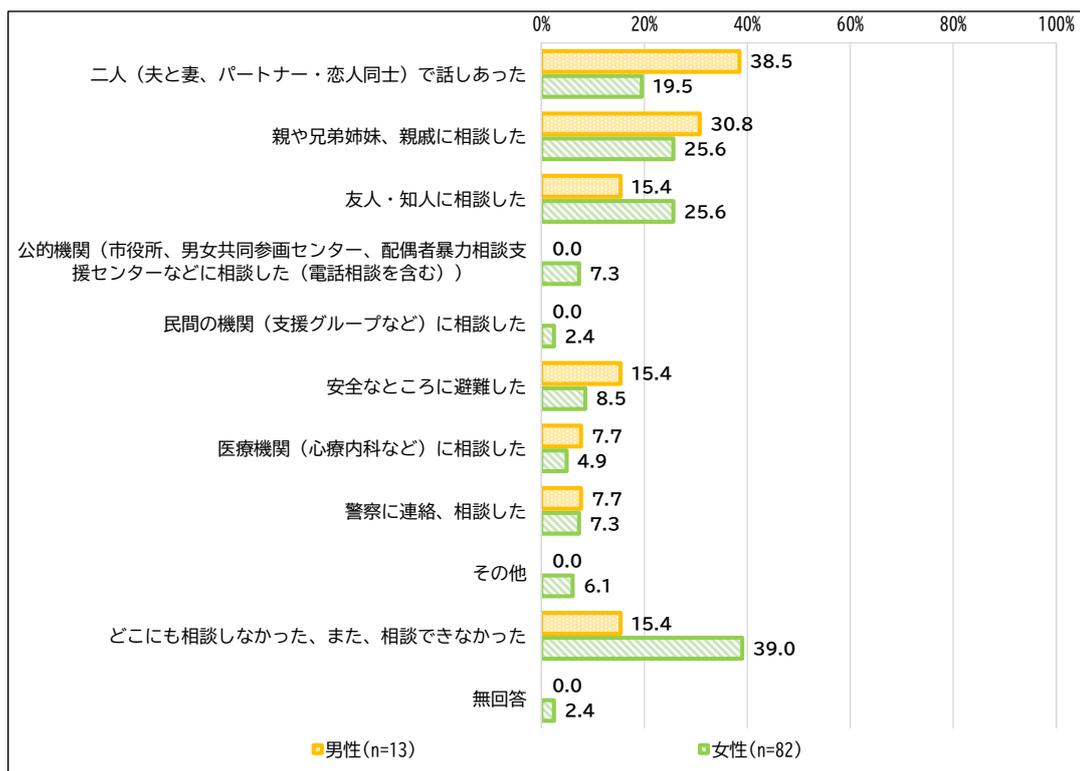
問12で「① 今も受けている」、「② 過去に何度も受けたことがある」、「③ 過去に1、2度受けたことがある」と答えた方のみ回答

問13 配偶者等からの暴力を受けたとき、その後あなたはどうしましたか。
(複数回答)

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性別結果】



- 自身が配偶者等から暴力を受けたとき、その後どうしたかについては、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」（36.1％）の割合が最も高く、次いで「親や兄弟姉妹、親戚に相談した」（25.8％）、「友人・知人に相談した」（24.7％）となっています。
- 男女別にみると、男性では「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話しあった」（38.5％）の割合が女性より高く、女性では「友人・知人に相談した」（25.6％）、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」（39.0％）の割合が男性より高くなっています。
- 他統計結果との比較では、熊本県よりも、身近な人に相談したと回答している人の割合が低く、公的機関に相談したと回答している人の割合が高くなっています。

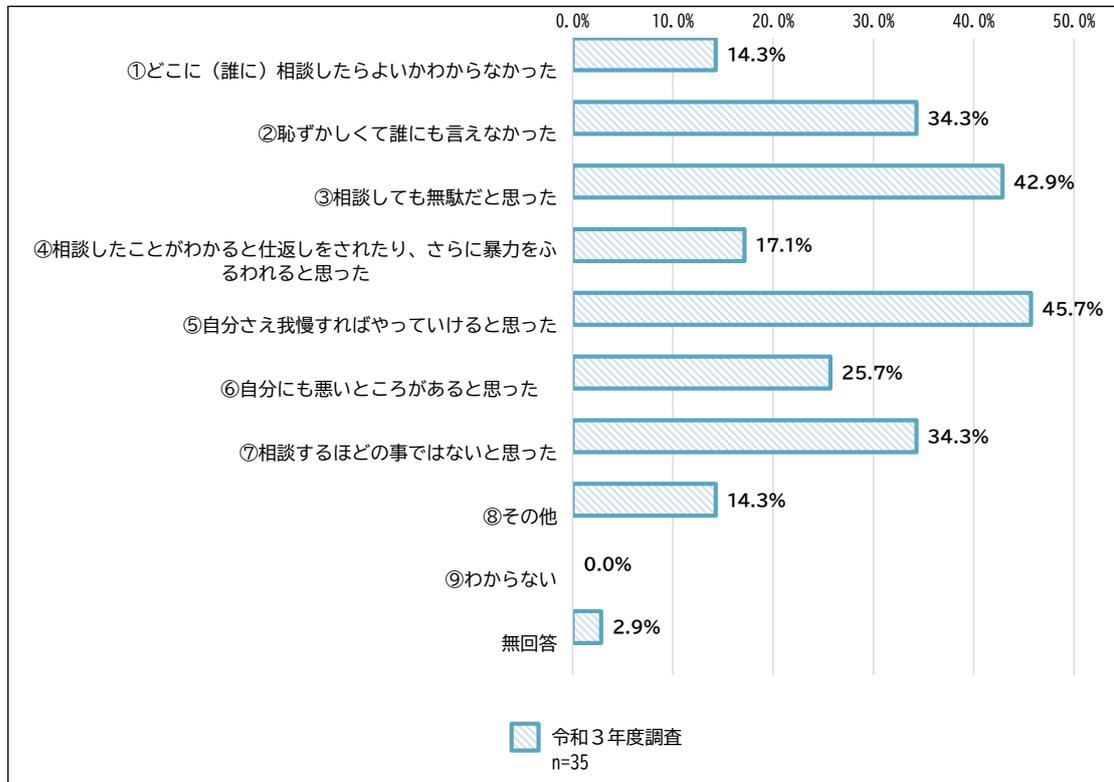
※その他の回答

いろいろ相談したけど止まらなかった。その後はどこにも言えなかった。
離婚した
弁護士にも相談した。
家裁で話し合いを設けた。

問 13 で「⑩ どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」と答えた方のみ回答

問 14 あなたが、どこにも相談しなかった、また相談できなかったのはなぜですか。
(複数回答)

【全体結果】



●どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜかについては、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」（45.7%）の割合が最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」（42.9%）、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「相談するほどの事ではないと思った」は共に（34.3%）となっています。

※その他の回答（一部抜粋）

あきらめた。昭和の時代は我慢するしかなかった。今の時代ならすぐ警察に行く。15年以上前に別れている。

他人に話せる時はまだ大丈夫。人に言えない時はおそろしいことです。

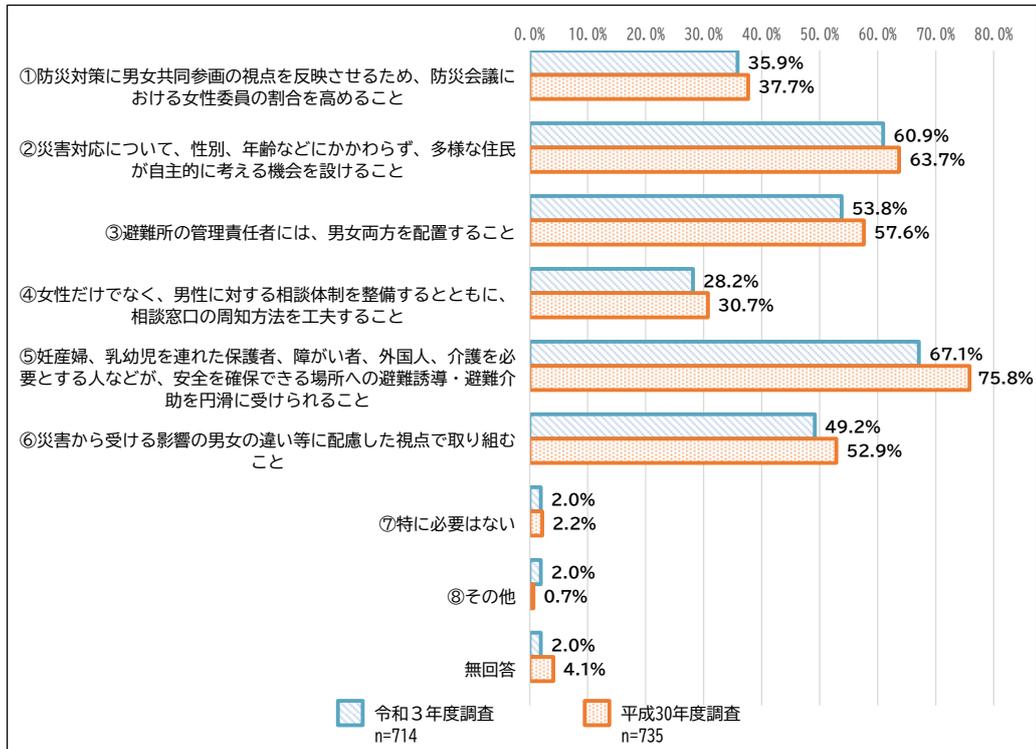
相手の悪い所、自分の悪い所を後から冷静に考え、今後に生かした。（自己反省、自己内観）

周囲との関係を断たれていた。

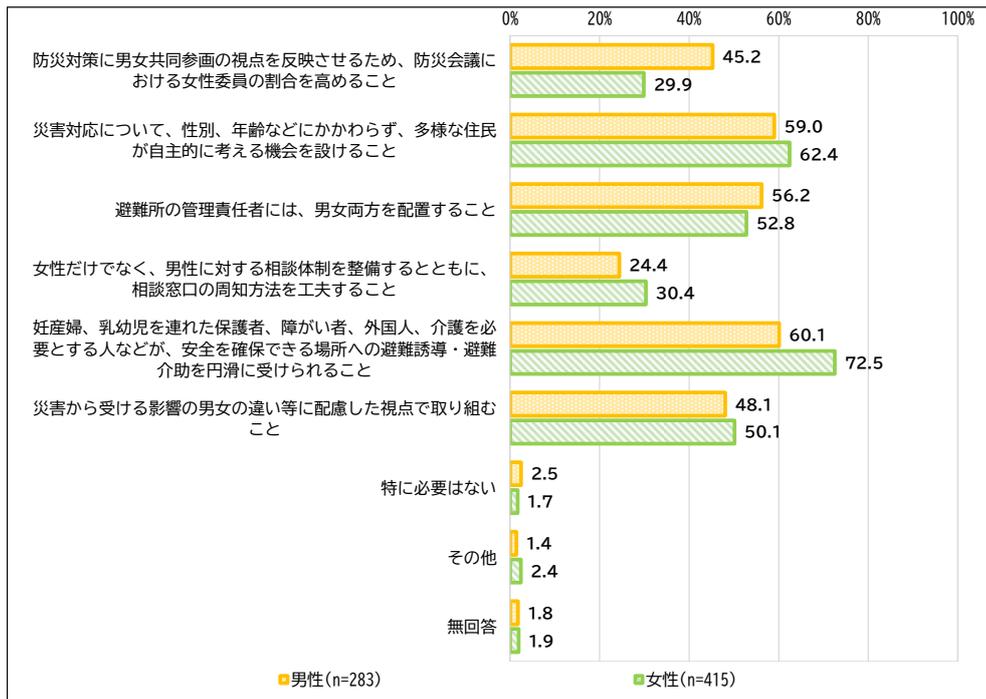
8 防災の分野における男女共同参画について

問 15 近年災害が頻発しており、今後の大規模災害に備える上でも「男女共同参画の視点」での取組が求められています。あなたはどのようなことが必要と思いますか。(複数回答)

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性別結果】



- 防災の分野における男女共同参画で必要なことについては、「妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、外国人、介護を必要とする人などが、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を円滑に受けられること」(67.1%)の割合が最も高く、次いで「災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること」(60.9%)、「避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること」(53.8%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること」(45.2%)の割合が女性より高く、女性では「妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、外国人、介護を必要とする人などが、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を円滑に受けられること」(72.5%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、外国人、介護を必要とする人などが、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を円滑に受けられること」と回答している人の割合が、8.7ポイント低くなっています。

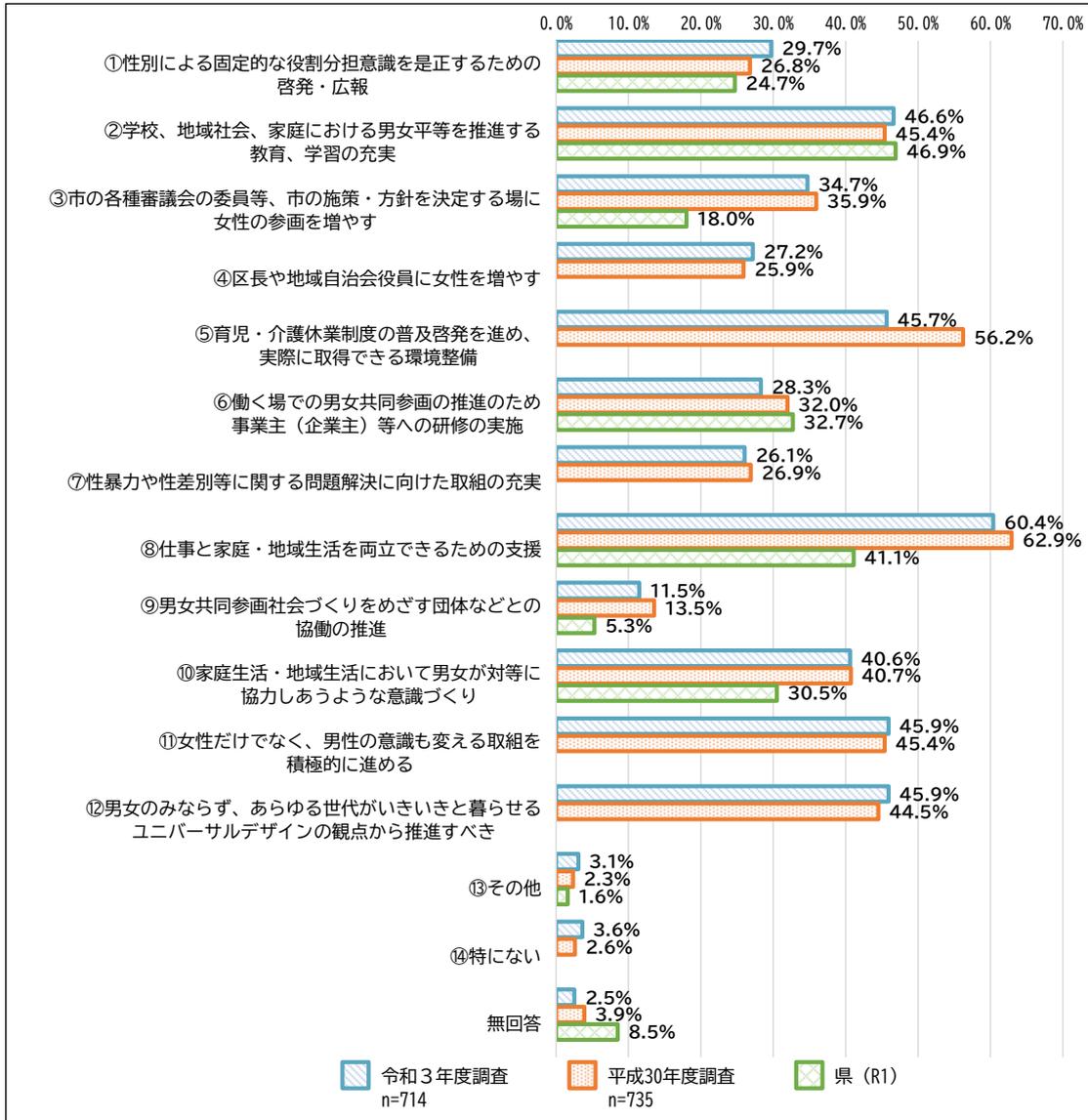
※その他の回答

男女関係なく、出来る人が出来る事をする。
防災に対するリスク管理、対応は子どもの時からの教育、しつけの一環として身に付けさせること。
外国人の方に伝わるように工夫すること。
高校生の頃、何故避難訓練が学校でおきた場合のみなのか疑問でした。色々な場所を想定した訓練をすべきだと思います。実際に、熊本地震の時は自宅で経験しました。避難の場所やしておくべきこと、非常食の常備など全く分かりませんでした。そういったことを含めた訓練をすべきではないかと思います。
避難所では就寝時は男女別、ペット管理所設置等々、安心して過ごせる環境にしてほしいです。
トイレ数の確保、障がいの方・老人の方も安心して使用できるように。
避難所は特に、女性の意見を反映させることでストレスを軽減することができると思う。インフラの整備。地震なら耐震、免震対策をする。豪雨や台風による被害は河川を整備する。

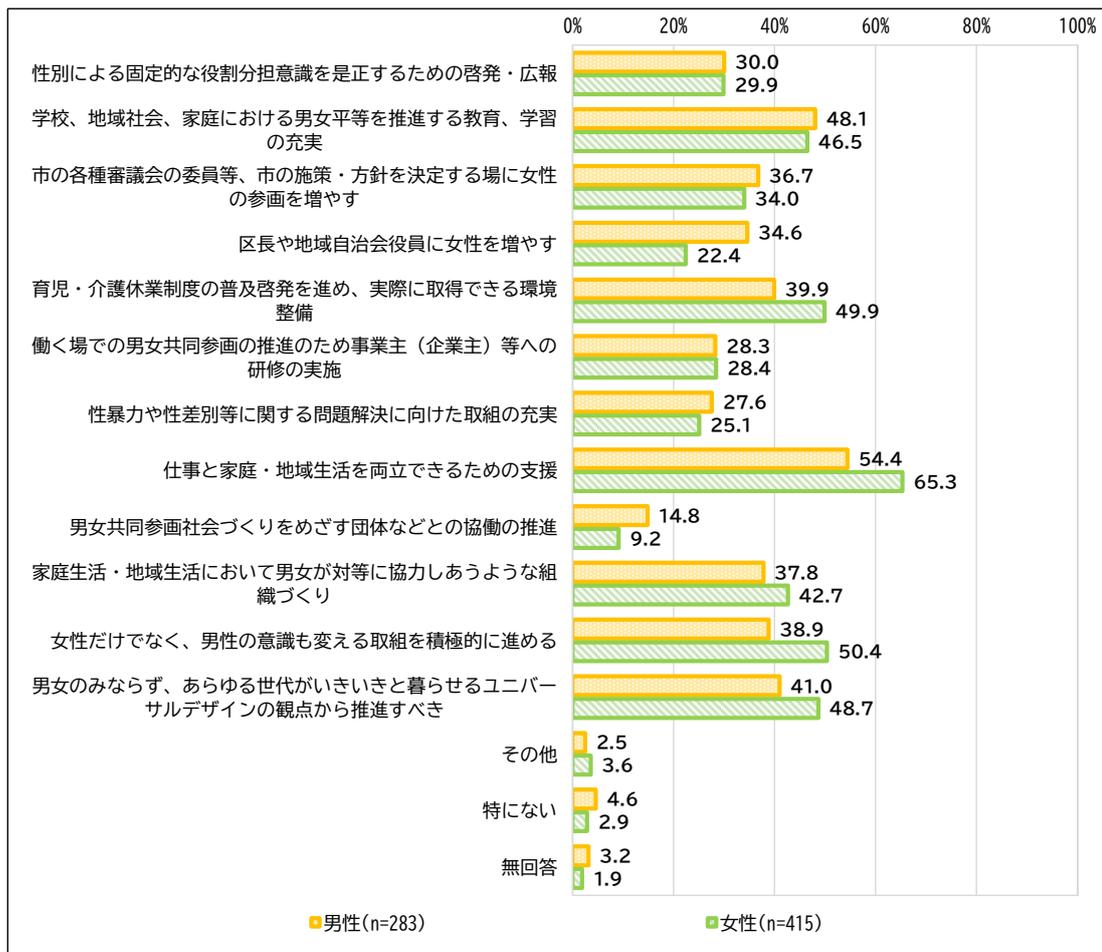
9 男女共同参画社会の推進について

問 16 男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

【全体結果と関連調査結果の比較】



【性別結果】



- 男女共同参画の実現のために菊池市が力を入れるべきことについては、「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」(60.4%)の割合が最も高く、次いで「学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育、学習の充実」(46.6%)、「女性だけでなく、男性の意識も変える取組を積極的に進める」「男女のみならず、あらゆる世代がいきいきと暮らせるユニバーサルデザインの観点から推進すべき」共に(45.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「区長や地域自治会役員に女性を増やす」(34.6%)の割合が女性より高く、女性では「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」(65.3%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「育児・介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備」と回答している人の割合が、10.5ポイント低くなっています。
- 他統計結果との比較では、熊本県よりも「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」と回答している人の割合が19.3ポイント、「市の各種審議会の委員等、市の政策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」が16.7ポイント高くなっています。

Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

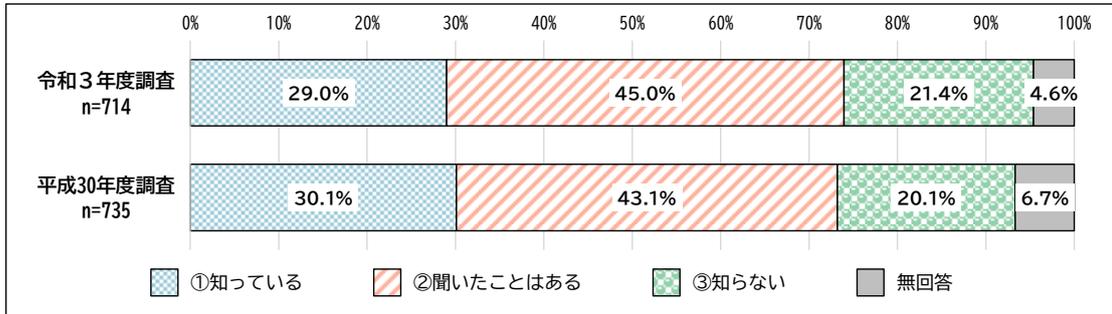
※その他の回答

LGBTQなどの性的マイノリティについても理解が必要。「男・女」という括りでの発想から、先ず市が脱却しましょう。
お互いの思いやり、それに尽きます。
ひとりひとりの声がきちんと反映された安心・安住のまちづくり。
考える。コミュニケーションの機会を増やす。
街の活性化のための市政を充実できる、職員のスキルアップ。
町内会でも男女共に協力的でいつも頭が下がります。
区長が女性の地域がまずありますか？男性社会菊池市に時々うんざりします。
ただ女性の数を増やすだけでなく、女性も努力し、自分自身両立できる為の努力をする気持ちを持たないと女性自身の意識の持ち方を変えて行かないと同じだと思います。ただ待つのみでなく、認められて対等にできる努力が必要だと思います。
委員の数など表面的なことではなく、「男女共同参画がなぜ必要なのか」根本的なことに対する理解を深めていくべき。
男女関係なく老若男女多様な働き方ができるようないきいきとした社会づくり。特に持続可能な環境・人に優しい安全安心な第1次産業、2次産業、6次産業の推進。
言葉遣いや道徳の勉強の場づくり。地区でも学校でもいじめをなくす。
教育の向上。給与面の改革。役割分担の意識改革。
力を入れるべきではないと思います。歴史も学べば、男女それぞれにあった生き方がある事がわかります。私は、男女共同参画社会の推進には反対です。まず、体のつくりを考えてから取り組むべき。平等とか平等ではないとか以前に、そもそも根本が違います。
父親や母親をテーマにした映画づくり（物語？）
市議や各長に女性をもっと増やすべき
男女に対する考え方が都心部より遅れている。もっと情報を知るべき。
行政機関である市役所職員さん達が「男女共同参画社会の推進」の実践者であってほしい。
男女ともに、お互いのあるべき姿の意見を聞いてみる。
女性の積極的な地域活動等への参加。色々な役員等を依頼してもほとんど受け取ってもらえない。
完全に平等にすることはできないと思うので、男尊女卑といった差別意識を無くす取組が大切だと思う。例えば女性が社会で活躍する為に、男性が気を使いすぎて女性が優位に立っていると感じる。特に女性が少ない業界は、長く続けてもらい、イメージをアップさせるために女性比率を上げようとしていると感じる。その為、仕事を多く任せることができなかつたり、セクハラを意識してコミュニケーションを取りづらくなっていると感じる。社会のルールとして、平等にすることはできると思うが、実際にはそうはいかない部分があると思う。女性進出を後押しする為に、女性が優位に立っていると感じる。具体的な対策や意見がまとまっておらず大変申し訳ございません。
特に60代以降の男性は、男なら、とか長男だから、嫁に来たのだからと言われる。その年代への意識改革をして欲しい。

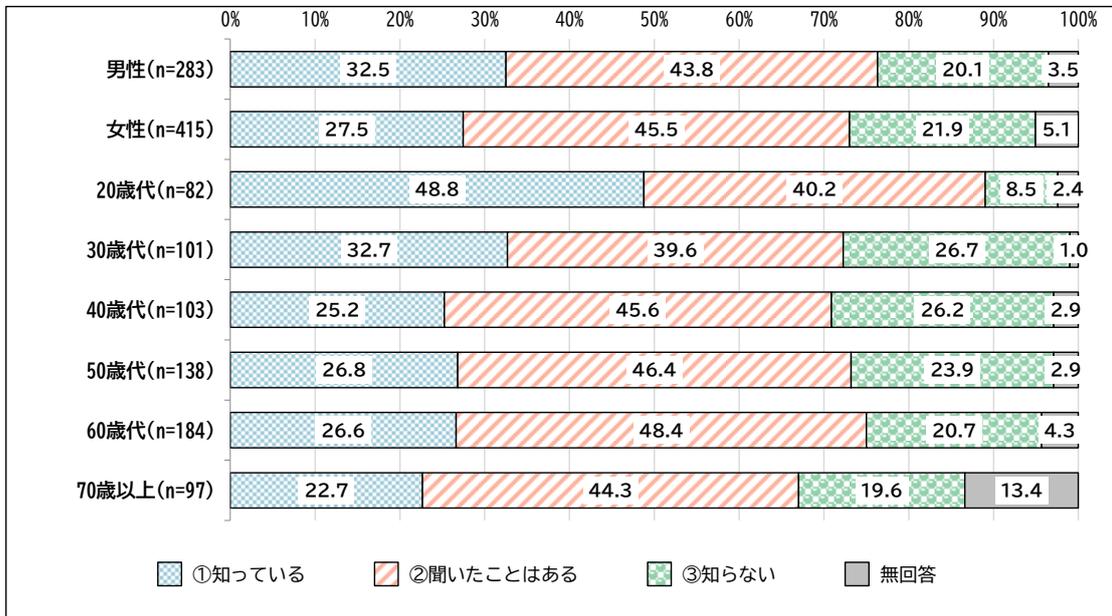
問 17 あなたは、以下の言葉について知っていますか。(単数回答)

㊦男女共同参画社会基本法

【全体結果と関連調査結果の比較】



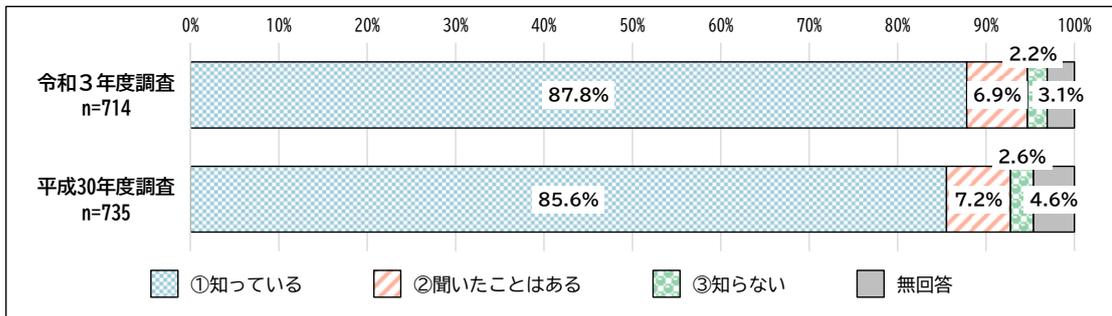
【性・年代別結果】



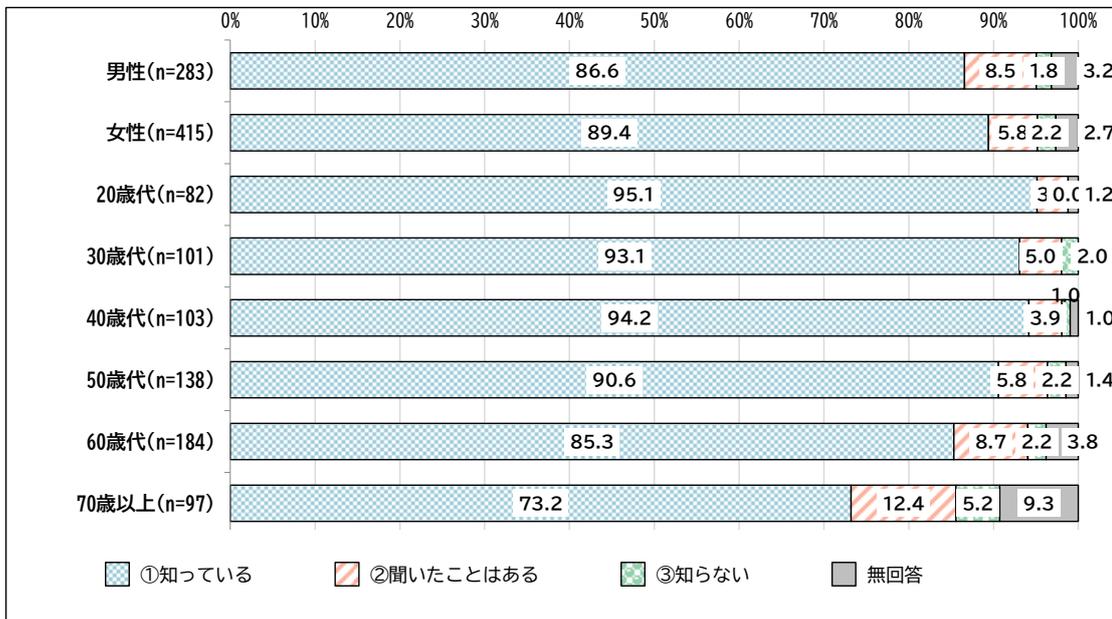
- 男女共同参画社会基本法を知っているかについては、「聞いたことはある」(45.0%)の割合が最も高く、次いで「知っている」(29.0%)、「知らない」(21.4%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「知っている」(32.5%)の割合が女性より高くなっています。
- 年代別にみると、「知っている」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「聞いたことはある」と回答している人の割合が、1.9ポイント高くなっています。

①ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）

【全体結果と関連調査結果の比較】



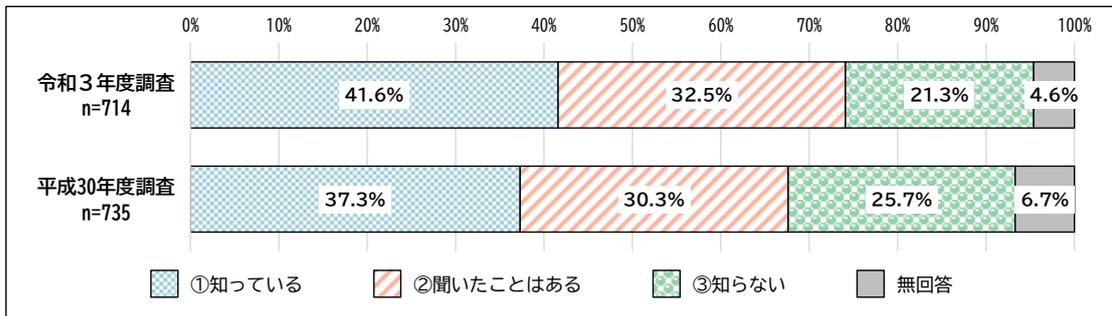
【性・年代別結果】



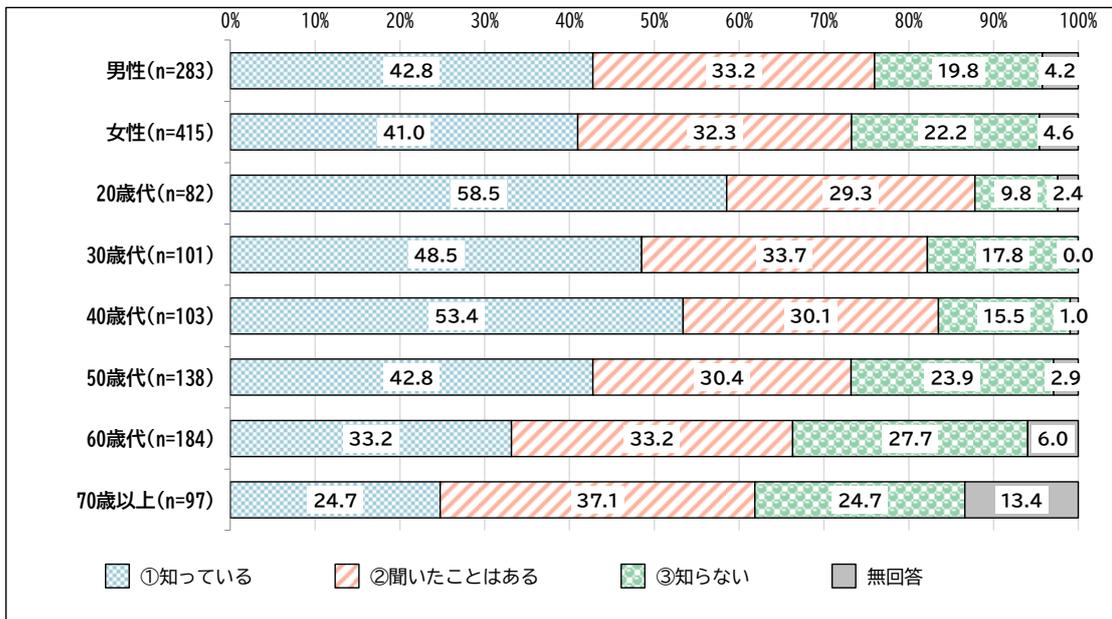
- ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）を知っているかについては、「知っている」（87.8％）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（6.9％）、「知らない」（2.2％）となっています。
- 年代別にみると、「知っている」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「知っている」と回答している人の割合が、2.2ポイント高くなっています。

㊦ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

【全体結果と関連調査結果の比較】



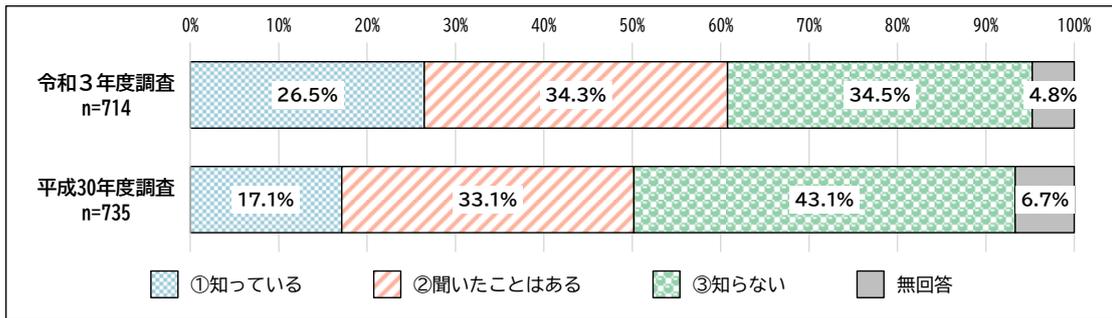
【性・年代別結果】



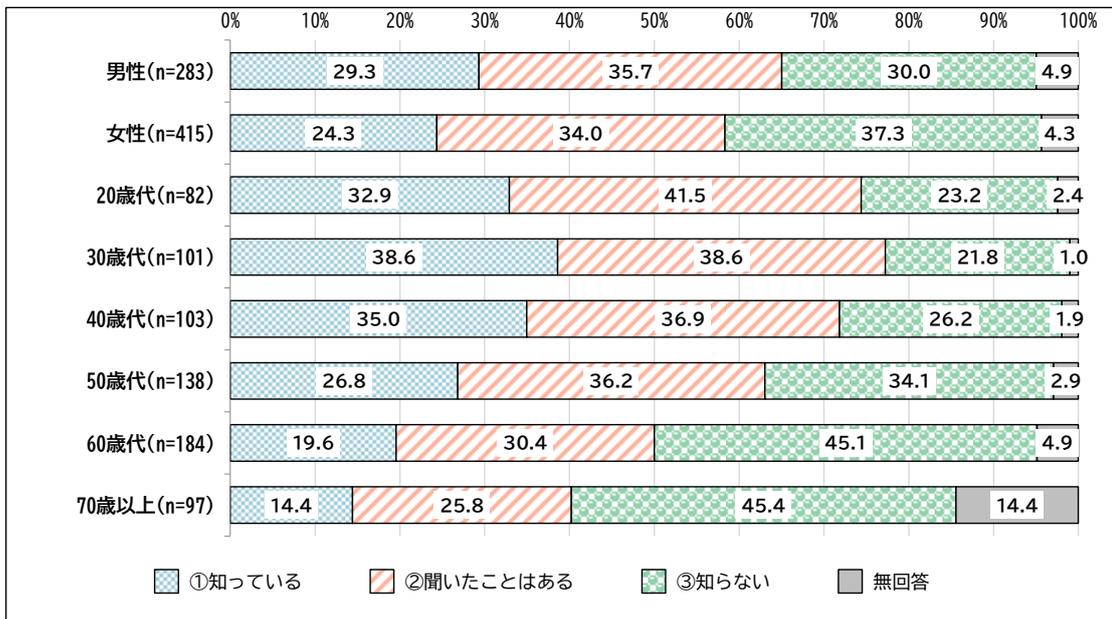
- ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を知っているかについては、「知っている」（41.6%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（32.5%）、「知らない」（21.3%）となっています。
- 男女別にみると、女性では「知らない」（22.2%）の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「知っている」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「知っている」と回答している人の割合が、4.3ポイント高くなっています。

⑤ダイバーシティ（多様性）

【全体結果と関連調査結果の比較】



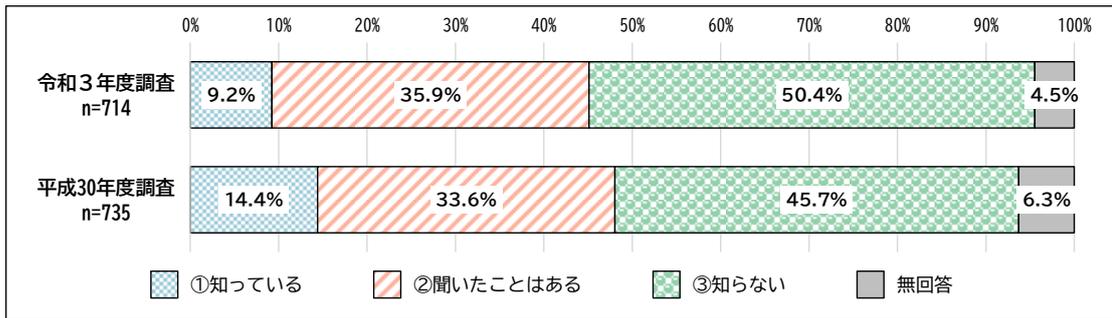
【性・年代別結果】



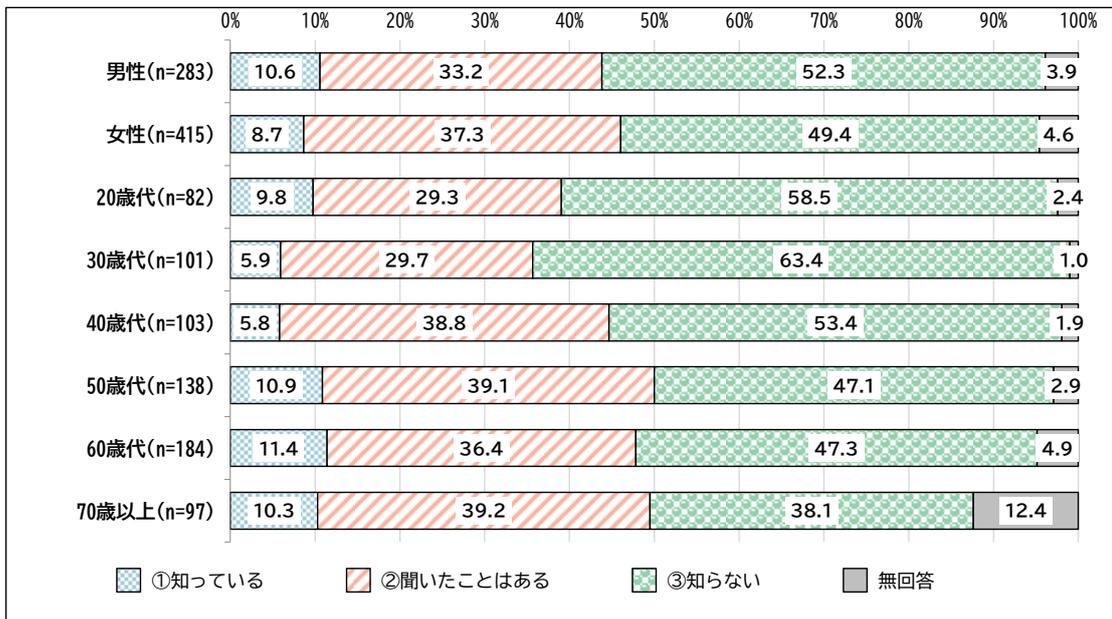
- ダイバーシティ（多様性）を知っているかについては、「知らない」（34.5%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（34.3%）、「知っている」（26.5%）となっています。
- 男女別にみると、女性では「知らない」（37.3%）の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、年齢階層が上がるに従って「知っている」と回答している人の割合は減少し、「知らない」と回答している人の割合は増加していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「知っている」と回答している人の割合が、9.4ポイント高くなっています。

㊦ 菊池市男女共同参画推進条例

【全体結果と関連調査結果の比較】



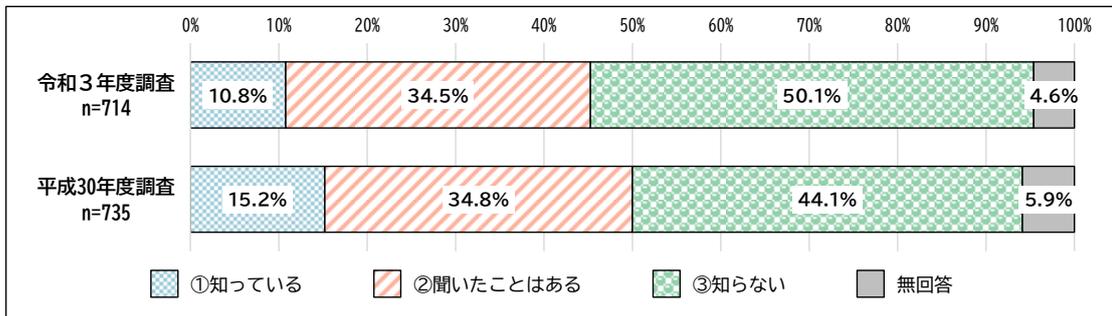
【性・年代別結果】



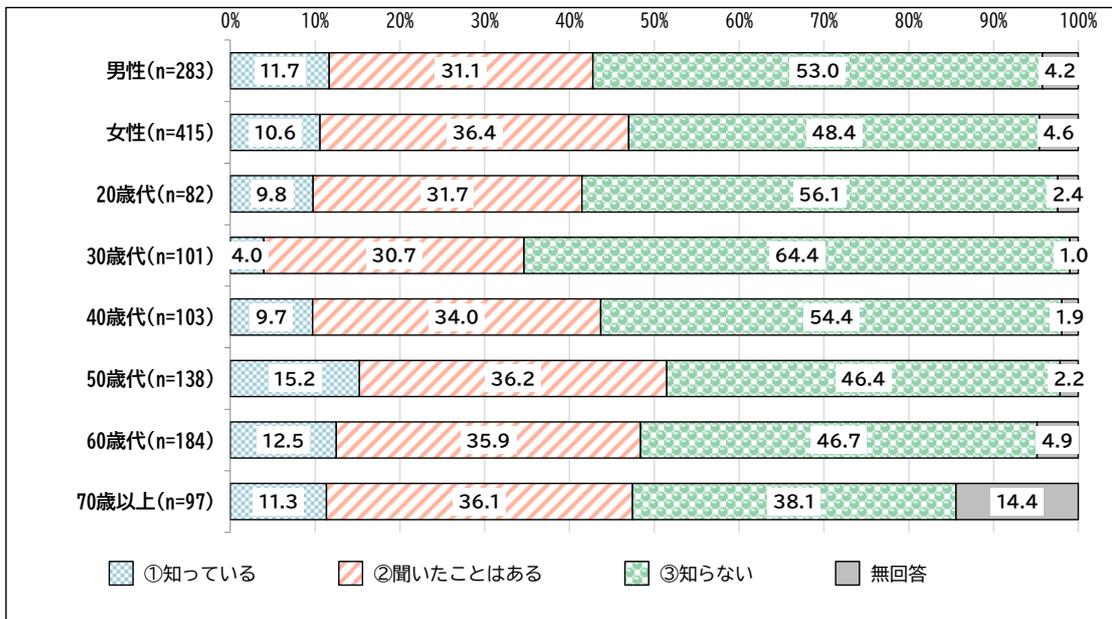
- 菊池市男女共同参画推進条例を知っているかについては、「知らない」(50.4%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(35.9%)、「知っている」(9.2%)となっています。
- 年代別にみると、40歳代までは「知らない」と回答している人の割合が5割を超えており、50歳代以上の割合より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、4.7ポイント高くなっています。

㊦ 菊池市男女共同参画計画

【全体結果と関連調査結果の比較】



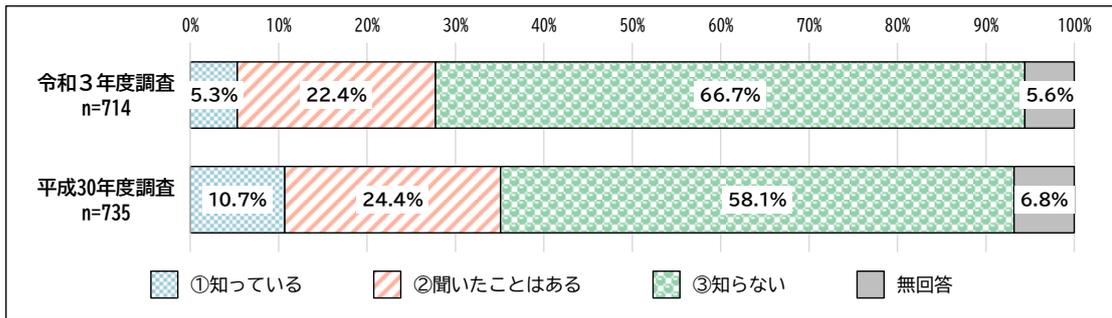
【性・年代別結果】



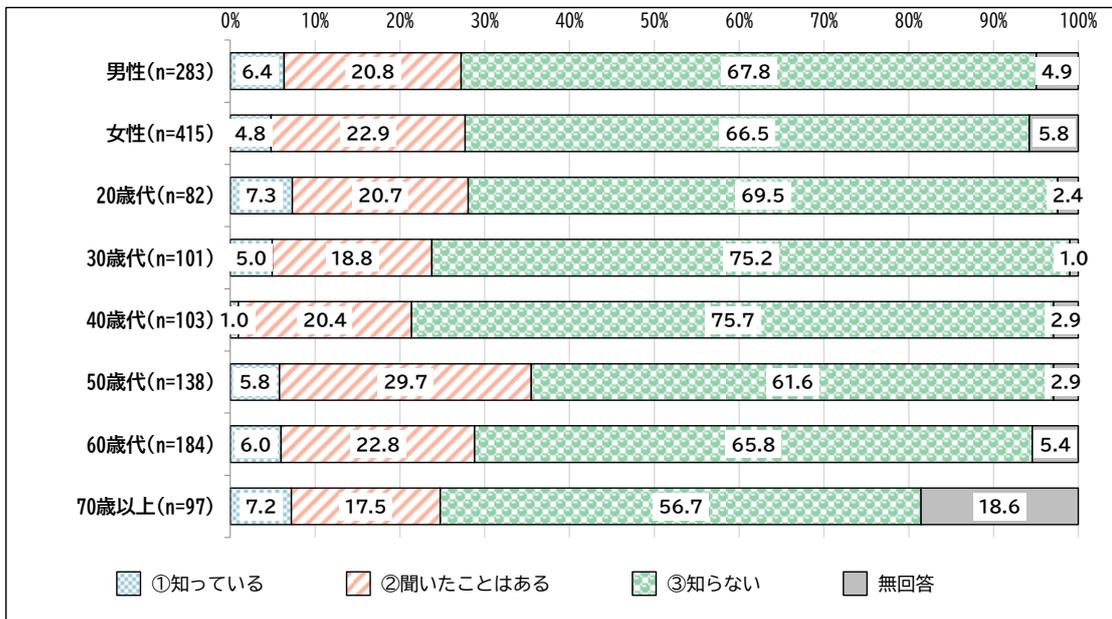
- 菊池市男女共同参画計画を知っているかについては、「知らない」(50.1%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(34.5%)、「知っている」(10.8%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「知らない」(53.0%)の割合が女性より高くなっています。
- 年代別にみると、30歳代で「知っている」(4.0%)と回答している人の割合が他の年代より低くなっています。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、6.0ポイント高くなっています。

㊦男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）

【全体結果と関連調査結果の比較】



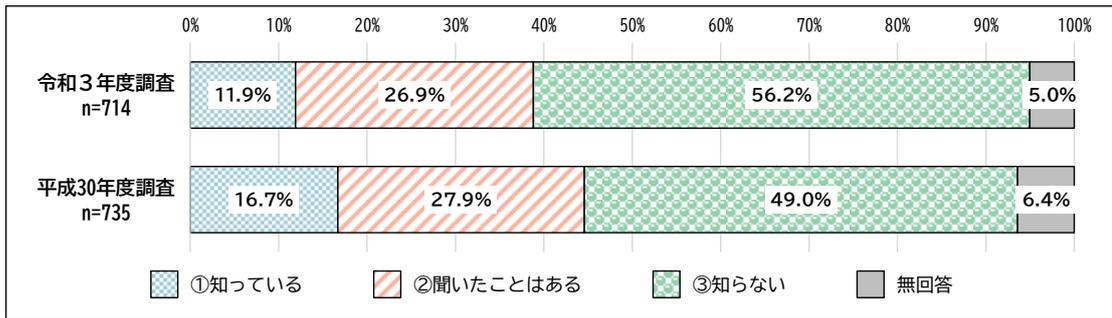
【性・年代別結果】



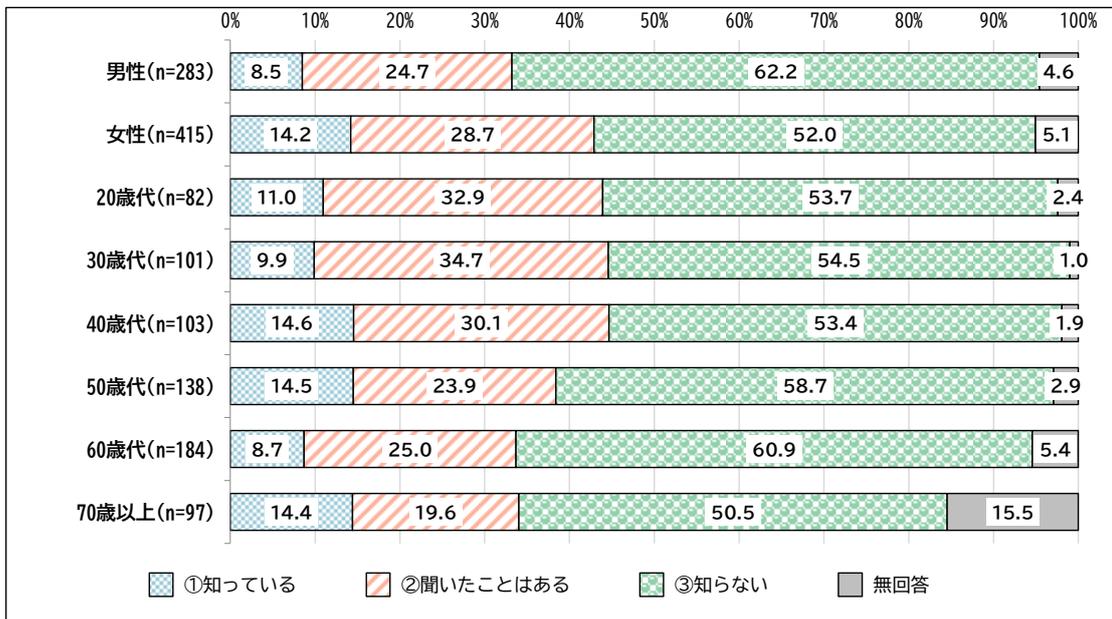
- 男女共同参画専門委員相談(菊池市設置)を知っているかについては、「知らない」(66.7%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(22.4%)、「知っている」(5.3%)となっています。
- 年代別にみると、40歳代で「知っている」(1.0%)と回答している人の割合が他の年代より低くなっています。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、8.6ポイント高くなっています。

㊦女性相談員（菊池市設置）

【全体結果と関連調査結果の比較】



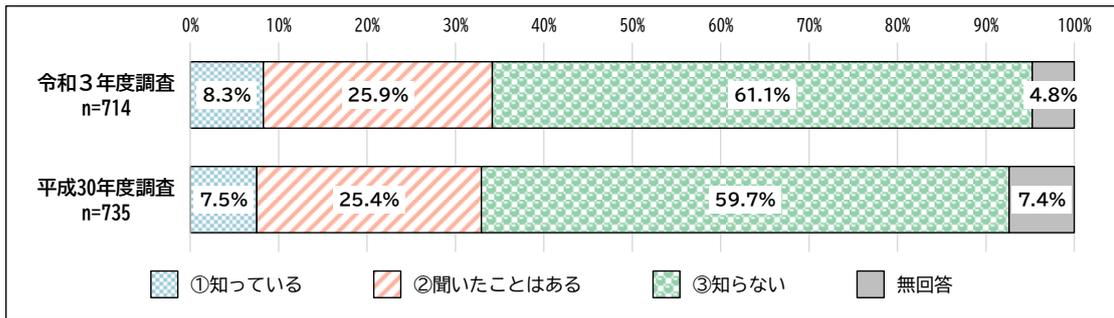
【性・年代別結果】



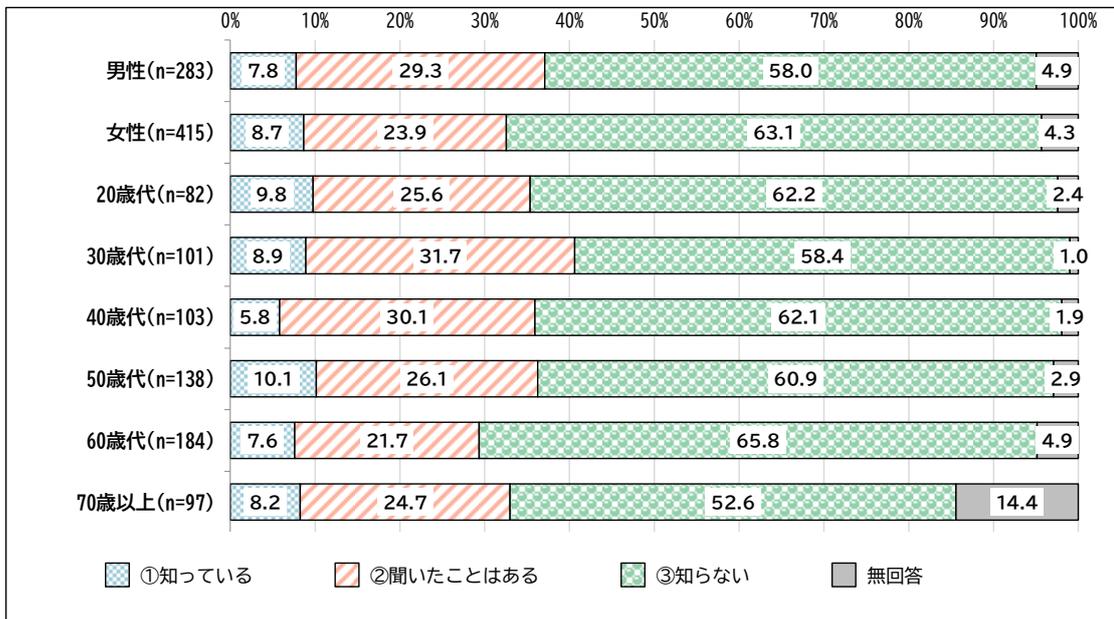
- 女性相談員（菊池市設置）を知っているかについては、「知らない」（56.2%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（26.9%）、「知っている」（11.9%）となっています。
- 男女別にみると、女性では「知っている」（14.2%）の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「聞いたことはある」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、減少していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、7.2ポイント高くなっています。

㊦ 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）

【全体結果と関連調査結果の比較】



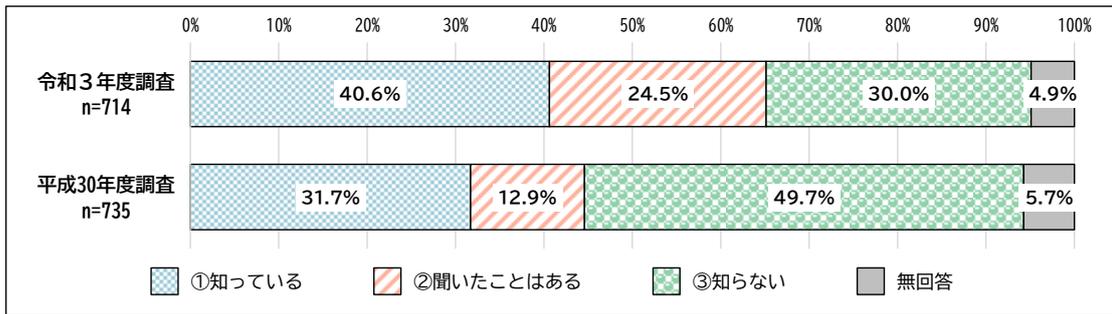
【性・年代別結果】



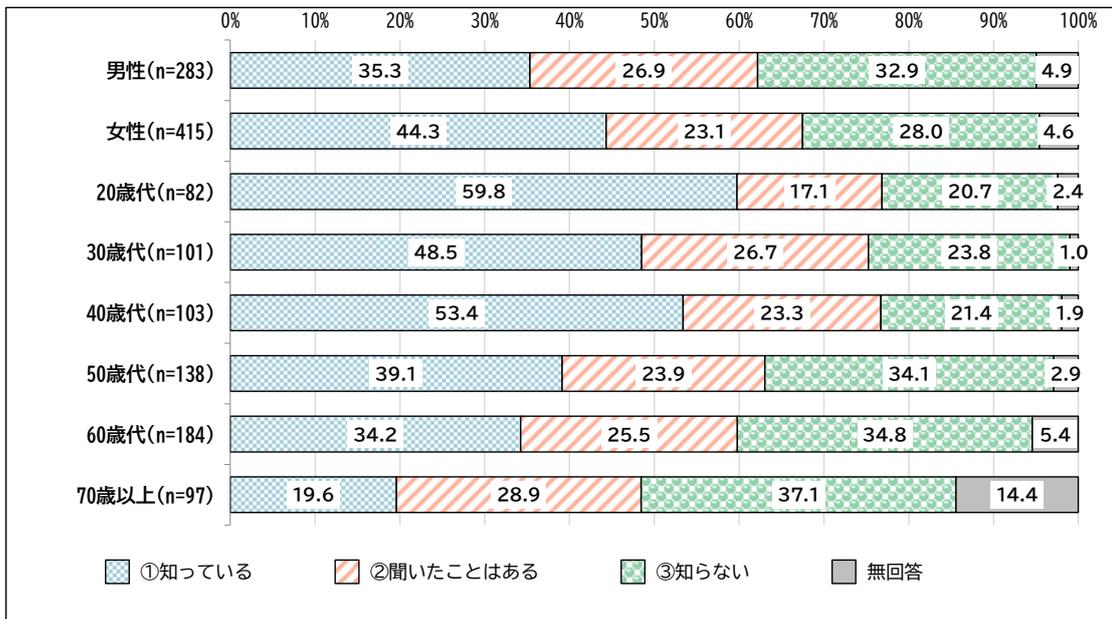
- 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）を知っているかについては、「知らない」（61.1%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（25.9%）、「知っている」（8.3%）となっています。
- 男女別にみると、女性では「知らない」（63.1%）の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、40歳代で「知っている」（5.8%）と回答している人の割合が他の年代より低くなっています。

㊦ L G B T Q (性自認・性的指向)

【全体結果と関連調査結果の比較】



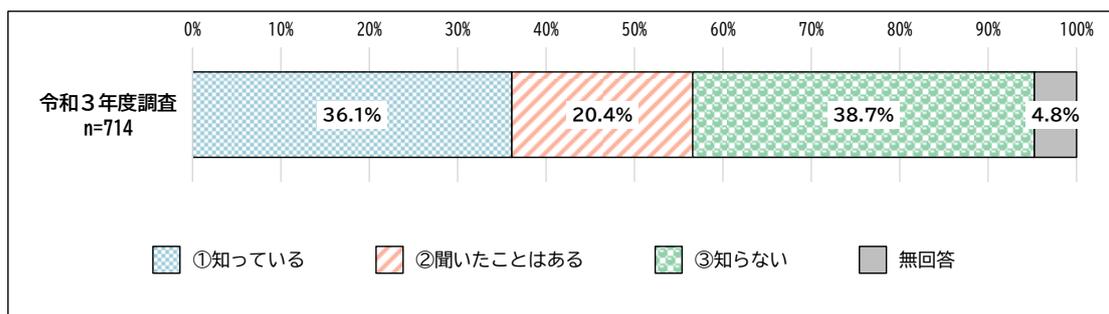
【性・年代別結果】



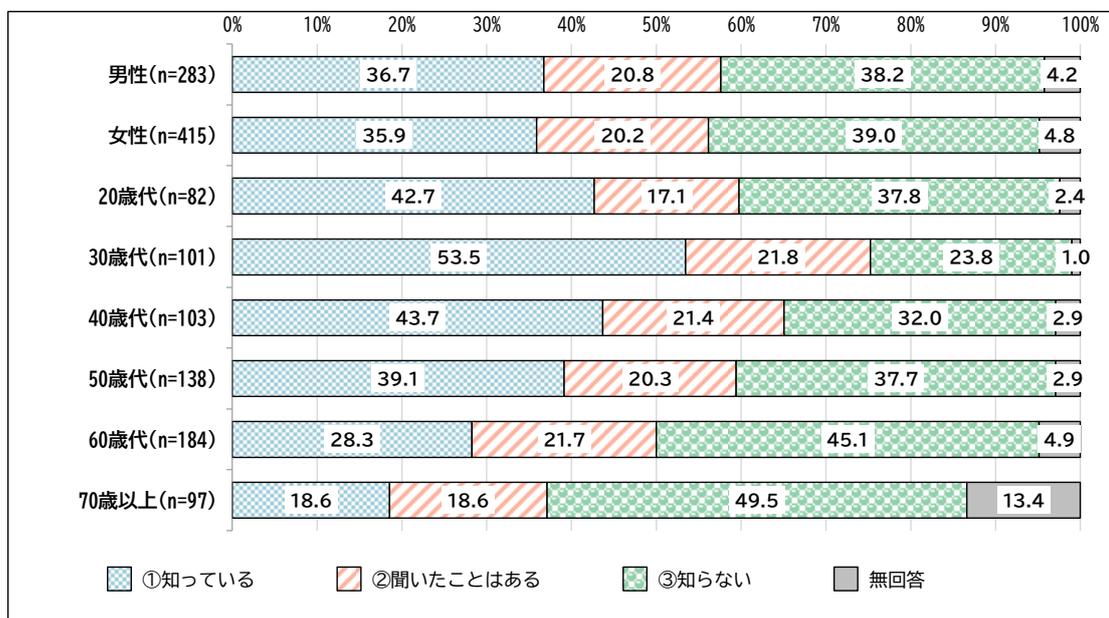
- L G B T Q (性自認・性的指向)を知っているかについては、「知っている」(40.6%)の割合が最も高く、次いで「知らない」(30.0%)、「聞いたことはある」(24.5%)となっています。
- 男女別にみると、女性では「知っている」(44.3%)の割合が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、「知らない」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、増加していく傾向にあります。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、19.7ポイント低くなっています。

㊦ SDGs（持続可能な開発目標）

【全体結果】



【性・年代別結果】



- SDGs（持続可能な開発目標）を知っているかについては、「知らない」（38.7%）の割合が最も高く、次いで「知っている」（36.1%）、「聞いたことはある」（20.4%）となっています。
- 年代別にみると、30歳代以降では「知らない」と回答している人の割合は年齢階層が上がるに従って、増加していく傾向にあります。

問 18 最後に、男女共同参画についての意見や、この調査に対する感想などがありましたら、自由に記入ください。(自由記述)

※一部抜粋

性 別	年 代	内 容
女性	20 歳代	現代も男は～とか、女は～とかは残っているとは思いますが、子育てについては協力的な男性が増えてきていると思う(周囲の方たちの話を聞いてそう思いました)。あと、結婚とか出産は絶対しなさいって考え方も嫌だ。少子化が問題だとは思うけど、1人1人を尊重するのは難しいですよね。
女性	20 歳代	男・女だけじゃなく、それに入らないような性がある事も考えてほしいと思いました。
女性	20 歳代	前の職場で妊娠後、パワハラやマタハラがひどく、育休中もLINEで復帰後についてパワハラを受け、結果、育休中に退職させられるように誘導され、退職しないといけなくなりました。まだ復帰まで3ヶ月もあったのですが。育休も1年とらせてもらえなかったです。職場は医療関係だったので、福利厚生に期待していた分、悲しくなりました。精神的にすごく悩みましたが、相談する勇気がなかったです。職場などにパワハラ、マタハラについてのプリントを配り少しでもそういう職場がなくなることを願っています。まだまだ熊本でもパワハラ、マタハラは多い気がします。
女性	20 歳代	現在私は大学4年生で、就職活動に励んでいました。就職活動で直面する性別の壁など何度か悩んだ経験があります。また、面接で「結婚をする予定はありますか？」など聞かれたことがあり、革新的な現状に追いつかない人もいるんだなと感じていました。「女性が生きにくい社会」とは言いませんが、実際に「性別の壁」に多く直面するのは女性ではないかと感じます。「性別」を理由に不快な思いをすることが少ない社会になる事を切に願います。
男性	20 歳代	権利と義務は表裏一体だと思うから、しっかり義務を果たす人なら、誰が政治等に参加してもよいと思う。ある程度、各々適材適所があると思うから、男女関係なく、協力しながら自分ができることをしていけることをできたらいいと思う。
男性	20 歳代	働く社会に女性が進出することは良いことではあるが、出世を目指していない女性も一部は存在しているため、男女関係なく働きやすい環境作りが必要だと思います。

性別	年代	内容
女性	20歳代	既に男尊女卑の考えが染みついている世代の方たちの意識を変えるのは難しいことだと思いますので、どちらかと言うと若い世代の、それも保育園生や小学生などの頃から男女平等の意識をもてるような取組を考えられたほうが良いかと思います。(活躍している(またはしていた)女性について書かれている絵本の読み聞かせや、実際に男性が多い職場で活躍している女性の講話など)。また、男女平等のポスターや冊子などによる啓発も全く無意味とは思いませんが、それによる意識の変化は起こりづらい可能性が高いでしょうから、そういったことにお金をお使いになられるよりかは、若者の男女平等の意識が高まる活動に使われた方が良いと思います。
答えたくない	20歳代	友達にLGBTQの子がいます。菊池市でもパートナーシップ制度を導入してほしいです。同性でも異性でもどんな人も同じ幸せを享受していいはずです。よろしくお願いします。産後ケアの充実をよろしくお願いします。
男性	20歳代	ご高齢や中年層の方々に対して、男女平等を促進する活動をして、時代背景や人生経験により、中々意識を変えるのは難しいと思います。一方で、小中学生の若いお子さん達に呼びかけることで、長期的に見ると男女共同社会の実現に近づけるのではないかと思います。菊池市民として、菊池市が男女参画社会を目指されていて、アンケートを実施されていることを嬉しく思います。私も、自分にできることから実践していきたいと思います。
女性	20歳代	このアンケートをうけ、女性議員や女性役員を増やそうとしているように捉えました。性別によって希望の職種につけないというのは良くないことですが、女性の割合を増やすために優遇するのはまた話が違い、女尊男卑と言われてしまうのではと考えました。ある企業では女性を一定の割合、雇用する決まりがあると聞きましたが、性別関係なく個人の能力を見て欲しいと思っています。
男性	20歳代	役職に「女性を増やす」という短絡的なことではなく、能力があれば年齢性別等に関わりなく採用されるような仕組み作りこそが必要だと思います。
男性	30歳代	周りで妊娠、出産を期に会社から退職させられた者(女性)が居り(菊池市の事業者)反論したがどうにもならない現実に令和になっても変わらないのだなと思った。大きな事業所だけでなく小さな個人会社ほど、研修等が必要ではないかと思う。

Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

性別	年代	内容
女性	30歳代	若い年齢層の夫婦は家の中の役割は決まってなく、できる方がするという所が多く感じます。一方で、田舎の方（特に年齢が上の方々）は家事・育児は女がするもの、男は仕事だけという考え方がとてもしみついているように感じます。もっとそういう考え方をあらためてほしい。アンケートで何か変わればいいですが、人の価値観を変えるのはなかなか難しいです。自分の子どもにそういう価値観を与えないように育てているつもりです。でも、社会がそういう考え方を変えないと世の中何も変わりません。少しずつでも変わればと思います。
女性	30歳代	以前に比べると社会にでる女性も増え、子育てに参加する男性も増えてきているように感じる。一人一人の考え方次第だと思う。
男性	30歳代	政治や企業の役員（管理職）に女性を参加、登用しやすい環境作りを進めていく事には賛成します。しかし、ただ女性だけを増やすのではなく、個々の能力ややる気を考慮する必要はあるかと思います。その為、優秀な人材の育成という土台作りを作っていく事が大切ではないかと私は思います。
女性	30歳代	私は在宅で仕事をしています。それは、夫は仕事がとても忙しく、子供のある家庭では、外で働くことが叶わなかった為です。周りの協力も得られず、何年もかけ、自宅で仕事ができるよう努力して整えてきました。それではやはり、一人で家庭と子どもと夫や両親たちのこと、一人で全てを背負うことは負担が大きく、そんな時に手を差し伸べてくれたのは、女性の市議でした。他の方は何も動いてくれなかったのに、子供達の未来へと一歩を踏み出した母親達の声をひろってくれたのは、やはり同じ立場である女性でした。私はジェンダーに対し、一切の偏見を持っていませんが、「想像力」を持つ人がもっと増えるといいなと思っています。
女性	30歳代	今は昔より家庭・地域・公共等でも、少しずつ変わってきていると思います。本当の平等と感じられる日が来ることを願っております。
女性	30歳代	表面的な「男女平等」ではなく、具体的な提案をして意識を高めてほしい。教育等でも、偏った知識にならない為にも、全てを教えるのではなく必要な知識だけを教育すべきだと思います。
男性	30歳代	男女のみならず、世代間も大きな参画への障害になっていると感じています。未来に備えた、菊池市であって欲しいです。
男性	30歳代	女性の活躍が増えるのは良い事だと思います。ただ取ってつけたように無理矢理増やすのではなく、地域や職場ひいては国内の昔ながらの風潮や意識が変わる必要があるような気がします。男性でも強いばかりではなく弱い立場の人も居るわけで、女性だけが弱い立場というわけでは無いのでは無いかと、この手の話題を見かけるたびに思います。

性別	年代	内容
女性	40歳代	私には子供はいませんが、女性が妊娠、出産、育児を安心してできる環境が整っていれば仕事への不安が減ると思います。会社や地域、保育所等の環境が改善されれば女性がいきいきと暮らしやすくなると思います。
女性	40歳代	男女共同参画社会の実現は、全ての市民の意識を変えて行かなければ不可能。首長、議員、管理職には、男女の区別なく、深く理解されている方になってもらうと、その事自体が啓発に繋がっていくと思う。保育園、幼稚園、学校教育の場で繰り返し子供達へ伝えて行くと、その子供達が大人になった時に男女共同参画はあたりまえという意識を持ち暮らしていけると思う。男だから、女だから、子どもだから、年寄りだからと下に見たりばかにしたりせず、お互いの立場で相手を理解できるような菊池市になると良いですね。
男性	40歳代	最も必要な事は「男は仕事、女は家庭」という古い考えを無くす事だと思います。私も結婚してから妻も仕事をしているため、家事や育児を出来る限りしてきました。子どもの小学校入学に合わせて、実家である菊池市に帰ってきました。実家で当たり前のように家事をしていたところ、私の親から「なんであなたが皿を洗っているの?」と言われました。とてもその言葉に違和感を持ちました。ただし、親が悪いわけではないと思います。古くからある男女の役割の固定観念があるため、そのような発言になったと思います。その考えが無くなっていけば良いと思います。
男性	40歳代	男女共同参画について子供達も参加できる意見交換会をすると良いと思います。今の時代であればリモートなどで。
女性	40歳代	災害時の高齢者への支援の充実をもっと考えて頂きたい。ネット社会に取り残されているため、情報もなく過ごされている方も多いのでは。情報がもっとあれば介護の手がもっと届くように、民生委員の仕事の見直しや改善が必要ではと思います。
女性	40歳代	職場でのセクハラ、地域でのセクハラ等々、いまだに沢山嫌な思いをしながら生きています。この時代に『薄ら笑いセクハラ男性』の意識を変えることは難しいと思います。これからの時代のために、こども達への教育に力を入れて欲しいです。
男性	50歳代	市からの支援や補助等があっても、本人の自覚が一番大切だと思う(意識改革)。小さい頃からの教育も大切だと思います。心構えをしっかり持つ様にする教育。
女性	50歳代	性にかかわらず、その人のできる事、できない事があるので、そこを理解しつつ、助調していくことが大事かな?と思う。

Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

性別	年代	内容
女性	50歳代	働きながら地域活動への参加は難しく、子育て世代は特に家庭の事、自分の子供の事を最優先にしてしまう傾向にある。若い頃から地域活動へ参加し、もっと社会へ目を向けられる機会があれば良いと思う。女性が主たる立場でなかなか活動できないのは、やはり若い頃から社会へ参画する機会が少ないからではないかと思う。子育て時期は大変だが、一歩踏み出し地域活動への参加を出来易い環境作りも大切かと思う。
男性	50歳代	年代によって意識の差が大きい。高齢になるほど、男女の役割固定の意識が大きい。啓発活動は、年代層を考慮して効果的に行って欲しい。高齢化社会を迎える今、高齢者への対応が課題では。特に入れ替わりの少ない昔ながらの地域では、固定観念が強く、人権意識の低さも見られる。男女差別の意識も大きい。
女性	50歳代	男女共同には賛成ではあるが、男性には男性、女性には女性の特色があるので、それを考慮したうえでの男女共同参画であってほしい。
男性	50歳代	まだまだ男女差別はあると思う、が、男は女のように小さな所に気付かない事が多く、女は男のように力が無いので何でも男女平等とはいかないので良い所をとってやれば良いと思う。
男性	50歳代	女性が育児、仕事などやりがいのある環境を改善してほしい。又、女性が政治、自治会など一歩踏み込み、行動で頑張ってもらいたい。
女性	50歳代	家庭での教育がまず身近で出来る事。続いて、学校、地域、会社。男女は全て同じではなく、出産・体力等は異なるが、人権は平等であり、能力に差が生じるのではなく、女性の置かれている環境に問題がある。LGBTQの婚姻、夫が妻の姓を名乗る場合、養子等どちらか一方の姓というのも疑問だ。性差別等、差別には多数ある中で、己で気づかぬ差別、気づき改善していける環境づくりを推進していく事が大事。個人の尊重、能力というより、社会の環境づくり、教育。
男性	50歳代	多様性を受け入れていく教育を進めてほしい。また、将来、外国人の増加も視野に入れ、菊池市だけでなく、海外も視野に入れた男女共同参画を期待します。
男性	50歳代	住民の意識改革が大切だが、最も困難。一気に好転させる術は無いと思うので、根気よく地道な活動を続けていくしかない。
女性	60歳代	自分の考え方次第だと思います。男性だから女性だからではなく家庭それぞれのやり方もあり話し合う事が大事で相手を思いやる事が一番だと思います。私は家事を楽しんでいますし、区の役員も楽しんでしています。主人が仕事で出来ない区の事も楽しんでしていますし、近所の人と仲良く楽しんでいきます。

性別	年代	内容
男性	60歳代	選択性夫婦別姓、LGBT等、女性の社会進出に限らず、人権とそれを大切にする社会の実現のための諸々の問題があるが、行政は同和問題や男女共同参画だけでなく、幅広く色々な問題にもっと取り組んでもらいたい。
男性	60歳代	今は大分増えましたが、男性といえど、料理が出来るぐらいの技術の習得は必要だろうし、女性にも自分でできる事はまず自分でやる、出来ない時初めて人に男性に頼る。その自覚がいます。
男性	60歳代	国会議員、地方議員の男女比率をまず半々にして、範を示すと良いと思う。何事につけてもスピードが遅いと思う。
女性	60歳代	年齢が上にいくにしたがって男尊女卑の思考は根強いです。特に地域の様々な活動において女性の役職等については男女共同参画の目標には程遠い現状があると思います。男性側には女のくせに出しゃばりだ的な見方をする傾向、女性自身にはそう思われたくないからと尻込みをする傾向が多分にあるのが現状です。男女参画といわれるように女性にも優秀な人材が多く潜在しており、大いに顔を上げて社会でも活躍され、地域のユニバーサルデザインの充実にため寄与していかれる菊池市になることを期待します。
女性	60歳代	私達の年代は、結婚を機に退職は当たり前の事でした。男は仕事、女性は子育てと普通に受け止めて来ました。男性の能力、女性の能力を活かしていける社会であればいいです。
女性	60歳代	よりよい菊池市を作っていくには、すべての面において学校教育が基本で重要だと思う。すべての子ども達に質のよい教育を保障して頂きたい(地域教育も含めて)。子ども達を大切にする菊池市なら、きっと子ども達もよりよい菊池市を作っていくってくれると思います。
男性	60歳代	女性の人にも能力のある人はいると思います。家族の協力があれば社会で活躍できる人もいると思います。男性が家事をする、お互いを思いやる気持ちが大切だと思います。子供が小さいときは協力できることは男性の力がある時もあります。それは介護にしても同じです。

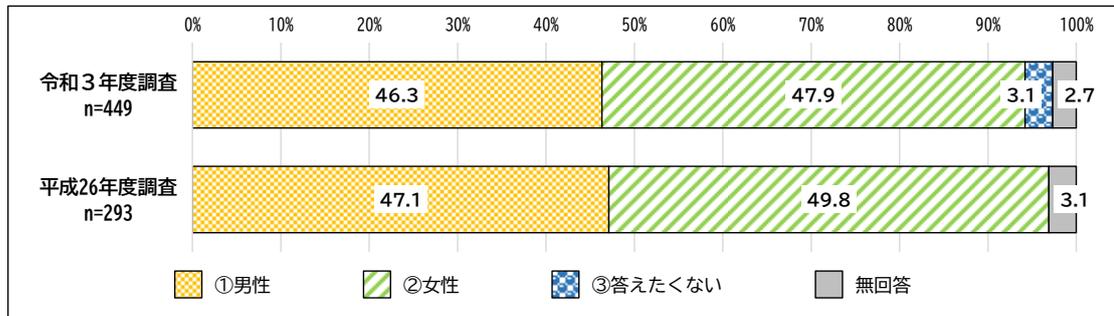
Ⅲ 一般市民に向けた意識調査

性別	年代	内容
女性	60歳代	男性・女性ができる事の確認、障がいのある方、育児しながらの仕事されている方々の素直な意見を聞いてみるべきだと思います。私も4人育てる中、ずっと仕事していく中で、仕事休むのは気がひける、子どもの病気は気になる。両親の看護と職場の中で、「家庭が大切よ」と言って下さる言葉を聞いてほっとしたものでした。余裕がなくなると、全てがきつく、「しなくては、しなくては」と追いつめてしまいます。人々が思いやりを持てるように、教育も必要かと思います。子どもへの教育もですが、親自体の心の持ちようが教えになっていると考えます。ゆとりが無いと優しさが薄れて、言葉も姿も冷たく感じます。心の貧乏とならないように、関わりある人々が気づいていけますように願います。
男性	60歳代	確かに男女は平等ではあるが、まだ多くの女性が家庭の事情を考えて或いは自分の意識から各種役員等へ参加しない状況が有ると思う。
女性	70歳以上	現在75歳の主婦です。二人の子どもを育て上げ2人暮らしですが、夫婦の間でも男女間の差別は感じます。家庭、部落、菊池市において、男女共同参画の社会をつくりあげていくことの大変さをあらためて感じます。いろいろ取り上げられていることに日々の生活、地区の活動、菊池市の為とは思いますが、基本は家庭からスタートすることです。男女参画の言葉だけが一人歩きしてほしくありません。
女性	70歳以上	私は今年で75歳となり、男女共同参画は若い方々は大いに考えながら暮らしやすい社会を保つ様に前進して欲しいです。歳を重ねると夫婦元気で仲良く1日1日を過ごせたら何にも変え易いのです。女性が男性に押しすぎてないで見守る気持ちが大切だと感じます。
女性	70歳以上	男性だから、女性だからではなく、お互い思いやり、やさしさを協力して。若いうちは自我が強くて相手を思いやることもできないことがあります。年を取ると自分でできないことが多くなり、男性に向いていること女性に向いていることがよく理解できるようになってきます。菊池市では、男女共同参画はよくできているかと思います。その上でこのようなアンケートまで係の方々の情熱に頭が下がります。
女性	70歳以上	市の人口減少している。住みよい市にしてください。市としての人口を守るように女性も男性も活動できる市、子育てをしていけるように財源を使ってください。中身が大事です。
男性	70歳以上	女性の市議会議員が多くなることを望みます。

IV 中学生に向けた意識調査

1 あなたご自身のことについて

あなたの性別を教えてください。



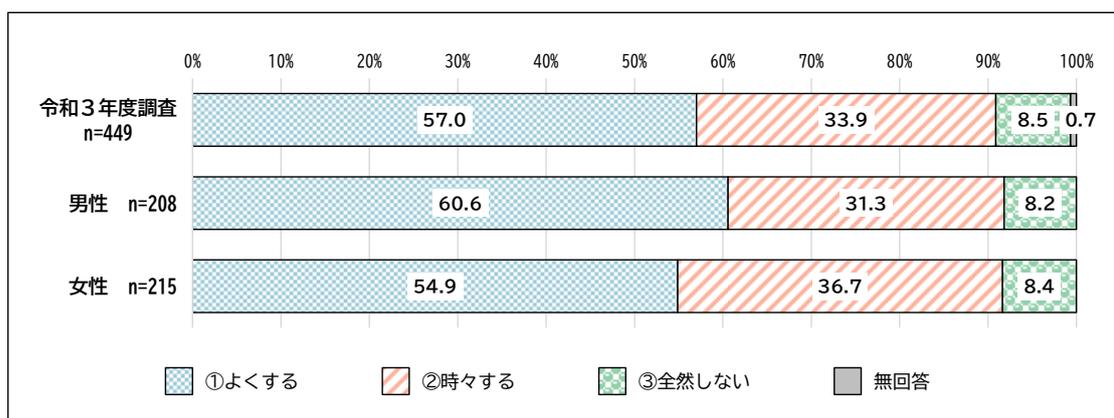
※「③答えたくない」の選択肢は、令和3年度調査より新たに設けています。平成26年度調査では選択肢にございません。

- 自身の性別については、「男性」(46.3%)、「女性」(47.9%)、「答えたくない」(3.1%)となっています。

2 あなたの身の回りのことについて

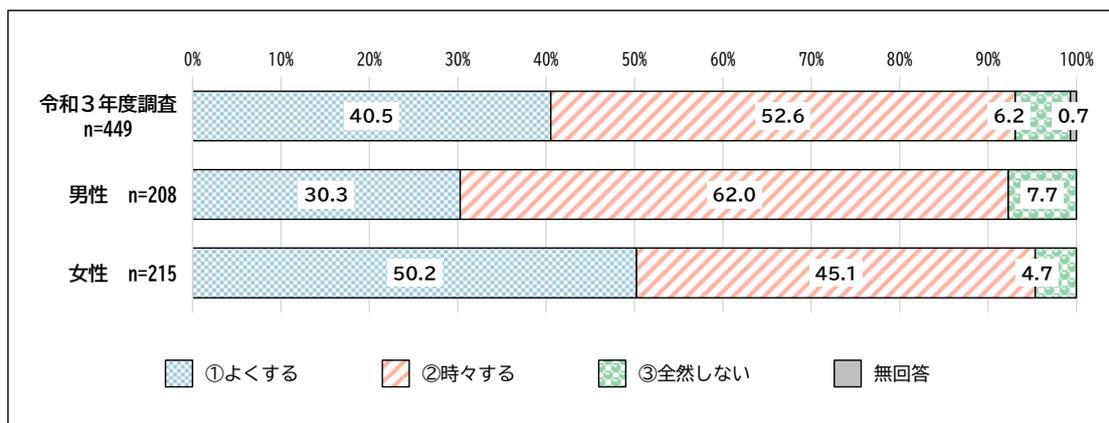
問1 あなたは、身の回りのことをどのようにしていますか。(単数回答)

㊦朝一人で起床する



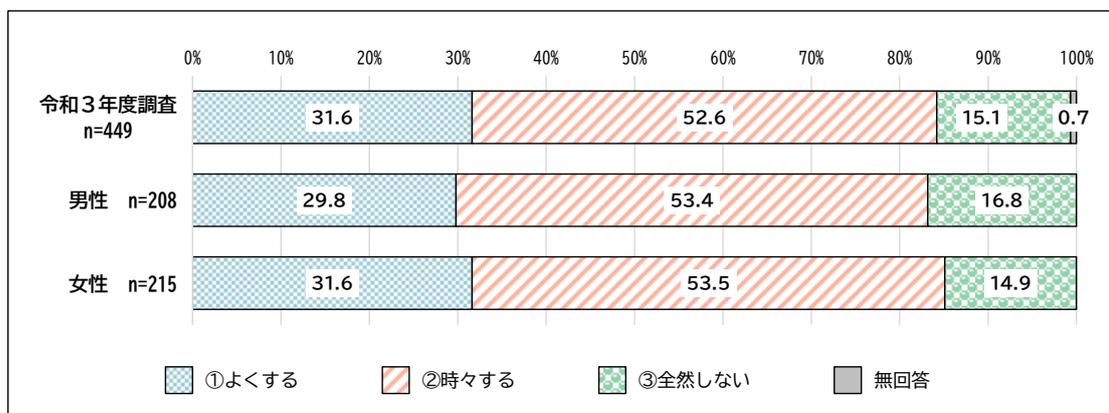
- 朝一人で起床するでは、「よくする」(57.0%)の割合が最も高く、次いで「時々する」(33.9%)、「全然しない」(8.5%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「よくする」(60.6%)の割合が女性より高く、女性では「時々する」(36.7%)の割合が男性より高くなっています。

①自分の身の回りの整理や部屋を片づける



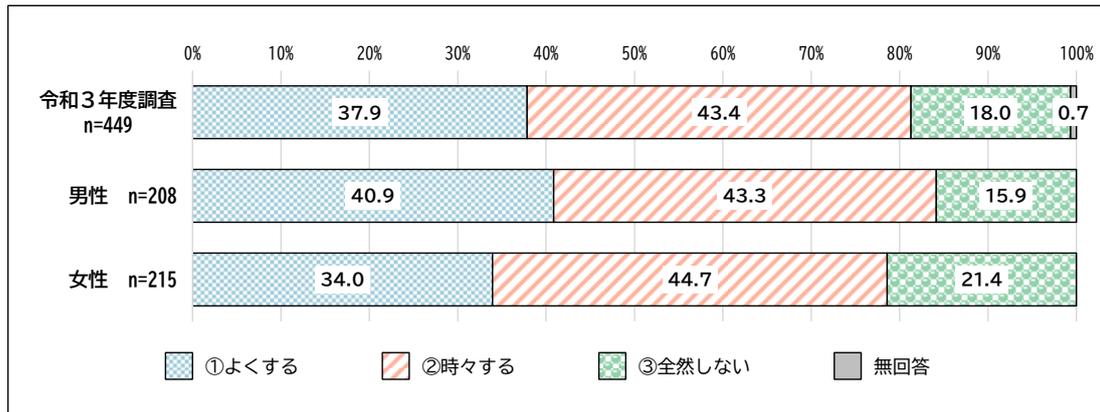
- 自分の身の回りの整理や部屋を片づけるでは、「時々する」(52.6%)の割合が最も高く、次いで「よくする」(40.5%)、「全然しない」(6.2%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「時々する」(62.0%)の割合が女性より高く、女性では「よくする」(50.2%)の割合が男性より高くなっています。

②家事の手伝いをする



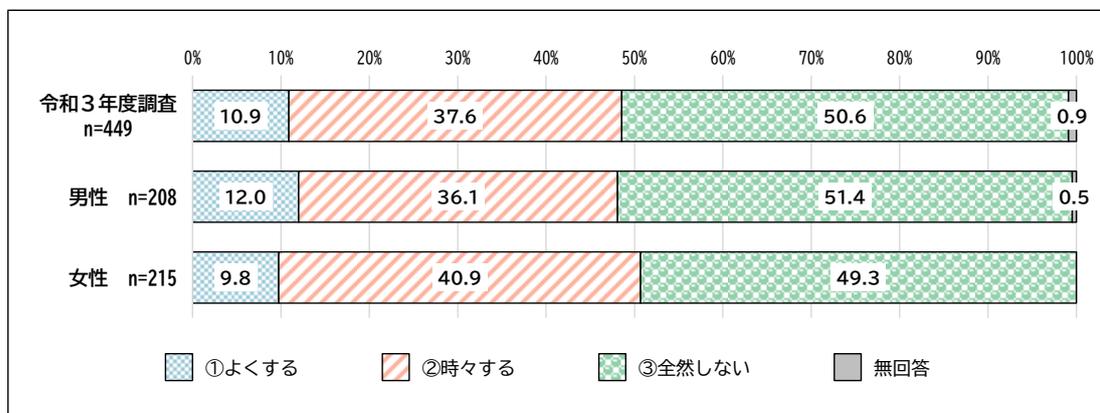
- 家事の手伝いをするでは、「時々する」(52.6%)の割合が最も高く、次いで「よくする」(31.6%)、「全然しない」(15.1%)となっています。

⑤自分の小遣いを計画的に管理する



- 自分の小遣いを計画的に管理するでは、「時々する」(43.4%)の割合が最も高く、次いで「よくする」(37.9%)、「全然しない」(18.0%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「よくする」(40.9%)の割合が女性より高く、女性では「全然しない」(21.4%)の割合が男性より高くなっています。

⑥地区の催しやボランティア活動に参加する

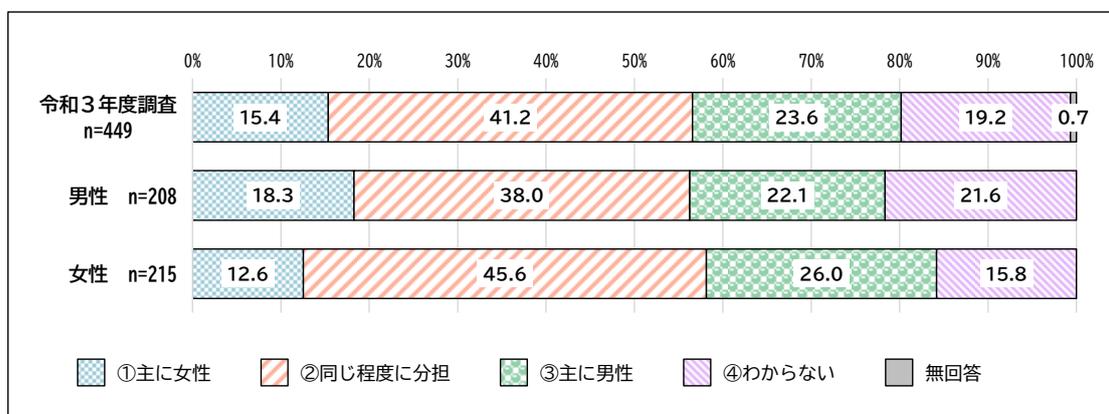


- 地区の催しやボランティア活動に参加するでは、「全然しない」(50.6%)の割合が最も高く、次いで「時々する」(37.6%)、「よくする」(10.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「よくする」(12.0%)の割合が女性より高く、女性では「時々する」(40.9%)の割合が男性より高くなっています。

IV 中学生に向けた意識調査

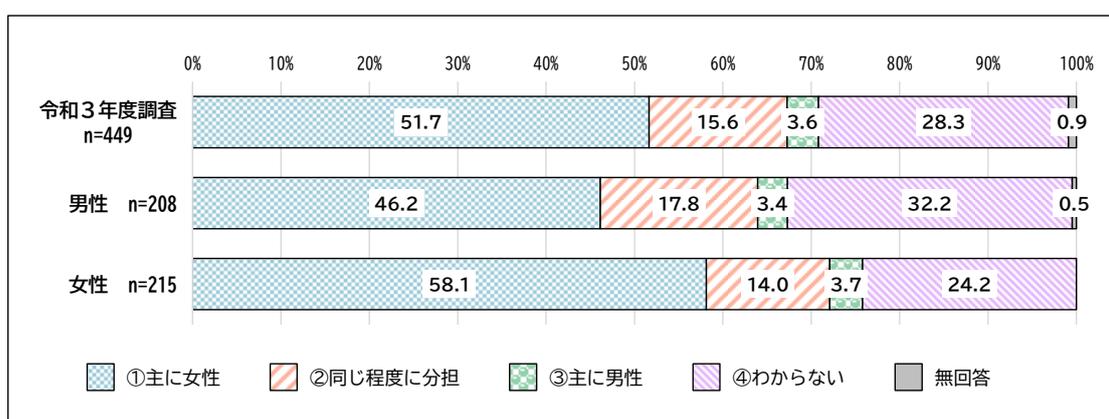
問2 あなたの家庭では、日常的な事गरら、主にだれが分担していますか。
(単数回答)

㊦家計を支える (生活費を稼ぐ)



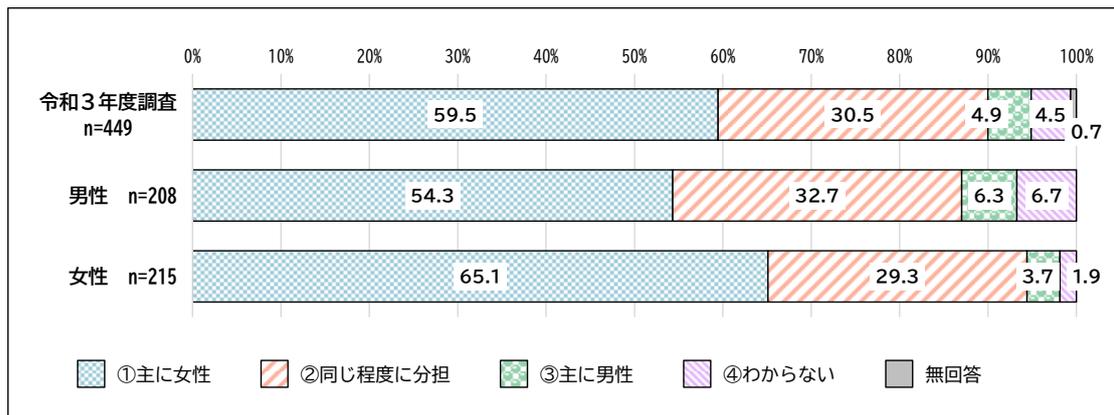
- 家計を支える (生活費を稼ぐ) では、「同じ程度に分担」(41.2%) の割合が最も高く、次いで「主に男性」(23.6%)、「わからない」(19.2%) となっています。
- 男女別にみると、男性では「主に女性」(18.3%)、「わからない」(21.6%) の割合が女性より高く、女性では「同じ程度に分担」(45.6%) の割合が男性より高くなっています。

㊧日々の家計の管理



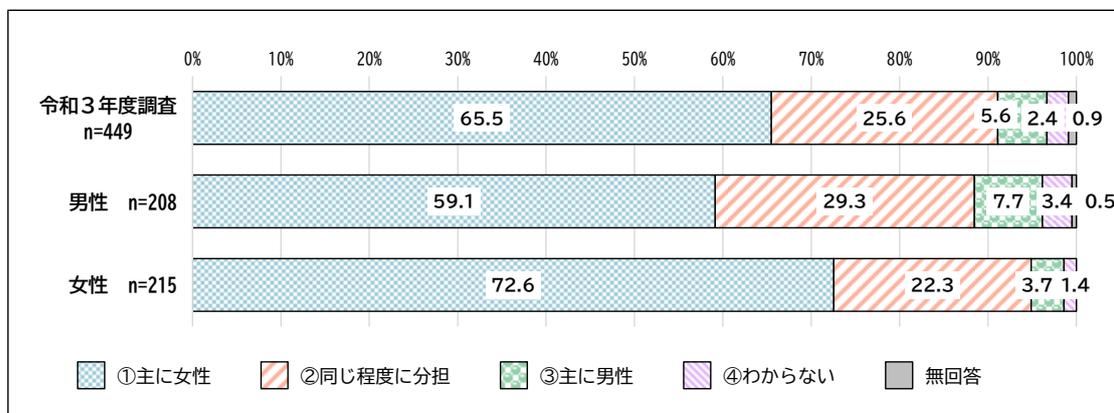
- 日々の家計の管理では、「主に女性」(51.7%) の割合が最も高く、次いで「わからない」(28.3%)、「同じ程度に分担」(15.6%) となっています。
- 男女別にみると、男性では「わからない」(32.2%) の割合が女性より高く、女性では「主に女性」(58.1%) の割合が圧倒的に男性より高くなっています。

㊦ 掃除



- 掃除では、「主に女性」(59.5%)の割合が最も高く、次いで「同じ程度に分担」(30.5%)、「主に男性」(4.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「同じ程度に分担」(32.7%)の割合が女性より高く、女性では「主に女性」(65.1%)の割合が圧倒的に男性より高くなっています。

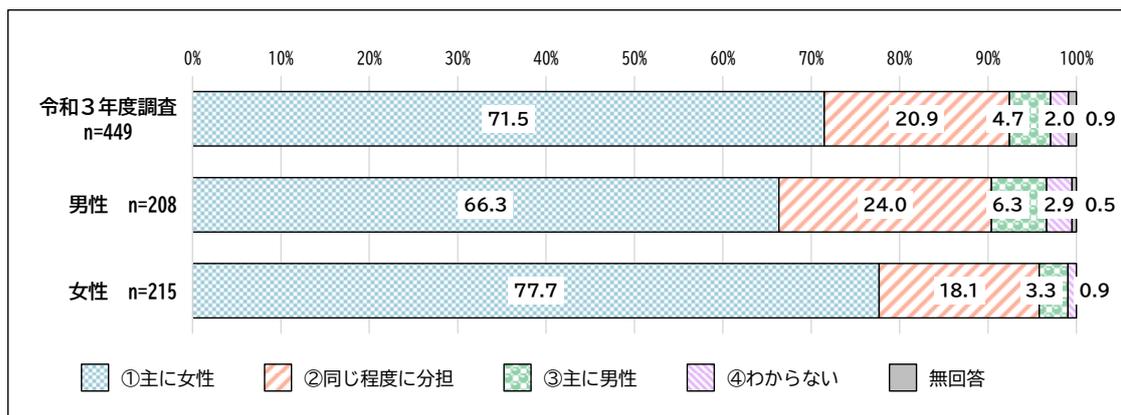
㊧ 洗濯



- 洗濯では、「主に女性」(65.5%)の割合が最も高く、次いで「同じ程度に分担」(25.6%)、「主に男性」(5.6%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「同じ程度に分担」(29.3%)の割合が女性より高く、女性では「主に女性」(72.6%)の割合が圧倒的に男性より高くなっています。

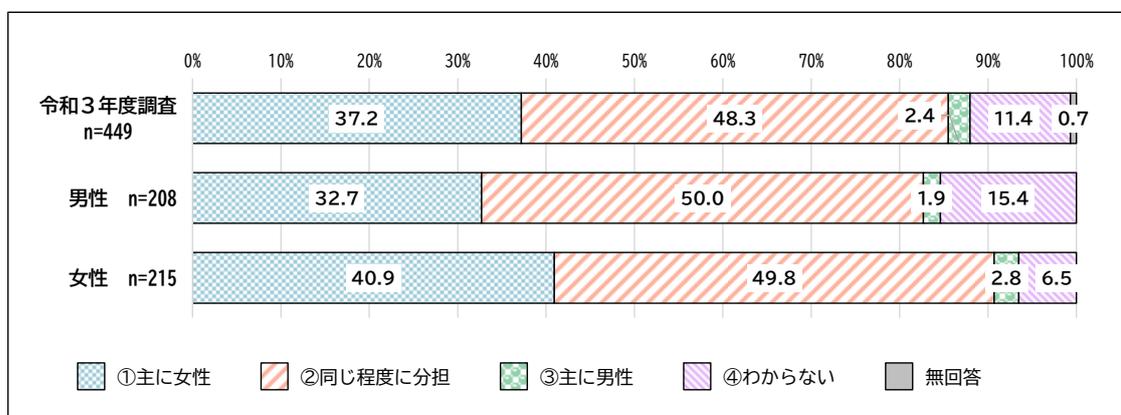
IV 中学生に向けた意識調査

㊦ 食事のしたく



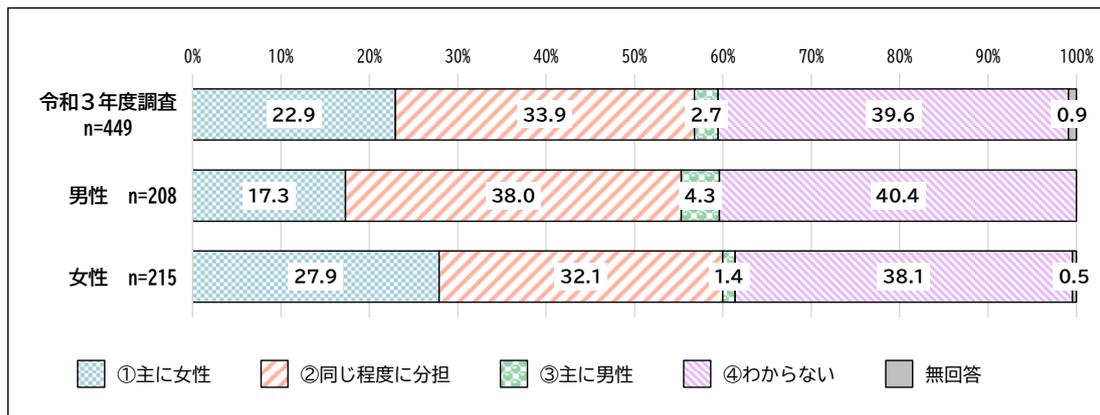
- 食事のしたくでは、「主に女性」(71.5%)の割合が最も高く、次いで「同じ程度に分担」(20.9%)、「主に男性」(4.7%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「同じ程度に分担」(24.0%)の割合が女性より高く、女性では「主に女性」(77.7%)の割合が圧倒的に男性より高くなっています。

㊦ 育児、子どもの世話



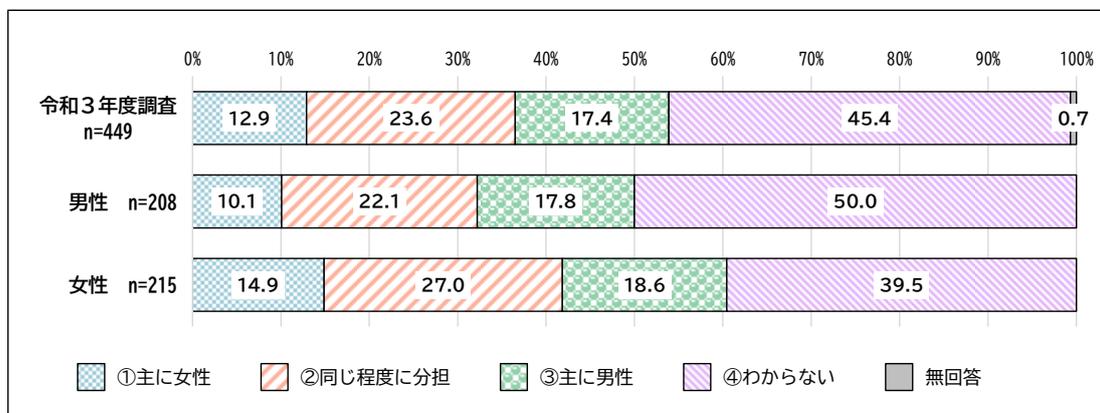
- 育児、子どもの世話では、「同じ程度に分担」(48.3%)の割合が最も高く、次いで「主に女性」(37.2%)、「わからない」(11.4%)となっています。
- 男女別にみると、女性では「主に女性」(40.9%)の割合が圧倒的に男性より高くなっています。

⑤ 家族の世話（介護）



- 家族の世話（介護）では、「わからない」（39.6%）の割合が最も高く、次いで「同じ程度に分担」（33.9%）、「主に女性」（22.9%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「同じ程度に分担」（38.0%）の割合が女性より高く、女性では「主に女性」（27.9%）の割合が圧倒的に男性より高くなっています。

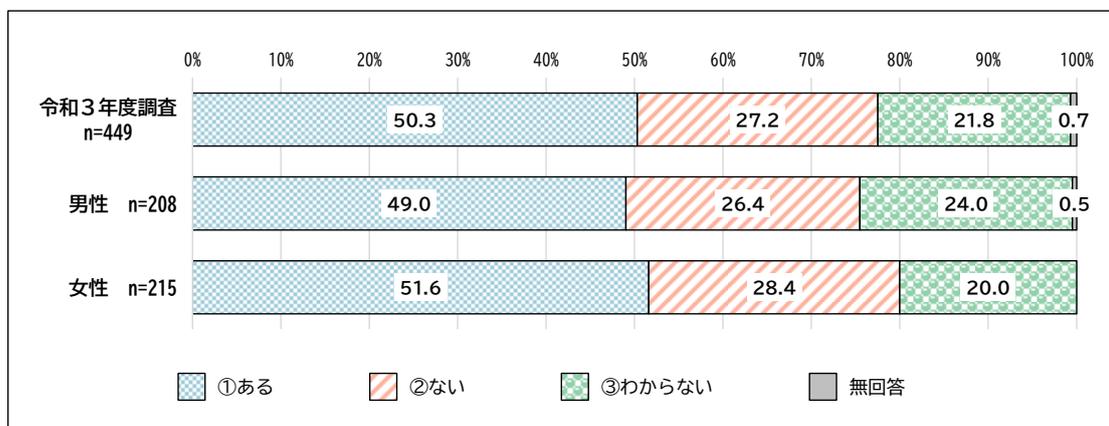
⑥ 美化活動などの地域活動



- 美化活動などの地域活動では、「わからない」（45.4%）の割合が最も高く、次いで「同じ程度に分担」（23.6%）、「主に男性」（17.4%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「わからない」（50.0%）の割合が高くなっています。

3 男女共同参画に関する意識について

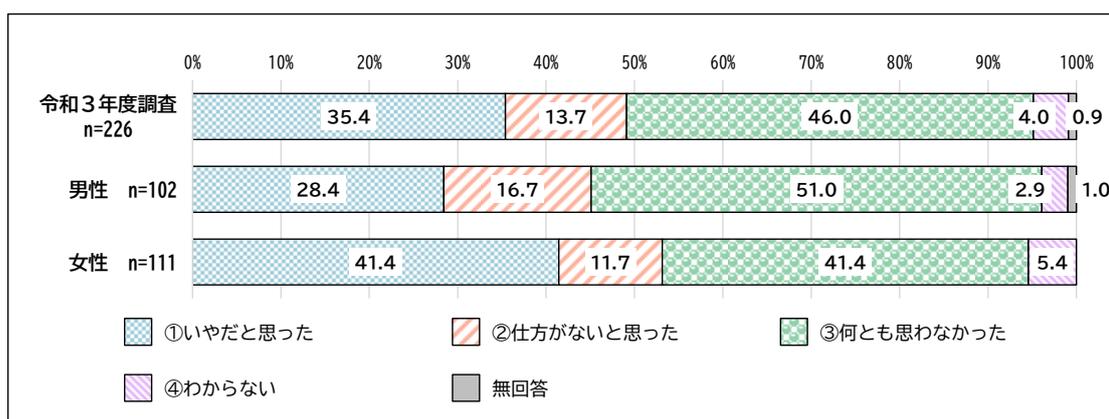
問3 あなたは、「女の子はおとなしくしなさい」「男の子のくせに泣くな」などと言われたことはありませんか。(単数回答)



- 「女の子はおとなしくしなさい」「男の子のくせに泣くな」などと言われたことがあるかについては、「ある」(50.3%)の割合が最も高く、次いで「ない」(27.2%)、「わからない」(21.8%)となっています。

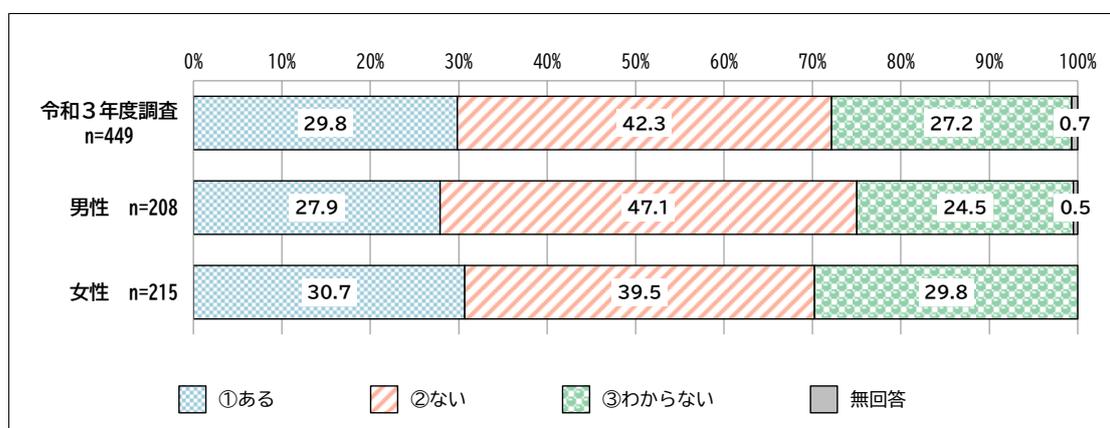
問3で「① ある」と答えた方のみ回答

問4 そう言われたとき、あなたはどう思いましたか。(単数回答)



- 言われたとき、どう思ったかについては、「何とも思わなかった」(46.0%)の割合が最も高く、次いで「いやだと思った」(35.4%)、「仕方がないと思った」(13.7%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「何とも思わなかった」(51.0%)の割合が女性より高く、女性では「いやだと思った」(41.4%)の割合が男性より高くなっています。

問5 あなたは、学校の中で男女の扱いに違和感を感じた（おかしいのではないかと感じた）ことはありませんか。（単数回答）

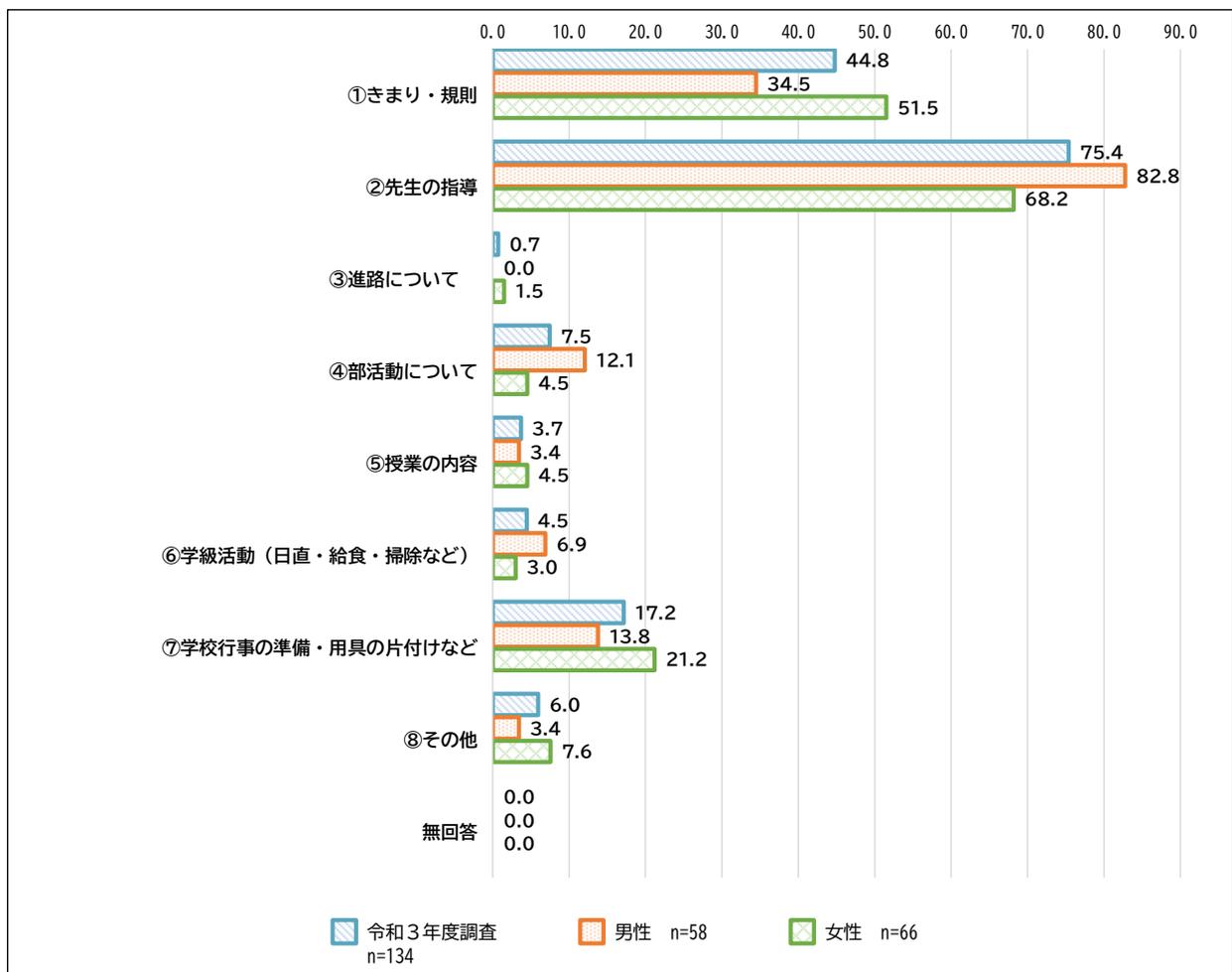


- 学校の中で男女の扱いに違和感を感じた（おかしいのではないかと感じた）ことについては、「ない」（42.3%）の割合が最も高く、次いで「ある」（29.8%）、「わからない」（27.2%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「ない」（47.1%）の割合が女性より高くなっています。

IV 中学生に向けた意識調査

問5で「① ある」と答えた方のみ回答

問6 それはどのようなことでしたか。(複数回答)



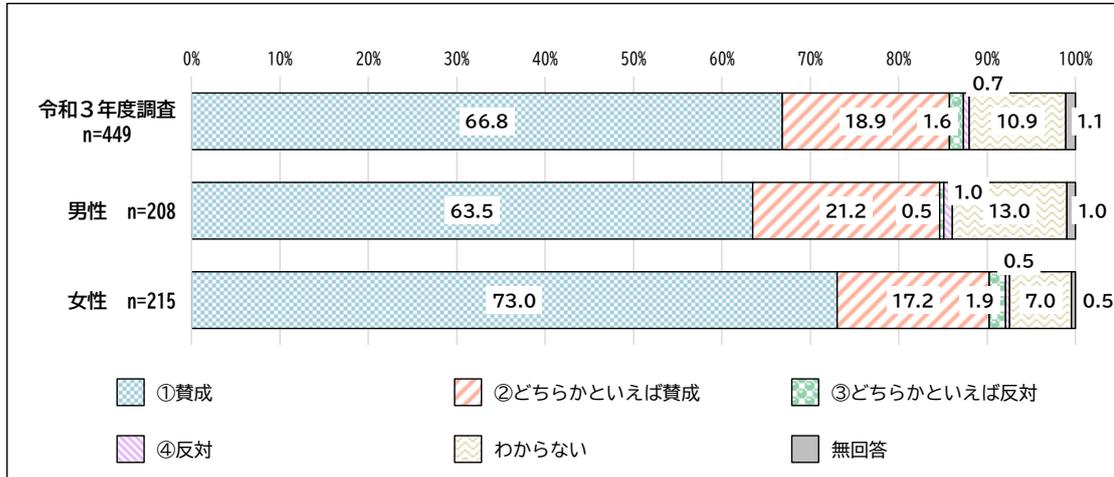
- それはどのようなことかについては、「先生の指導」(75.4%)の割合が最も高く、次いで「きまり・規則」(44.8%)、「学校行事の準備・用具の片付けなど」(17.2%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「先生の指導」(82.8%)、「部活動について」(12.1%)の割合が女性より高く、女性では「きまり・規則」(51.5%)、「学校行事の準備・用具の片付けなど」(21.2%)の割合が男性より高くなっています。

※その他の回答

着替えをする場所
先生の態度が違う
忘れ物の時、男子にだけ怒鳴る。
学校行事
髪型、服装、みだしなみ。

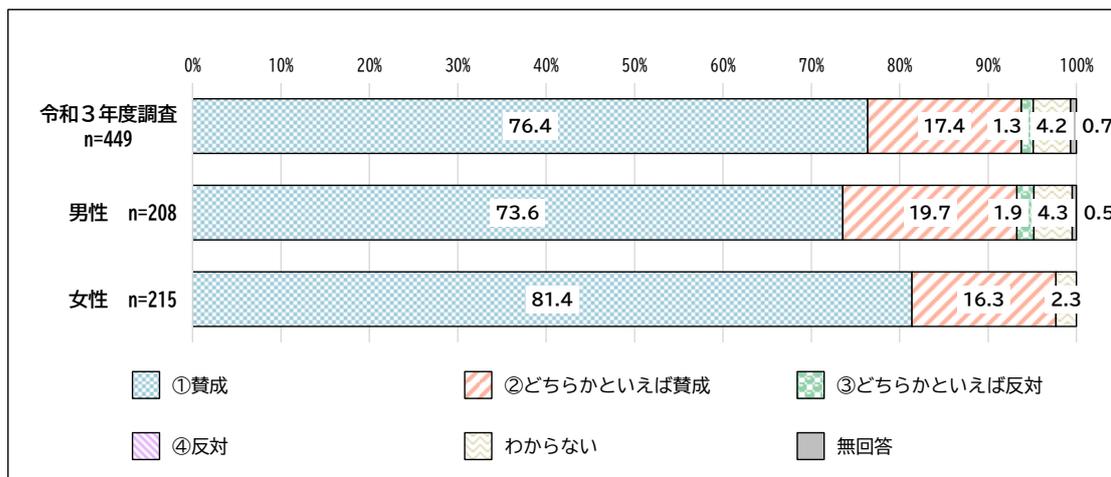
問7 これまで「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方がありました。次の㊦～㊨についてあなたの考えに近いものをお答えください（単数回答）

㊦男女ともに、経済的に自立する



- 男女ともに、経済的に自立するでは、「賛成」（66.8％）の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」（18.9％）、「わからない」（10.9％）となっています。「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答している人は全体の85.7％となっており、男女ともに、経済的に自立することについて”賛成派“が多数となっています。
- 男女別にみると、女性では「賛成」（73.0％）の割合が男性より高くなっています。

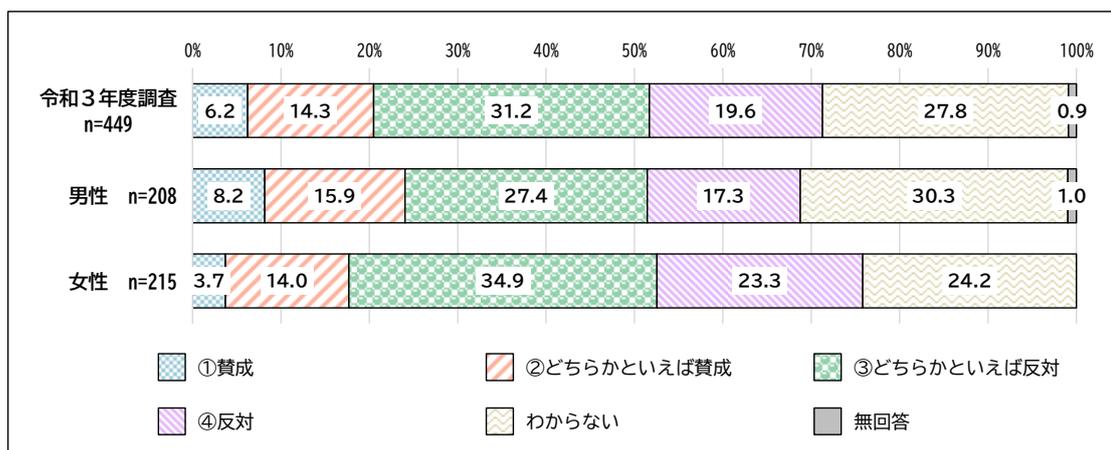
①男女ともに、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につける



●男女ともに、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけるでは、「賛成」(76.4%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(17.4%)、「わからない」(4.2%)となっています。「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答している人は全体の93.8%となっており、男女ともに、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることについて”賛成派“が多数となっています。

●男女別にみると、女性では「賛成」(81.4%)の割合が男性より高くなっています。

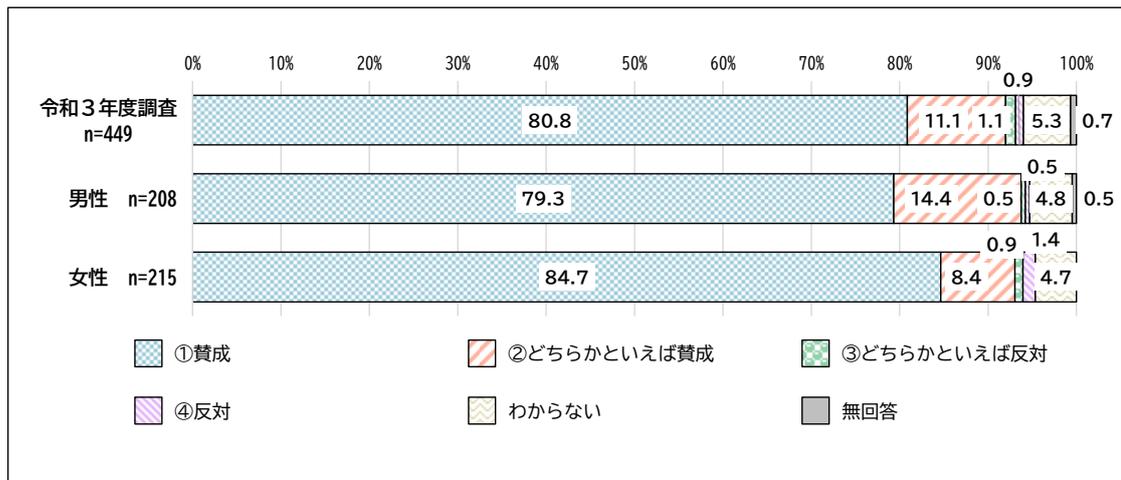
②男性は外で働き、女性は家庭を守る



●男性は外で働き、女性は家庭を守るでは、「どちらかといえば反対」(31.2%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(27.8%)、「反対」(19.6%)となっています。

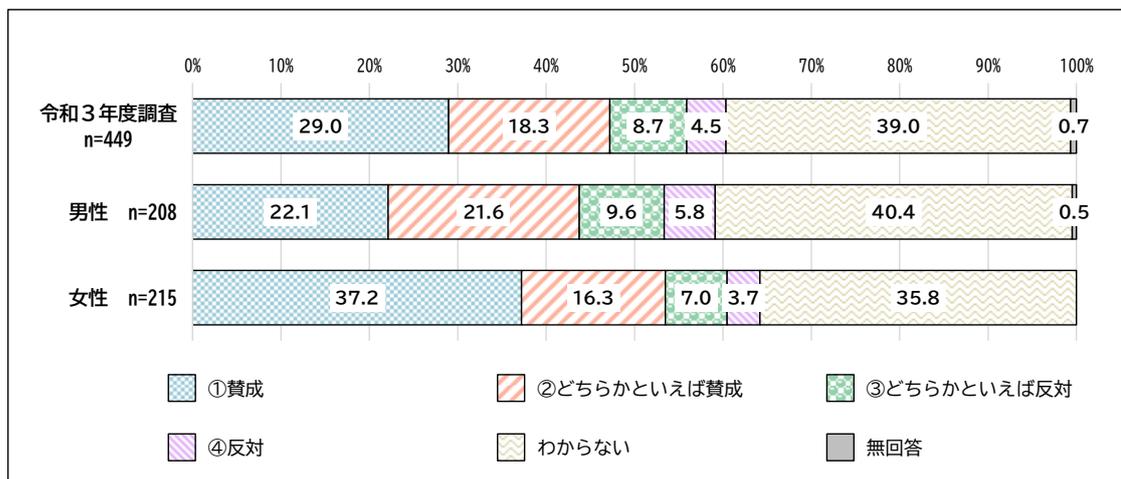
●男女別にみると、女性では「どちらかといえば反対」「反対」(58.2%)の割合が男性より高くなっています。

⑤夫婦が協力して家事や育児をする



- 夫婦が協力して家事や育児をするでは、「賛成」(80.8%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(11.1%)、「わからない」(5.3%)となっています。「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答している人は全体の91.9%となっており、夫婦が協力して家事や育児をすることについて”賛成派“が多数となっています。
- 男女別にみると、女性では「賛成」(84.7%)の割合が男性より高くなっています。

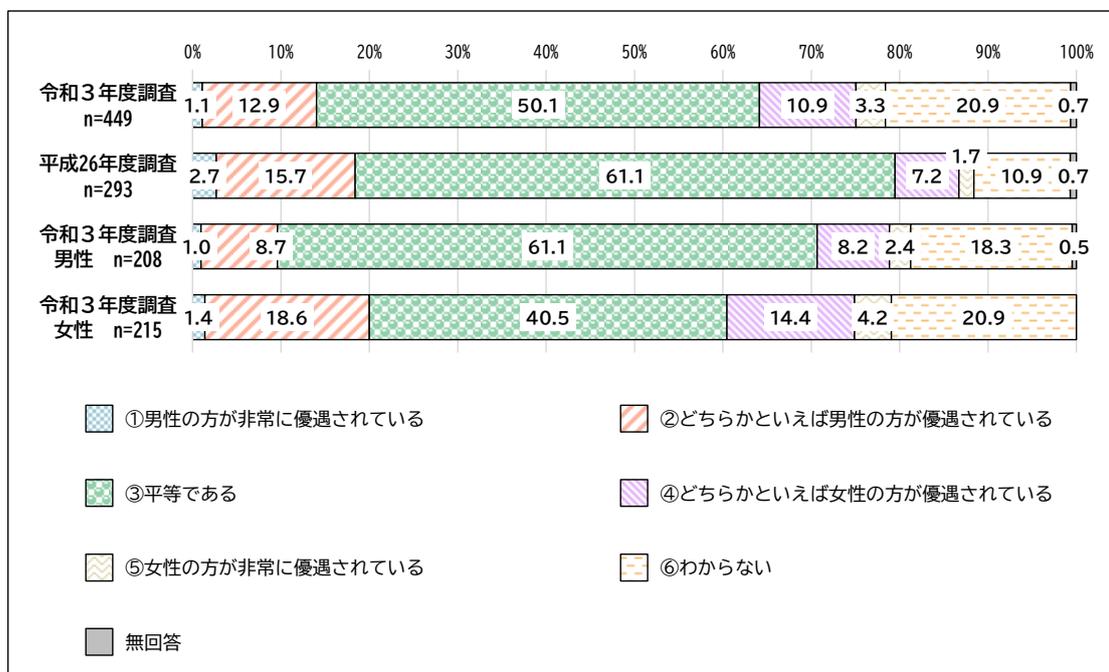
⑥男性が育児・介護休業をとる



- 男性が育児・介護休業をとるでは、「わからない」(39.0%)の割合が最も高く、次いで「賛成」(29.0%)、「どちらかといえば賛成」(18.3%)となっています。
- 男女別にみると、女性では「賛成」(37.2%)の割合が男性より高くなっています。

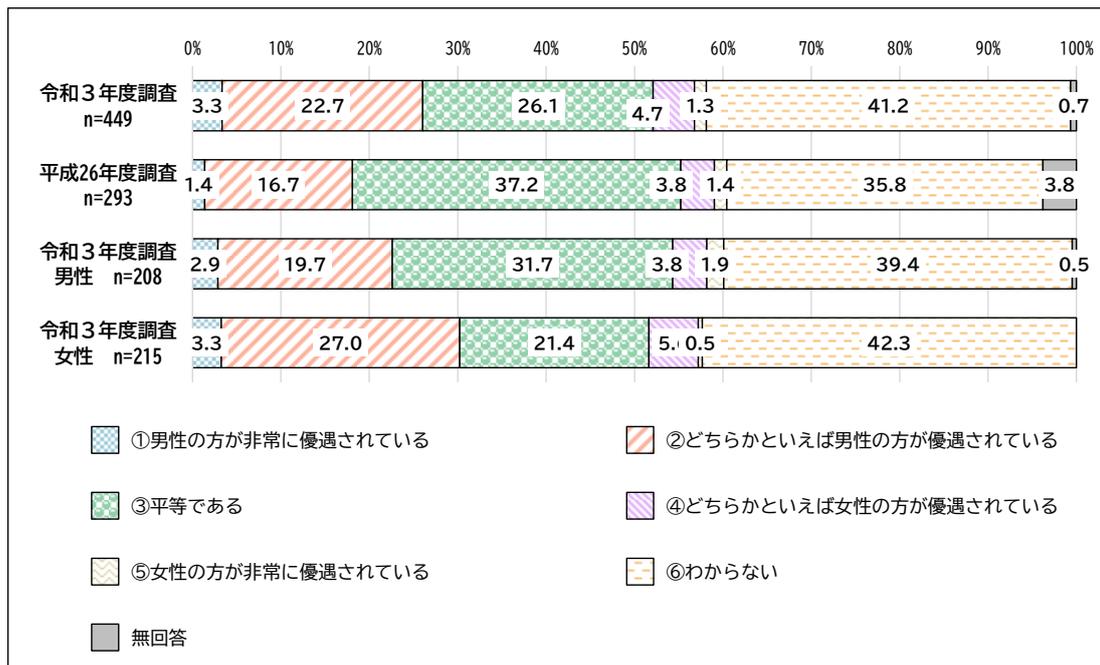
問8 あなたは、社会のいろいろな面において男女の地位は平等になっていると思いますか。(単数回答)

ア 家庭生活では



- 男女の地位の平等について家庭生活では、「平等である」(50.1%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(20.9%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(12.9%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「平等である」(61.1%)の割合が女性より高く、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(18.6%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「男性優遇」と回答している人の割合が低く、「女性優遇」及び「わからない」と回答している人の割合が高くなっています。

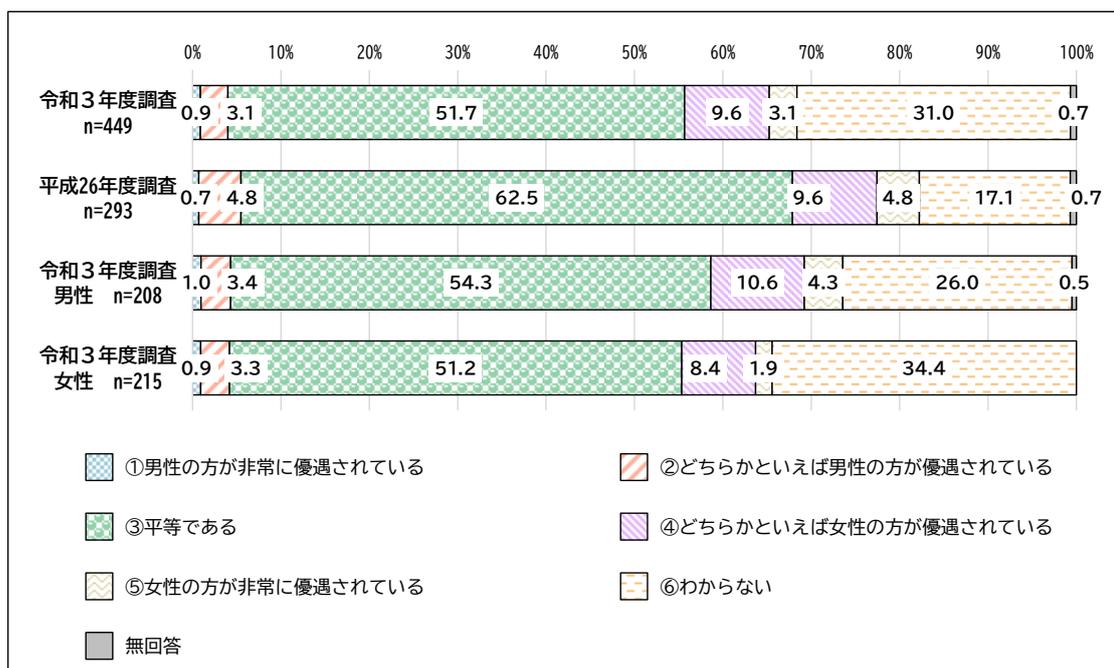
①仕事の場では



- 男女の地位の平等について仕事の場では、「わからない」(41.2%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(26.1%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(22.7%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「平等である」(31.7%)の割合が女性より高く、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(27.0%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「平等である」と回答している人の割合が、11.1ポイント低くなっています。

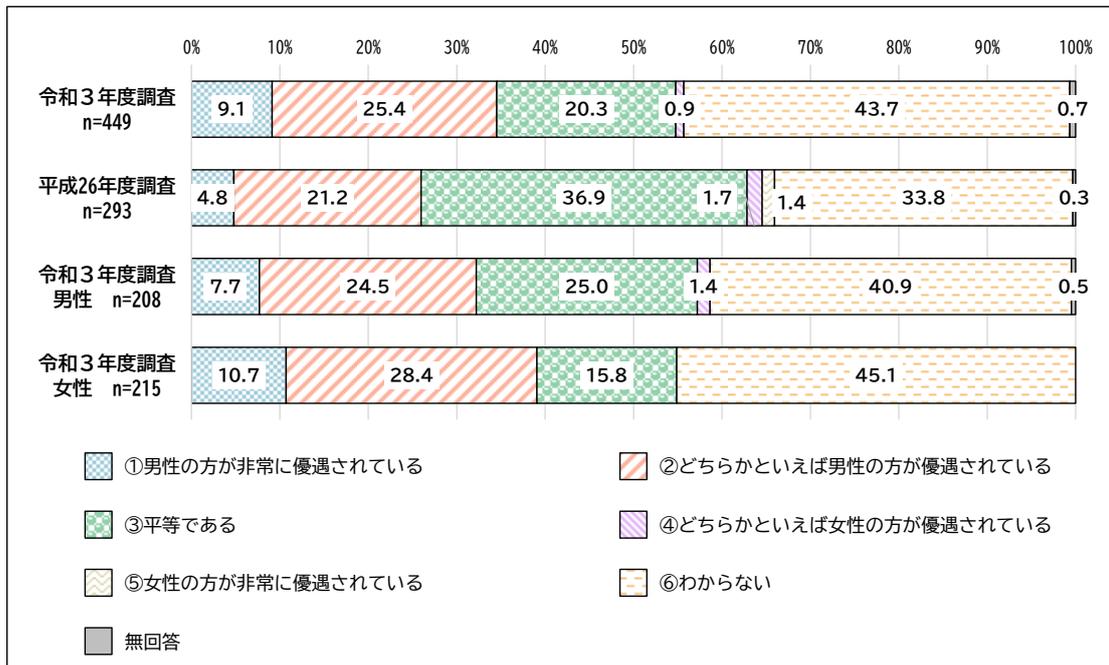
IV 中学生に向けた意識調査

㊦学校教育の場では



- 男女の地位の平等について学校教育の場では、「平等である」(51.7%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(31.0%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(9.6%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」(14.9%)の割合が女性より高く、女性では「わからない」(34.4%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「平等である」と回答している人の割合が、10.8ポイント低くなっています。

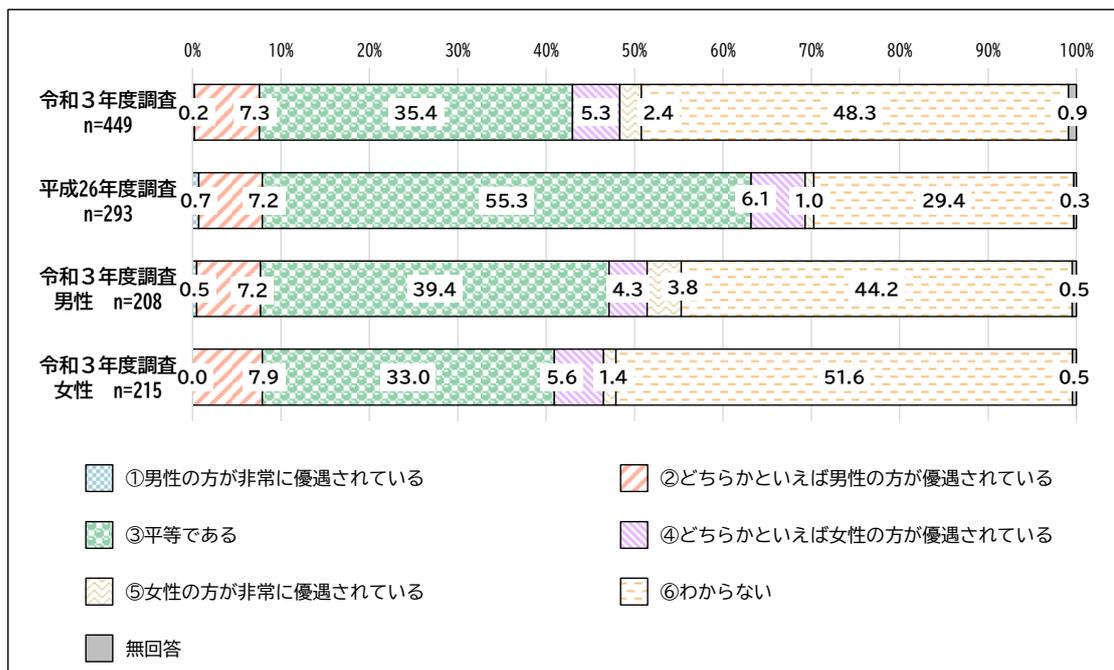
⑤政治の場では（国会議員や市議会議員など）



- 男女の地位の平等について政治の場（国会議員や市議会議員など）では、「わからない」（43.7%）の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（25.4%）、「平等である」（20.3%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「平等である」（25.0%）の割合が女性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「平等である」と回答している人の割合が、16.6ポイント低くなっています。

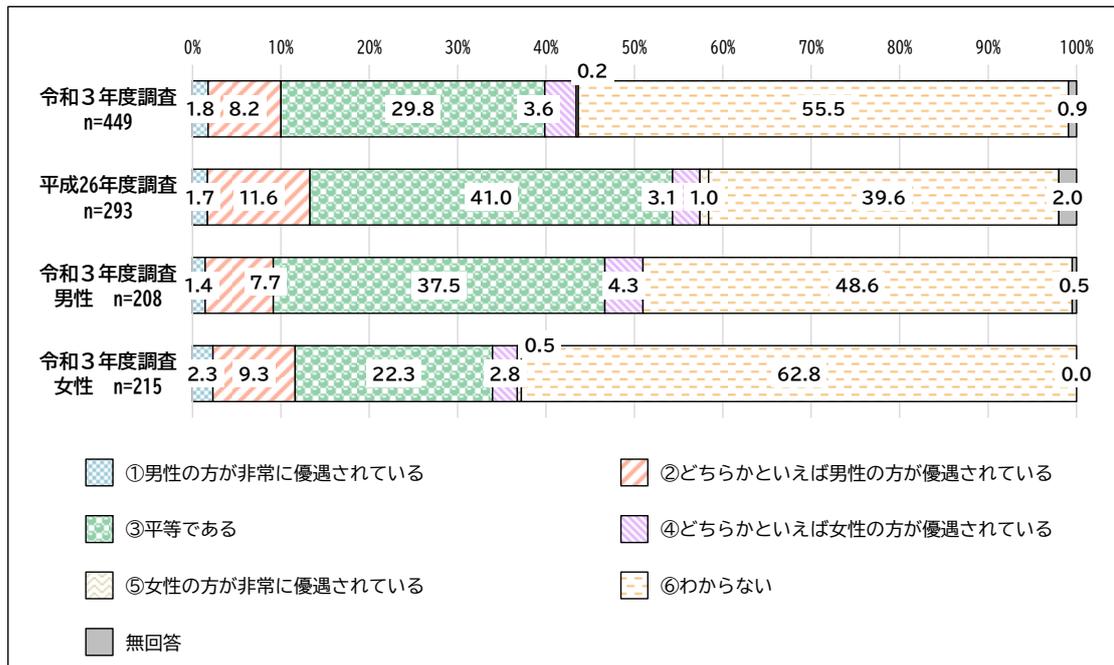
IV 中学生に向けた意識調査

㊦ 法律や制度の上では



- 男女の地位の平等について法律や制度の上では、「わからない」(48.3%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(35.4%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(7.3%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「平等である」(39.4%)の割合が女性より高く、女性では「わからない」(51.6%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「平等である」と回答している人の割合が、19.9ポイント低く、「わからない」と回答している人の割合が18.9ポイント高くなっています。

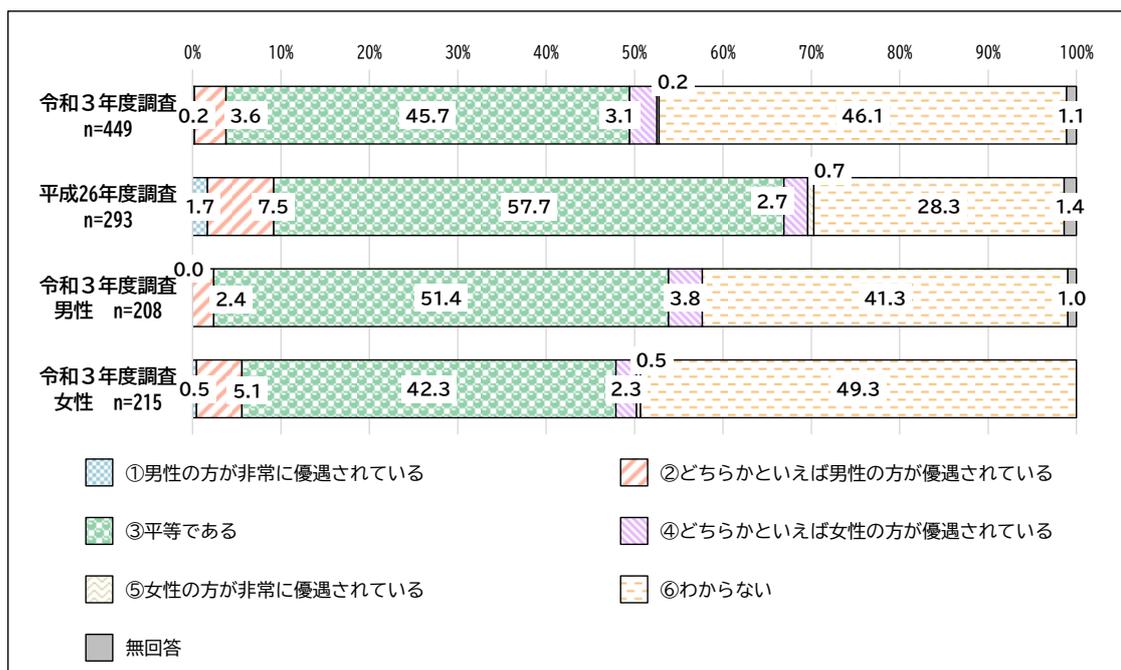
㊦慣習・しきたり等では



- 男女の地位の平等について慣習・しきたり等では、「わからない」(55.5%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(29.8%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(8.2%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「平等である」(37.5%)の割合が女性より高く、女性では「わからない」(62.8%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「平等である」と回答している人の割合が11.2ポイント低く、「わからない」と回答している人の割合が15.9ポイント高くなっています。

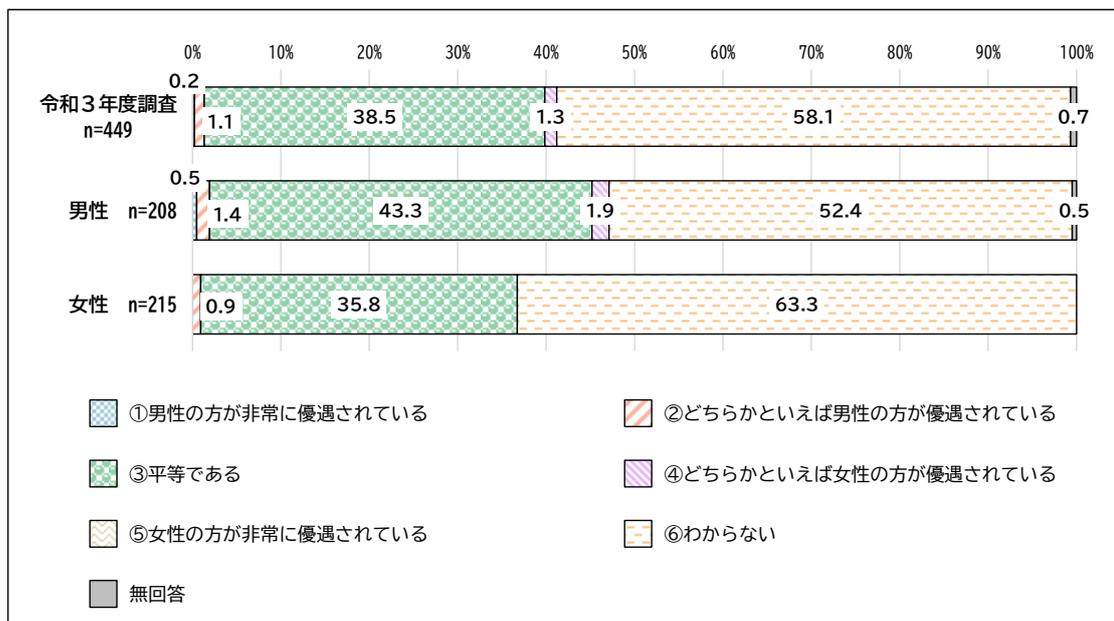
IV 中学生に向けた意識調査

㊦地域の間では



- 男女の地位の平等について地域の間では、「わからない」(46.1%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(45.7%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(3.6%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「平等である」(51.4%)の割合が女性より高く、女性では「わからない」(49.3%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「平等である」と回答している人の割合が12.0ポイント低く、「わからない」と回答している人の割合が17.8ポイント高くなっています。

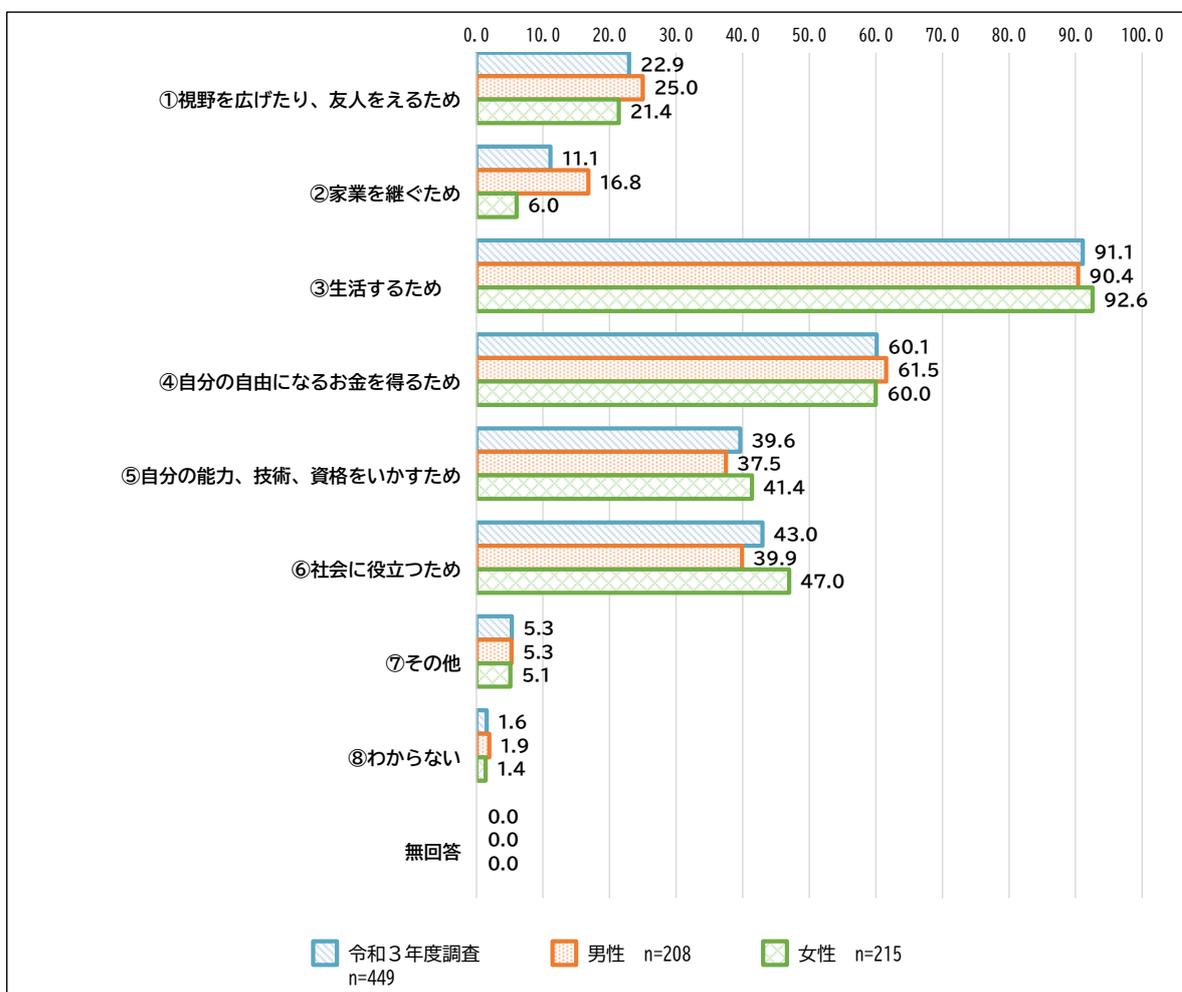
⑦菊池市全体では



- 男女の地位の平等について菊池市全体では、「わからない」(58.1%)の割合が最も高く、次いで「平等である」(38.5%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(1.3%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「平等である」(43.3%)の割合が女性より高く、女性では「わからない」(63.3%)の割合が男性より高くなっています。

4 働くことについて

問9 あなたが将来働く理由はどのようなことだと思いますか。(複数回答)

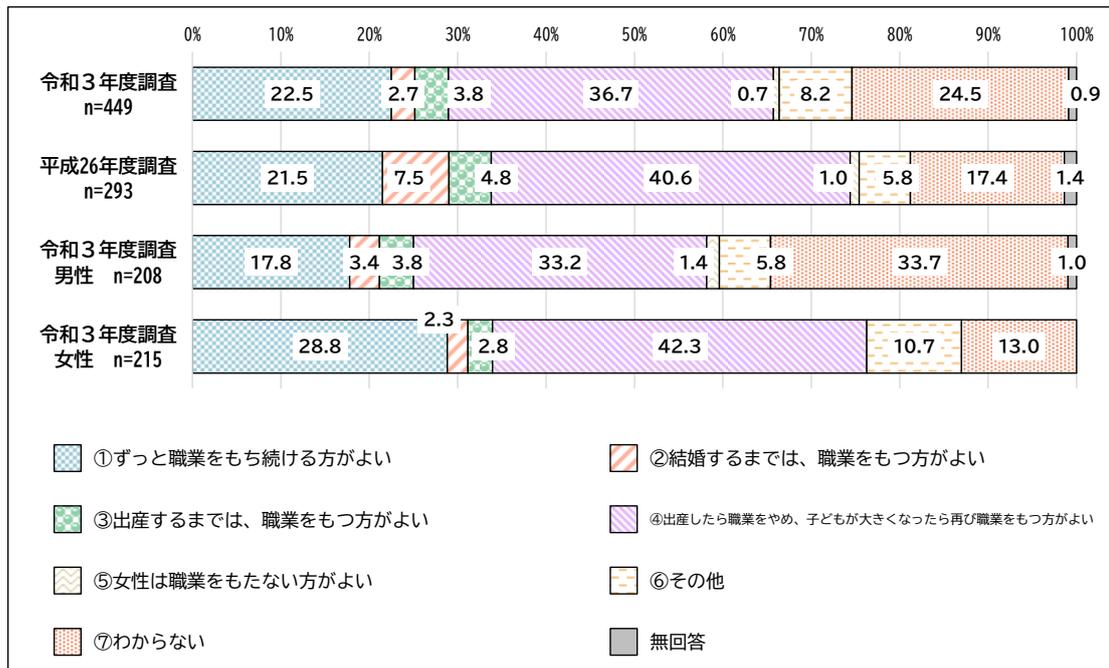


- 将来働く理由については、「生活するため」(91.1%)の割合が最も高く、次いで「自分の自由になるお金を得るため」(60.1%)、「社会に役立つため」(43.0%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「家業を継ぐため」(16.8%)の割合が女性より高く、女性では「社会に役立つため」(47.0%)の割合が男性より高くなっています。

※その他の回答

自分の好きな事をしたいから。	やってみたいからやってみる。
それが常識としてそなわっているから。	やりたいことをするため。
不自由のない生活をするため。	人の目標や人に夢を与えるため。
親孝行。	自分の好きなことを仕事にしたいから。
幼い頃からの夢を叶えるため。	人を助けて笑顔を増やすため。
生きるために仕方なく。	楽しむため。

問 10 あなたは、女性の働き方について、どのように思いますか。(単数回答)



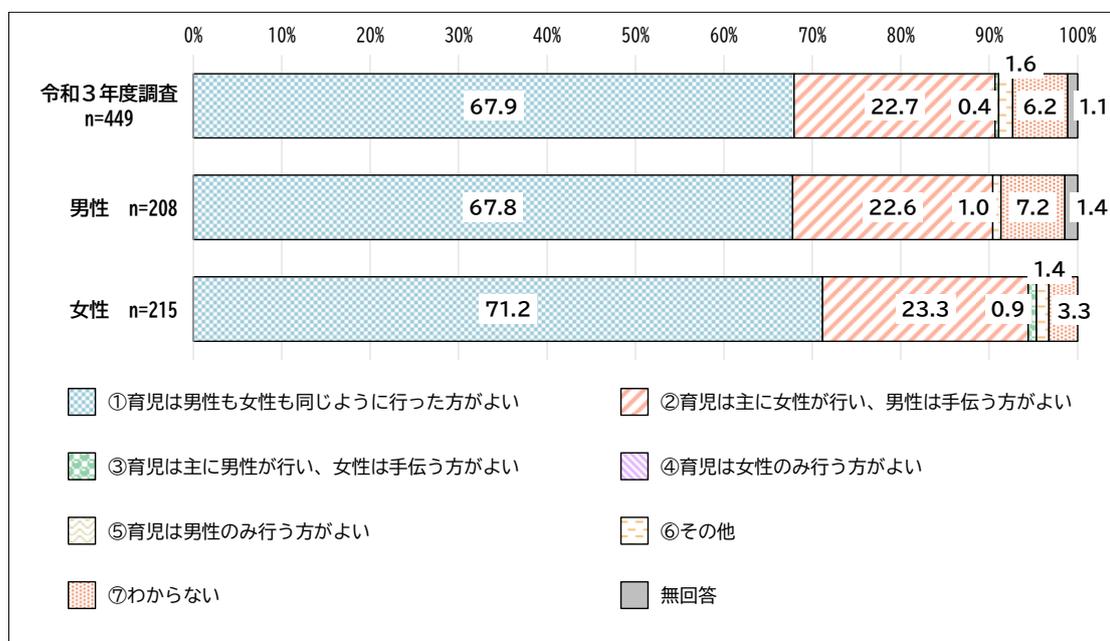
- 女性の働き方については、「出産したら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(36.7%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(24.5%)、「ずっと職業をもち続ける方がよい」(22.5%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「わからない」(33.7%)の割合が女性より高く、女性では「ずっと職業をもち続ける方がよい」(28.8%)、「出産したら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(42.3%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」と回答している人の割合が、4.8ポイント低くなっています。

※その他の回答(一部抜粋)

一人一人が自由に決める方がよいと思う。どちらの方がよいと押し付けるべきじゃないと思う。
家庭の事情やその人の体調とかも考えながら、個人個人の判断でいいと思う。
出産した後も職業をもつ
出産したら職業はやめずに、3~5年間休みをとる。
働き方はたくさんあるのだから、好きに生き、周りはサポートしたらいいと思う。
働けない理由もあるかもしれないので、良いも悪いもないと思う。
出産する前は休みをとって、子どもが5才くらいになったら戻る。
無理ない程度に働き、産休とって働けるようになったら無理なくする。
保育園等に預けて働く

5 子育てについて

問 11 あなたは、育児における男性・女性の役割について、どのように思いますか。
(単数回答)



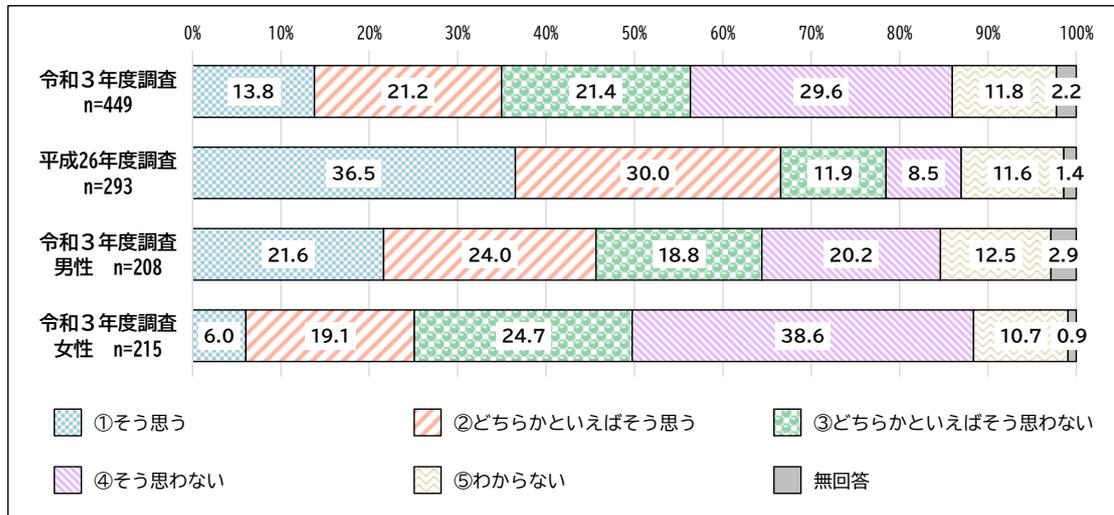
- 育児における男性・女性の役割については、「育児は男性も女性も同じように行った方がよい」(67.9%)の割合が最も高く、次いで「育児は主に女性が行い、男性は手伝う方がよい」(22.7%)、「わからない」(6.2%)となっています。
- 男女別にみると、女性では「育児は男性も女性も同じように行った方がよい」(71.2%)の割合が男性より高くなっています。

※その他の回答（一部抜粋）

それぞれ得意分野やできることを臨機応変にする方がよい。
手があいている人がすればいい。臨機応変に。
各家庭で決めればいい
得意な人が主に、あとは手伝う方がいい
交代制でいいと思う。
育児は母親も父親もしないといけないことなので、「手伝う」と書くのは違うと思う。
状況によっては、女性の体調が悪い時は男性など分けず臨機応変に。

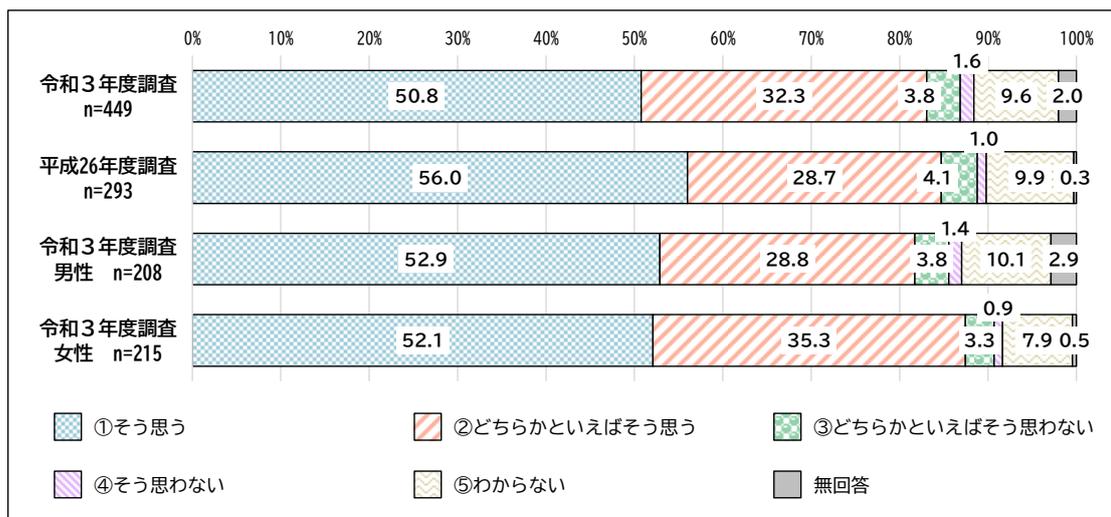
問 12 あなたが大人になって、もし子どもを育てるとするならば、どのように育てたいと思いますか。(単数回答)

㊦ 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる



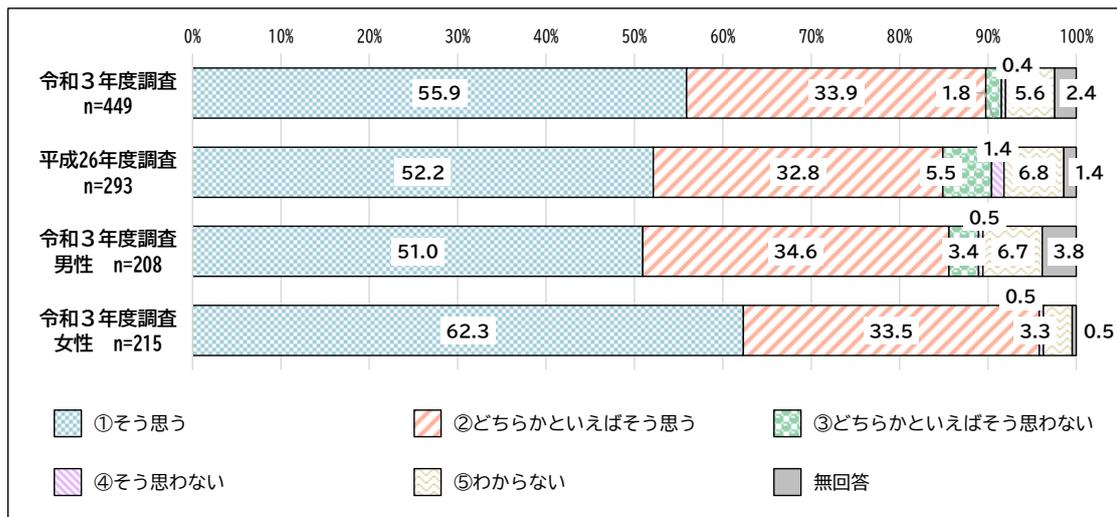
- 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるについては、「そう思わない」(29.6%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」(21.4%)、「どちらかといえばそう思う」(21.2%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「そう思う」(21.6%)の割合が女性より高く、女性では「どちらかといえばそう思わない」(24.7%)、「そう思わない」(38.6%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思わない」と回答している人の割合が、21.1ポイント高くなっています。

①性別に関わらず職業人として経済的に自立できるように育てる



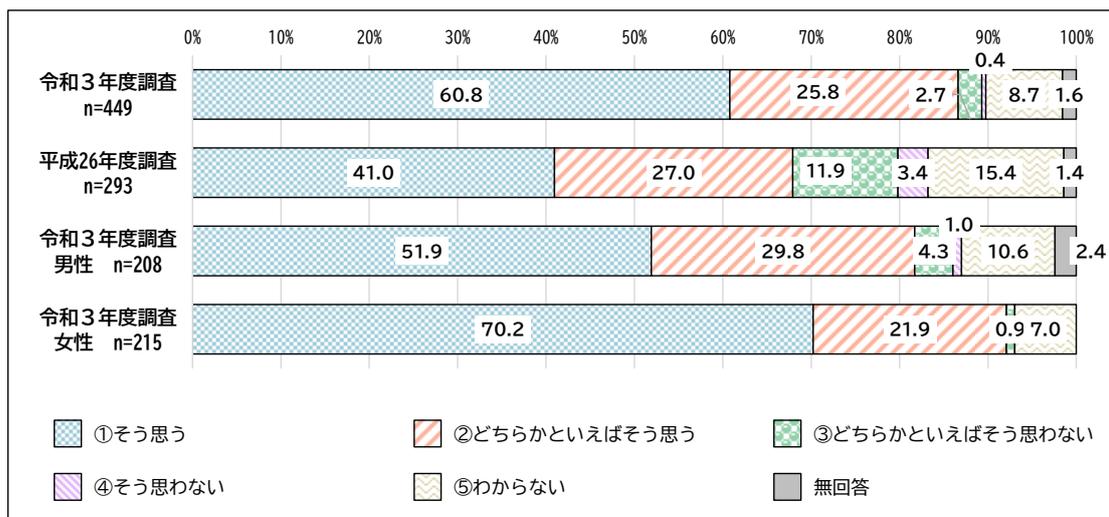
- 性別に関わらず職業人として経済的に自立できるように育てるについては、「そう思う」(50.8%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(32.3%)、「わからない」(9.6%)となっています。
- 男女別にみると、女性では「どちらかといえばそう思う」(35.3%)の割合が男性より高くなっています。

㊦男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる



- 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせるについては、「そう思う」（55.9％）の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」（33.9％）、「わからない」（5.6％）となっています。
- 男女別にみると、女性では「そう思う」（62.3％）の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している人の割合が、4.8ポイント高くなっています。

㊦男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする



- 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をするについては、「そう思う」(60.8%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(25.8%)、「わからない」(8.7%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「どちらかといえばそう思う」(29.8%)の割合が女性より高く、女性では「そう思う」(70.2%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「そう思う」と回答している人の割合が、19.8ポイント高くなっています。

6 防災における男女共同参画について

問 13 近年災害がたくさん発生しています。防災の分野にも「男女共同参画の視点」が重要といわれており、取組が必要です。防災のための対策会議や災害がおきた時の避難所生活、運営、誘導等において思うことを自由に書いてください。

【不安に思うこと】（一部抜粋）

トラブル等の仲裁。
山の方は助けが遅い。
身の周りの危険
妊婦さんやお年寄りへの配慮
寝るところ
迷惑をかけないか心配。
避難所の場所がわからない
おむつ（赤ちゃん）、女性の生理。
避難所生活におけるストレス
衣食住の安全性
食料の確保
土砂崩れ
ペットを避難所につれてくる
トイレ、お風呂
災害時、避難所生活になった場合、おちつかない。安心感がない。
食料の不足。個人のスペース。
避難所が少なく、行けない人がいるんじゃないか。
家族と離れてしまうこと
たくさんの方が一斉に避難しないといけないとき、避難所は足りているか。
男女の考え方の違いからけんかになること。
女性の方が逃げ遅れる。
価値観の違いによるけんか
やっぱり、互いに気を遣ってしまう。
避難場所の設備
小さい子供と母の逃げ遅れ
男性が女性を守ると言われているが、それぞれ支え合って守るべきと思う。
災害が起きて生きていけるか
家族や大切な人、物などと離れてしまわないか。

IV 中学生に向けた意識調査

住宅が壊れないか
避難所でのウイルス対策
避難所に人数分の食料があるのか。
ペットも一緒に避難できるか。
またいつ災害が起こるのか不安
家が壊れること
火事
地震発生時の避難経路の安全確保
お風呂とかどうなるのか
食糧や飲料
女性は待機し、男性は避難所の誘導をしているが、女性より男性が危ないと思ってしまう。
電気が止まること。
避難所生活だったらプライバシーが守れない。
小さい子の泣き声
熊本地震の時は、水がとまったり火を使ったり温めなくても食べれるものがお店からなくなったりして大変だったから、また、災害があったときに大変になるのではないかということ。
食料は足りるのか、水は足りるのか。
人がたくさん集まるから、ゆっくり過ごせないかもしれない。
食べ物や飲み物があまりなかった。
知らない人がたくさんいて大変そう。
赤ちゃんとかが泣いていて、周りにうるさいと思われてないか。
全員が安全に避難できるちゃんとしたルートがあるのか。
家族や友達などの安全
避難所生活での協調がとれているのか。差別や偏見はないか。
ご年配の方々や、赤ちゃんがいるご家庭では、避難等の行為がスムーズに行うことが難しいのではないか。
年寄りが避難できるのか
被害を受けること
家が崩れないか
安全にすごせるのか
避難準備などしていない。
1人取り残されてしまうこと。家族が見つからなかったらどうしよう、という不安。
食糧不足。コロナ。マスク不足。コロナウイルスにかかっている人と一緒に避難所生活はきつい。
避難したときにペットを連れていけなくなるかもしれないこと。

【危険に思うこと】（一部抜粋）

トラブル等の仲裁。
自然災害
子どもやお年寄りがけがをしないか。
建物が壊れないか
避難所で病気がはやる
気軽に外にでること
川の氾濫や土砂崩れ
避難場所が少ない。
避難所での盗難
病気を持っている人への対応
変な人がいないか、マナーを守れない人がいるか
地域のおばあちゃん達
岩とかが落ちたり、木が倒れたりすること。
女性をねらう通り魔がいたりするので、気を付けるところ。
いざ自分の地域で災害が起きたら生き延びられるだろうか。
避難所の場所
体育館などが壊れることはないか。
避難所が壊れたら危険
寝ている間に災害が起こり、逃げ遅れること
食べ物がなくなること。情報が聞けなくなること。水がなくなること。
小さい子供がいる所が大変だと思う。
コロナが流行っているから密は危ないと思う。
小さな子供やお年寄りが段差などに困ってしまうかも。
家が崩れたりとか
被災時にネット上で起こるデマやフェイクニュース。
沢山の人が集まること
自然が多いのは良い事だと思いますが、川沿いなどにも住宅がある所もあると思うので心配。
女一人で作業を行うこと。
避難所での寝泊まりで、他の知らない人とセキュリティー環境が全くないと言っていい所で過ごすことが怖い。
安全なのかどうか
不審者
コロナ。迷子。誘拐。犯罪（油断してるスキに）

IV 中学生に向けた意識調査

【改善してほしいこと】（一部抜粋）

公園などをすぐに避難所にできるよう工夫
あかりが少ない
支援物資の確保
一人一人の要望が受け入れられてほしい。
部屋を区切る
避難所でもう少しプライバシーを守ってほしい。
避難場所を増やす。
リスクレベルなどがわかりにくいので改善してほしい。
犯罪
1つ1つの家の距離を離す
何が起きているかもっと早く伝えてほしいです。
施設を増やしてほしい。
危険な場所がたくさんあると思うから直してほしい（ぼろぼろの建物など）
ブロックのかけらなど落としたりしないかなど
災害時でも、男性女性平等に用をたしたり、生活できる場所がないところ。
外灯を増やしてほしい
報道をすぐにしてほしい。
トイレ（特に女性）
プライベートな空間をもっと広くしてほしい。
避難所の場所をもっと増やす。
避難所でも快適な暮らしができるようになること
放送が家ではっきりと聞こえるような機械があると思う。（個人的なことですが、私の家にはあります）
指示などを早く出してほしい（災害が起きた時に）
避難所が狭いこと
マスクは必ずつける。密にならないようにすること。
フードロス（物資の無駄をなくす）。ペットと一緒に避難できる場所がほしい。

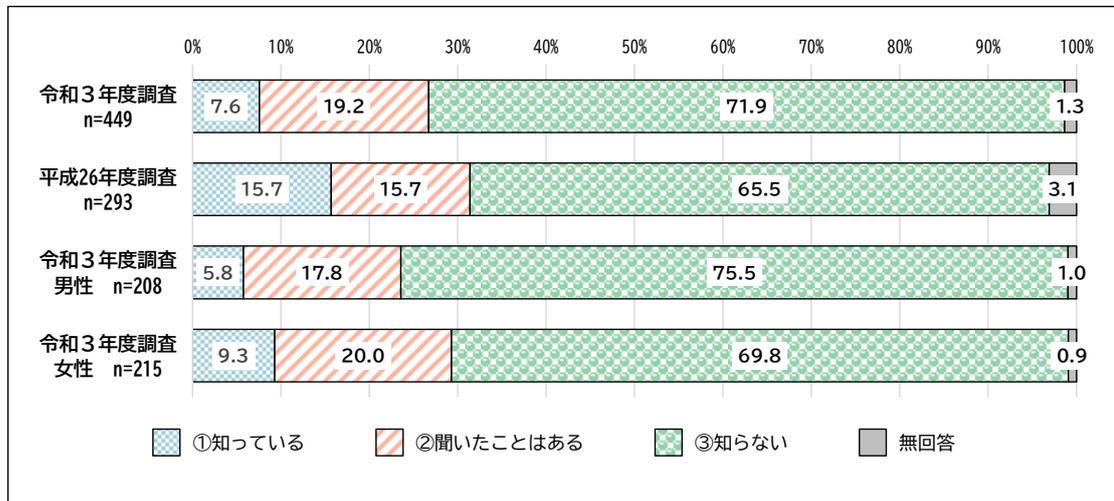
【その他】（一部抜粋）

男女を分けてほしい
フェイクニュース等の出回りもあるかもしれないので、気を付けるべきだと思う。
ハザードマップを身近に感じないです。

7 用語について

問 14 あなたは、以下の言葉について知っていますか。(単数回答)

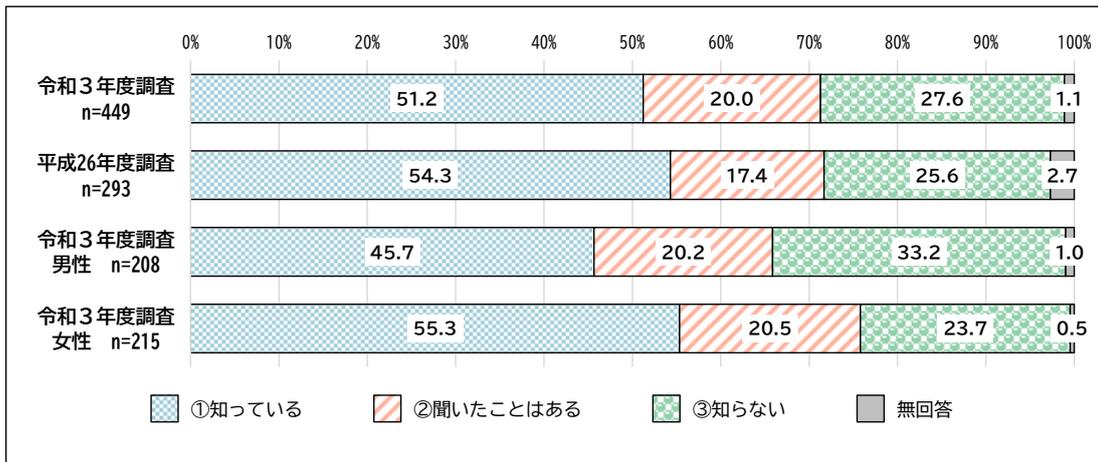
㊦男女共同参画社会基本法



- 男女共同参画社会基本法については、「知らない」(71.9%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(19.2%)、「知っている」(7.6%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「知らない」(75.5%)の割合が女性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、6.4ポイント高くなっています。

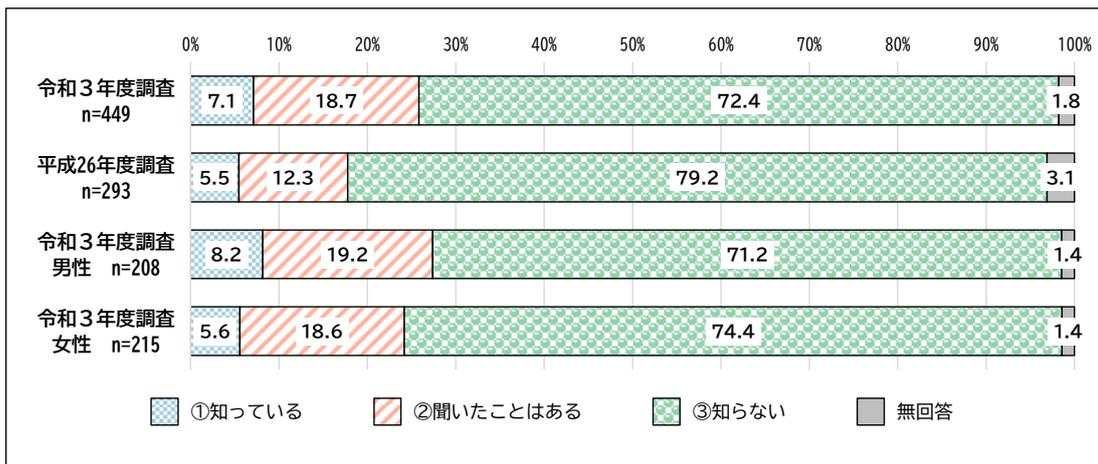
IV 中学生に向けた意識調査

① ドメスティック・バイオレンス (DV) (配偶者等からの暴力)



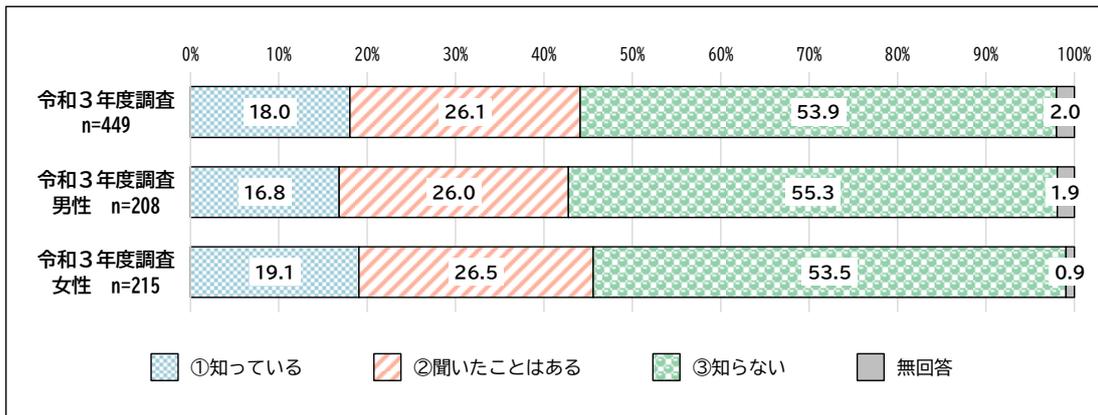
- ドメスティック・バイオレンス (DV) (配偶者からの暴力) については、「知っている」(51.2%)の割合が最も高く、次いで「知らない」(27.6%)、「聞いたことはある」(20.0%)となっています。
- 男女別にみると、男性では「知らない」(33.2%)の割合が女性より高く、女性では「知っている」(55.3%)の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「知っている」と回答している人の割合が、3.1ポイント低くなっています。

② ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)



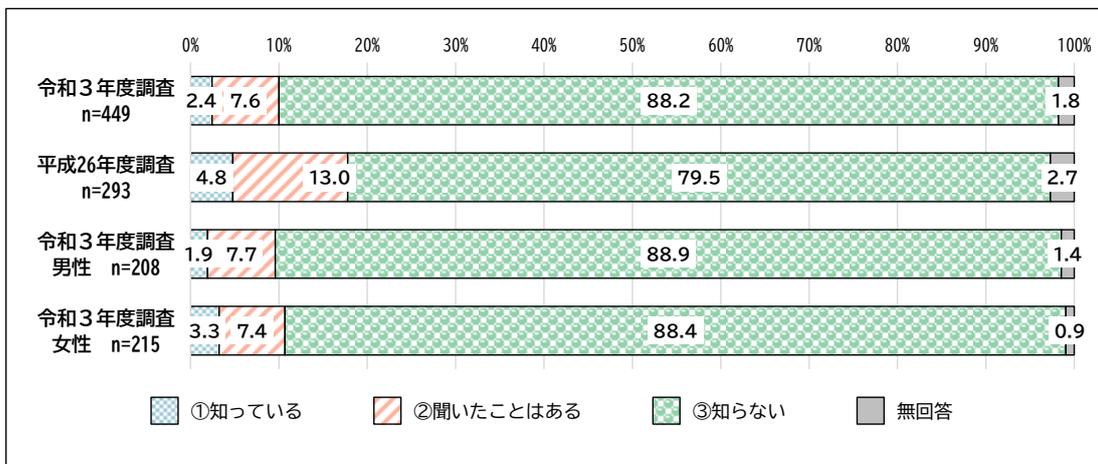
- ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) については、「知らない」(72.4%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(18.7%)、「知っている」(7.1%)となっています。
- 前回調査との比較では、「聞いたことはある」と回答している人の割合が、6.4ポイント高くなっています。

⑤ダイバーシティ（多様性）



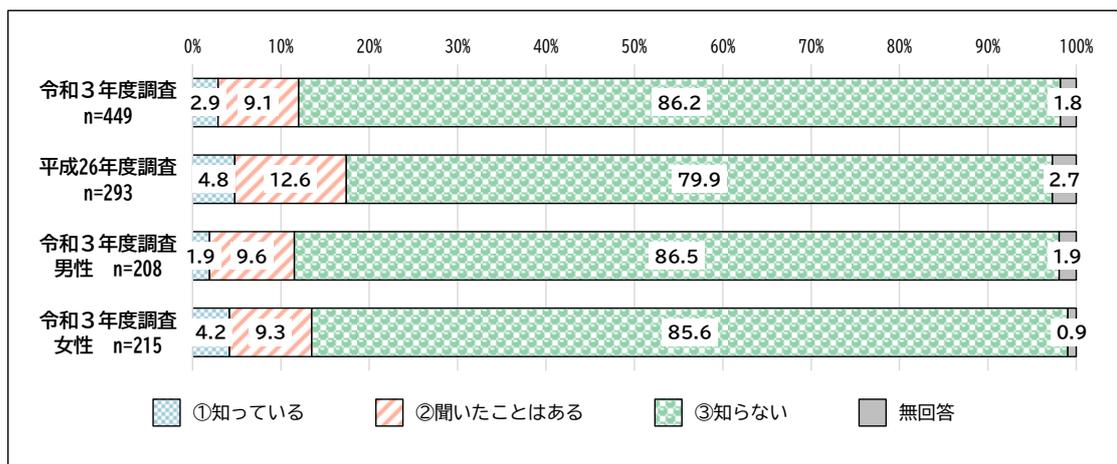
- ダイバーシティ（多様性）については、「知らない」（53.9%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（26.1%）、「知っている」（18.0%）となっています。

⑥菊池市男女共同参画推進条例



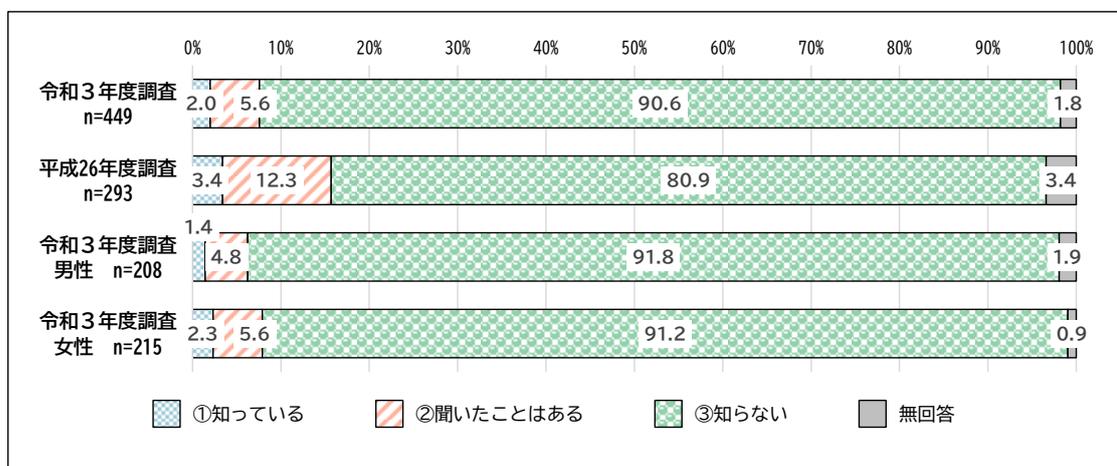
- 菊池市男女共同参画推進条例については、「知らない」（88.2%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（7.6%）、「知っている」（2.4%）となっています。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、8.7ポイント高くなっています。

㊦ 菊池市男女共同参画計画



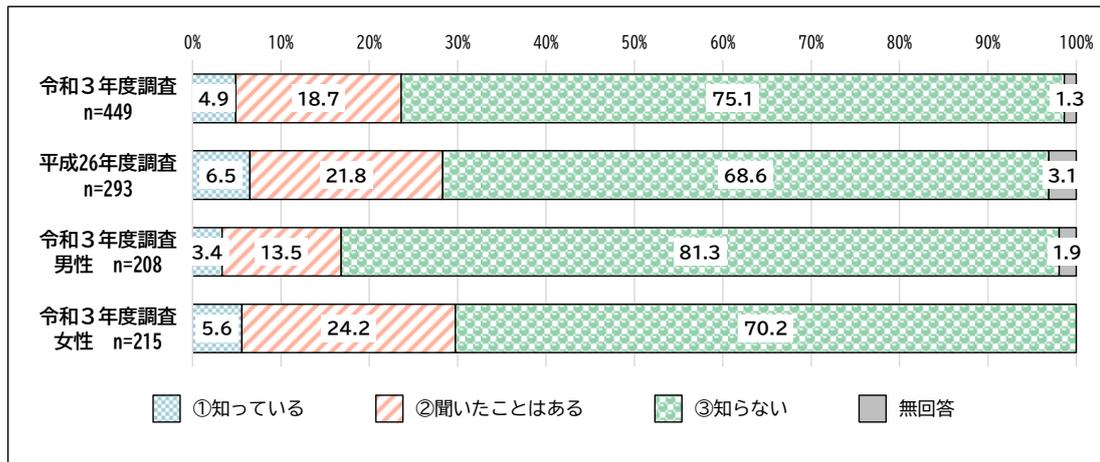
- 菊池市男女共同参画計画については、「知らない」(86.2%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(9.1%)、「知っている」(2.9%)となっています。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、6.3ポイント高くなっています。

㊧ 男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）



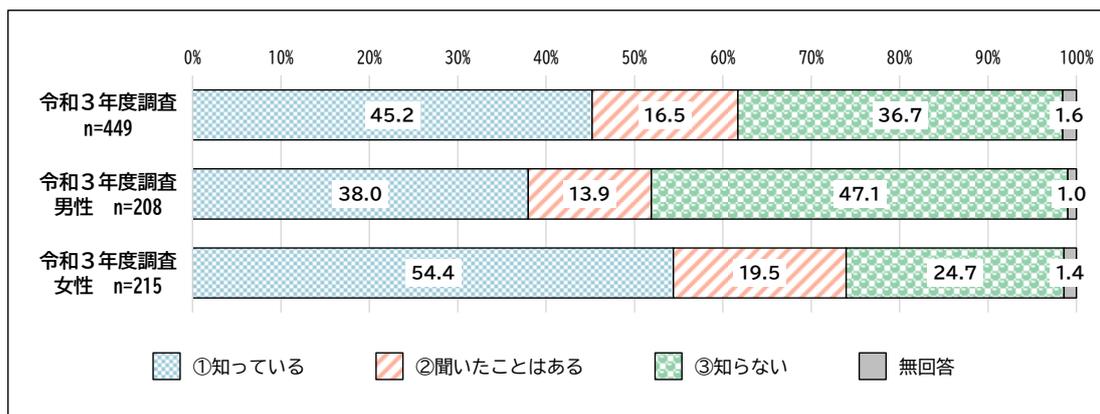
- 男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）については、「知らない」(90.6%)の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」(5.6%)、「知っている」(2.0%)となっています。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、9.7ポイント高くなっています。

㊦ 女性相談員（菊池市設置）



- 女性相談員（菊池市設置）については、「知らない」（75.1%）の割合が最も高く、次いで「聞いたことはある」（18.7%）、「知っている」（4.9%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「知らない」（81.3%）の割合が女性より高く、女性では「聞いたことはある」（24.2%）の割合が男性より高くなっています。
- 前回調査との比較では、「知らない」と回答している人の割合が、6.5ポイント高くなっています。

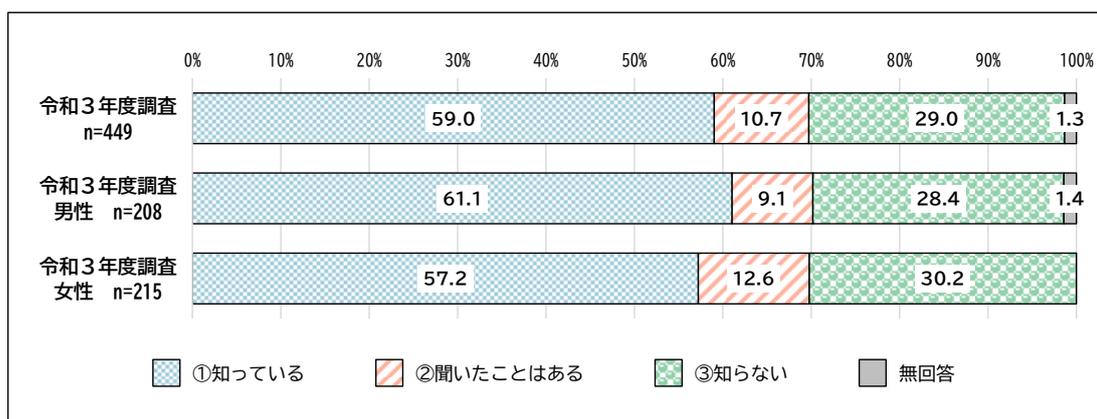
㊦ L G B T Q（性自認・性的指向）



- LGBTQ（性自認・性的指向）については、「知っている」（45.2%）の割合が最も高く、次いで「知らない」（36.7%）、「聞いたことはある」（16.5%）となっています。
- 男女別にみると、男性では「知らない」（47.1%）の割合が女性より高く、女性では「知っている」（54.4%）、「聞いたことはある」（19.5%）の割合が男性より高くなっています。

IV 中学生に向けた意識調査

㊦ SDGs（持続可能な開発目標）



- SDGs（持続可能な開発目標）については、「知っている」（59.0%）の割合が最も高く、次いで「知らない」（29.0%）、「聞いたことはある」（10.7%）となっています。

問15 男女共同参画についてのご意見や、この調査に対する感想などありましたら、自由に記入ください。(自由記述)

※一部抜粋

性別	内容
男性	中学生には少し難しい内容でした。でも、いろんなことを知れてよかったです。
男性	男性は、ヘアゴムやピンをつけるなど先生から言われるのがおかしい。
男性	確かに、男だからとか女だからとか決めるのはおかしいと思う。けど、僕は、荷物持ちや力仕事は男がするみたいなことは別に悪い、嫌だとは思わない。
男性	男子は力、女子は法律などで守られている範囲の広さがあると思いき、男女どちらも制限がある今のままだでも十分平等を得られているところもあれば、片方が不利益があるのも見つけることもできました。
男性	男性が一家の大黒柱とか耳にするけど、もし仮に大黒柱である男性が亡くなった場合にはどうになってしまうのか、男性だから家の主とかがあるので、そこは男女両方この人は〇〇だからこれ、などの発言によって傷つけてしまったり、プレッシャーを与えてしまったりしてしまうので、一人一人が発言に責任を持って話すことが大事だと個人的には思います。
男性	これからも実施していった方が良くと思いました(この調査を)。菊池市について深く知ることができたから。
男性	男女平等にするのは良いことだと思うけど、男子と女子では体の性質などが違うので、そういうのが活かせる世の中になればいいかなと思います。
男性	男だから～しろとか女だから～とかそういう考えは本当に好きじゃないし、性別問わず自分のしたい事をさせ、男女関係なしの性別的な固定概念をなくしてほしい。性別を理由におこったりはしてほしくないです。
男性	男女平等をととても大切で色々な個性があっていいと思うけど、男湯で着替えている途中や男子トイレにいる途中に女性が掃除しにくることがあるので、そこは絶対駄目なことだと思ったことがあります。
男性	難しいけど将来のことを少し考えることができ、いい機会だと思いました。
女性	私は、男女の概念が苦手です。なので、正直に言ってしまうと、「男女平等にしよう」という言葉にも差別心を少し感じました。元々男女は平等なのに、それを平等にしようというのはおかしいと思います。また、LGBTQの方もいて、その方の気持ちを理解することはとても大切だと思います。なので、相談の場をつくったりした方が良く私は思います。今までの性の概念を変えたいと私は思います。
女性	男女の差別を無くし、制服の改善をした方がいい。
女性	初めて聞く言葉や少し理解できないことが多くて少し難しかったです。
女性	いろいろなことが知れたしとてもよかったです。今まで分からなかったことがあったけど知れてよかったです。

IV 中学生に向けた意識調査

性別	内容
女性	たくさんありすぎて難しいけど知っておかないといけないこともあるので学んでいきたいです。
女性	知らないことがたくさんあったので、もっと調べていこうと思った。
女性	女性が家庭のことをすべてやりながら、自分の仕事をするのではなく、お互いに支えあって、男性も家庭のことを手伝った方が良いと思います。家庭の事をする男性も居ると思いますが、私はもっと増やした方が良いと思います。
女性	男尊女卑の考え方は改めるべき。
女性	なぜ、同性婚が認められていないのかよく分かりません。どうして、異性同士でないと結婚できないのか、しっかりとした理由を述べた方がよいと思う。こういうことに関して、日本は遅れていると思う。
女性	私は、この調査があるまで、男女共同参画について知りませんでした。だから、もっとこの取組を広め、平等にするには、どのようなことをこれから行っていくのでしょうか。菊池市でも様々な取組を行っているを知り、嬉しかったです。
女性	周りに迷惑がかからないなら個人の自由だと思う。
女性	時代の変化がある中で、今までの男女などの見方が変わってきているので、男女ともに自由なあり方で暮らせればよいと思う。
女性	男子は耳に髪の毛がかかったら切りなさい、とか男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくという学校の規則、校則がおかしいと思う。男子でもボブにしたいならすればいいと思うのに自分の好きなようにできないのはおかしいし、LGBTQの人もつらいと思う。学校行事の準備の時も男子はこの仕事、女子はこの仕事という。男はこれ、女はこれがおかしいと思う。
女性	性別関係なく、みんなが過ごしやすい地域になればいいなと思いました。
女性	自分がもし子供を産んだなら、男女関係なく子育てしたいです。
女性	私自身、言葉を知っているのみで「男女共同参画」について、具体的な市の取組など知識がない状態なので、これからそれについて考える時間を家庭の中で得ようと思いました。菊池市からSDGsやみんなが生きやすい世界や社会になる取組を積極的に始められればよいなと思います。
女性	このアンケートをし、自分がどれだけ用語を知らないのかが分かり、もっと知ろうと思いました。
女性	男は男らしくとか女は女らしくとか、そういうのは嫌です。
女性	男女関係なく、1人1人が過ごしやすい、生きやすいような世の中になればいいなと思うし、なるように自分にできることは何かを日々考えていきたいです。
女性	昔は、男子だけが選挙権をもっていたということなどを社会で学習、また、今回のアンケートで男女の平等について学ぶことができてよかったです。
女性	友達の男の子でゲイの人がいるのですが、周りの男子達はキモイと言っていて、女の子らしいことをして努力しているその男の子をからかうのはおかしいです。

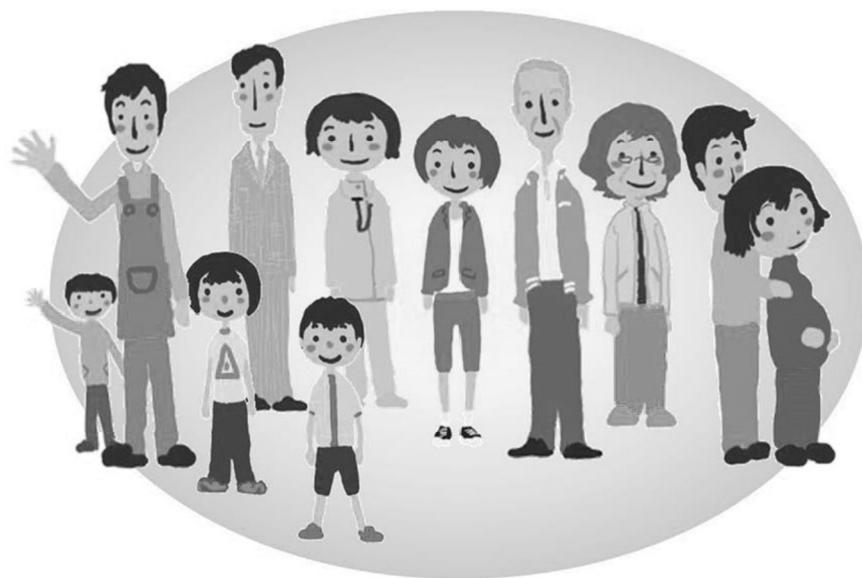
V 調査票

■一般市民向け調査票

男女がともに輝き、支えあう社会の実現をめざして
あなたの声を聞かせてください！

～男女共同参画社会づくりのための菊池市民意識調査～

【アンケート調査票】



菊池市

人権啓発・男女共同参画推進課

【アンケートご協力をお願い】

市民の皆さまには、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

菊池市では、男女共同参画社会（男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現を目指して取組を進めております。

本調査は、市民の皆様の男女共同参画に関するお考えやご意見をお伺いし、今後の男女共同参画に関する施策を充実させていくための基礎資料とすることを目的として実施するものです。この調査にあたりまして、20歳から75歳の市民の方から2,000人を無作為に選ばせていただき、本調査票を送付させていただいております。

調査は無記名方式で、調査結果は統計的に処理し、上記の目的以外には使用しませんので、ありのままをお書きください。お忙しいところ誠に恐縮ではありますが、調査の趣旨を充分ご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

2021（令和3）年5月

菊池市長 江頭 実

●記入上にあたってのお願い

① アンケートは、封筒あて名の方ご本人がご記入ください（代筆は可能です）。
② 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号に○をつけてください。また、○の数は、それぞれの設問の指示に従ってください。
③ ご記入が終わりましたら、記入漏れがないか最後に確認をお願いします。
④ 6月4日（金）まで に、同封の返信用封筒に入れて、投かんしてください。（切手不要）
⑤ この調査は、スマートフォン等からもご回答いただけます。 QRコードを読み取り、回答フォームの指示に従ってご回答ください。 その際、紙のアンケート用紙を返送いただく必要はありません。 URLはこちら⇒ https://logoform.jp/form/fJeh/10673



●調査について、ご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください

お問い合わせ先	菊池市役所 総務部 人権啓発・男女共同参画推進課（担当）工藤・高見
電話	0968-25-7210

◆あなたご自身のことについておたずねします

※該当する番号を○で囲んでください。

1 あなたの性別を教えてください。

① 男性	② 女性	③ 答えたくない
------	------	----------

2 あなたの年齢を教えてください。(令和3年5月1日現在)

① 20歳代	② 30歳代	③ 40歳代
④ 50歳代	⑤ 60歳代	⑥ 70歳以上

3 あなたのご職業は何ですか。

① 会社員・団体職員・公務員・教員	② 会社経営・自由業・自営業・家業
③ 農林業	④ 専業主婦・専業主夫
⑤ パート・アルバイト	⑥ 学生
⑦ 無職	⑧ その他()

4 あなたは結婚していますか。

① 結婚していない	② 結婚している・結婚していた(事実婚・離死別含む)
-----------	----------------------------

5 配偶者のいる方におたずねします。配偶者は就業されていますか。

① 就業している	② 就業していない
----------	-----------

6 あなたの家族構成について教えてください。

① 単身世帯(1人暮らし)	② 夫婦世帯(夫婦のみ)
③ 二世帯世帯(親と子)	④ 三世帯世帯(親と子と孫)
⑤ その他の世帯()	

7 あなたの住んでいるところ(旧市町村)を教えてください。

① 旧菊池市	② 旧七城町
③ 旧旭志村	④ 旧泗水町

◆男女共同参画に関する意識についておたずねします

問1 あなたは、社会のいろいろな面において男女の地位は平等になっていると思いますか。次の㉔～㉑についてあなたの考えに近いものを1～6の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
㉔ 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
㉕ 職場では	1	2	3	4	5	6
㉖ 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
㉗ 政治・政策決定の場では	1	2	3	4	5	6
㉘ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
㉙ 社会通念・慣習・しきたり等では	1	2	3	4	5	6
㉚ 自治会・PTA・地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
㉛ 菊池市全体では	1	2	3	4	5	6
㉜ 社会全体では	1	2	3	4	5	6

問2 あなたは、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか。次の①～④の中からあなたの考えに近いものを1つだけ選び○で囲んでください。

① 思う	② どちらかといえばそう思う
③ どちらかといえばそう思わない	④ 思わない

問3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の①～④の中からあなたの考えに近いものを1つだけ選び○で囲んでください。

① 同感する	② どちらかといえば同感する
③ どちらかといえば同感しない	④ 同感しない



【①または②を選んだ方へ】

その理由は何ですか。次の①～⑧の中からあなたの考えに近いものを1つだけ選び○で囲んでください。

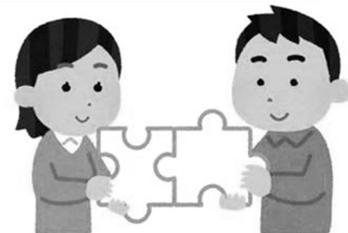
- ① それが男女それぞれの適性だから
- ② それがそれぞれの役割だと教えられてきたから
- ③ 男性は家族を養うことがあたりまえだから
- ④ 家事や育児のためには女性が家庭にいた方がいいから
- ⑤ 女性が家にいる方が、家族は安心して暮らせるから
- ⑥ 女性は仕事で不利な状況に置かれているから
- ⑦ 女性は家庭（家事や育児など）と仕事の両立は難しい環境にあるから
- ⑧ その他（具体的に ）



【③または④を選んだ方へ】

その理由は何ですか。次の①～⑧の中からあなたの考えに近いものを1つだけ選び○で囲んでください。

- ① 男女の役割は決められているものではないから
- ② そうすべきではないと教えられたから
- ③ 男性も女性も仕事をするのはあたりまえだから
- ④ 家事や育児には、男性も積極的にかかわった方がいいから
- ⑤ 女性も家庭だけではなく積極的に社会にでた方がいいから
- ⑥ 男性だけでは家計を維持できないから
- ⑦ 男性が家事・育児に参加する環境が整いつつあるから
- ⑧ その他（具体的に ）



問4 「結婚している・していた（事実婚・離死別を含む）」方におたずねします。

（離死別に該当される方は、当時の状況についてお書きください。）

それ以外の方は問5へお進みください。

あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。
次の㊸～㊻のそれぞれについて、0～5の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	(経験なし)	主として夫	主として妻	夫婦で同じ程度	(親・子ども等) その他の人	わからない
㊸ 家計を支える（生活費を稼ぐ）	—	1	2	3	4	5
㊹ 炊事・掃除・洗濯などの家事	—	1	2	3	4	5
㊺ 日々の家計の管理	—	1	2	3	4	5
㊻ 自治会・町内会などの地域活動	—	1	2	3	4	5
㊼ 育児（経験者のみ） （経験がない方は、「経験なし」に○をつけてください）	0	1	2	3	4	5
㊽ 介護（経験者のみ） （経験がない方は、「経験なし」に○をつけてください）	0	1	2	3	4	5

◆仕事と家庭・地域生活の両立についておたずねします

問5 あなたが生活を送るうえで、あなたの希望に最も近いもの、及び、現実(現状)に最も近いものを、次の㊸～㊻のそれぞれについて、1～8の中から1つずつ選び○で囲んでください。

		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先	わからない
㊸	希望に最も近いもの	1	2	3	4	5	6	7	8
㊻	現実(現状)に最も近いもの	1	2	3	4	5	6	7	8

※家庭生活とは：家族と過ごすこと、家事、育児、介護など

※地域・個人生活とは：地域活動（ボランティア活動、社会参加活動など）、趣味、娯楽など

問6 今後、男女がともにワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の①～⑪の中からあなたの考えに近いものを3つまで選び○で囲んでください。

①	働く場の確保・再雇用制度の推進・充実
②	育児・介護休業制度の普及や取得の促進
③	労働条件の整備（労働時間短縮、フレックスタイムの普及等）
④	ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）を大切にする意識啓発
⑤	結婚退職、出産退職の慣行をなくす
⑥	「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識をなくす
⑦	家族や配偶者（パートナー）の理解・協力
⑧	昇進や賃金、教育訓練など職場における男女平等の徹底
⑨	保育所、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実
⑩	地域活動・ボランティアへの参加に対する上司や同僚などの理解
⑪	その他（具体的に _____ ）

◆女性の社会参画についておたずねします

問7 あなたは、女性の意見がもっと反映されるように、いろいろな役職など、企画立案や方針決定の場に女性が増える方がよいと思いますか。次の㊶～㊿についてあなたの考えに近いものを1～5の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	そう思う	ばそう思う どちらかといえ	ばそう思わない どちらかといえ	そう思わない	わからない
㊶ 自治体の首長（知事や市町村長）	1	2	3	4	5
㊷ 議会議員	1	2	3	4	5
㊸ 企業の経営者	1	2	3	4	5
㊹ 企業等の管理職	1	2	3	4	5
㊺ 公務員等の管理職	1	2	3	4	5
㊻ 教育機関の管理職（学校長等）	1	2	3	4	5
㊼ 区長等の自治会役員	1	2	3	4	5
㊽ PTA 会長等の学校役員	1	2	3	4	5

問8 「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がいまだに少ない状況」ですが、その原因は何だと思えますか。次の①～⑧の中からあなたの考えに近いものをすべて選び○で囲んでください。

① 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強い	
② 男性優位の組織運営がなされているため	
③ 家庭の支援、協力が得られないため	
④ 女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため	
⑤ 女性の参画への支援が少ないため	
⑥ 女性の積極性が不十分であるため	
⑦ その他（具体的に： _____）	
⑧ わからない	

◆子育て、教育についておたずねします

問 11 あなたは、子どもの育て方についてどう思いますか。次の㊶～㊿についてあなたの考えに近いものを1～5の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
㊶ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5
㊷ 性別に関わらず職業人として経済的に自立できるように育てる	1	2	3	4	5
㊸ 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる	1	2	3	4	5
㊿ 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする	1	2	3	4	5

◆配偶者等からの暴力（※ドメスティック・バイオレンス(通称:DV)）についておたずねします

問 12 あなたは、あなた自身が配偶者や恋人などから身体的暴力や心理的攻撃、性的強要などDVを受けたことがありますか。次の①～④の中から1つだけ選び○で囲んでください。

① 今も受けている	➡	問 13へ
② 過去に何度も受けたことがある		
③ 過去に1、2度受けたことがある		
④ 受けたことはない	➡	問 15へ

問 13 【問 12 で「① 今も受けている」、「② 過去に何度も受けたことがある」、「③ 過去に1、2度受けたことがある」と答えた方におたずねします。該当しない方は問 15 にお進みください。】

配偶者等からの暴力をうけたとき、その後あなたはどうしましたか。次の①～⑨の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。なお、該当しない方は、⑩を選び○で囲んでください。

①	二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話しあった	
②	親や兄弟姉妹、親戚に相談した	
③	友人・知人に相談した	
④	公的機関（市役所、男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センターなどに相談した（電話相談を含む）	問 15 へ
⑤	民間の機関（支援グループなど）に相談した	
⑥	安全なところに避難した	
⑦	医療機関（心療内科など）に相談した	
⑧	警察に連絡、相談した	
⑨	その他（具体的に _____ ）	
⑩	どこにも相談しなかった、また、相談できなかった	問 14 へ

問 14 【問 13 で「⑩ どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」と答えた方におたずねします。】

あなたが、どこにも相談しなかった、また相談できなかったのはなぜですか。次の①～⑨の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

①	どこに（誰に）相談したらよいかわからなかった
②	恥ずかしくて誰にも言えなかった
③	相談しても無駄だと思った
④	相談したことがわかると仕返しをされたり、さらに暴力をふるわれると思った
⑤	自分さえ我慢すればやっていけると思った
⑥	自分にも悪いところがあると思った
⑦	相談するほどの事ではないと思った
⑧	その他（具体的に _____ ）
⑨	わからない

◆防災の分野における男女共同参画についておたずね します

問 15 近年災害が頻発しており、今後の大規模災害に備える上でも「男女共同参画の視点」での取組が求められています。あなたはどのようなことが必要と思いますか。次の①～⑧の中からあなたの考えに近いものをすべて選び○で囲んでください。

①	防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること
②	災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること
③	避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること
④	女性だけでなく、男性に対する相談体制を整備するとともに、相談窓口の周知方法を工夫すること
⑤	妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、外国人、介護を必要とする人などが、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を円滑に受けられること
⑥	災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した視点で取り組むこと
⑦	特に必要はない
⑧	その他（具体的に： _____）

◆男女共同参画社会の推進についておたずねします

問 16 男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の①～⑭の中からあてはまるものをすべて選び○で囲んでください。

①	性別による固定的な役割分担意識を是正するための啓発・広報
②	学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育、学習の充実
③	市の各種審議会の委員等、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす
④	区長や地域自治会役員に女性を増やす
⑤	育児・介護休業制度の普及啓発を進め、実際に取得できる環境整備
⑥	働く場での男女共同参画の推進のため事業主（企業主）等への研修の実施
⑦	性暴力や性差別等に関する問題解決に向けた取組の充実
⑧	仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援
⑨	男女共同参画社会づくりをめざす団体などとの協働の推進
⑩	家庭生活・地域生活において男女が対等に協力しあうような意識づくり
⑪	女性だけでなく、男性の意識も変える取組を積極的に進める
⑫	男女のみならず、あらゆる世代がいきいきと暮らせる※ユニバーサルデザインの観点から推進すべき
⑬	その他（具体的に： _____）
⑭	特にない

※ユニバーサルデザインとは

年齢、性別、身体的状況などの違いに関係なく、すべての人が使いこなすことのできる製品や環境などのデザインをめざす概念。

問 17 あなたは、以下の言葉について知っていますか。次の㉔～㉙についてあてはまるものを1～3の中から 1つずつ 選び○で囲んでください。

	知っている	聞いたことがある	知らない
㉔ 男女共同参画社会基本法	1	2	3
㉕ ドメスティック・バイオレンス (DV) (配偶者等からの暴力)	1	2	3
㉖ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
㉗ ダイバーシティ (多様性)	1	2	3
㉘ 菊池市男女共同参画推進条例	1	2	3
㉙ 菊池市男女共同参画計画	1	2	3
㊀ 男女共同参画専門委員相談 (菊池市設置)	1	2	3
㊁ 女性相談員 (菊池市設置)	1	2	3
㊂ 女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3
㊃ LGBTQ (性自認・性的指向)	1	2	3
㊄ SDGs (持続可能な開発目標)	1	2	3

※それぞれの言葉の内容については、次ページ【用語の説明】をご覧ください。

【 用語の説明 】

㊦ 男女共同参画社会基本法	「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置付け、国の政策に関する基本方針を明らかにするとともに、基本理念や国・地方公共団体・国民の責務、施策の基本となる事項などを定める法律。
㊧ ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）	配偶者や恋人など、親しい関係にある人からの暴力。なぐる、けるなどの身体的な暴力だけでなく、言葉で傷つけたり無視したりする心理的暴力や、生活費を渡さないなどの経済的暴力、行動を監視したりする社会的暴力、望まない性行為を強要する性的暴力などがある。
㊨ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。
㊩ ダイバーシティ（多様性）	多様な人材を積極的に活用しようという考え方のこと。性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとする。こと。
㊪ 菊池市男女共同参画推進条例	男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、市、市民及び事業所の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策について、基本となる事項を定めることにより、総合的に推進することを目的として制定されている。
㊫ 菊池市男女共同参画計画	男女共同参画社会の実現に向け、男女共同参画行政の総合化、効率化を図るため、計画の目標や理念を明示し、具体的に施策の方向や内容を提示するために菊池市が策定している計画。
㊬ 男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）	男女共同参画の取り組みや、推進に影響を及ぼすと思われることや、性別による差別的取扱い・男女間における暴力・セクシュアルハラスメント等の人権侵害に対する相談や苦情などに対して、専門の委員（弁護士・カウンセラー）が相談に応じる。【窓口：人権啓発・男女共同参画推進課】
㊭ 女性相談員（菊池市設置）	女性相談員並びに母子・父子自立支援員の職務であり、権利擁護・啓発、ひとり親家庭への自立支援、DV等被害女性への支援、女子の生きづらさへの総合支援活動を役割としている。【窓口：子育て支援課】
㊮ 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	女性の職業生活における活躍を推進し実現するため、採用や昇進等への積極的登用、仕事と家庭生活の両立のための環境整備などの基本原則を定め、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を目指す法律。
㊯ LGBTQ（性自認・性的指向）	レスビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（こころとからだの性の不一致）、クエスチョニング（はっきりしていない）の頭文字をとったものであり、セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の総称の一つとして用いられる。
㊰ SDGs（持続可能な開発目標）	「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。2015年の国連サミットにおいてすべての加盟国が合意して「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられた。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。

■中学生向け調査票



男女がともに輝き、支えあう社会の実現をめざして
あなたの声を聞かせてください！

～男女共同参画社会づくりのための菊池市民意識調査～
中学生用【アンケート調査票】



菊池市
人権啓発・男女共同参画推進課

【アンケートご協力のお願い】

菊池市では、男女共同参画社会（男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現を目指して取組を行っています。

このたび、菊池市内の中学3年生の皆さんへ意識調査をお願いすることとしました。皆さんは、義務教育最終年度で、これまでたくさんのことを学んできたと思います。男女共同参画に関する問題について、皆さんの考えや将来への思いを聞かせてもらい、今後の菊池市の男女共同参画を充実させていくための基礎資料といたします。

なお答えてもらった内容は、統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することはありません。

ご協力をよろしくお願いいたします。

2021（令和3）年4月

菊池市長 江頭 実

●記入上にあたってのお願い

- | |
|---|
| ① 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号に○をつけてください。また、○の数は、それぞれの設問の指示に従ってください。 |
| ② 記入が終わりましたら、記入漏れがないか最後に確認をお願いします。 |

●調査について、質問などありましたら、下記までお問い合わせください

お問い合わせ先	菊池市役所 総務部 人権啓発・男女共同参画推進課 (担当) 工藤・高見
電 話	0968-25-7210

◆あなたご自身のことについておたずねします

あなたの性別を教えてください。

① 男性	② 女性	③ 答えたくない
------	------	----------

◆あなたの身の回りのことについておたずねします

問 1 あなたは、身の回りのことをどのようにしていますか。次の㉗～㉛について、あてはまるものを1～3の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	よくする	時々する	全然しない
㉗ 朝一人で起床する	1	2	3
㉘ 自分の身の回りの整理や部屋を片づける	1	2	3
㉙ 家事の手伝いをする	1	2	3
㉚ 自分の小遣いを計画的に管理する	1	2	3
㉛ 地区の催しやボランティア活動に参加する	1	2	3

問 2 あなたの家庭では、日常的な事がらを、主にだれが分担していますか。次の㉜～㉟についてあてはまるものを 1～4 の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	主に女性	分担 同じ程度に	主に男性	わからない
㉜ 家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4
㉝ 日々の家計の管理	1	2	3	4
㉞ 掃除	1	2	3	4
㉟ 洗濯	1	2	3	4
㊱ 食事のしたく	1	2	3	4
㊲ 育児、子どもの世話	1	2	3	4
㊳ 家族の世話（介護）	1	2	3	4
㊴ 美化活動などの地域活動	1	2	3	4

問7 これまで「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方
 がありました。次の㊶～㊿についてあなたの考えに近いものを1～5の中
 から1つずつ選び○で囲んでください

	賛成	どちらか いえば賛成	どちらか いえば反対	反対	わからない
㊶ 男女ともに、経済的に自立する	1	2	3	4	5
㊷ 男女ともに、炊事・掃除・洗濯など生活 に必要な技術を身につける	1	2	3	4	5
㊸ 男性は外で働き、女性は家庭を守る	1	2	3	4	5
㊹ 夫婦が協力して家事や育児をする	1	2	3	4	5
㊿ 男性が育児・介護休業をとる	1	2	3	4	5

問8 あなたは、社会のいろいろな面において男女の地位は平等になっていると思
 いますか。次の㊶～㊿についてあなたの考えに近いものを1～6の中
 から1つ
 ずつ選び○で囲んでください。

	男性の方が非常に優遇 されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇 されている	わからない
㊶ 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
㊷ 仕事の間では	1	2	3	4	5	6
㊸ 学校教育の間では	1	2	3	4	5	6
㊹ 政治の間では（国会議員や市議会議員など）	1	2	3	4	5	6
㊿ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
㊶ 慣習・しきたり等では	1	2	3	4	5	6
㊷ 地域の間では	1	2	3	4	5	6
㊸ 菊池市全体では	1	2	3	4	5	6

◆子育てについておたずねします

問 11 あなたは、育児における男性・女性の役割について、どのように思いますか。次の①～⑦の中からあなたの考えに近いものを 1つだけ 選び○で囲んでください。

①	育児は男性も女性も同じように行った方がよい
②	育児は主に女性が行い、男性は手伝う方がよい
③	育児は主に男性が行い、女性は手伝う方がよい
④	育児は女性のみ行う方がよい
⑤	育児は男性のみ行う方がよい
⑥	その他（具体的に： _____）
⑦	わからない

問 12 あなたが大人になって、もし子どもを育てるとするならば、どのように育てたいと思いますか。次の㉗～㉑についてあなたの考えに近いものを1～5の中から 1つずつ 選び○で囲んでください。

	そう思う	そう思う ところがある	そう思わない ところがある	そう思わない	わからない
㉗ 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる	1	2	3	4	5
㉘ 性別に関わらず職業人として経済的に自立できるように育てる	1	2	3	4	5
㉙ 男の子も女の子も炊事、洗濯、掃除などの仕方を身につけさせる	1	2	3	4	5
㉚ 男の子らしく、女の子らしくではなく、個性に合った育て方をする	1	2	3	4	5

◆防災における男女共同参画についておたずねします

問 13 近年災害がたくさん発生しています。防災の分野にも「男女共同参画の視点」が重要といわれており、取組が必要です。防災のための対策会議や災害がおきた時の避難所生活、運営、誘導等において思うことを自由に書いてください。

不安に思うこと

危険に思うこと

改善してほしいこと

その他（具体的に：）



◆用語についておたずねします

問14 あなたは、以下の言葉について知っていますか。次の㊶～㊿についてあてはまるものを1～3の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	知っている	聞いたことがある	知らない
㊶ 男女共同参画社会基本法	1	2	3
㊷ ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）	1	2	3
㊸ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
㊹ ダイバーシティ（多様性）	1	2	3
㊺ 菊池市男女共同参画推進条例	1	2	3
㊻ 菊池市男女共同参画計画	1	2	3
㊼ 男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）	1	2	3
㊽ 女性相談員（菊池市設置）	1	2	3
㊾ LGBTQ（性自認・性的指向）	1	2	3
㊿ SDGs（持続可能な開発目標）	1	2	3

※それぞれの言葉の内容については、次ページ【用語の説明】をご覧ください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【 用語の説明 】

㊦ 男女共同参画社会基本法	「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置付け、国の政策に関する基本方針を明らかにするとともに、基本理念や国・地方公共団体・国民の責務、施策の基本となる事項などを定める法律。
㊧ ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者等からの暴力）	配偶者や恋人など、親しい関係にある人からの暴力。なぐる、けるなどの身体的な暴力だけでなく、言葉で傷つけたり無視したりする心理的暴力や、生活費を渡さないなどの経済的暴力、行動を監視したりする社会的暴力、望まない性行為を強要する性的暴力などがある。
㊨ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。
㊩ ダイバーシティ（多様性）	多様な人材を積極的に活用しようという考え方のこと。性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとする事。
㊪ 菊池市男女共同参画推進条例	男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、市、市民及び事業所の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策について、基本となる事項を定めることにより、総合的計画的に推進することを目的として制定されている。
㊫ 菊池市男女共同参画計画	男女共同参画社会の実現に向け、男女共同参画行政の総合化、効率化を図るため、計画の目標や理念を明示し、具体的に施策の方向や内容を提示するために菊池市が策定している計画。
㊬ 男女共同参画専門委員相談（菊池市設置）	男女共同参画の取組や、推進に影響を及ぼすと思われることや、性別による差別的取扱い・男女間における暴力・セクシュアルハラスメント等の人権侵害に対する相談や苦情などに対して、専門の委員（弁護士・カウンセラー）が相談に応じる。【窓口：人権啓発・男女共同参画推進課】
㊭ 女性相談員（菊池市設置）	女性相談員並びに母子・父子自立支援員の職務であり、権利擁護・啓発、ひとり親家庭への自立支援、DV等被害女性への支援、女子の生きづらさへの総合支援活動を役割としている。【窓口：子育て支援課】
㊮ LGBTQ（性自認・性的指向）	レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（こころとからだの性の不一致）、クエスチョニング（はっきりしていない）の頭文字をとったものであり、セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の総称の一つとして用いられる。
㊯ SDGs（持続可能な開発目標）	「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。2015年の国連サミットにおいてすべての加盟国が合意して「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられた。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。

令和3年度
男女共同参画社会づくりのための菊池市民意識調査
【調査結果報告書】

2022(令和4)年3月

編集・発行 菊池市総務部 人権啓発・男女共同参画推進課
〒861-1392 熊本県菊池市隈府 888 番地
Tel:0968-25-7210 Fax:0968-25-5720
e-mail:danjo@city.kikuchi.lg.jp